



## Schaeffler SmartWeb

ユーザーマニュアル

---

## 発行

Schaeffler Monitoring Services GmbH  
Kaiserstraße 100  
52134 Herzogenrath  
Germany  
電話: +49 (0) 2407 9149-66  
ファックス: +49 (0) 2407 9149-59  
連絡先: [industrial-services@schaeffler.com](mailto:industrial-services@schaeffler.com)  
Webサイト: [www.schaeffler.com/services](http://www.schaeffler.com/services)

すべての権利を留保しています。

本書またはソフトウェアのいかなる部分も、弊社の書面による同意なしに、いかなる形式でも複製してはならず、電子システムを使って加工、複製、配布することもできません。一般的に、本書に記載されている各社の名称およびブランド名は商標、ブランドおよび特許法によって保護されています。

Microsoft、Windows および Microsoft Edge は、米国およびその他の国における Microsoft Corporation の商標または登録商標です。Google Chrome™ は Google の商標です。Loctite は Henkel AG の商標です。

本ソフトウェアは、第三者サプライヤのライブラリをそれぞれのライセンスのもとで使用しています。使用されるライブラリの詳細な情報は、それぞれのライセンス条件を含め、SmartWeb ソフトウェアのメニュー [ヘルプ] にあるオプション [オープンソースライセンスの表示] に記載されています。

バージョン 2.4.0  
オリジナルマニュアルの翻訳  
© 2023/12/17 - Schaeffler Monitoring Services GmbH

# 目次

<b>1 全般</b>	<b>5</b>
1.1 本マニュアルについて	6
<b>2 ソフトウェアの起動</b>	<b>7</b>
<b>3 ユーザーインターフェースの概要</b>	<b>8</b>
3.1 ファームウェアを更新	12
3.2 デバイスの再起動を選択	13
3.3 ライセンスまたはライセンスグループを追加	14
3.4 Schaeffler クラウドサービスに接続	15
3.5 故障したデバイスの交換	16
<b>4 デバイスのメンテナンスシステム</b>	<b>18</b>
4.1 Update firmware: ファームウェアのアップデート	19
4.2 Reset data partition: データ分割をリセット	20
4.3 Reset firmware: ファームウェアをリセット	21
4.4 Adjust system settings: システム設定の調整	21
4.4.1 Edit system name: システム名を編集	21
4.4.2 Configure NTP server: NTP サーバーのコンフィギュレーション	22
4.4.3 Change administrator password: 管理者パスワードを変更	23
4.4.4 Configure IPv4 settings: IPv4 設定のコンフィギュレーション	24
4.4.5 Configure IPv6 settings: IPv6 設定のコンフィギュレーション	25
4.4.6 Replace server certificate (PEM): サーバー証明書の代替	26
4.5 Download debug log files: デバッグログファイルをダウンロード	28
4.6 Open expert menu: エキスパートメニューを開く	28
4.6.1 Reset administrator password: 管理者パスワードをリセット	29
4.6.2 Replace cryptographic keys: 暗号化キーを代替	30
4.6.3 Clear entire system: システムを完全消去	31
4.6.4 Start remote access service: RAS を通じてリモートアクセスを開始	32
4.6.5 Update Maintenance System: メンテナンスシステムをアップデート	32
4.7 Backup system: システムのバックアップ	33
4.8 Restore system: システムの復元	34
4.9 Reboot system: システムの再起動	36
<b>5 ステータス</b>	<b>37</b>
5.1 履歴でのメッセージの作成/編集	41
<b>6 測定データ</b>	<b>42</b>
6.1 アラーム設定の編集	46
6.2 タイムカウンタを編集	48
6.3 測定データをダウンロード	49
6.4 測定データを削除	50
<b>7 リアルタイム表示</b>	<b>51</b>
<b>8 コンフィギュレーション</b>	<b>54</b>
8.1 モジュールコンフィギュレーション (ProLink のみ)	55
8.2 入力コンフィギュレーション	57
8.2.1 内部センサ (SmartCheck のみ)	58
8.2.2 アナログ入力	59
8.2.3 デジタル入力	65
8.2.4 固定値を含む入力	69
8.2.5 設置階次分析	70
8.3 測定タスク	71

8.3.1	測定タスク領域	72
8.3.2	新しい測定タスクの作成/編集	73
8.3.3	測定コンフィギュレーションで利用可能なテンプレート	77
8.3.4	トリガおよび条件	77
8.3.4.1	時間トリガ	79
8.3.4.2	測定トリガ	80
8.3.4.3	時間条件	81
8.3.4.4	測定条件	83
8.3.5	設置階次分析	83
8.3.6	学習モードとアラーム特性マップ	84
8.4	出力コンフィギュレーション	90
8.4.1	出力コンフィギュレーションを追加/編集	92
8.4.2	出力コンフィギュレーションをテスト	95
8.5	測定トリガ	97
8.5.1	測定トリガを追加/編集	98
8.6	測定条件	100
8.6.1	測定条件を追加/編集	101
8.7	通信チャンネル	102
8.7.1	電子メール用通信チャンネル	103
8.7.1.1	電子メール用通信チャンネルエリア	103
8.7.1.2	電子メール用通信チャンネルを追加/編集	105
8.7.1.3	電子メール用通信チャンネルの出力を追加/編集	108
8.7.1.4	接続テスト時のエラーメッセージ	112
8.7.2	コントローラ用通信チャンネル	112
8.7.2.1	コントローラ用通信チャンネルエリア	112
8.7.2.2	コントローラを追加/編集	115
8.7.2.3	コントローラの入力を追加/編集	117
8.7.2.4	コントローラの出力を追加/編集	119
8.7.2.5	コントローラをシステムに組み込む	122
8.7.2.5.1	三菱電機 GX Works2 ソフトウェア	123
8.7.2.5.2	三菱電機 GX IEC Developer ソフトウェア	131
8.7.3	OPC UA サーバーの通信チャンネル	138
8.7.3.1	OPC UA サーバーの通信チャンネル領域	139
8.7.3.2	OPC UA サーバーを追加/編集	140
8.7.3.3	OPC UA サーバーの入力を追加/編集	141
8.7.4	PROFINET 用通信チャンネル	144
8.7.4.1	PROFINET 用通信チャンネルエリア	144
8.7.4.2	PROFINET 用通信チャンネルの入力を追加/編集	145
8.7.5	Schaeffler クラウドの通信チャンネル	147
8.8	デバイス	148
8.8.1	デバイス設定	148
8.8.2	システムの時間設定	150
8.9	ベアリング	152
8.9.1	ベアリングを追加/編集	153
8.10	ベアリングメーカー	154
9	ユーザー管理	156
9.1	ユーザーグループを追加/編集	158
9.2	ユーザーの追加/編集	159
10	メーカー/サポート	160

# 1 全般

Schaeffler SmartWeb ソフトウェアのユーザーインターフェースでは、Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスを管理することができます。例えば、入力や出力を設定する、ウィザードを使って機械をモニタリングするための測定タスクを作成する、SmartCheck 或いは ProLink デバイスの機能を点検するなどの操作が可能です。SmartWeb ソフトウェアを使用するには、デバイスをコンピューターに接続する必要があります。

## 振動監視システムによって

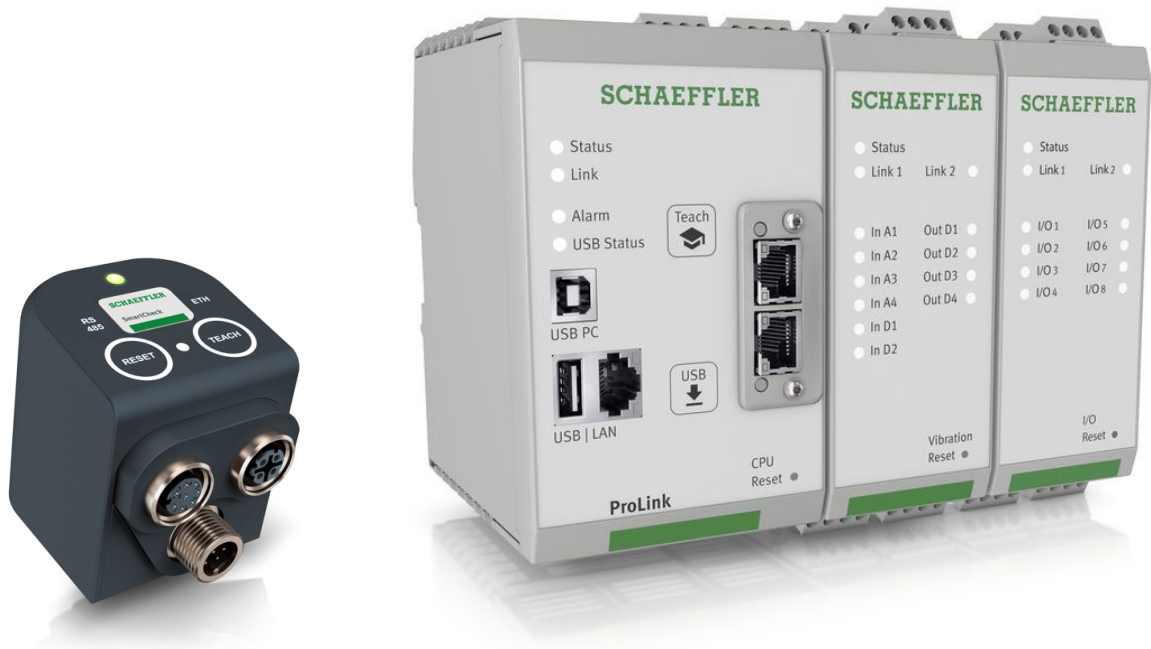
SmartCheck と ProLink は、持続的に周波数選択的な監視を行うための振動監視システムです。これらは以下の機能を提供します。

**Schaeffler SmartCheck**システムは、システムは、2 つの統合された信号と最大 3 つの接続された信号を介して測定値を取得、記録、分析できます。分析後、システムはユーザーが定義したアラーム限界に従って出力を切り替え、LED でステータスを表示できます。上位システムに統合するために入力を利用でき、それによって追加信号が記録されます。これらの信号を従属信号解析のコマンド変数として使用し、時間またはイベント制御の測定タスクを開始したりすることができます。

**Schaeffler ProLink**システムは、1 つのプロセスモジュールと 1 つ以上の振動モジュールで構成されています。システムは最大 4 つの振動モジュールまで拡張できます。最大 4 つのアナログ信号と 2 つのデジタル信号を各振動モジュールに接続し、測定値を捕捉、記録、分析することができます。分析後、システムは、ユーザー定義のアラーム制限に応じて、振動モジュールごとに最大 4 つのデジタル出力を切り替え、ステータスを外部制御装置などに表示できます。さらに、最大 8 つのアナログまたはデジタル入力または出力を、接続された各 I/O モジュールに対して自由に作成できます。

Schaeffler 振動監視システムを使用すれば、幅広いアプリケーションに対応できます。統合された Web アプリケーション SmartWeb を使用して、適宜設定できます。複数の SmartCheck 或いは ProLink デバイスを 1 つのネットワークで組み合わせることができます。すべてのデバイスの管理が 1 台の PC で SmartUtility Light ソフトウェアで集中的に行われます。さらに、SmartUtility フルバージョンにより、SmartWeb ソフトウェアで直接デバイスを開き、SmartUtility Viewer で測定データを分析できる上、コンフィギュレーションをダウンロードし、別のデバイスにインストールできます。

Schaeffler は、SmartCheck および ProLink システムにより、お客様の需要に対して最適化された状態モニタリングを提供します。



## 1.1 本マニュアルについて

本書は Schaeffler SmartWeb ソフトウェアの使用について説明します。ソフトウェアを使用する前に本書をよく読み、本書を保管してください。

以下を確保してください。

- すべてのユーザーが本書を利用できるようにしてください。
- 製品を別のユーザーに引き渡す場合には、本マニュアルも同様に渡すこと。
- メーカーが提供する補足および変更を必ず添えてください。



### システム固有の手順と図

ここで説明されているソフトウェアは、Schaeffler SmartCheck システムと Schaeffler ProLink システムの両方で使用できます。使用方法はどちらのシステムでもほぼ同じです。本取扱説明書の本文は、常に違いを示しています。

図は、本文に含まれている情報と指示を例として示しています。システムがほとんど変わらないところでは、読みやすさとわかりやすさのために、他のシステムの図を省略しています。

## その他の情報

このソフトウェアは、振動監視システム Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink の不可欠な要素です。このシステムには、Schaeffler SmartUtility Light ソフトウェアも含まれます。個々のシステムと SmartUtility Light ソフトウェアについては、専用のマニュアルで説明されています。

オプションで、Schaeffler SmartUtility Light ソフトウェアよりさらに豊富な機能を備えた Schaeffler SmartUtility ソフトウェアを購入することもできます。これも同様に、専用のマニュアルで説明されています。

## 定義

- 製品: 本マニュアルで説明される Schaeffler SmartWeb ソフトウェア。
- ユーザー: 本製品をスタートアップし使用する能力のある者または組織。

## 使用されるシンボル



このシンボルは、

- 役に立つ追加情報、ならびに
- デバイス設定、または作業を効率よく行うために役立つ使用上のヒントを表します。

### 注意



発生する可能性のある損傷がここに記載されます。

損傷を防ぐための対策がここに説明されます。

ハイパーリンクシンボル<sup>6)</sup>: このシンボルは、ハンドブック内のその他の情報があるページへの参照を指摘します。このマニュアルを PDF 形式で画面に表示して読んでいる場合、相互参照記号の左隣の単語をクリックすると、対応する項に直接移動します。

## 2 ソフトウェアの起動



スタートアップの前に、ファームウェアのアップデートを実行してください。最新バージョンは、SmartUtility ソフトウェアを介して、または以下のシステムのマイクロサイトでダウンロードできます。

- **SmartCheck**: [www.schaeffler.de/condition-monitoring/smartcheck](http://www.schaeffler.de/condition-monitoring/smartcheck)
- **ProLink**: [www.schaeffler.de/condition-monitoring/prolink](http://www.schaeffler.de/condition-monitoring/prolink)

次のような点を確認してから SmartWeb ソフトウェアをスタートしてください。

- システムが、イーサネットネットワークまたはイーサネットケーブルを介してコンピュータと接続されている。
- システムに電圧が供給されている。
- システムが完全に起動していて、測定モードになっている。

Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスを接続、起動する方法は、それぞれの振動監視システムのユーザーマニュアルで詳しく説明されています。

上記の点を確認したら、Schaeffler SmartWeb ソフトウェアを次のいずれかの方法でスタートします。

- **ブラウザにIPアドレスを入力してスタート**

出荷時の Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスのデフォルトの IP アドレスは、192.168.1.100 です。ブラウザのアドレスフィールドにIPアドレスを入力してください。

Enter キーを押し、SmartWeb ソフトウェアをスタートします。

- **Schaeffler SmartUtility Light**または **Schaeffler SmartUtility** ソフトウェアでスタート

このソフトウェアを使うと、ウィザードを通じて Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスを検索し、開くことができます。その際、デバイスごとに個別のブラウザタブで SmartWeb ソフトウェアが開きます。詳細は、SmartUtility Light または SmartUtility ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

このオプションでも、システムはイーサネットネットワークまたはイーサネットケーブルを介してコンピュータに接続され、電圧が供給されている必要があります。



- コンピュータの IP アドレス空間を Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスのデフォルトの IP アドレスに合わせることができない場合は、Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスの IP アドレスを変更しなければなりません。これは、同梱されている Schaeffler SmartUtility Light ソフトウェアや、Schaeffler SmartUtility ソフトウェアで実行できます。詳細はそれぞれのユーザーマニュアルを参照してください。
- 社内ネットワークでプロキシサーバーを使ってインターネットに接続している場合は、ブラウザのインターネット設定を調整する必要があります。それには、Internet Explorer の ツール > インターネット オプションでプロキシサーバーのアドレスとポート番号を入力します。プロキシサーバーについて詳しくは、システム管理者にお問い合わせください。
- SmartWeb ソフトウェアのスタート後、Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスのシステム時間がコンピュータのものと照合されます。必要に応じてシステム時間を調整 <sup>150)</sup> することができます。
- SmartWeb ソフトウェアは、SmartUtility または SmartUtility Light に新しいコンフィギュレーションがないかを定期的に検査します。ある場合は、ページが新たに読み込まれます。
- ブラウザで開かない Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスがある場合は、ブラウザのキャッシュを空にしてからもう一度試してみてください。
- Cookie が受け入れられないというメッセージが表示された場合は、Cookie の使用を許可するか、Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスの IP アドレスを例外として指定してください。
- 1 台のコンピュータで複数の Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスを使用する場合は、すべてのデバイスに同一のファームウェアバージョンがインストールされている必要があります。ファームウェアバージョンが異なると、ブラウザが正しく動作しない可能性があります。

### 3 ユーザーインターフェースの概要 ユーザーインターフェースの概要



- ブラウザのウィンドウを誤って閉じてしまった場合や、Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスへの接続が中断された場合、**OK** で確定していない設定は失われます。そのため、ソフトウェアのユーザーインターフェースで行った直前の変更が実際に適用されているかを必ず確認するようにしてください。
- SmartWeb ソフトウェアでは、1 時間以上にわたって何の変更も行われない場合、ユーザーが自動的にログオフされます。自動ログアウト時間を編集することができます。

Schaeffler SmartWeb ソフトウェアのユーザーインターフェースは、次のように区分されます：





ユーザーインターフェースには次のようなオプションが用意されています。



#### タイトルバー


画面の右上またはタイトルバーに次のような情報が表示されます。


接続先：SmartCheck 或いは ProLink デバイスの名前が表示されます。

ログイン種別：現在、どのユーザー名でログインしているかが表示されます。

 (SmartCheck のみ)：このアイコンは、「機械が作動」という測定条件が、機械でどのステータスを検出したかを示します。測定条件  で、お使いの機械に対し、測定条件「機械が作動」の基準を設定することができます。確認されたステータスに応じて、次のアイコンが表示されます。

- ：測定条件「機械が作動」が満たされています。機械は稼働中です。
- ：測定条件「機械が作動」は満たされていません。機械は稼働中ではありません。

：このアイコンが表示されているときは、少なくとも 1 つの特性値が学習モードになっています。

：正方形のアイコンは、SmartCheck 或いは ProLink デバイスのアラームステータスを示します。アイコンの色がステータスによって変わります。

- 灰：まだ特性値は測定されていません。



- 緑: アラームはありません。
- 黄: 1 つまたは複数の特性値によってプリアラームが発生しました。
- 赤: 1 つまたは複数の特性値によってメインアラームが発生しました。
- 灰色と緑色が切り替わる: 測定タスクの 1 つが学習モードになっています。  
学習中にプリアラームまたはメインアラームが発生した場合、アラームアイコンは点滅せず、該当するアラームステータスに応じて黄色または赤で点灯します。

## メニューバー

以下のオプションがメニューに表示されます。

### ファイル

- **このページを印刷:** SmartWeb ソフトウェアの現在のビューが印刷されます。印刷時に用紙サイズに合わせてページが縮小されるようブラウザの用紙設定オプションが選択されていることを確認してください。  
該当するオプションは、例えば Mozilla Firefox (用紙に合わせて縮小) や Windows Internet Explorer (縮小して全体を表示できるようにする) の場合、ファイル > ページ設定にあります。
- **デバイスコンフィギュレーションの保存/デバイスコンフィギュレーションのアップロード:** これらのオプションを使用すると、ネットワーク設定とは別に、すべてのデバイス設定および測定コンフィギュレーションを含むデバイスコンフィギュレーション全体を保存したり、保存されたデバイスコンフィギュレーションをデバイスにアップロードして戻すことができます。これは、たとえば、故障したデバイスを交換する「[16](#)」ために役立ちます。この場合、古いデバイスと新しいデバイスのモジュールの数が一致している必要があります。



デバイス設定を新しい SmartCheck 或いは ProLink デバイスにアップロードするときにネットワーク設定およびすべての既存の測定データが失われます。  
デバイス設定をアップロードする前に、測定データを保存「[49](#)」してください。アップロード後に、ネットワーク設定を調整「[148](#)」する必要があります。

- **ログアウト:** SmartCheck 或いは ProLink デバイスからログアウトします。デバイスへの接続が終了します。

### 編集

編集メニューにどの機能が表示されるかは、ユーザー権限によって異なります。使用権限がない機能については、使用できない状態になっています。

- **パスワードを変更:** SmartWeb ソフトウェアで該当する領域「[156](#)」が開きます。自分のパスワードやログインユーザーのパスワードを変更できます。
- **ユーザー管理:** このサブメニューからコマンドを選択すると、SmartWeb ソフトウェアで該当する領域「[156](#)」が開きます。そこで必要な変更を加えることができます。
- **デバイス設定:** このサブメニューからコマンドを選択すると、SmartWeb ソフトウェアで該当する領域「[148](#)」が開きます。そこで必要な変更を加えることができます。  
次のような項目を設定できます。
  - **セキュリティ設定の編集:** ここでは、データを保護するためのパスワードを設定できます。このパスワードは、SmartCheck 或いは ProLink デバイスに暗号化されたデバイスコンフィギュレーションをアップロード「[16](#)」する場合、または SmartWeb ソフトウェアでダウンロードした測定データ「[49](#)」を SmartUtility で開く場合に必要です。
  - **自動ログアウト時間の編集:** ここで、現在のユーザーが一定時間何の操作も行わなかった場合、自動的に SmartWeb ソフトウェアでログアウトされるように設定できます。自動ログアウトは、デフォルトで有効になっており、1 時間に設定されています。ユーザー権限「システム設定の編集」が有効な場合のみ、ログアウト機能を設定できます。



- SmartWeb ソフトウェアにログインしている限り、他のユーザーはソフトウェアにアクセスできません。
- ログアウト機能が無効になっていたり、ログアウトに設定した時間が長すぎたりすると、権限のない第三者が SmartWeb ソフトウェアにアクセスするおそれがあるため、安全性にかかわる潜在的な危険が生じます。

- **新しい測定タスクを作成:** ウィザードが開き、新しい測定タスクを作成「[73](#)」することができます。
- **プログラム設定を編集:** 次のような項目を設定できます。
  - **単位:** SmartWeb ソフトウェアで使用する単位系を指定します。この設定は、単位を選択するダイアログなどに適用されます。  
- **ISO** を選択すると、mm/s などの国際単位が表示されます。

- **US** を選択すると、mil/s などの米国単位が表示されます。
- **すべて**を選択すると、mm/s や mil/s など、国際単位と米国単位の両方が表示されます。
- **言語**: SmartWeb ソフトウェアは、可能な限り、ブラウザで設定されている言語で自動的に起動します。ここでは、SmartWeb ソフトウェアのユーザーインターフェースで使用する言語を指定することができます。

## 測定データ

- **測定データ表示を開く**: 測定データ<sup>[42]</sup>領域に移動します。
- **測定データをダウンロード**: ダウンロードする測定データを選択<sup>[49]</sup>するためのダイアログが開きます。
- **測定データを削除**: 削除する測定データを選択<sup>[50]</sup>するためのダイアログが開きます。

## 移動先

このメニューのコマンドを使うと、領域のボタンと同様にステータス<sup>[37]</sup>、測定データ<sup>[42]</sup>、リアルタイム表示<sup>[51]</sup>、コンフィギュレーション<sup>[54]</sup>、ユーザー管理<sup>[156]</sup>の各領域に移動することができます。

## ヘルプ

- **ヘルプを開く**: SmartCheck 或いは ProLink デバイスのウェブサイトへのリンクが開きます。ウェブサイトの[ダウンロード]で SmartWeb ヘルプ を開くことができます。
- **ファームウェアのアップデート**<sup>[12]</sup>: ファームウェアをアップデートするためのダイアログが開きます。
- **デバイスの再起動を選択**<sup>[13]</sup>: デバイスをリセットしたり、再起動したりするためのダイアログが開きます。同じダイアログで、デバイスのメンテナンスシステムを開いたり、データ分割をリセットしたりすることもできます。
- **Schaeffler クラウドオンボーディングのインストール**<sup>[15]</sup>: このコマンドでは、デバイスを Schaeffler クラウドサービスに接続するためのダイアログが開きます。
- **オープンソースライセンスの表示**: このコマンドでは、SmartCheck 或いは ProLink ソフトウェアを使用するサードパーティサプライヤーのライブラリに関する詳細ウィンドウが開きます。
- **ライセンスマネージャを開く**<sup>[14]</sup>: このコマンドにより、ライセンスマネージャのウィンドウが開きます。ここで、既存のライセンスまたはライセンスグループを閲覧し、新しいライセンスまたはライセンスグループを追加できます。SmartWeb ライセンスがない機能は、ソフトウェアで使用することも表示することもできません。
- **バージョン情報**: このコマンドで、出荷時のファームウェア、デバイス ID、シリアル番号など、SmartCheck 或いは ProLink デバイスのバージョンに関する詳細情報を示すウィンドウが開きます。テキストとしてコピーする ボタンを使用して情報をクリップボードにコピーし、ワープロプログラムや電子メールなどに貼り付けることができます。



単位、言語、メッセージの設定は、Cookie として保存されます。Cookie を削除すると、SmartWeb ソフトウェア内のこれらの設定も削除されます。その後で SmartWeb ソフトウェアを起動すると、再びブラウザで設定されている単位や言語が使用されるようになります。自動メッセージもデフォルトの設定に戻り、再び表示されます。また、言語設定は、Schaeffler SmartUtility Light または Schaeffler SmartUtility ソフトウェアの影響を受けます。SmartWeb ソフトウェアを SmartUtility Light または SmartUtility ソフトウェアから開いた場合、そのソフトウェアの言語設定が適用されます。

## 領域

ボタンをクリックすると、SmartWeb ソフトウェアのさまざまな領域に移動できます。ここでは、SmartCheck 或いは ProLink デバイスからログアウトすることもできます。



**ステータス**: <sup>[37]</sup>システムや、測定タスクおよび特性値のステータスに関する情報が表示されます。どの測定タスクが有効またはスケジュールされているか、またどの特性値がアラームをトリガしたかが一目でわかります。さらにログブックのメッセージで SmartCheck 或いは ProLink デバイスのアクティビティを追跡することもできます。



**測定データ**: <sup>[42]</sup>この領域では、特定の特性値の測定値を表示できます。表示には、トレンド、時間信号、スベクトルデータが含まれます。



**リアルタイム表示**: <sup>[51]</sup>ここでは、設定した入力の信号をリアルタイムで表示できます。



**コンフィギュレーション**: <sup>[54]</sup>この領域は、特に新しく導入した SmartCheck 或いは ProLink デバイスの設定時に必要になります。測定タスクの作成、入力・出力の設定、基本的なデバイス設定、ベアリングおよびベアリングメーカー用データベースの編集などができます。さらに、ProLink システムのモジュールに関する詳細がここに表示されます。



**ユーザー管理**: <sup>[156]</sup>ユーザーやユーザーグループを作成、削除、管理し、自分のパスワードや現在ログインしているユーザーのパスワードを変更することができます。ここには、ユーザー管理をアクティブまたはインアクティブにするための機能もあります。



ログアウト: このボタンをクリックすると、SmartCheck 或いは ProLink デバイスからログアウトし、SmartWeb ソフトウェアを閉じることができます。

## アクション

重要なアクションが表示されます。現在の領域で実行できるものと、他の領域で実行するためにリンクとして表示されるものがあります。例えば、測定データを開くと、測定データを表示、測定データをダウンロード、測定データを削除というコマンドが表示されます。

## 選択した領域の項目

ここに表示される項目は、現在の領域によって異なります。例えば、コンフィギュレーション領域を開いた場合は、コンフィギュレーション項目である測定タスクや測定条件などを選択し、SmartWeb ソフトウェアのメインパネルで詳細を確認して編集することができます。

## 選択した項目の詳細情報および編集機能

左側で項目を選択すると、SmartWeb ソフトウェアのメインパネルにその詳細情報が表示され、編集を加えることができます。可能な作業は、選択した項目によって異なります。

## ステータスバー

ステータスバーには、選択された新しい領域のロードをブラウザが終了したかどうかなどが表示されます。



左側にある一覧の列とメインパネルの区切りを使い、SmartWeb ソフトウェアの画面を自由に調整することができます。

- マウスの左ボタンを押したまま、区切りを左または右にドラッグして、各領域のサイズを変更します。
- 区切りをクリックすると、一覧の列を隠すことができます。これにより、メインパネルが画面の幅いっぱいに表示されます。区切りをもう一度クリックすると、元の表示に戻ります。

インターフェースのさまざまな個所で、項目がツリー構造で表示されます。下位の項目を表示するには、**+**をクリックします。再び隠すには、**-**をクリックします。

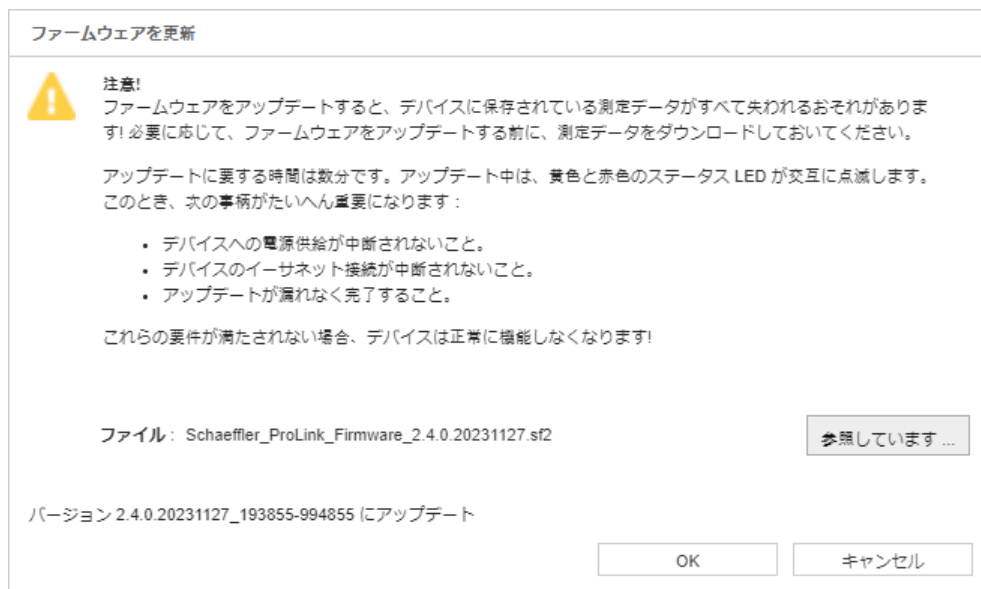
SmartWeb ソフトウェアの一部の領域では、情報が表形式で表示されます。以下の機能を使って、表を構築できます。

- 並べ替え基準の列**: 表の任意の列名をクリックし、その列を検索基準に指定します。もう一度クリックすると、ソート順序が変更されます（昇順から降順またはその逆）。現在のソート順序は、記号▲（昇順）および▼（降順）で表示されます。
- 列の移動**: 表の任意の列を別の場所に移動させることができます。それには、列名をマウスの左ボタンでクリックし、ボタンを押したままドラッグします。列の移動先でマウスのボタンを放します。

## 3.1 ファームウェアを更新

### ファームウェアをアップデートする方法

- ヘルプメニューでファームウェアを更新を選択し、該当するウィンドウを開きます。



- [参照] をクリックして、ファームウェアファイルを見つけて選択します。
- OK** をクリックすると、選択したファームウェアを使って SmartCheck 或いは ProLink デバイスがアップデートされます。キャンセルをクリックすると、変更が適用されないままウィンドウが閉じます。



- ファームウェアをアップデートすると、デバイス上にある測定データやコンフィギュレーションが失われるおそれがあります。そのため、アップデートを行う前に測定データやコンフィギュレーションを SmartUtility ソフトウェアでダウンロードしてください。学習されたアラームしきい値は、コンフィギュレーションの一部であるため、ダウンロードしたコンフィギュレーションに含まれます。
- アップデートにかかる時間は数分です。この間、SmartCheck 或いは ProLink デバイスの黄色と赤色のステータス LED が交互に点滅します。その際、次の点に十分注意してください。
  - SmartCheck 或いは ProLink デバイスへの電源供給が中断されないこと。
  - SmartCheck 或いは ProLink デバイスのイーサネット接続が中断されないこと。
  - アップデートが完了すること。

これらの要件が満たされないと、デバイスが正常に機能しなくなります。

- ファームウェアのアップデート時に重大なエラーが発生した場合、デバイスは、出荷時のファームウェアにリセットされます。出荷時のファームウェアバージョンは、ヘルプ > バージョン情報で確認できます。
- ファームウェアのアップデートを実行した後、ブラウザキャッシュを空にしてください。この作業を行わないと、新しいバージョンの Schaeffler SmartWeb ソフトウェアがお使いのブラウザに読み込まれません。

## 3.2 デバイスの再起動を選択

### デバイスの再起動を選択する方法

- ヘルプメニューで デバイスの再起動を選択オプションを選択し、該当するウィンドウを開きます。



- リストボックスで任意のオプションを選択します。

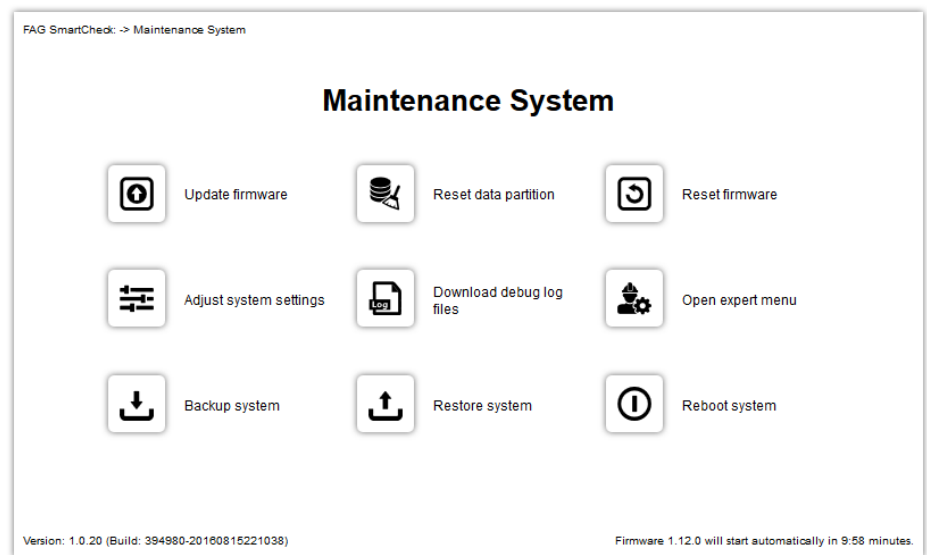
#### デバイスの再起動

このオプションを選択すると、SmartCheck 或いは ProLink デバイスが再起動します。

- 実行中の測定が中断されます。
- 既存の測定データ、コンフィギュレーション、ファームウェアは、維持されます。

#### デバイスのメンテナンスシステムをスタート

このオプションを選択すると、デバイスのメンテナンスシステムが始動します。ここには、ファームウェアのアップデートや、デバイスのコンフィギュレーション、システムバックアップなどの各種メンテナンス機能が用意されています。また、デバイスの再起動に関するその他のオプションもあります。



ユーザー管理がアクティブになっている場合は、まずログインダイアログが表示されます。メンテナンスシステムには、管理者パスワードを持った管理者だけがログインできます。

#### データ分割をリセット

このオプションを選択すると、データ領域がリセットされます。

- 既存の測定データがすべて失われます。
- ファームウェアと、学習されたアラーム限界を含むコンフィギュレーションは、維持されます。

出荷時の状態に  
戻す

このオプションを選択すると、SmartCheck 或いは ProLink デバイスの出荷時の状態が復元されます。

- 既存の測定データがすべて失われます。
- 学習されたアラーム限界がすべて削除されます。
- すべてのコンフィギュレーションが失われます。
- ファームウェアは、出荷時のファームウェアにリセットされます。

測定データや学習されたアラーム限界、コンフィギュレーションを維持するためには、復元を行う前に SmartUtility ソフトウェアを使って測定データとコンフィギュレーションをダウンロードします。学習されたアラームしきい値は、コンフィギュレーションの一部であるため、ダウンロードしたコンフィギュレーションに含まれます。この Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイス、納品時状態に戻した後、お客様によって規定された IP アドレスでアクセスできます。キャンセルをクリックすると、変更が適用されないままウィンドウが閉じます。

3. **OK** をクリックすると、選択したオプションに従って SmartCheck 或いは ProLink デバイスがリセットされます。



デバイスがアクセス可能な状態であることを確認し、最新のファームウェアをインストールしてください。

### 3.3 ライセンスまたはライセンスグループを追加

SmartWeb ソフトウェアのいくつかの機能には、追加のライセンスまたはライセンスグループが必要です。追加のライセンスまたはライセンスグループを電子メールで取得し、ライセンスマネージャによって追加します。ライセンスマネージャは、ヘルプメニューのライセンスマネージャオプションで開きます。

ご利用の SmartCheck 或いは ProLink デバイスにインストールされているライセンスのリストが、次の情報と共に表示されます。

**ライセンス名**                      ライセンスの名前です。この名前は、ライセンスにより有効になる機能を示しています。

**有効期間**                        このデータは、このライセンスの有効期間を示しています。


#### ライセンスまたはライセンスグループを追加する方法

1. ヘルプメニューでライセンスマネージャを開くオプションを選択し、該当するウィンドウを開きます。
2. 追加ボタンをクリックします。ライセンスまたはライセンスグループを追加ウィンドウが開きます。
3. 電子メールから取得した TXT ライセンスドキュメントをテキストエディタで開きます。
4. ドキュメントの本文をクリップボードにコピーします。
5. ライセンスまたはライセンスグループを追加ウィンドウのテキストエリア内をクリックし、クリップボードのドキュメントの内容を貼り付けます。テキスト領域の下に、貼り付けたドキュメントの有効なライセンスとライセンスグループを知らせるメッセージが表示されます。



6. 追加をクリックします。追加されたライセンスまたはライセンスグループは、ライセンスマネージャウィンドウの一覧に表示されます。

### ライセンスを削除する方法

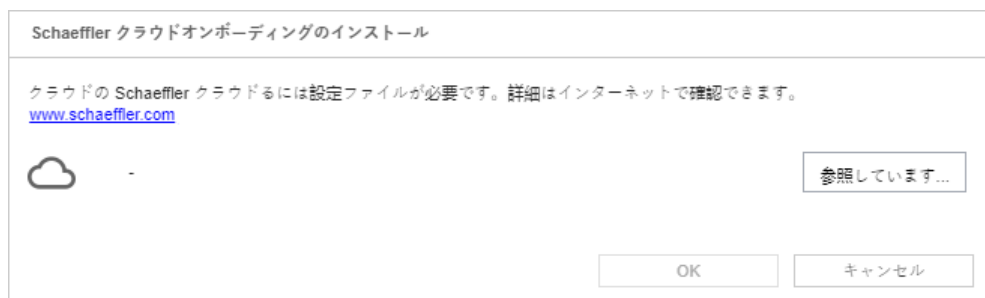
ライセンスマネージャで該当するライセンスを選択し、**[削除]**  をクリックして、**[OK]** で確定します。**[チャネル監視]**、**[OPCUA]**、**[電子メール]** ライセンスは削除できません。

## 3.4 Schaeffler クラウドサービスに接続

SmartCheck または ProLink デバイスを Schaeffler クラウドサービスに接続する場合は、コンフィギュレーションファイルが必要です。これに関する詳細情報は、こちらをご覧ください。



### Schaeffler クラウドサービスの接続方法

1. ヘルプメニューでオプション **Schaeffler** クラウドオンボーディングのインストールを選択し、該当するウィンドウを開きます。



2. **[参照]** をクリックして、コンフィギュレーションファイルを見つけて選択します。

3. **OK** をクリックして、オンボーディングプロセスを開始します。キャンセルをクリックすると、変更が適用されないままウィンドウが閉じます。

このステップで、Schaeffler クラウドの通信チャンネル  が自動的に作成され、データ伝送に必要なすべての設定が行われます。必要に応じて、プロキシ設定を変更  します。



### 3.5 故障したデバイスの交換

故障した SmartCheck 或いは ProLink デバイスを交換する必要がある場合、【デバイスコンフィギュレーションの保存】機能と【デバイスコンフィギュレーションのアップロード】機能を利用して、デバイス設定をすぐに復元することができます。

- 【デバイスコンフィギュレーションの保存】を使用して、ネットワーク設定を除くデバイスのすべての測定コンフィギュレーションとデバイス設定を保存します。
- 【デバイスコンフィギュレーションのアップロード】を使用して、これらの設定を新しいデバイスにロードします。



- デバイス設定を新しい SmartCheck 或いは ProLink デバイスにアップロードするときにネットワーク設定およびすべての既存の測定データが失われます。  
デバイス設定をアップロードする前に、測定データを保存<sup>49)</sup>してください。アップロード後に、必要に応じて、ネットワーク設定を調整<sup>148)</sup>する必要があります。
- 個々の振動モジュールまたは I/O モジュールを交換できるだけでなく、プロセッサモジュールを備えたユニット全体を交換することもできます。  
単一モジュールのみを交換した場合、既存の測定タスクは新しいモジュールを使用するように調整されます。  
1 つのタイプの複数のモジュール、つまり複数の振動モジュールまたは複数の I/O モジュールを交換する場合、これらはモジュールのシリアル番号のアルファベット順に基づいてコンフィギュレーションに割り当てられます。

次の手順に従います。

1. 故障した SmartCheck 或いは ProLink デバイスの SmartWeb ソフトウェアで【ファイル】メニューを開いて、【デバイスコンフィギュレーションの保存】オプションを選択します。【デバイスコンフィギュレーションの保存】ダイアログボックスが開きます。

デバイスコンフィギュレーションを保存

デバイスコンフィギュレーションをダウンロードして、SC4 ファイルとして保存してください。  
保存プロセスはブラウザの設定によって異なります。

ファイル名: 20231217\_185052\_f4\_3d\_80\_10\_01\_16.sc4

OK キャンセル

2. 【OK】をクリックして、ブラウザでデフォルトの保存プロセスを開始し、デバイスコンフィギュレーションを保存します。
3. 必要に応じて、測定データを保存してください<sup>49)</sup>。
4. 故障した SmartCheck 或いは ProLink デバイスをシステムから取り除きます。
5. 新しい SmartCheck 或いは ProLink デバイスをシステムに追加します。
6. 新しい SmartCheck 或いは ProLink デバイスの SmartWeb ソフトウェアで【ファイル】メニューを開いて、【デバイスコンフィギュレーションのアップロード】オプションを選択します。【デバイスコンフィギュレーションのアップロード】ダイアログボックスが開きます。

デバイスコンフィギュレーションをアップロード

注意!  
デバイスコンフィギュレーションをアップロードすると、デバイスに保存されているすべての測定データが失われる場合があります! デバイスコンフィギュレーションをアップロードする前に、測定データをバックアップしてください。

アップロードには数分かかります。

ファイル: 20231217\_183821\_f4\_3d\_80\_10\_01\_16.sc4

☒ 三菱コントロール部の出力をコンフィギュレーションしない

参照しています ...

OK キャンセル

7. 【参照】をクリックして、故障した SmartCheck 或いは ProLink デバイスからダウンロードした拡張子 .SC4 のファイルを選択します。

次のようなオプションがあります。

#### パスワード

元のデバイスでコンフィギュレーションファイルが暗号化されていた場合、ここでデータ暗号化のパスワードを指定できます。入力中に、パスワードを表示オプションでパスワードを表示させることができます。



**三菱コントローラの出力をコンフィ  
ギュレーションしない**

コンフィギュレーションファイルにコントローラの出力が含まれている場合は、これらも設定されているかどうかをここで判断できます。これらの出力の送信先のすべてのデバイスは、コントローラと同じレジスタに書き込みます。このため、このオプションはデフォルトで有効になっています。通信チャネル(コントローラの設定)は、いかなる場合でも送信されます。

8. **[OK]** をクリックして、保存したデバイス設定を新しい SmartCheck 或いは ProLink デバイスに転送します。
9. 必要に応じて、ネットワーク設定を調整してください<sup>148)</sup>。
10. 新しいデバイスがネットワークに接続され、測定タスクがすべて引き継がれます。

## 4 デバイスのメンテナンスシステム

Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスのメンテナンスシステムは、包括的なメンテナンス機能を提供します。例えば、ファームウェアをアップデートする、SmartCheck 或いは ProLink デバイスのコンフィギュレーションを行う、システムをバックアップする、バックアップしたシステムを新たにインストールする、などの操作が可能です。バックアップのインストール機能を利用して、デバイスを複製することもできます。さらにメンテナンスシステムには、アクセスの制限されたエキスパート機能が用意されていて、メンテナンスシステムのアップデート、SmartCheck 或いは ProLink デバイス上のシステム全体の削除などが実行できます。

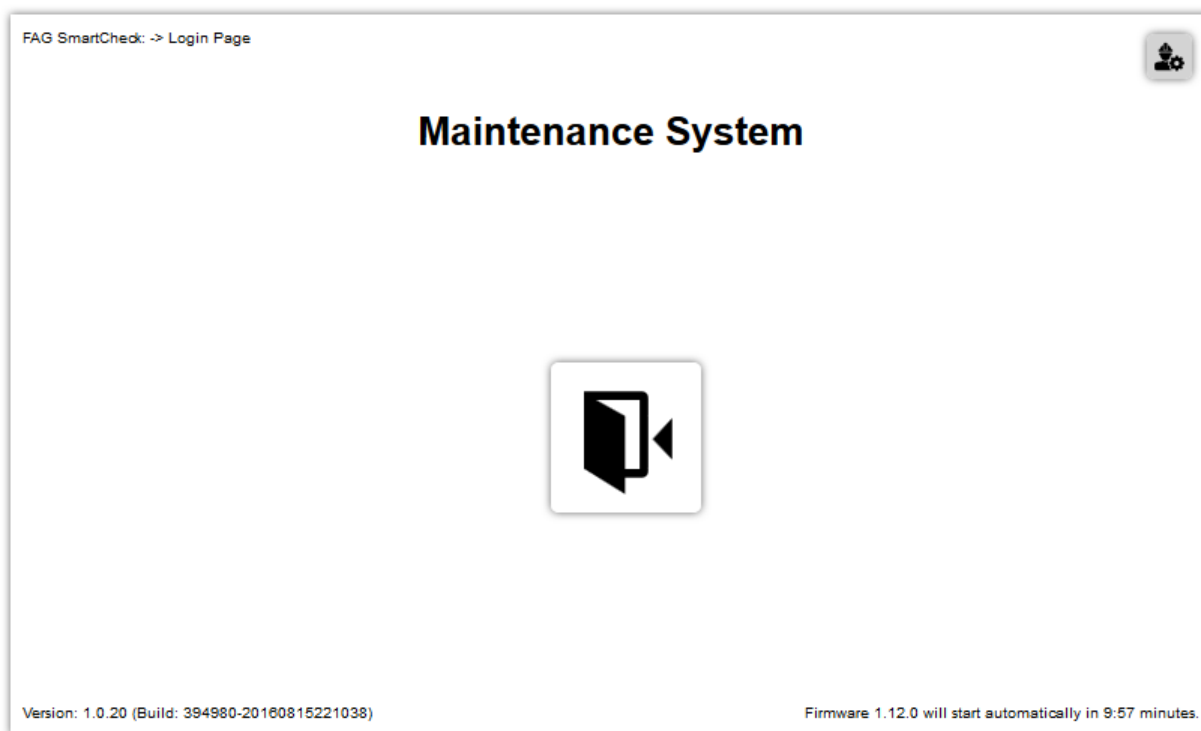
メンテナンスシステムは英語でのみ利用できます。メンテナンスシステムは、デバイスの現在のファームウェアに依存せず、例えばファームウェアのアップデートが正常に実行されなかった場合でもブラウザから呼び出すことができます。

### SmartCheck 或いは ProLink デバイスのメンテナンスシステムを開く方法

1. ヘルプメニューで **デバイスの再起動を選択オプション**を選択し、該当するウィンドウを開きます。

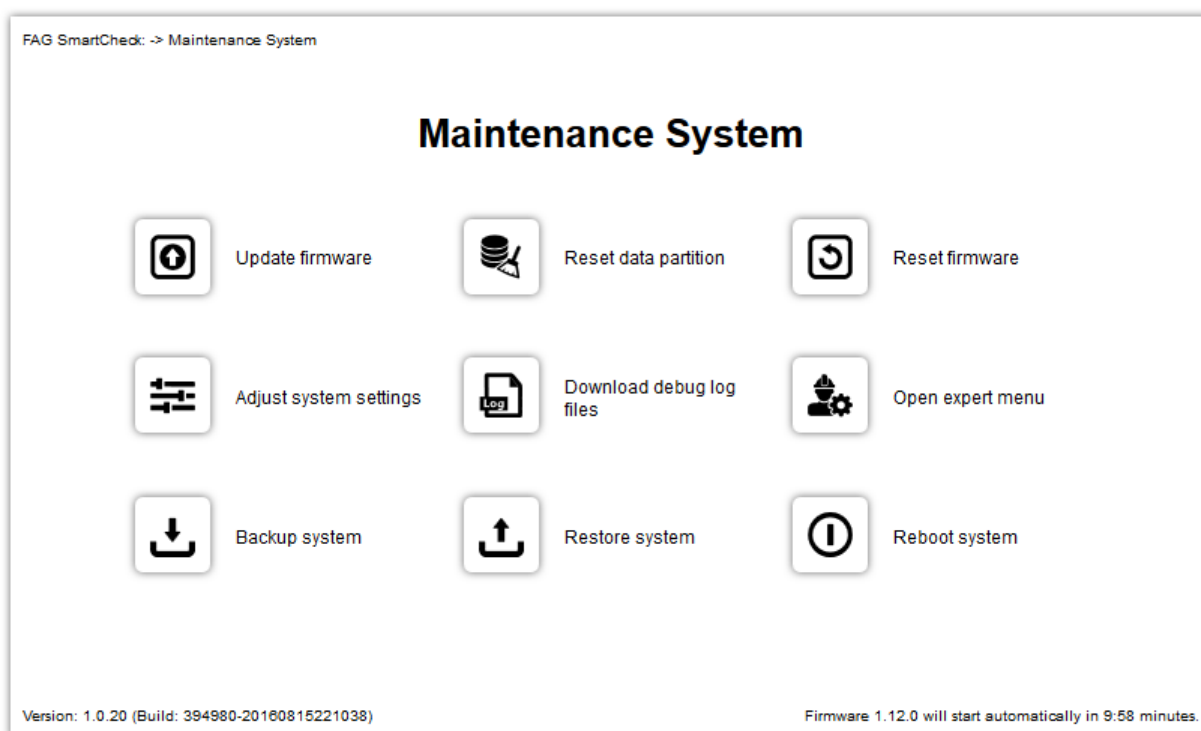


2. ドロップダウンリストから**デバイスのメンテナンスシステムを開始する**を選択します。
3. **OK**をクリックします。メンテナンスシステムのログインページが表示されます。



4. **Login** ボタンをクリックしてメンテナンスシステムの開始ページを開きます。**Expert Menu** ボタンを使うと直接エキスパートメニューに移動します。

SmartCheck 或いは ProLink ファームウェアでユーザー管理がアクティブになっている場合は、まずログインダイアログが表示されるので、管理者パスワードを使ってログインする必要があります。ユーザー管理がインアクティブな場合は、最初から開始ページが開きます。



5. ここで、使いたい機能のアイコンをクリックします。機能によっては、いくつかの手順を実行するか、サブメニューでオプションを選択する必要があります。メンテナンスシステムの個々の機能については、以下の節で詳しく説明します。



- メンテナンスシステムを開始すると、SmartCheck 或いは ProLink デバイスによる測定がすべて中断されます。
  - メンテナンスシステムの機能を開くと、右上に **Homepage** ボタンが表示されます。このボタンをクリックすると、メンテナンスシステムの開始ページに戻ります。
  - メンテナンスシステムにはタイマー機能があり、何の変更も加えないまま一定の時間が経過すると、デバイスが自動的に再起動します。再起動までの経過時間は、メンテナンスシステムのどこにいるかによって異なります。
    - メンテナンスシステムのログインページ: 2 分後に再起動
    - メンテナンスシステムの開始ページおよびすべての機能ページ: 10 分後に再起動
    - エキスパートメニュー **Expert Menu** のログインページ: 60 分
- 右下に、デバイスが再起動されるまでの残り時間が表示されます。

## 4.1 Update firmware: ファームウェアのアップデート

この機能を開始するには、**Update firmware** ボタンをクリックします。ここでは、新しいバージョンのファームウェアを使ってシステムをアップデートすることができます。アップデートを実行しても、測定データは削除されません。




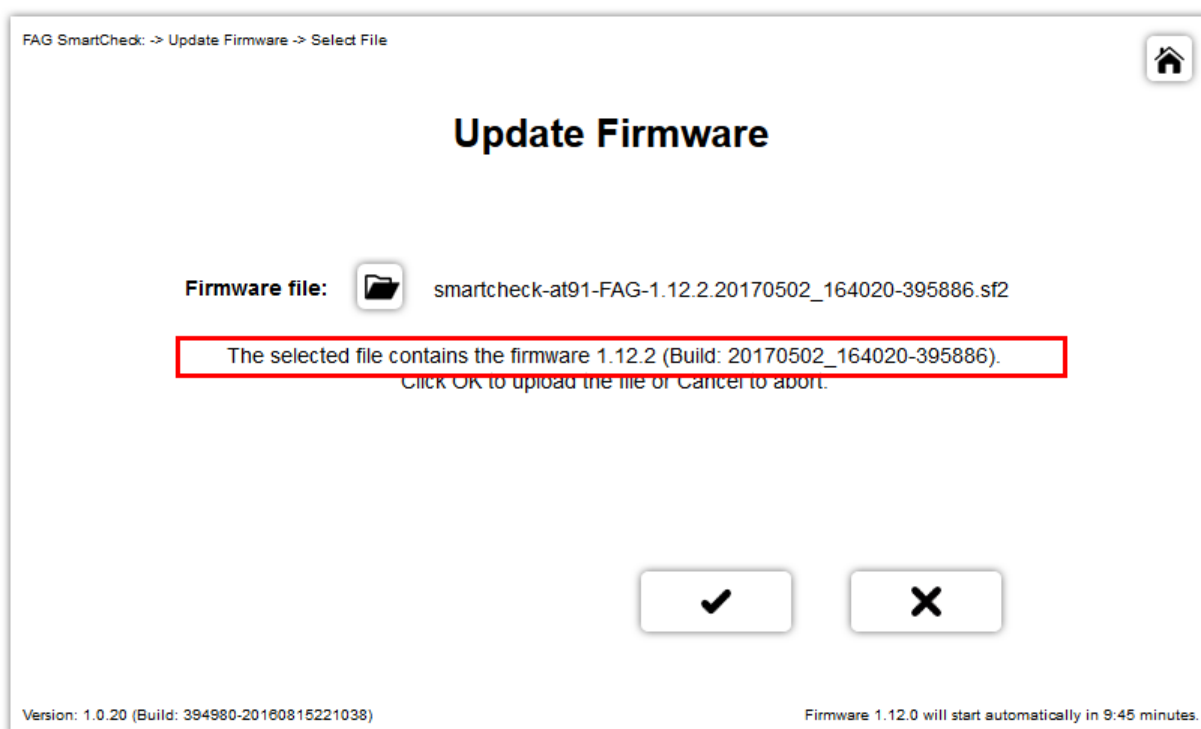
ファームウェアのバージョンによっては、この機能で以前のファームウェアバージョンにダウングレードすることも可能です。その場合は、測定データも削除されます。

次のようなケースでダウングレードが可能です。


- SmartCheck バージョン 1.10.0 または ProLink バージョン 1.18.0 のリリース以前: 旧バージョンにダウングレードできます
- SmartCheck バージョン 1.10.0 または ProLink バージョン 1.18.0 のリリース以降: 1.10.0 または 1.18.0 までのダウングレードのみ可能です。

## ファームウェアをアップデートする方法

1. **Select file**  ボタンをクリックし、ファームウェアの SF2 ファイルを探します。
2. SD2 ファイルを開きます。システムがファイルを分析し、アップデートが可能か、どのファームウェアがインストールされるかを通知します。




選択されているファイルが有効なファームウェアファイルでない場合は、その旨が通知されます。

3. **OK**  ボタンをクリックしてアップデートを開始します。




- ファームウェアをアップデートすると、デバイス上にある測定データやコンフィギュレーションが失われます。そのため、アップデートを行う前に測定データやコンフィギュレーションを SmartUtility ソフトウェアでダウンロードしてください。学習されたアラームしきい値は、コンフィギュレーションの一部であるため、ダウンロードしたコンフィギュレーションに含まれます。
- アップデートにかかる時間は数分です。この間、SmartCheck 或いは ProLink デバイスの黄色と赤色のステータス LED が交互に点滅します。その際、次の点に十分注意してください。
  - SmartCheck 或いは ProLink デバイスへの電源供給が中断されないこと。
  - SmartCheck 或いは ProLink デバイスのイーサネット接続が中断されないこと。
  - アップデートが完了すること。これらの要件が満たされないと、デバイスが正常に機能しなくなります。
- ファームウェアのアップデート時に重大なエラーが発生した場合、デバイスは、出荷時のファームウェアにリセットされます。出荷時のファームウェアバージョンは、ヘルプ > バージョン情報で確認できます。
- ファームウェアのアップデートを実行した後、ブラウザキャッシュを空にしてください。この作業を行わないと、新しいバージョンの Schaeffler SmartWeb ソフトウェアがお使いのブラウザに読み込まれません。


## 4.2 Reset data partition: データ分割をリセット

この機能を開始するには、**Reset data partition**  ボタンをクリックします。ここで、データ分割をリセットすることができます。システムの測定データがすべて削除されますが、測定コンフィギュレーションは維持されます。


データ分割をリセットするには、**OK**  ボタンをクリックします。

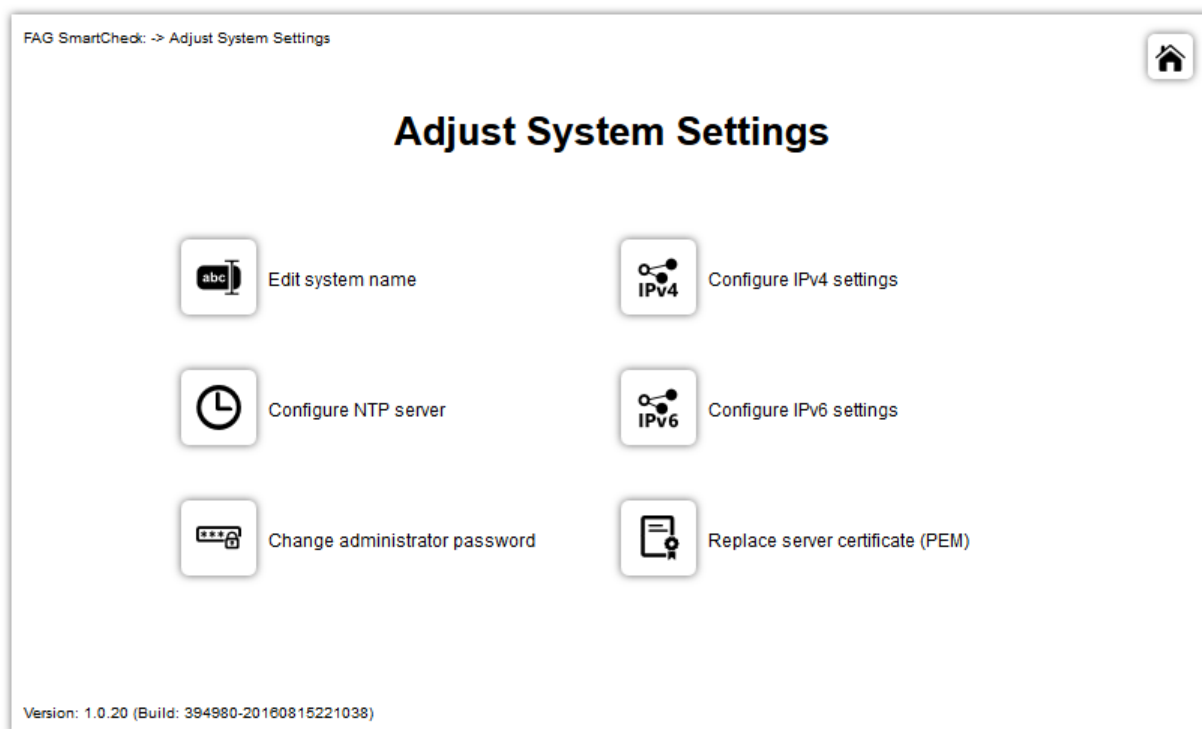
### 4.3 Reset firmware: ファームウェアをリセット

この機能を開始するには、**Reset firmware**  ボタンをクリックします。ここで、データ分割をフォーマットすることができます。その際、システムの測定コンフィギュレーションおよび測定データがすべて消去され、標準の測定コンフィギュレーションが復元されます。

ファームウェアをリセットするには、**OK**  ボタンをクリックします。


### 4.4 Adjust system settings: システム設定の調整

**Adjust system settings**  ボタンをクリックしてシステム設定のためのメニューを開きます。



使用したい機能のボタンをクリックします。個々の機能については、以下の節で説明します。


#### 4.4.1 Edit system name: システム名を編集

この機能を開始するには、**Edit system name**  ボタンをクリックします。ここでは、SmartCheck 或いは ProLink デバイスに新しい名前を付けることができます。

##### システム名を編集する方法

1. 入力フィールドに、SmartCheck 或いは ProLink デバイスの新しい名前を入力します。



FAG SmartCheck: -> Adjust System Settings -> Edit System Name




## Edit System Name

**System name:**


Enter system name and click OK to save or Cancel to abort.

Version: 1.0.20 (Build: 394980-20160815221038)

2. **OK**  ボタンをクリックして名前を確定します。


#### 4.4.2 Configure NTP server: NTP サーバーのコンフィギュレーション

この機能を開始するには、**Configure NTP server**  ボタンをクリックします。ここでは、SmartCheck 或いは ProLink デバイスのシステム時間の読み込み元とする NTP サーバーを指定します。

##### NTP サーバーのコンフィギュレーションを行う方法

1. 入力フィールドに NTP サーバーの IP アドレスまたは NTP サーバー名を入力します。

FAG SmartCheck: -> Adjust System Settings -> Configure NTP Server



## Configure NTP Server


**NTP server:**

Here you can configure an NTP server from which the system can load the system time.

Enter the NTP server address and click OK to proceed or Cancel to abort.

✓
✗

Version: 1.0.20 (Build: 394980-20160815221038)

2. **OK**  ボタンをクリックして IP アドレスまたは NTP サーバー名を確定します。



- NTP サーバー名を使用する場合は、DNS サーバーを入力するか、DHCP を介して設定する必要があります。
- システム時刻が NTP サーバーを基準とする場合、常に同期が行われます。そのため、この方法では SmartCheck 或いは ProLink デバイスが常にインターネットに接続されていること、NTP サーバーが常にアクセス可能であることが条件となります。

#### 4.4.3 Change administrator password: 管理者パスワードを変更

この機能を開始するには、**Change administrator password**  ボタンをクリックします。ここでは、ユーザー管理に必要な管理者パスワードを変更することができます。

##### 管理者パスワードを変更する方法

1. **Administrator password** フィールドに使用したいパスワードを入力します。
2. 同じパスワードを **Reenter password** にもう一度入力します。

FAG SmartCheck: -> Adjust System Settings -> Change Administrator Password

## Change Administrator Password

1.

Administrator password:

2.

Reenter password:

Here you can change the administrator password.  
**Note:** Leaving the password empty will disable the user management.

Click OK to proceed or Cancel to abort.

✓

✗

Version: 1.0.20 (Build: 394980-20160815221038)

3. **OK** ボタンをクリックして新しいパスワードを確定します。



ここで管理者パスワードを入力すると、SmartCheck 或いは ProLink デバイスのユーザー管理 <sup>156</sup>が自動的にアクティブになります。  
 ここで管理者パスワードを入力しなかった場合、SmartCheck 或いは ProLink デバイスのユーザー管理はインアクティブになります。

#### 4.4.4 Configure IPv4 settings: IPv4 設定のコンフィギュレーション


この機能を開始するには、**Configure IPv4 settings** ボタンをクリックします。ここでは、IPv4 ネットワーク設定を編集することができます。

##### IPv4 ネットワーク設定を編集する方法

1. **DHCP mode** リストから使用する DHCP モードを選択します。



FAG SmartCheck: -> Adjust System Settings -> Configure IPv4 Settings



## Configure IPv4 Settings

**DHCP mode:**

**Host name:**

**IP address:**

**Netmask:**

**Gateway:**

**Name server:**

Select the DHCP mode and configure the network settings for IPv4.

Click OK to proceed or Cancel to abort.

Version: 1.0.20 (Build: 394980-20160815221038)

次のようなオプションがあります。

#### No DHCP

このオプションでは、IPv4 アドレスを指定するか、SmartCheck 或いは ProLink デバイスのデフォルトの IP アドレスを引き続き使用することができます。


**No DHCP** をアクティブにした場合は、このステップで **IP address**、**Netmask**、**Gateway** (ゲートウェイ)といった他の設定も行う必要があります。

#### DHCP: Send host name to server

SmartCheck 或いは ProLink デバイスがネットワーク内の IP アドレスを自動的に取得します。ホスト名は、SmartCheck 或いは ProLink デバイスによってネットワークの DNS サーバーに登録されます。

#### DHCP: Load host name from server


SmartCheck 或いは ProLink デバイスがネットワーク内の IP アドレスを自動的に取得します。デバイス名は、ネットワークの DNS サーバーにより指定されます。

2. **DHCP mode** で選択したモードによっては、**Host name**、**IP address**、**Netmask**、**Gateway** (ゲートウェイ)、**Name server**なども指定する必要があります。
3. **OK**  ボタンをクリックして変更を確定し、システム設定のメニューに戻ります。



- SmartCheck 或いは ProLink デバイスの IP アドレスを変更した場合、これまでのアドレスでは SmartWeb ソフトウェアにアクセスできなくなります。その場合、デバイスの新しいアドレスをブラウザに入力し、ソフトウェアとメンテナンスシステムを新たに読み込む必要があります。
- IP アドレスが DHCP を介して自動的に割り当てられる場合、SmartCheck 或いは ProLink デバイスには、自動的に割り当てられた IP アドレスまたはホスト名 (DNS) を通じてのみアクセスできます。デフォルトの IP アドレスを使用することはできなくなります。

#### 4.4.5 Configure IPv6 settings: IPv6 設定のコンフィギュレーション

この機能を開始するには、**Configure IPv6 settings**  ボタンをクリックします。ここでは、IPv6 ネットワーク設定を編集することができます。

##### IPv6 ネットワーク設定を編集する方法

1. **DHCP mode** リストから使用する DHCP モードを選択します。

FAG SmartCheck: -> Adjust System Settings -> Configure IPv6 Settings

## Configure IPv6 Settings

**DHCP mode:**

**IP address:**

**Netmask:**

**Gateway:**

**Name server:**

Select the DHCP mode and configure the network settings for IPv6.

Click OK to proceed or Cancel to abort.

Version: 1.0.20 (Build: 394980-20160815221038) Firmware 1.12.0 will start automatically in 9:57 minutes.

次のようなオプションがあります。


#### No DHCP

このオプションでは、IPv4 アドレスを指定するか、SmartCheck 或いは ProLink デバイスのデフォルトの IP アドレスを引き続き使用することができます。

**No DHCP** が有効になっている場合、例えば **IP address**、**Netmask** または **Gateway** のような別の設定もこのステップで行う必要があります。

#### DHCP: Load host name from server


SmartCheck 或いは ProLink デバイスがネットワーク内の IP アドレスを自動的に取得します。デバイス名は、ネットワークの DNS サーバーにより指定されます。

2. **DHCP mode** で選択したモードによっては、**IP address**、**Netmask**、**Gateway**（ゲートウェイ）**Name server**も指定する必要があります。
3. **OK**  ボタンをクリックして変更を確定し、システム設定のメニューに戻ります。




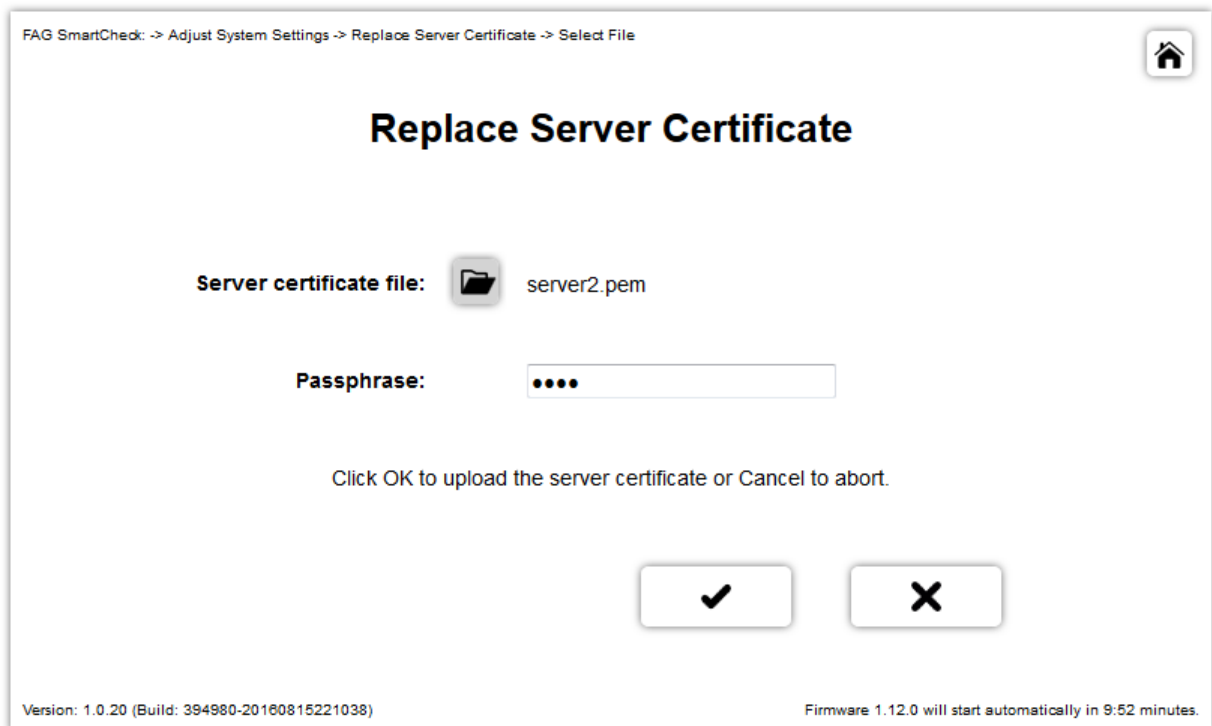
- SmartCheck 或いは ProLink デバイスの IP アドレスを変更した場合、これまでのアドレスでは SmartWeb ソフトウェアにアクセスできなくなります。その場合、デバイスの新しいアドレスをブラウザに入力し、ソフトウェアとメンテナンスシステムを新たに読み込む必要があります。
- IP アドレスが DHCP を介して自動的に割り当てられる場合、SmartCheck 或いは ProLink デバイスには、自動的に割り当てられた IP アドレスまたはホスト名 (DNS) を通じてのみアクセスできます。デフォルトの IP アドレスを使用することはできません。


#### 4.4.6 Replace server certificate (PEM): サーバー証明書の代替

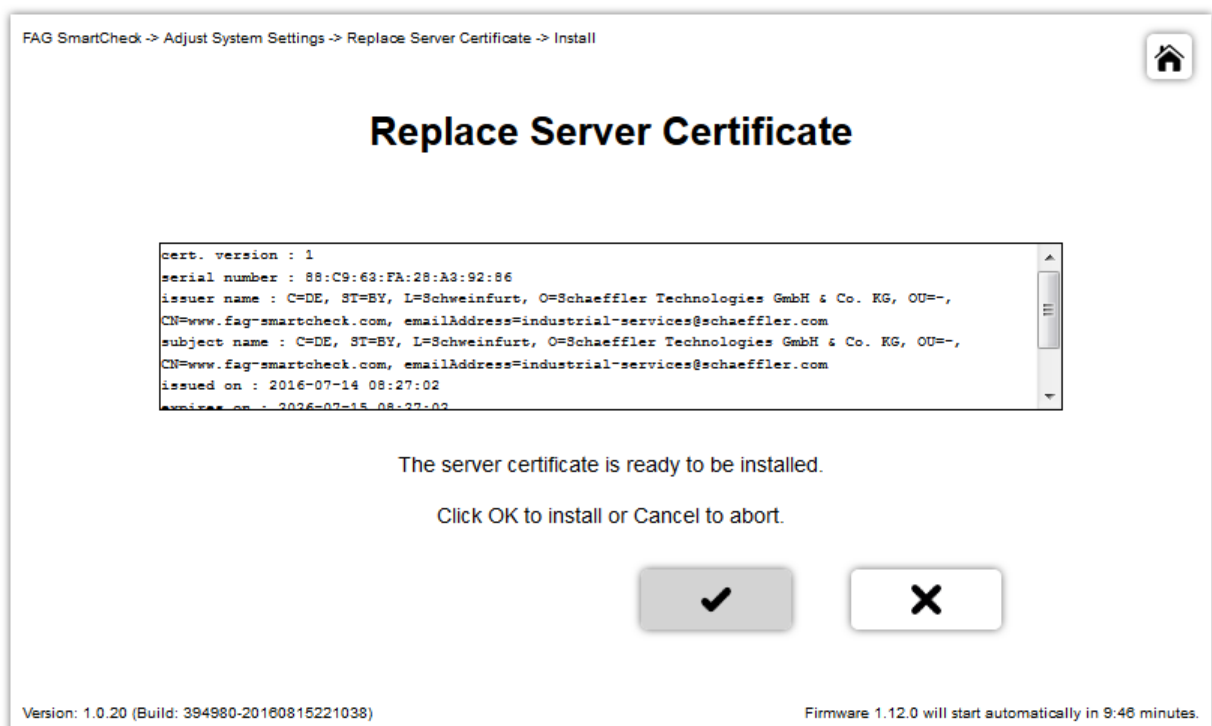
この機能を開始するには、**Replace server certificate (PEM)**  ボタンをクリックします。サーバー証明書は、クライアントに対するサーバーの認証に使用されます。個々では、SmartCheck 或いは ProLink デバイ스에保存されているサーバー証明書を独自のサーバー証明書で置き換えることができます。

##### SmartCheck 或いは ProLink デバイスのサーバー証明書を代替する方法


1. **Server certificate file**  ボタンをクリックし、サーバー証明書を含む PEM ファイルを探します。
2. PEM ファイルを開き、必要であれば **Passphrase** フィールドに PEM ファイルのパスワードを入力します。




3. **OK**  ボタンをクリックして証明書をアップロードします。システムがファイルを分析し、ファイルのインストール準備ができた時点で通知します。




選択されているファイルに有効なサーバー証明書が含まれていない場合は、その旨が通知されます。

4. **OK**  ボタンをクリックしてサーバー証明書をインストールします。


## 4.5 Download debug log files: デバッグログファイルをダウンロード

この機能を開始するには、**Download debug log files**  ボタンをクリックします。ここでは、デバッグログファイルを作成し、ダウンロードすることができます。このファイルは、ユーザーが開くことはできません。サポートに送信し、分析を依頼してください。

### ログファイルをダウンロードする方法

1. **OK**  ボタンをクリックしてアクションを開始します。
2. デバッグログファイルがダウンロードされます。進捗状況を示すバーが表示されます。
3. ブラウザシステムによって、ファイルの保存を促すメッセージが表示されます。メッセージを確定します。デバッグログの \*.SCLG ファイルがデフォルトのダウンロードフォルダに保存されます。

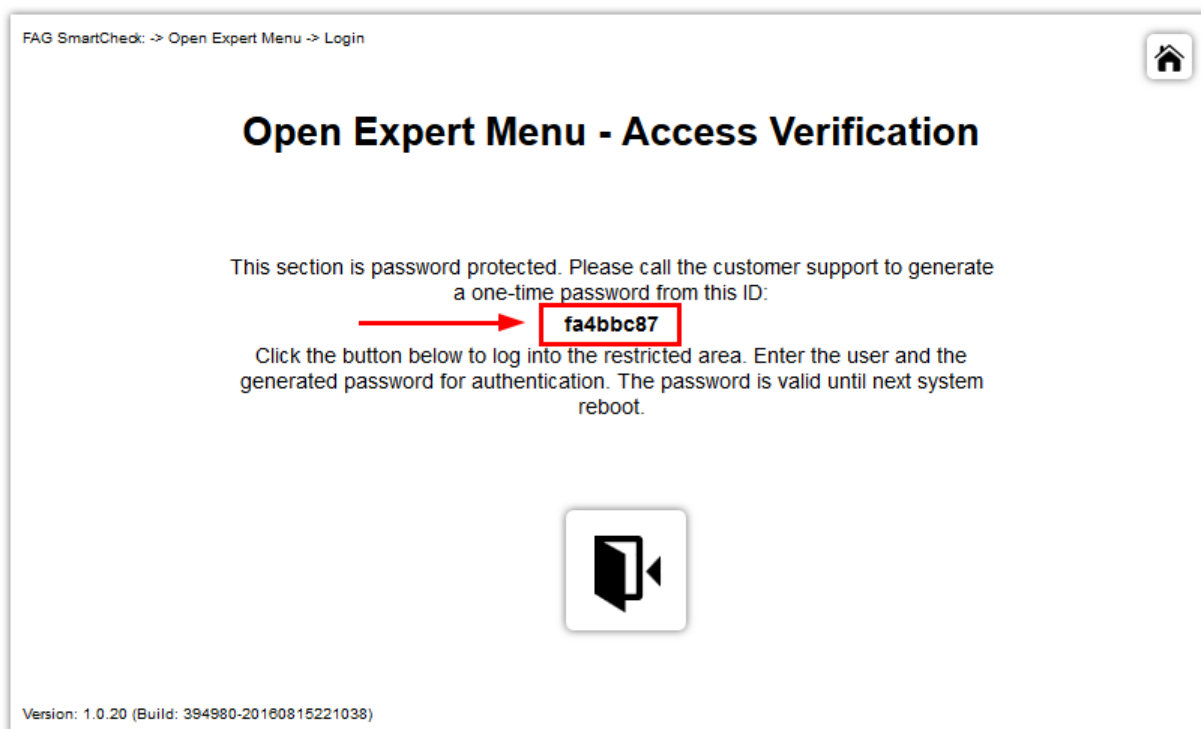
## 4.6 Open expert menu: エキスパートメニューを開く


**Open expert menu**  ボタンをクリックしてエキスパートメニューのセキュアなログインプロセスを開始します。

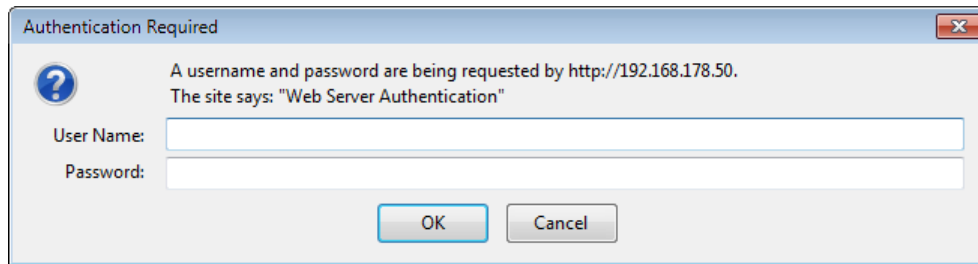
エキスパートメニューは、Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスの基本設定を変更するための機能で構成されています。基本設定はシステムにとって重要な設定であるため、エキスパートメニューは、ワンタイムパスワードを使ったセキュアなログインプロセスを通じてのみ開くことができます。次の節でセキュアなログインプロセスについての情報を紹介します。


### エキスパートメニューのセキュアなログインプロセスの仕組み

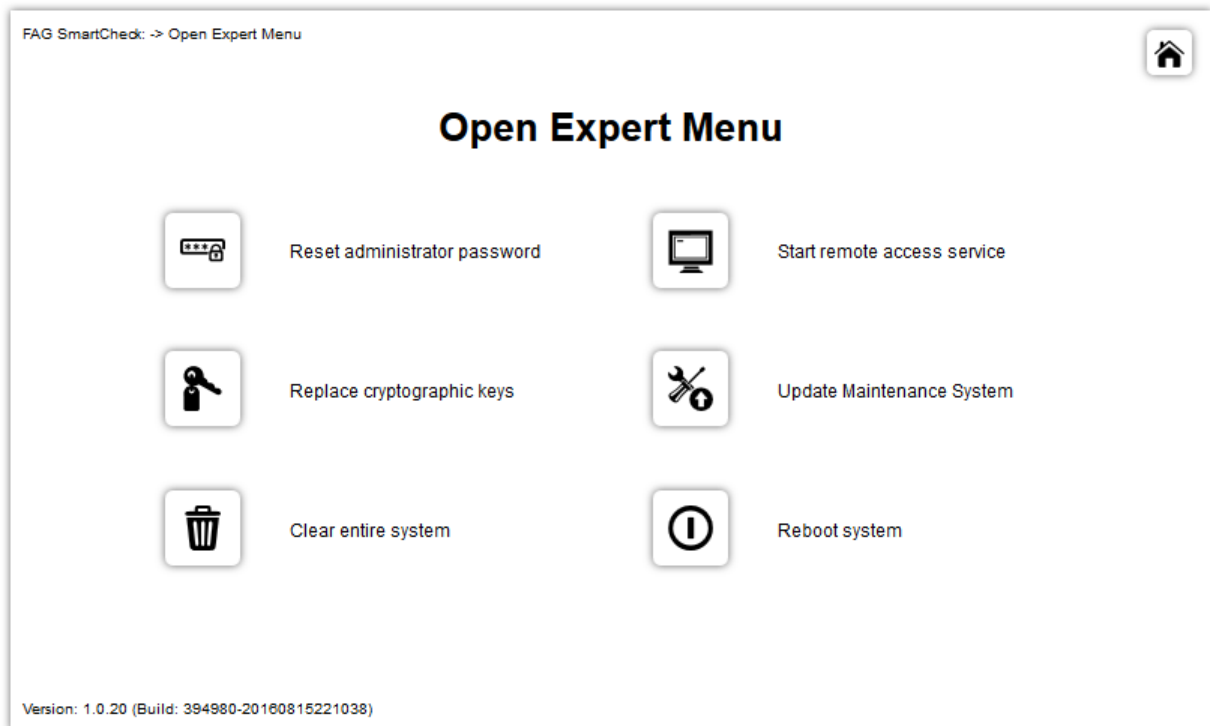
1. ログインプロセスの開始ページに ID が表示されます。この ID を電子メールまたは電話で当社のサポートに伝えます。



2. サポートが ID からワンタイムパスワードを生成し、お客様にお渡しします。
3. **Login**  ボタンをクリックして認証ページを開き、**User Name** フィールドにユーザー名、**Password** フィールドにワンタイムパスワードを入力します。




4. **OK**  ボタンをクリックします。エキスパートメニューの開始ページが表示されます。





使用したい機能のボタンをクリックします。エキスパートメニューの個々の機能については、以下の節で説明します。



- ID と ワンタイムパスワードは、メンテナンスシステムにいる間だけ有効です。SmartCheck 或いは ProLink デバイスを新たに起動した時点で、ID とパスワードは無効になります。メンテナンスシステムを再び開始すると、新しい ID が生成され、それをサポートに伝えることで新しいパスワードが入手できます。
- ログインプロセスの開始ページを開いた後、60 分間以内にサポートからワンタイムパスワードを入手する必要があります。途中で  ボタンを使ってメンテナンスシステムに移動し、またログインプロセスの開始ページに戻ると、タイマーが 60 分にリセットされます。

#### 4.6.1 Reset administrator password: 管理者パスワードをリセット


この機能を開始するには、**Reset administrator password**  ボタンをクリックします。ここで管理者パスワードを出荷時の状態にリセットすることができます。誰もがパスワードなしでログインでき、管理者権限を持つことになります。これにより、ユーザー管理はインアクティブになります。

管理者パスワードをリセットするには、**OK**  ボタンをクリックします。




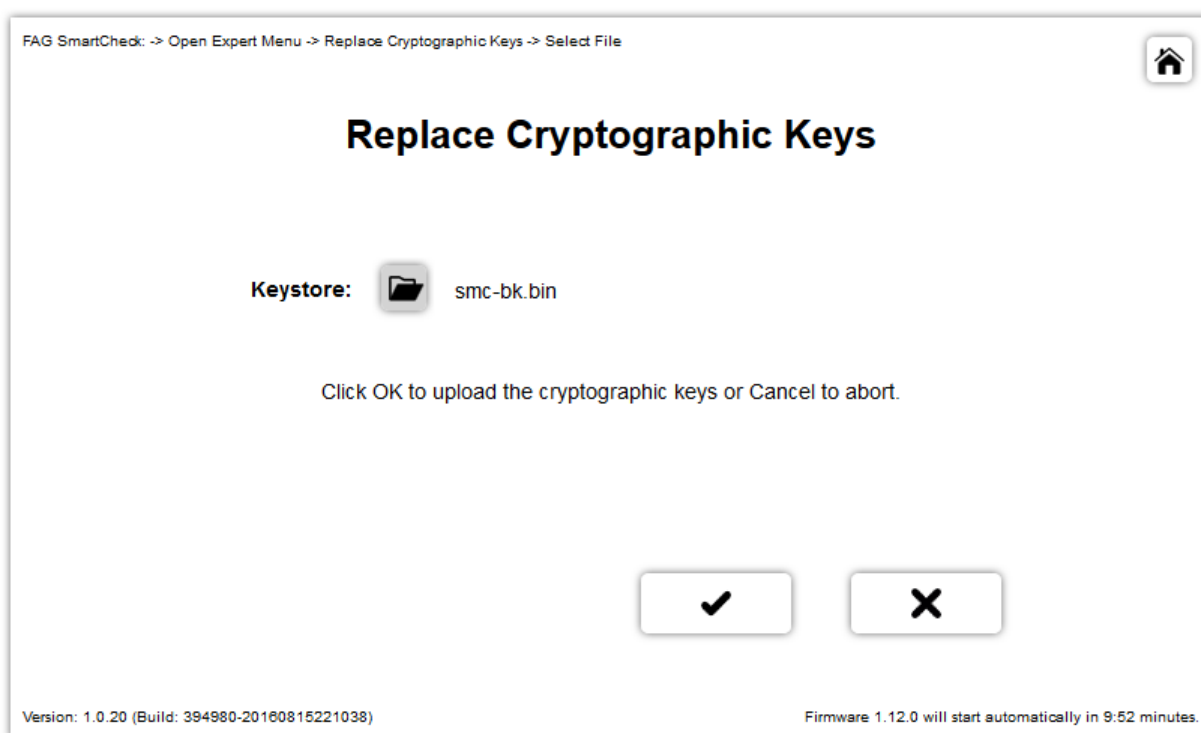
管理者パスワードを変更するには、**Change administrator password** <sup>23</sup>機能を使用します。この機能は、メンテナンスシステムのメインメニューにある **Adjust system settings** に含まれています。


#### 4.6.2 Replace cryptographic keys: 暗号化キーを代替

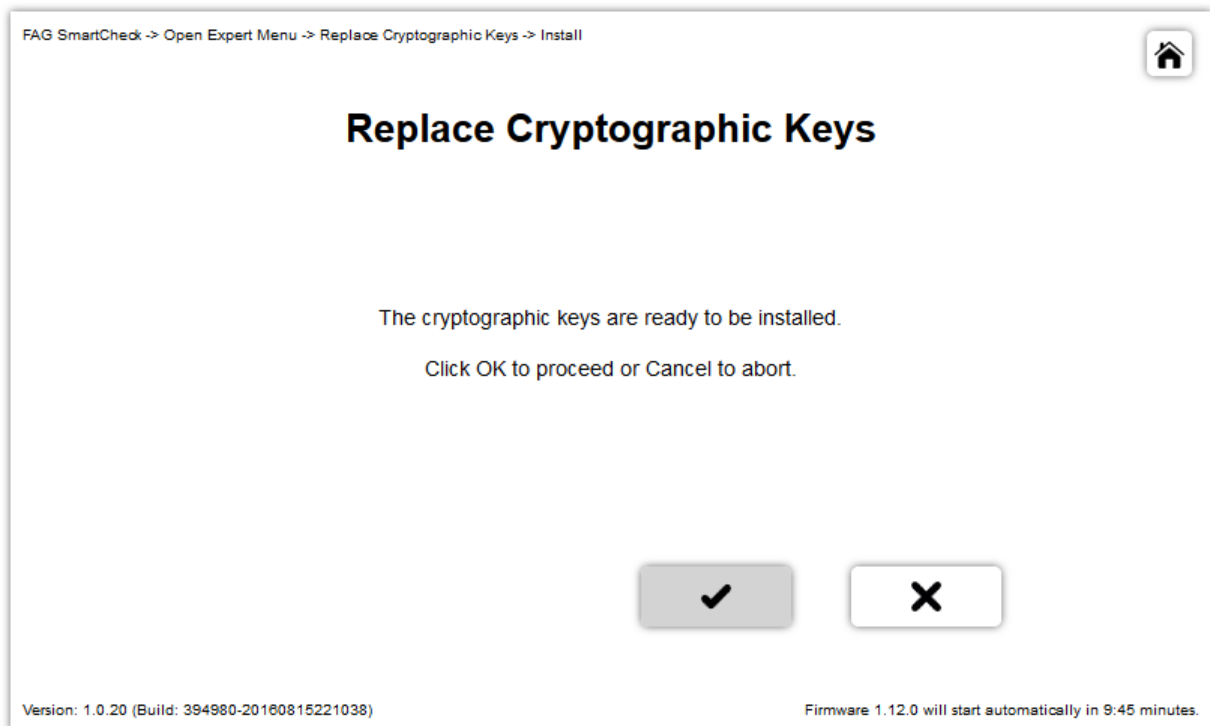
この機能を開始するには、**Replace cryptographic keys**  ボタンをクリックします。暗号化キーは、ファームウェアファイル(\*.SF2)およびバックアップファイル(\*.SCBK)の解読とバックアップファイルおよびプロトコルファイルの暗号化に使用されます。サイバー攻撃によって知られてしまった暗号化キーは、代替しなければなりません。そうすることで、システムにマルウェアがインストールされるのを防止できます。

##### 暗号化キーを代替する方法

1. **Keystore**  ボタンをクリックし、暗号化キーのファイルを探します。
2. ファイルを開きます。




3. **OK**  ボタンをクリックして暗号化キーをアップロードします。システムがファイルを分析し、ファイルのインストール準備ができた時点で通知します。




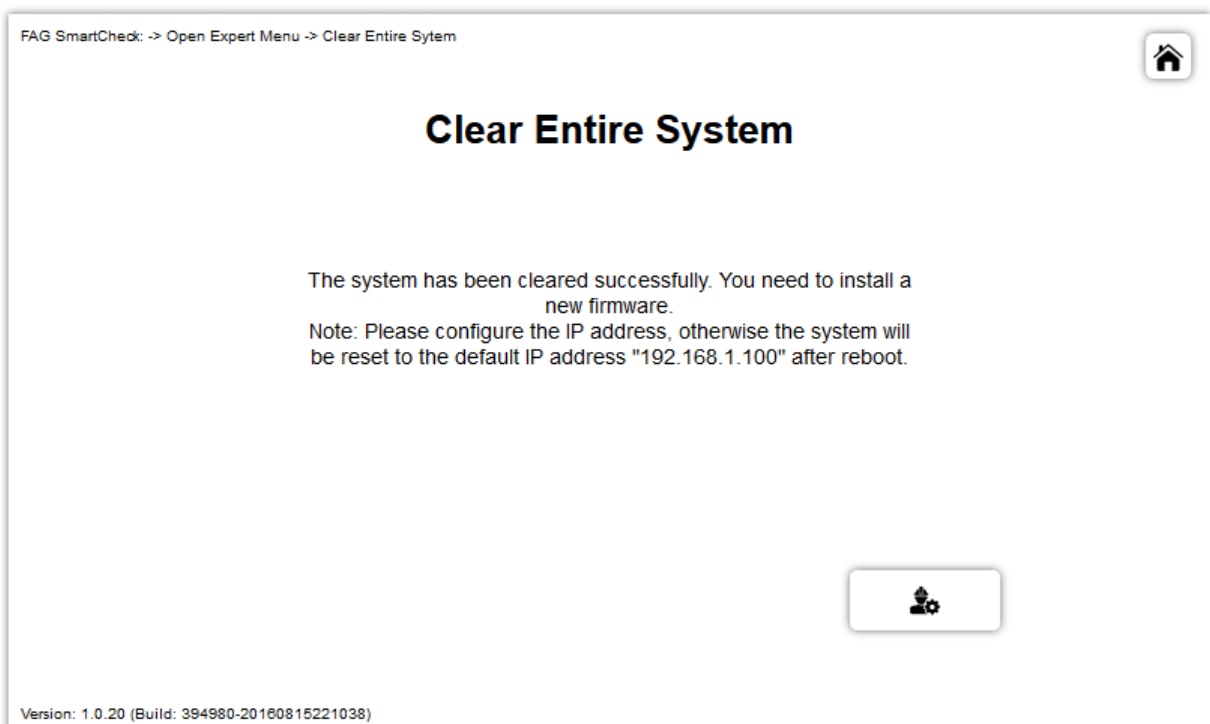
ファイルに有効な暗号化キーが含まれていない場合は、その旨が通知されます。

4. **OK**  ボタンをクリックして暗号化キーをインストールします。

#### 4.6.3 Clear entire system: システムを完全消去

この機能を開始するには、**Clear entire system**  ボタンをクリックします。ここでは、ファームウェア、コンフィギュレーション、測定データを含めたシステム全体を削除することができます。メンテナンスシステムには影響が及びません。



1. システム全体を消去するには、**OK**  をクリックします。システムが消去され、次のような注記が表示されます。




2. 新しいファームウェアをインストールする必要があります。さらに、この処理によって SmartCheck 或いは ProLink デバイスの IP アドレスがデフォルトにリセットされたため、IP アドレスを新たに構成する必要があります。




**Clear entire system** アクションを使用した後は、SmartCheck 或いは ProLink デバイス上にファームウェアが存在しなくなります。次のような方法で、デバイスを再び使用することができます。


- **Update firmware**  によって新しいファームウェアをデバイスに読み込みます。
- **Restore system**  によって、事前に作成しておいたシステム全体のバックアップファイルをデバイスに読み込みます。

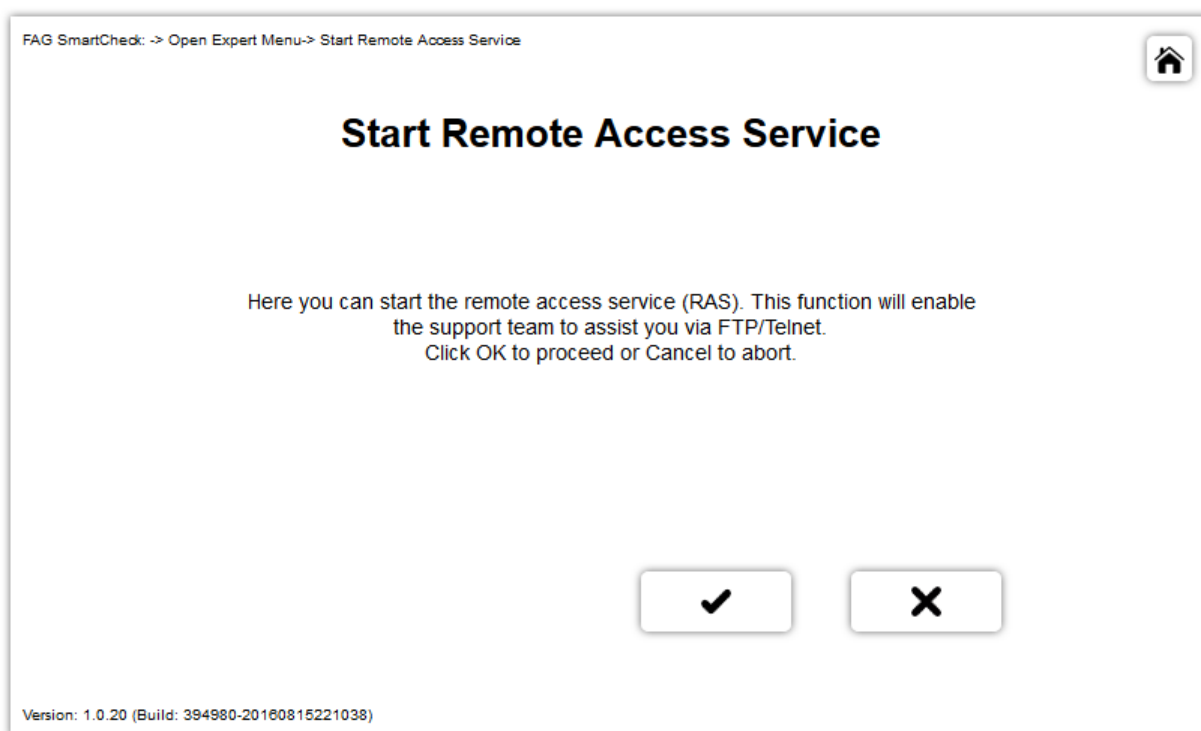
追加機能をライセンスによって有効にした場合、これらのライセンスを新たに追加  する必要があります。

#### 4.6.4 Start remote access service: RAS を通じてリモートアクセスを開始

この機能を開始するには、**Start remote access service**  ボタンをクリックします。この機能を使うと、当社のサポートが FTP/Telnet サーバーを通じてメンテナンスシステムでの操作をお手伝いすることができます。リモートアクセスサービス(RAS)は、SmartCheck 或いは ProLink デバイスを再起動した時点で終了します。

##### RAS を通じてリモートアクセスを開始する方法


1. **OK**  ボタンをクリックして RAS を通じてリモートアクセスを開始します。
2. RAS が正常に開始したことを示すメッセージが表示されます。



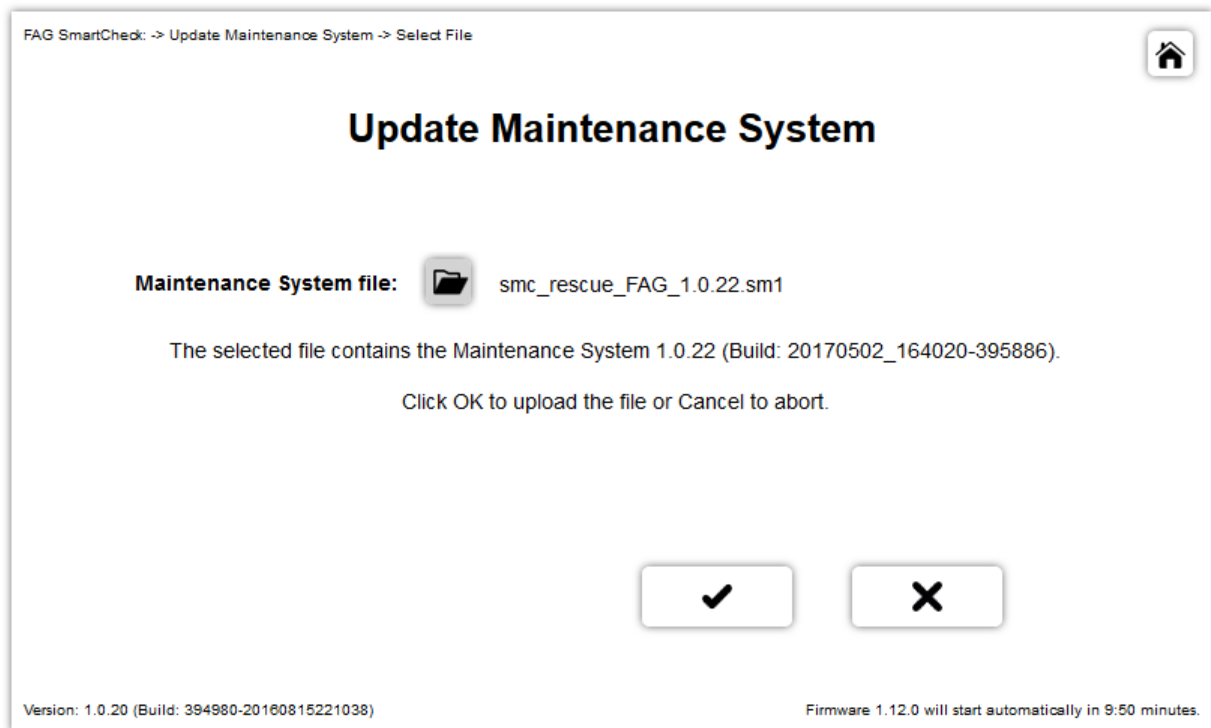
#### 4.6.5 Update Maintenance System: メンテナンスシステムをアップデート

この機能を開始するには、**Update Maintenance System**  ボタンをクリックします。ここでは、SM1 ファイルをアップロードしてメンテナンスシステムをアップデートすることができます。


##### メンテナンスシステムをアップデートする方法

1. **Maintenance system file**  ボタンをクリックし、該当するメンテナンスシステムの SM1 ファイルを探します。
2. SM1 ファイルを開きます。システムがファイルを分析し、ファイルに含まれているメンテナンスシステムのバージョンを通知します。







選択されているファイルにメンテナンスシステムが含まれていない場合は、その旨が通知されます。

3. **OK**  ボタンをクリックしてメンテナンスシステムをアップデートします。



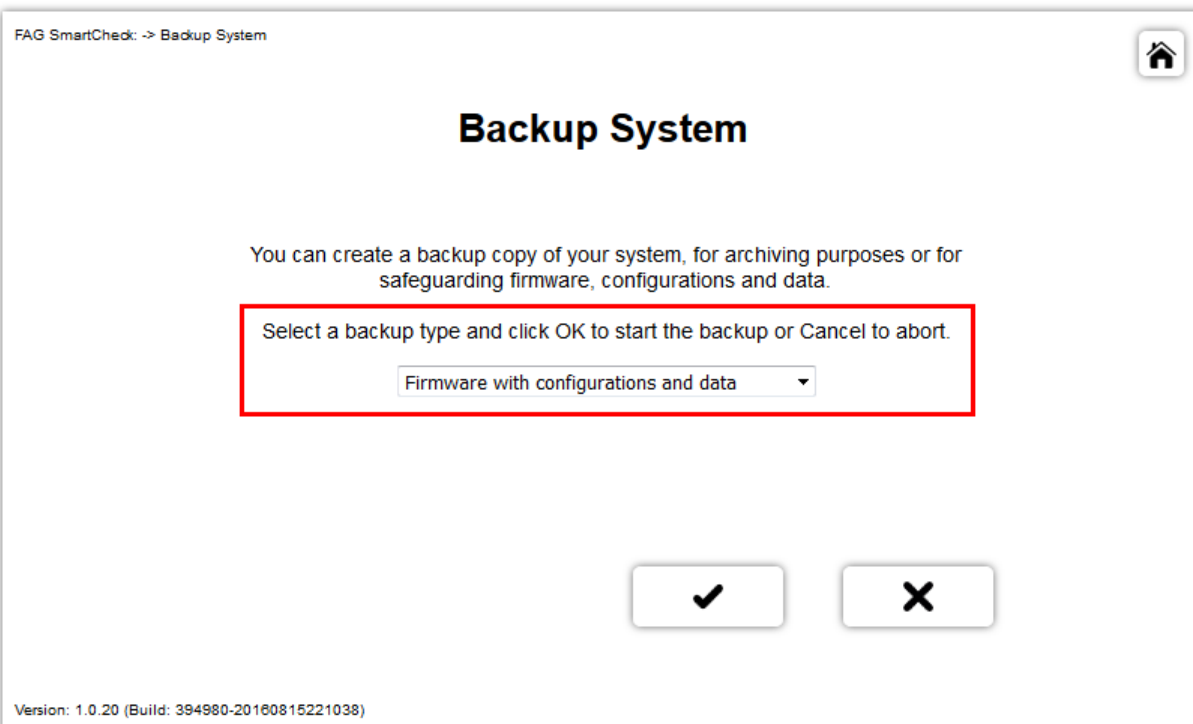
この機能を実行する際、電源供給と SmartCheck 或いは ProLink デバイスへの接続が中断されないよう注意してください。アップデートの途中で問題が生じた場合、デバイスをサポートに送る必要があります。

## 4.7 Backup system: システムのバックアップ

この機能を開始するには、**Backup system**  ボタンをクリックします。ここでは、システムのバックアップファイルを作成し、ファームウェアやコンフィギュレーション、データをバックアップすることができます。**Restore system**  機能を使って、システムの復元のためにバックアップファイルを選択して読み込んだり、例えば複数の SmartCheck 或いは ProLink デバイスにコンフィギュレーションをインストールしたいときにデバイスを複製したりできます。

### システムをバックアップする方法

1. リストボックスから必要なバックアップのタイプを選択します。




次のオプションがあります：

**Firmware with configurations (without data)**

このオプションは、システムのファームウェアとコンフィギュレーションをバックアップします。測定データはバックアップされません。

**Firmware with configurations and data**


このオプションは、システムのファームウェア、コンフィギュレーション、測定データをバックアップします。

2. **OK**  ボタンをクリックして、選択したバックアップのタイプを確定し、アクションを開始します。
3. バックアップファイルがダウンロードされます。進捗状況を示すバーが表示されます。
4. ブラウザシステムによって、ファイルの保存を促すメッセージが表示されます。メッセージを確定します。バックアップを含む \*.SCBK ファイルがデフォルトのダウンロードフォルダに保存されます。




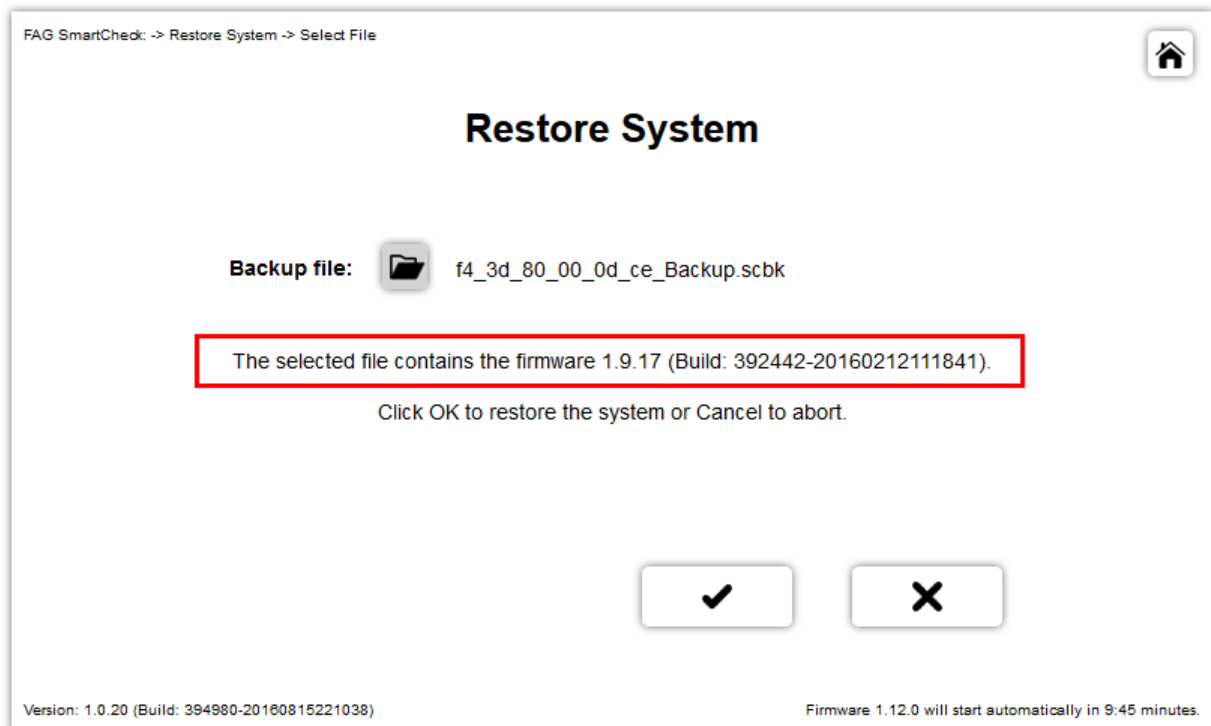
データの量によっては、**Firmware with configurations and data** オプションを使用したときのファイルが非常に大きくなり、ダウンロードに時間がかかることがあります。ダウンロード中は、タイマー機能が繰り返し 10 分にリセットされ、タイムアウトになることはありません。

## 4.8 Restore system: システムの復元


この機能を開始するには、**Restore system**  ボタンをクリックします。ここでは、事前に作成したバックアップファイル<sup>33)</sup>を選択し、システムを復元することができます。バックアップファイルには、ファームウェアとコンフィギュレーションのみを含むものと、ファームウェア、コンフィギュレーション、データで構成されたシステム全体を含むものがあります。バックアップファイルは、これまでのデバイスに代えて新しい SmartCheck 或いは ProLink デバイスを使用するときなどに読み込むことができます。また、バックアップファイルを使えば、複数のデバイスにシステムをコピーすることができます。

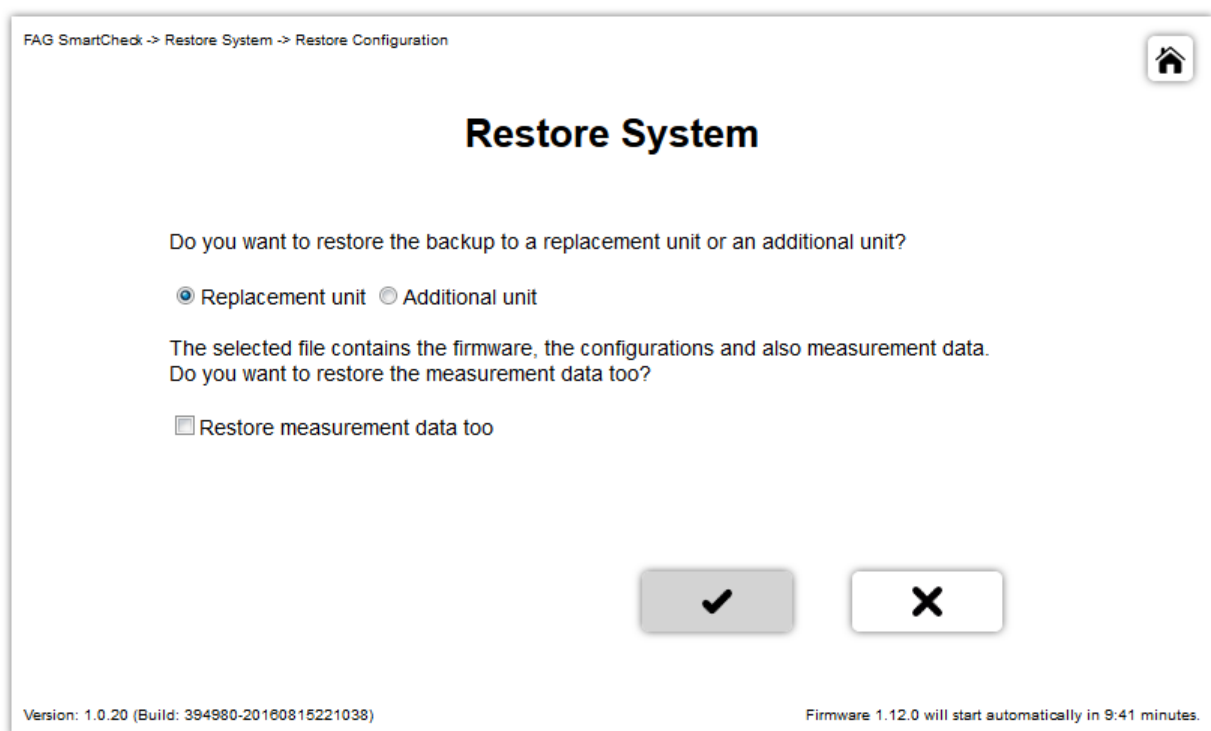
### システムを復旧する方法

1. **Select file**  ボタンをクリックし、システムの SCBK ファイルを探します。
2. SCBK ファイルを開きます。システムがファイルを分析し、ファイルにどのファームウェアが含まれているかを通知します。



選択されているファイルが有効なバックアップファイルでない場合は、その旨が通知されます。

3. **OK**  ボタンをクリックします。その後、システム復旧に関して詳しい設定を行います。



次のオプションがあります：

#### Replacement unit

バックアップファイルを使って代替ユニットにシステムをインストールする場合は、このオプションをアクティブにします。選択されているバックアップファイルに測定データが含まれている場合は、**Restore measurement data too** オプションも表示されます（下記を参照）。

#### Additional unit


バックアップファイルを使ってファームウェアとコンフィギュレーションを他の SmartCheck 或いは ProLink デバイスにコピーする場合は、このオプションをアクティブにします。

#### Restore measurement data too

このオプションは、

- 選択されているバックアップファイルにファームウェアとコンフィギュレーションだけでなく測定データも含まれていて、
- **Replacement unit** オプションをアクティブにした場合に表示されます。



バックアップファイルの測定データも復元する場合は、このオプションをアクティブにします。デフォルトでは、このオプションはインアクティブになっていて、システムは測定データなしで復元されます。


4. **OK**  ボタンをクリックして選択内容を確認し、システムの復元を開始します。



- **Restore System** 機能を途中で中断した場合、SmartCheck 或いは ProLink デバイス上にファームウェアがない状態になります。SmartCheck 或いは ProLink デバイスを起動すると、メンテナンスシステムが開きます。そこで新しいファームウェアをデバイスにインストールする必要があります。それには、**Update firmware** または **Restore system** 機能を使用します。
- バックアップファイルを作成する際、すべての内容がコピーされるわけではありません。例えば、ネットワークアドレスなどはバックアップファイルに含まれません。**Restore system** 機能でバックアップファイルを新しいデバイスに読み込んでも、新しいデバイスのネットワークアドレスは変更されません。

## 4.9 Reboot system: システムの再起動


この機能を開始するには、**Reboot system**  ボタンをクリックします。この機能では、システムをシャットダウンし、再起動することができます。この機能を使うことで、メンテナンスシステムのタイマー機能  で規定されている自動再起動までの時間を短縮することができます。

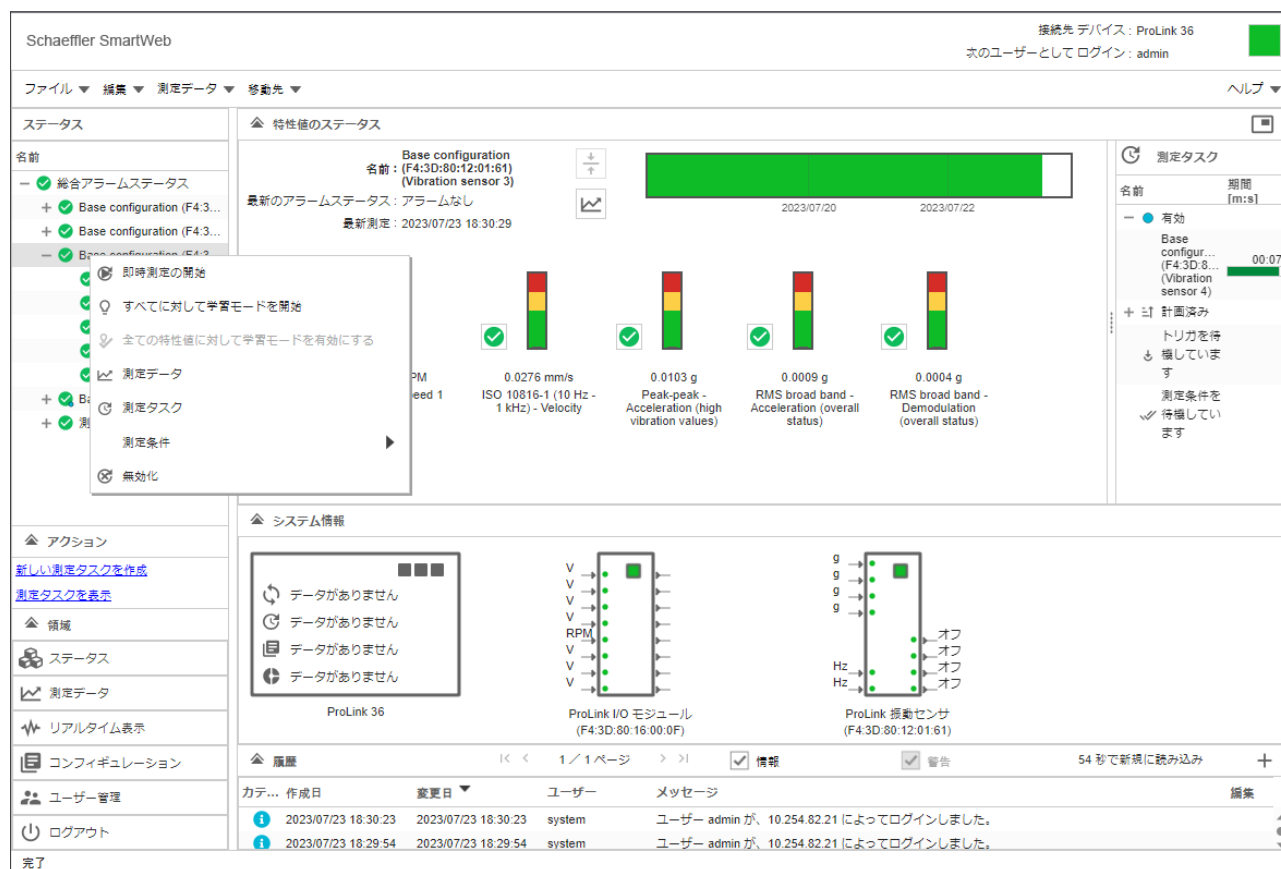
再起動を確認するには、**OK**  をクリックします。



この機能は、メンテナンスシステムの開始ページとエキスパートメニューにあります。

## 5 ステータス










ステータス  ボタンをクリックすると、該当する領域が開きます。ここでは、SmartCheck 或いは ProLink デバイスの状態の概要を確認することができます。



ここには、次の情報があります。


### ステータスとコンテキストメニュー


測定タスクと、対応する特性値が表示されます。アラーム記号でステータスが一目でわかります。

- 問題のない測定タスク 
- プリアラームが発生した測定タスク 
- メインアラームが発生した測定タスク 
- 問題のない特性値 
- プリアラームが発生した特性値 
- メインアラームが発生した特性値 
- 測定値のない特性値 
- センサエラー 
- 有効な測定タスク 、青色の点でマークされています。

領域のメインパネルで特性値のステータスを表示するには、表示したい特性値をクリックしてください。

このリストの各項目を右クリックすると、コンテキストメニューが開き、以下のコマンドが表示されます。

- 測定タスクの無効化**  
個々の測定タスクに対して: このオプションを選択して、測定タスクがもはや測定に予定されないか、または測定トリガーによって開始されないようにします。無効化された測定タスク  はリストの最後にあります。
- 測定タスクの有効化**  
個々の測定タスクに対して: このオプションを選択して、無効化された測定タスクを再び有効にします。測定タスクは再び測定に予定されるか、または測定トリガーによって開始されます。
- 即時測定の開始**  
個々の測定タスクに対して: この測定タスクの即時測定をここで開始します。測定は直ちに開始され、右側の 測定タ

ク<sup>39</sup>の下にアクティブな測定タスク  として表示されます。デバイス ProLink では、すでに実行中の測定は並行して続行されます。デバイス SmartCheck では、即時測定のために実行中の測定が中断されます。



即時測定の開始オプションを使用すると、無効化された測定タスクも測定できます。たとえば、確認するために使用できます。即時測定の後、測定タスクは引き続き無効のままです。

- **アラームをリセット**

個々の特性値に対して、アラームを手動でオフにすることができます。測定値がアラームしきい値を下回っても、この測定タスクのアラームがすぐに自動的にリセットされない場合、このオプションが必要です。

- **すべてのアラームをリセット**

個々の測定タスクに対して、下位の項目すべてのアラームを手動でオフにすることができます。



アラームを手動で、例えばこのコンテキストメニューを使ってリセットできるのは、測定タスクの作成・編集時にアラームを設定<sup>76</sup>のステップにおいて、アラームをリセットの下の手動オプションをアクティブにした場合に限られます。

- **アラーム設定<sup>46</sup>**

個々の特性値に対し、アラーム設定を表示・編集するためのダイアログを開くことができます。

- **タイムカウンタを編集**

測定条件用:ここでタイムカウンタの値を編集します。タイムカウンタとその仕組みについては、こちら<sup>48</sup>で詳しく説明されています。

- **学習モードを開始**

個々の特性値に対し、学習モードを再び開始することができます。学習モードとその仕組みについては、こちら<sup>84</sup>で詳しく説明されています。

- **すべてに対して学習モードを開始**

個々の測定タスクに対し、学習モードが許可されている下位の項目すべてで、学習モードを開始します。学習モードとその仕組みについては、こちら<sup>84</sup>で詳しく説明されています。

- **すべてに対して学習モードを有効化**

デバイス全体用、個々の測定タスクまたは特性値用: このオプションを有効にすると、すべての下位エレメントに対して学習モードをオンにすることができます。学習モードとその仕組みについては、こちら<sup>84</sup>で詳しく説明されています。

- **リアルタイム表示**

個々の特性値に対し、リアルタイム表示<sup>51</sup>領域に移動します。この特性値の計算に使用されている信号をリアルタイムで参照できます。

- **測定データ**

測定データ<sup>42</sup>領域に移動します。測定タスクまたは特性値のトレンドおよび時間信号を表示し、初期分析を行うことができます。

- **測定タスク**

こちらで 測定タスク<sup>71</sup>のセクションに移動してください。そこで、すべての測定タスクの概要を確認し、これらを閲覧および編集することができます。

- **測定条件**

こちらで該当デバイスの 機械が作動<sup>101</sup> 測定条件に切り替えてください。そこで、測定条件をお使いの機械の要件に合わせて調整できます。

利用可能なコマンドは、選択した項目が位置するツリー構造のレベル、その動作に対するユーザー権限の有無によって異なります。

## アクション

この領域には、新しい測定タスクを作成<sup>73</sup>と測定タスクを表示<sup>71</sup>のメニュー項目があります。新しい測定タスクを作成し、対応するウィザードから測定タスクの詳細を見ることができます。

いずれかのメニュー項目を選択すると、自動的にコンフィギュレーション領域に移動します。

さらに、SmartCheck デバイスでは、ここに測定条件「機械が作動」を編集<sup>101</sup>というメニュー項目もあります。この測定条件はデバイスの納入時にすでに設定されており、機械の要件に応じて変更する必要があります。

## 特性値のステータス

選択した測定タスク／選択した特性値について、名前、アラームステータス、前回の測定時刻、測定タスク／特性値の動きを示す図がまとめて表示されます。特性値のステータスタイトルバーのボタンか図の前の 2 つのボタンで、重要な機能に直接アクセスできます。



システム全体のステータスを表示するには、このボタンをクリックします。



アラーム設定編集用のダイアログを開くには、このボタンをクリックします。



測定データを表示し、トレンドと時間信号の初期分析を実施するには、このボタンをクリックします。



- デバイスアラームステータス が選択されている場合:  
このボタンをクリックすると、この測定タスクの**特性値ステータス**表示に切り替わります。  
ボタン上の青い点 ● は、測定タスクが現在アクティブであること、つまり現在測定中であることを示します。
- 測定タスクを選択した場合:  
このボタンをクリックすると、その特性値の**特性値ステータス**表示に切り替わります。

もう1つの図は、測定タスクの特性値の動作と、プリアラームとメインアラームが発生したときの個々の特性値の動作を示しています。



グレーの柱は、特性値の現在値を示します。柱の位置には、次のような意味があります。

- 緑色の範囲: 測定値は正常です。
- 黄色の範囲: 測定値は、プリアラームのしきい値を超えています。
- 赤色の範囲: 測定値はメインアラームのしきい値を超えています。

測定値がメインアラームの限界を大きく超えている場合、バーの上に小さな黒い三角形が表示されます。



測定値が、下側のプリアラームしきい値である**信号の最小値**を下回った場合は、バーの下に小さな黒い三角形が表示されます。その場合、この特性値にプリアラームが発生します。



異なる方向へのトルクなどの対称な信号の場合、負の値も可能です。その場合、緑色のエリアの下に、下位プリアラームを示す黄色の領域と下位メインアラームを示す赤色の領域が表示されます。



測定がまだ行われていない場合は、バーが白色で表示されます。



この特性値の詳細を表示するには、柱の隣のアラームアイコンをクリックします。

## 測定タスク

ここには、現在デバイスによってどの測定タスクが測定されているか、どの測定タスクがキューに入っているかに関する情報が表示されます。測定タスクごとに、測定タスクの**名前**が表示されます。測定タスクが一度測定されるとすぐに、分と秒単位の時間が**期間 [m:s]**の下に表示されます。

測定タスクは次のエリアに分かれています。

### ● アクティブ

このエリアには、現在アクティブな測定タスク、つまりデバイスによって現在測定されている測定タスクが表示されます。

### ≡ 計画済み

このエリアには、計画済みの測定タスクがあります。



### トリガを待機しています

このエリアには、トリガを待機している測定タスクがあります。  
トリガが発生するとすぐに、これらの測定タスクがアクティブになります。



### 測定条件を待機しています

このエリアには、測定条件を待機している測定タスクがあります。  
測定条件が発生すると、これらの測定タスクはすぐに**計画済み**エリアに切り替わります。

エリアを展開または折りたたむには、+ または - をクリックします。

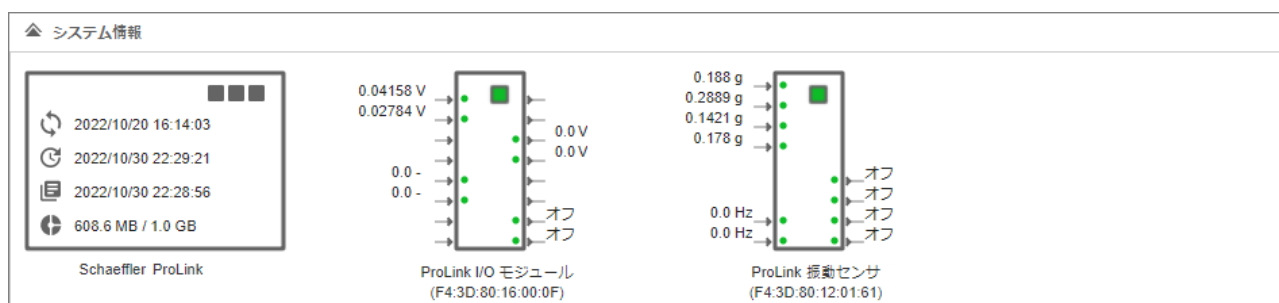


アクティブな測定タスクは、ツリーの左側の **ステータス** および **特性値ステータス** の下に青色の点 ● でマークされます。

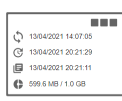
## システム情報

システムの起動時刻、構成が最後に変更された時刻、測定が最後に実行された時刻など、システムに関する一般的な情報が表示されます。また、個々の入力の現在値もここに表示されます。

Schaeffler ProLink デバイスでは、プロセスモジュールとすべての接続モジュールに関する情報が図で表示されます：



これらの図により、以下の情報と機能にアクセスできます。



左の図は、ProLink デバイスのプロセスモジュールに関する情報と機能を示しています：

- ここには、デバイスの起動時間、最後の測定の日時、前回のコンフィギュレーションの変更、既存および残りのディスク領域が表示されます。
- 図にマウスを合わせると、デバイス温度および稼働時間に関する追加情報が表示されます。
- この図をクリックすると、デバイスのコンフィギュレーション<sup>54)</sup>の概要が表示されます。そこで、お客様の ProLink デバイスの基本的な設定を行い、測定タスクを指定できます。



プロセスモジュールの右側の図は、プロセスモジュールに接続されているモジュールに関する情報を提供します。

- モジュールは左から右へアルファベットの昇順で表示されます。その際、モジュール名 - 例えば ProLink I/O モジュールまたは ProLink 振動モジュール - とシリアル番号の組み合わせで順番が決まります。これをモジュール取付時に考慮する必要があります。並び順を変更し、物理的なシステム構成を表示するには、モジュール名を編集<sup>56)</sup>します。
- 振動モジュールごとに、4 つのアナログ入力と 2 つのデジタル入力および 4 つのデジタルスイッチング出力の現在の値を確認できます。
- ここでは I/O モジュールごとに、8 つの入力または出力の現在の値を確認できます。
- 図にマウスを合わせると、ファームウェアバージョン、ハードウェアバージョン、デバイス温度および稼働時間に関する追加情報が表示されます。
- この図をクリックすると、モジュールコンフィギュレーション<sup>55)</sup>が表示されます。そこで、関連するモジュールの詳細を表示し、その名前を編集できます。
- **ステータスおよびモジュール識別**：アイコンの色はデバイスのステータスを示します。  
緑色：デバイスが接続されています。  
灰色：デバイスは接続されていません。  
緑色／灰色の点滅：デバイスの識別をしています。  
アイコンをクリックすることにより、該当する物理モジュールを識別できます。関連する物理モジュールの LED が交互に点滅します。もう一度クリックすると、識別モードが終了します。

特性値、測定トリガ、測定条件を計算するには、RMS 値(実効値)を指定された数の測定値から計算します。積算を行うことにより、測定値が 0 よりも小さい場合でも、常に正の値となります。

**測定トリガの例**：測定範囲が -3000 ~ +3000 RPM で、しきい値を昇順の 1500 RPM に設定した場合、+1500 RPM を上回ったときと -1500 RPM を下回ったときに測定が引き起こされます。

**測定条件の例**：測定範囲が -3000 ~ +3000 RPM で、下側しきい値を 1500 RPM、上側しきい値を 2000 RPM に設定した場合、+1500 ~ +2000 RPM と -1500 ~ -2000 RPM で条件が満たされます。

## 履歴

システムまたはシステムのユーザーによって作成されたすべてのメッセージと、システムの作成/変更日、メッセージのレベルが表示されます。次のオプションがあります：


- **メッセージをめくる**  
メッセージが複数のページに記録されている場合、履歴のナビゲーション項目 **<< <** と **> >>** を使ってページを前後にめくったり、履歴の最初または最後にジャンプしたりできます。
- **警告のみを表示**  
デフォルトでは、SmartWeb ソフトウェアは履歴のすべてのエントリ(エラー、警告、情報)を表示します。表示項目をエラーと警告のみに限定するには、**情報の**チェックボックスをオフにします。警告もオフにすると、エラーだけが表示されます。






- **メッセージを追加**

をクリックし、新しいメッセージを作成します。詳細は、履歴でのメッセージの作成／編集「41」の節を参照してください。

- **メッセージを編集**


ユーザーが作成したメッセージは、編集が可能です。それには、編集列のをクリックします。ウィンドウが開いたら、メッセージを変更します。**OK**をクリックして変更を確定します。

システムによって自動的に作成されるメッセージのカテゴリーは、以下のとおりです。

-  **情報**は、システム内でのイベントを表します。例えばユーザーのログイン、コンフィギュレーションの変更などが該当します。
-  **警告**は、例えば機械が測定タスクで指定されている最大回転数を上回ったなどの問題を示します。
-  **エラー**は、システムにとって重大な問題を示します。エラーが発生した場合は、サポートまでご連絡ください。

## 5.1 履歴でのメッセージの作成/編集


### 履歴でメッセージを作成する方法

1. をクリックしてメッセージを追加ウィンドウを開きます。




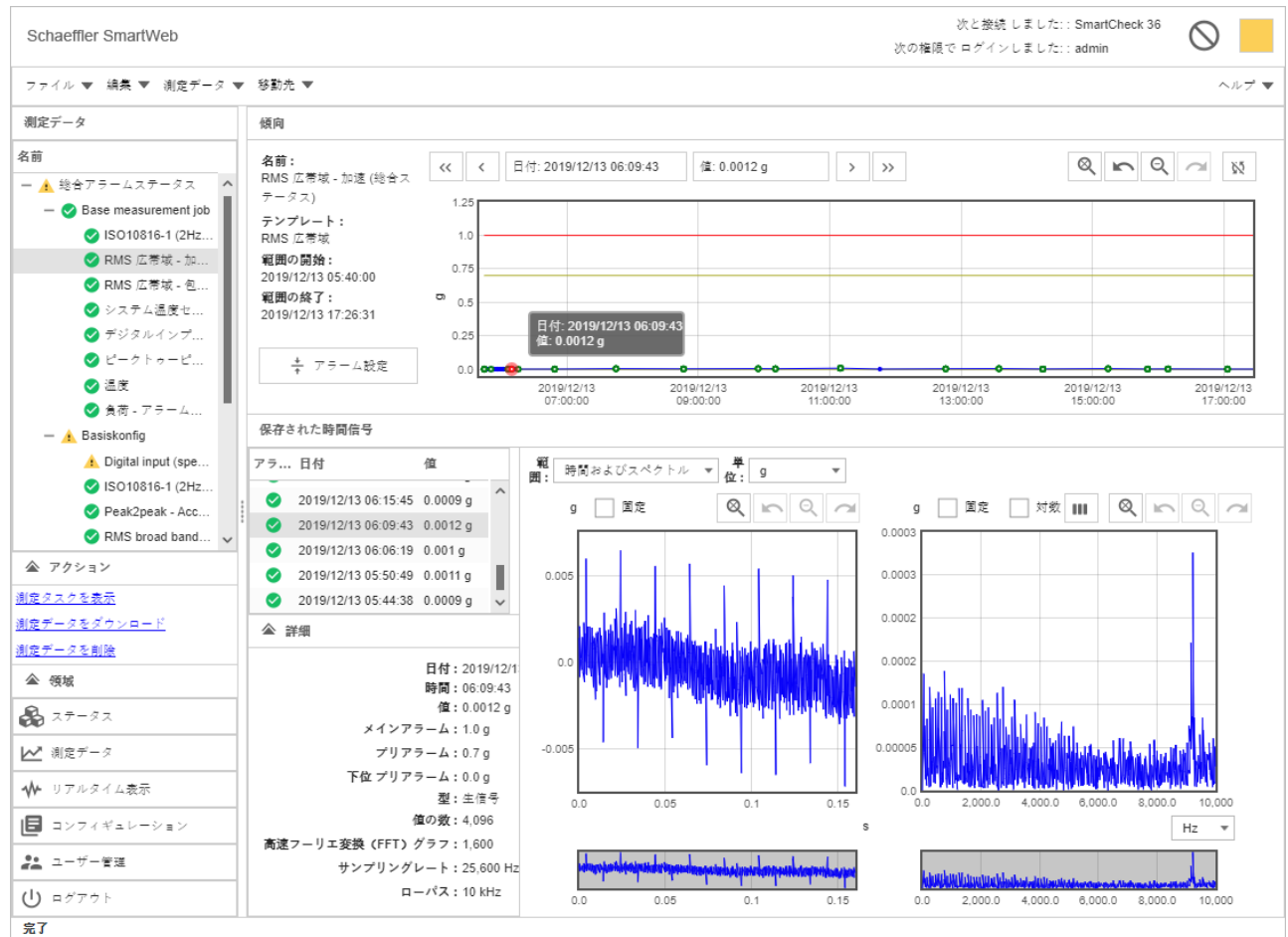
2. メッセージのカテゴリーを選択します。
3. メッセージフィールドにメッセージの文を入力します。
4. **OK**をクリックしてメッセージを保存し、履歴に記録します。

### 履歴のメッセージを編集する方法

1. 任意のメッセージの行で編集をクリックします。
2. カテゴリーとメッセージに必要な変更を加えます。
3. **OK**をクリックして変更を適用します。

## 6 測定データ

測定データ  ボタンをクリックすると、該当する領域が開きます。ここでは、特性値のトレンドと時間信号、測定トリガおよび測定条件のトレンドを表示し、初期分析を行うことができます。左側には、測定トリガおよび測定条件ならびに測定タスクとその特性値が表示されます。特性値を選択すると、関連するトレンドと保存された時間信号がメインパネルに表示されます。保存された時間信号を選択すると、対応する曲線が表示されます。

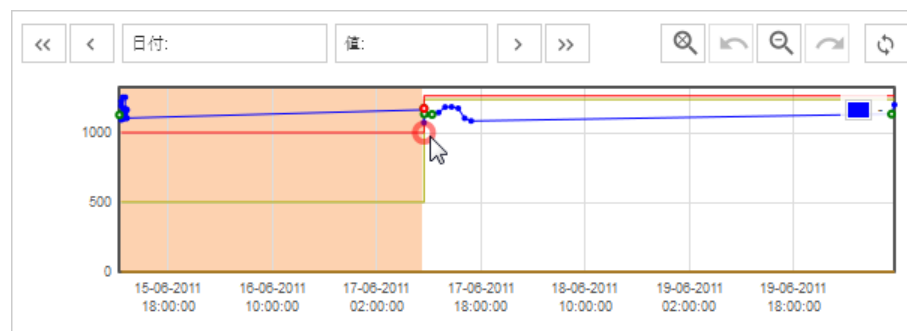


特性値と保存された時間信号を選択すると、以下の情報と機能が表示されます。

### トレンド

トレンドには、選択した特性値のトレンド値がグラフ形式で表示されます。左側の名前、テンプレート、領域の下には、特性値と保存期間の詳細な指定が表示されます。

グラフには、トレンド(青)と保存された時間信号に加えて、プリアラーム限界(黄)とメインアラーム限界(赤)を示す線が引かれています。



グラフの見方：

#### 色による強調表示

色による強調表示で、アラームの状態が一目でわかります。

- 白：アラームなし
- 黄色：プリアラーム

## 青線

- 赤:アラーム

背景がグレーの場合は、特性値エラーが発生していることを示します。

青線はトレンドを表します。

## 赤線

赤線はメインアラーム限界を表します。以下のとき、線が変わります。

- 限界値を変更したとき
- システムが学習モード「84」を通じて新しいアラームしきい値を学習したとき
- アラーム特性マップ「86」で新しい状態範囲に達したとき

## 黄線

黄線はブレアラーム限界を表します。以下のとき、線が変わります。

- 限界値を変更したとき
- システムが学習モード「84」を通じて新しいアラームしきい値を学習したとき
- アラーム特性マップ「86」で新しい状態範囲に達したとき



グラフ上の特定の位置にカーソルを置くと、マークが表示され、日付と値の各フィールドで値を読み取ることができます。場所は以下のとおりです。

- トレンドの始点とアラームしきい値の始点
- トレンドの終点とアラームしきい値の終点
- アラームしきい値の変化点
- トレンドのすべての測定点（青および緑の記号）



トレンドを表す青い線上には、以下の記号が表示されます。

- 青:トレンド値
- 緑色で中心が白:時間信号が保存されたトレンド値。アイコンをクリックすると、時間信号が表示されます。
- 赤で中心が白:現在表示されている時間信号

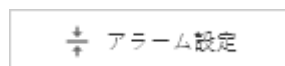
## その他のオプション



このボタンは、更新モードをオンまたはオフにします。

更新モードがオンの場合、トレンドは 60 秒おきに新たに読み込まれ、トレンドウィンドウに自動的に新しい測定値が表示されます。

トレンドウィンドウで、最後に測定された値が表示されなくなったトレンド範囲を選択すると、更新モードが自動的にオフになります。



このボタンをクリックすると、ダイアログが開き、該当する特性値のアラーム設定を確認・編集「46」することができます。



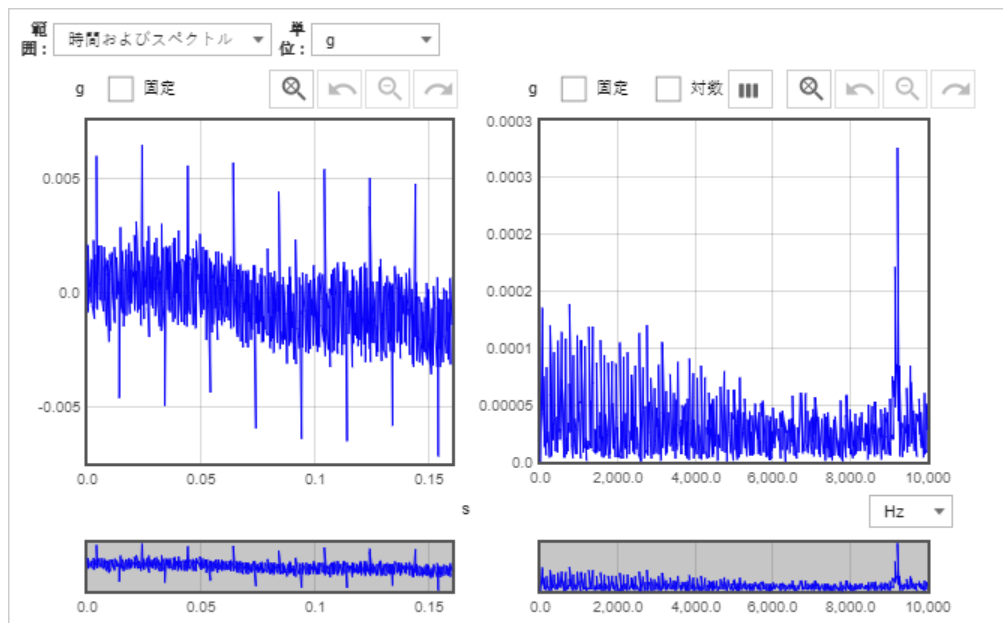
- 測定トリガと測定条件のトレンド表示により、トリガまたは条件として定義した値がいつ発生したかを点検することができます。
- 時間信号の数が非常に多い時間枠を選択した場合、すべての時間信号が表示されない可能性があります。この場合、一部のシグナルのみが表示されますが、領域を拡大すると「隠されていた」時間信号も表示されます。
- 学習モードとアラーム特性マップについては、学習モードとアラーム特性マップ「84」の節で詳しく説明されています。

## 保存された時間信号

ここでは、左側に現在表示されているトレンド部分の保存されている時間信号のリストが表示され、それぞれのアラームステータス、日付、値の情報が表示されます。

- リストの時間信号をクリックすると、詳細をリストの下および右側のグラフで確認できます。
- 時間信号を 1 つ選択すると、矢印キーを使ってリストの上下に移動できるようになります。
- リストを並べ替えるには、列名をクリックします。
- 下記のように、保存されている時間信号をズームした場合、リストから別の時間信号を選択しても、ズーム範囲はそのままになります。

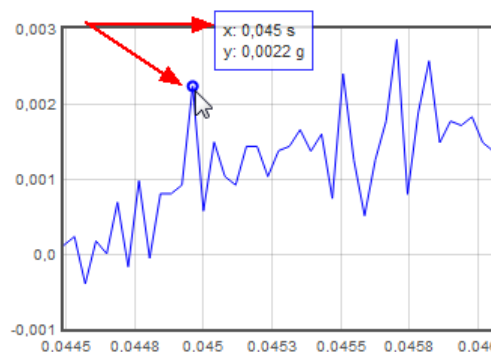
右側のグラフ表示には、デフォルトで時間信号およびスペクトルとして保存されている時間信号の概要が表示されます。ここでは、初期分析を実行することもできます。



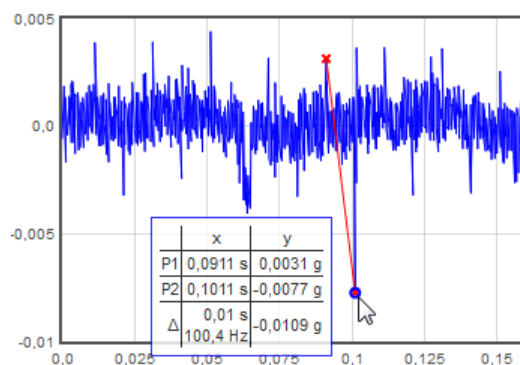
次のようなオプションがあります。

- モードを選択してください:

- 時間: 信号は時間信号として表示されます。
- 軌道: 信号は軌道ダイアグラムとして表示されます。時間信号はズーム範囲で選択された回転で平均化され表示されます。回転周波数からのずれがある信号はフィルタリングされます。このダイアグラムにより、回転速度と同期した効果が見えやすくなります。
- スペクトル: 信号はスペクトルとして表示されます。
- 時間とスペクトル: 信号は時間信号とスペクトルとして2つのグラフで表示されます。
- 軌道とスペクトル: 信号は軌道とスペクトルとして2つのグラフで表示されます。
- 時間と軌道: 信号は時間信号と軌道として2つのグラフで表示されます。
- 信号を特定のスケールで表示するには、**固定**オプションを有効にします。この場合、縦方向にも横方向にもズームできます。
- 個々のピークについて、正確な値を確認することができます。それには、カーソルをピークの上に置き、青色の円が表示されるのを待ちます。ピークの値が、小さいボックスに表示されます。



- 時間とスペクトルのみ: **測定ツール**をアクティブにするには、任意の点をクリックします。点の上に赤い十字が表示されます。赤い線をグラフの上でドラッグします。点の値と、点の距離の値が、線の隣のボックスに表示されます。



- 下記のように、部分的にズームした場合は、メイングラフの下にある横長の表示領域を見ると全容がわかります。この領域には、常に全範囲が表示され、ズームされた範囲がカラーで強調されます。

### スペクトルの追加機能

スペクトル表示には、次のような追加機能が用意されています。

- 対数オプションをグラフィックで有効にすると、信号を対数スケールリングで表示できます。
- グラフの下のリストボックスから任意の単位を選択します。
- グラフの上にある ボタンは、回転数／周波数帯域交差を編集ダイアログを開きます。回転数、高調波、周波数帯域の表示形式を編集できます。

回転数表示 / 周波数表示を編集

回転数ソース: 回転数を表示しない

回転周波数 [Hz]: 100,4

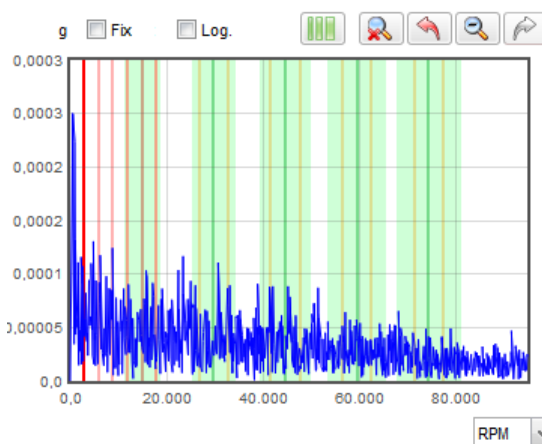
周波数帯域: 周波数帯域を表示しない

高調波: 10

次のようなオプションがあります。

- 回転数ソース: 回転数を表示しない、固定回転数、ユーザー定義の中から選択します。回転数は濃い赤で表示されます。
- 回転周波数(RPM): 回転数ソースでユーザー定義オプションを選択した場合は、ここに回転周波数を入力する必要があります。回転数は自動入力することができます。それには、カーソルをピークの上に置き、青色の円が表示されたらダブルクリックします。その点の回転数がダイアログに自動入力されます。
- 高調波: グラフに表示する高調波の数を指定します。高調波は、薄い赤色で表示されます。
- 周波数帯域: 周波数帯域を表示しないと選択されている特性値に関連する周波数帯域のいずれかを選択します。周波数帯域は緑色で表示されます。

回転数、高調波、周波数帯域を設定すると、スペクトルは例えば次のようになります。



機密測定タスク<sup>74</sup>では、特別な権限を持つユーザーだけが周波数帯域表示を編集できます。

## 軌道の追加機能

軌道ビューでは、次の追加機能が利用可能です：

**回転数：**適切な回転数を選択し、その値と単位を決定します。

**回転数(選択済み/合計)：**右下のグラフの下には、平均に使用される現在選択されている回転数と信号に含まれる総回転数が表示されます。

**軌道とスペクトルビューの設定：**スペクトル上のラインにマウスを合わせ、青い円が表示されるまでホバーします。ダブルクリックしてこの回転数を軌道ダイアグラムに自動的に設定します。同時に、回転数/周波数バンド表示の編集ダイアログが開きます。

## グラフのズーム機能

すべてのグラフに用意されたズーム機能を使用するには、グラフ内をクリックし、マウスの左ボタンを押したままドラッグしてズームしたい範囲を指定します。ズーム範囲はカラーで強調されます。この機能の詳細は、こちら「52」をご覧ください。

拡大表示された領域では、以下のボタンを使用できます。



元の表示に戻ります。



ズーム編集の手順を1つ戻します。



選択された時間範囲を拡大します。



ズーム編集の手順を1つ進めます。



軌道のズーム機能は、グラフの下にある細いストリップにあり、すべての回転を表示しています：

希望するエリアをクリックし、左マウスボタンを押したままドラッグします。その際、ズームされたエリアは色で強調表示されます。グラフは選択された回転に合わせて調整されます。

## アクション

左側のアクションの下には、次のようなメニュー項目があります。

- **測定タスクを表示**「71」：このリンクをクリックすると、測定タスク領域に移動します。Measurement jobs領域では、すべての測定タスクの概要と、それらの特性値および詳細を見ることができます。
- **測定データをダウンロード**「49」：ダウンロードする測定データを選択するためのダイアログが開きます。
- **測定データを削除**「50」：削除する測定データを選択するためのダイアログが開きます。



- **測定データ領域**は、初期分析用に設計されています。詳細な分析を行うには、SmartCheck 或いは ProLink デバイスのデータをダウンロード「49」する必要があります。データは、統合されている SmartUtility Viewer ソフトウェアで詳しく分析できます。
- **保存された時間信号**の節の詳細に、測定値の数の情報も記載されています。ただし、実際に表示される測定値の数は、お使いのブラウザの性能に左右されます。Internet Explorer をお使いの場合は、性能の問題から、時間信号全体が表示されない可能性があります。全体が表示されているかどうかは、**測定値の数**の下に表示される 2 つの数値から判断できます。

型：主信号

値の数：4,096


高速フーリエ変換 (FFT) グラフ：1,600

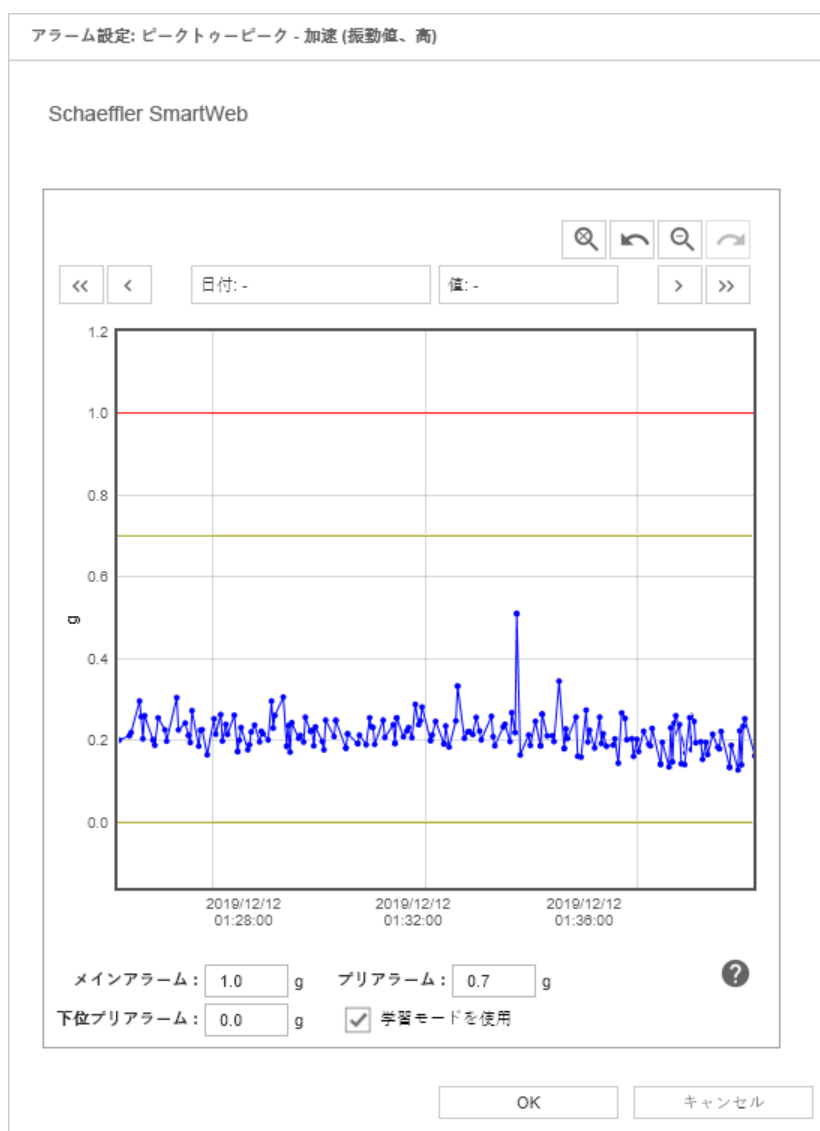
この例では、4096 個の測定値のうち、1600 個しか表示されていません。

## 6.1 アラーム設定の編集

特性値のアラーム設定は、最初、測定タスク「76」の一環として行います。その後は、専用のダイアログでアラーム設定を編集することができます。

### アラーム設定を編集する方法

1. 測定データ領域でをクリックします  **アラーム設定**
2. アラーム設定ウィンドウで任意の項目を設定します。



次のようなオプションがあります。

#### ボタンとグラフ

- グラフの上にあるボタンで、トレンド内をナビゲーションしたり、ズーム機能を使用したりできます。詳細は、[測定データ「42」の節](#)をご覧ください。
- グラフには、選択した特性値のトレンドが表示されます。このグラフは、[測定データ領域](#)にある同じグラフと同じ情報、同じ機能を提供します。詳細は、[測定データ「42」の節](#)をご覧ください。
- さらに、ここではアラームしきい値を手動で設定することができます。
  - **メインアラーム**: 赤いメインアラームしきい値をクリックし、マウスのボタンを押したままレベルを任意の位置までドラッグします。プリアラームしきい値より下へドラッグした場合、自動的にプリアラームしきい値も下へ移動します。
  - **プリアラーム**: 黄色のプリアラームしきい値をクリックし、マウスのボタンを押したままレベルを任意の位置までドラッグします。メインアラームしきい値の位置は変わらず、プリアラームしきい値をメインアラームしきい値より上にドラッグすることはできません。

#### メインアラーム

ここでは、どのレベルでメインアラームを作動させるかを指定します。

#### 下位メインアラーム

異なる方向への回転動作などの場合、対称な信号は負の値も可能です。負の値範囲に対するメインアラームのしきい値を指定します。

#### プリアラーム

ここでは、どのレベルでプリアラームを作動させるかを指定します。絶対値の後ろに、プリアラームしきい値およびメインアラームしきい値から計算されたパーセント値が表示されます。

#### 下位プリアラーム

対称な信号の負の値範囲に対するプリアラームしきい値を指定します。

## 信号の最小値

ここでは、別のプリアラームしきい値の値を入力します。信号値がここで指定した値にも達しない場合に、このプリアラームが適用されます。

## 学習モードを使用

このオプションをアクティブにすると、この特性値に対して学習モードをオンにすることができます。すると、システムは、現在の機械の状態とは無関係に自動的にアラームしきい値を学習することができます。ここにチェックを入れた場合のみ、例えばステータス<sup>[37]</sup>領域にある特性値のコンテキストメニューなどを通じて、学習モードを開始することが可能になります。

学習モードの詳細は、[学習モードとアラーム特性マップ](#)<sup>[84]</sup>の章を参照してください。



マウスのポインタを疑問符<sup>?</sup>の上に置くと、追加情報が表示されます。

3. **OK** をクリックすると、アラーム設定が保存されます。

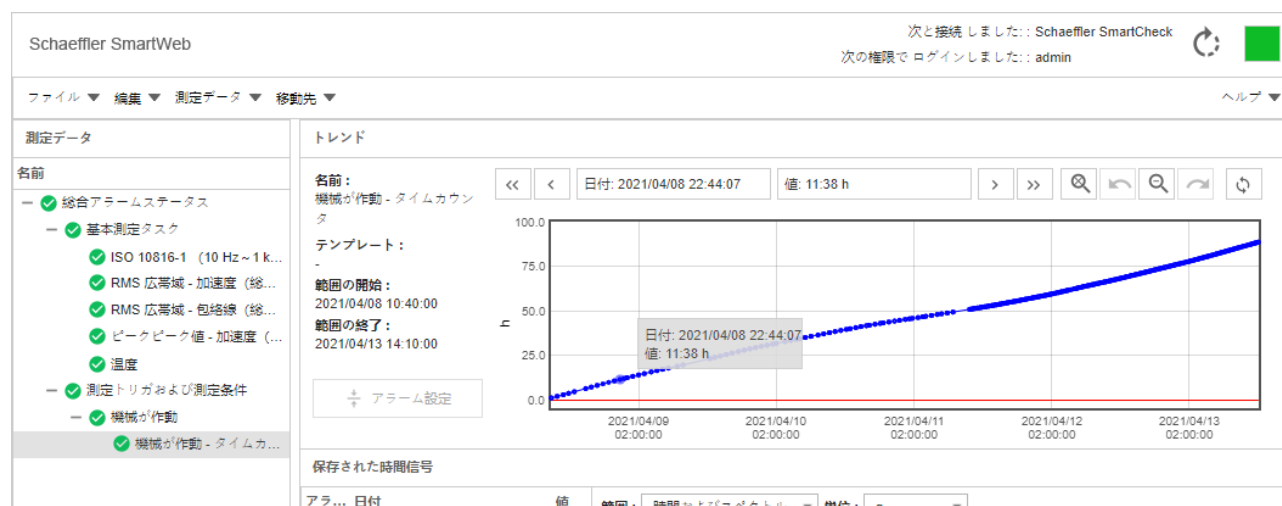


ここでは、アラーム特性マップのアラーム設定を編集することもできます。その場合は、アラームフィールドごとにアラーム設定を編集する必要があります。

## 6.2 タイムカウンタを編集

測定条件を作成すると、自動的にタイムカウンタが作成され、測定条件の有効な作動時間が表示されます。これにより、どれだけの時間その測定条件が満たされていたかを確認でき、ポンプの作動時間などを追うことができます。

該当する測定条件<sup>[100]</sup>が満たされると、タイムカウンタが開始します。



ここでは、タイムカウンタの傾向を表示したり、初回分析を実行できます。

### タイムカウンタを編集する方法

1. 測定データエリアの測定トリガと条件から測定条件をクリックします。
2. タイムカウンタをクリックし、コンテキストメニュー **タイムカウンタを編集** で選択します。
3. タイムカウンタの編集ウィンドウで必要な設定を行います。

タイムカウンタを編集

値 [時間]:

次のようなオプションがあります。

### 値 [時間]

ここでは、タイムカウンタの開始時間値を設定できます。デフォルト設定は **0** です。



コンポーネントがすでに長時間作動しており、モニタリングを後から追加した場合は、タイムカウンタを合わせてください。コンポーネントを交換したら、タイムカウンタを 0 にリセットします。

3. **OK** をクリックすると、タイムカウンタ設定が保存されます。

タイムカウンタの傾向を、測定データエリアの該当する測定条件のところで見ることができます。

## 6.3 測定データをダウンロード

測定データ領域は、初期分析のみを目的としています。詳細な分析を行うには、SmartCheck 或いは ProLink デバイスのデータをダウンロードする必要があります。Schaeffler SmartUtility ソフトウェアを使ってダウンロードを実行し、ソフトウェアに含まれる SmartUtility Viewer でデータを直接分析することができます。代わりに、SmartWeb ソフトウェアの該当する機能を使って測定データをダウンロードし、後で SmartUtility Viewer ソフトウェアで開いて分析することができます。

### 測定データをダウンロードする方法

1. 測定データ領域でアクションの中から測定データをダウンロードを選択します。
2. 測定データをダウンロードウィンドウで必要な設定を行います。

次のようなオプションがあります。

#### 測定期間全体

このオプションをアクティブにすると、保存されている測定データすべてがダウンロードされます。

#### 選択された測定期間

このオプションをアクティブにすると、カレンダー機能がアクティブになります。

リストボックスまたはカレンダーを使って、どの期間の測定データをダウンロードするかを指定します。

3. **OK** をクリックします。\*.scd1 または \*.scd2 ファイルをダウンロードディレクトリにダウンロードすることを確定します。
4. \*.scd1 または \*.scd2 ファイルがダウンロードされたら、SmartUtility ソフトウェアでデータディレクトリを変換すると、Viewer ソフトウェアでの分析が可能になります。



ダウンロードしたファイルを、データ暗号化用パスワードを使って安全確保することができます。メニューオプション「編集 > デバイス設定 > セキュリティ設定の編集」を選択してダイアログを開き、パスワードを入力します。SmartWeb ソフトウェアを使ってダウンロードした測定データを SmartUtility で開こうとすると、このパスワードが要求されます。

## 6.4 測定データを削除

SmartCheck 或いは ProLink デバイスから測定データを削除することができます。その際、削除するデータの測定期間や、該当する測定タスク、測定トリガ、測定条件を定義することができます。

### SmartCheck 或いは ProLink デバイスから測定データを削除する方法

1. 測定データ領域で測定データを削除を選択します。
2. 測定データを削除ウィンドウで必要な設定を行います。

測定データを削除

Schaeffler SmartWeb

ここでは、削除する測定データの期間を選択します：

☐ すべての期間 ☒ 期間を決定

開始： 2019 1 2月 12

終了： 2019 1 2月 12

ここでは、上で選択した期間内で削除する測定データを選択します：

☒ すべての測定データ ☐ 測定データを指定：

Basiskonfig  
基本測定タスク  
測定トリガおよび測定条件

OK キャンセル

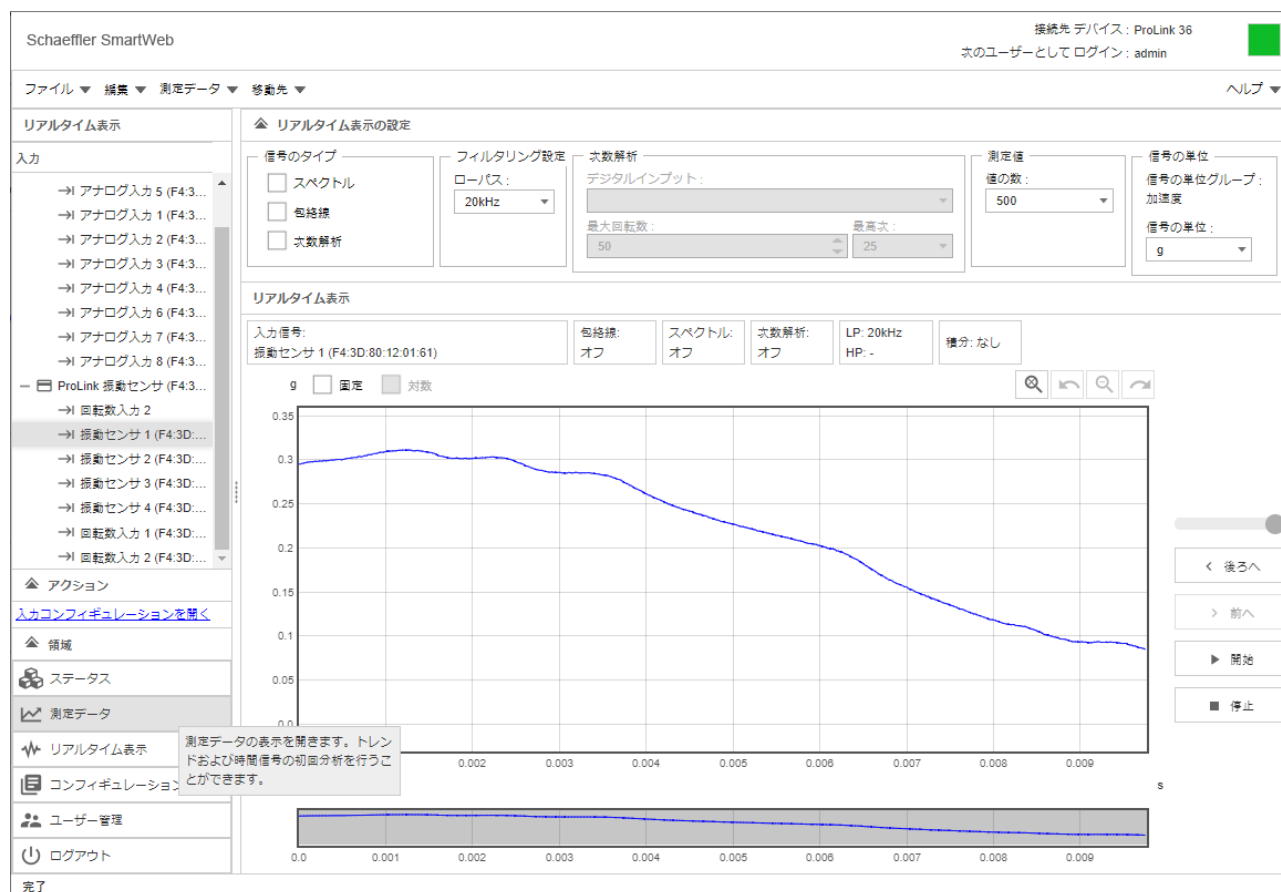
次のようなオプションがあります。

- |            |  |
|------------|--|
| すべての期間     | 測定期間全体を測定データの削除の対象とする場合は、このオプションをアクティブにします。  |
| 選択した期間     | このオプションをアクティブにすると、カレンダー機能がアクティブになります。リストボックスまたはカレンダーを使って、どの期間の測定データを削除するかを指定します。   |
| すべての測定データ  | 選択した期間の測定データをすべて削除する場合は、このオプションをアクティブにします。   |
| 選択された測定データ | リストから特定の測定タスク、測定トリガ、測定条件を選択するには、このオプションをアクティブにします。選択した項目に該当する測定データのうち、上で選択した期間に測定されたものだけが削除されます。<br>リストから項目を選択する方法： <ul style="list-style-type: none"><li>• 左クリック：その項目が選択されます</li><li>• <b>Ctrl + 左クリック</b>：その項目が追加で選択されます。</li><li>• <b>Shift + 左クリック</b>：最初にクリックした項目と最後にクリックした項目の間の項目がすべて選択されます。</li></ul> |

3. **OK** をクリックします。選択内容に該当する測定データが削除されます。

## 7 リアルタイム表示

**リアルタイム表示** のボタンをクリックすると、該当する領域が開きます。各入力およびその入力に対して作成されたスケーリングファクタ<sup>[64]</sup>に関して、対応する信号を閲覧できます。それにより、有効な信号が送られてきているか、入力が正しく接続・構成されているか、SmartCheck 或いは ProLink デバイスが正常に機能しているかを点検できます。さらに、ここで振動センサのさまざまなフィルタ設定を試すこともできます。基本コンフィギュレーションを作成するときに、そのための基礎を作成します。コンフィギュレーションウィザードで **[エキスパート設定]**<sup>[75]</sup> を有効にすると、対応するステップの一部の測定タスクにフィルタを設定できます。



左側で入力またはスケーリングファクタを選択すると、次のような情報と機能が表示されます。

### リアルタイム表示の設定

さまざまなオプションを使って、リアルタイム表示の表示形式を設定できます。







- **信号のタイプ**: 表示する信号のタイプを選択します。何も選択しなかった場合、生信号が表示されます。
- **フィルタリング設定**: 使用するフィルターを変更できます。
- **次数解析**: 次数解析 信号タイプを選択した場合、次数解析のデジタル入力、1 回転あたりの基本パルス、コンポーネントの最大回転周波数、信号に含まれる最大次数などの詳細をここで決めます<sup>[70]</sup>。
- **測定値**: 表示する測定値の数を指定します。値の数によって、ナビゲーション要素とズーム機能を使用できる範囲も決まります。
- **信号の単位**: ここで信号の単位を変更できます。上記の例では、加速度と  $m/s^2$  を、速度と  $mm/s$ 、変位と  $mm$  に変更できます。



信号タイプ で 次数解析 オプションを選択すると、リアルタイム表示 の X 軸に回転数が表示されます。

### リアルタイム表示とナビゲーション要素

リアルタイム表示のグラフに用意されている機能は、次のように使用します。

固定	信号を一定のスケールリングで表示したいときは、このオプションをオンにします。この場合、縦方向にも横方向にもズームできます。
対数	スペクトルのみ： 信号を対数スケールリングで表示したいときは、このオプションをオンにします。
	このボタンをクリックすると、回転数表示／周波数表示を編集 <sup>[45]</sup> というダイアログが開き、回転数、高調波、周波数帯域の表示形式を編集できます。
グラフ内でのクリック	グラフ内をクリックすると、測定ツール <sup>[44]</sup> がアクティブになり、2点間の距離を測定することができます。
ナビゲーション要素を使うと、次のようにリアルタイム表示のさらなる分析を実行できます。	
	スライダーを動かすと、リアルタイム表示が停止し、最新 50 件の測定結果を表示することができます。
	後ろへをクリックすると、リアルタイム表示が停止し、表示が段階的に逆戻りします。
	リアルタイム表示を停止し、逆戻りした場合は、前へボタンを使って段階的に前進させることができます。
	停止 および 開始 ボタンでリアルタイム表示を一時停止または継続します。
	

および

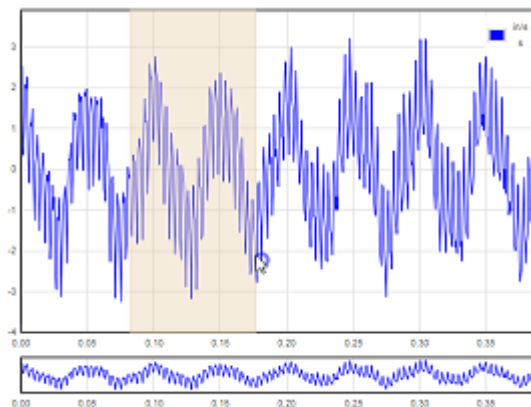


機密測定タスク<sup>[74]</sup>では、特別な権限を持つユーザーだけが周波数帯域表示を編集できます。

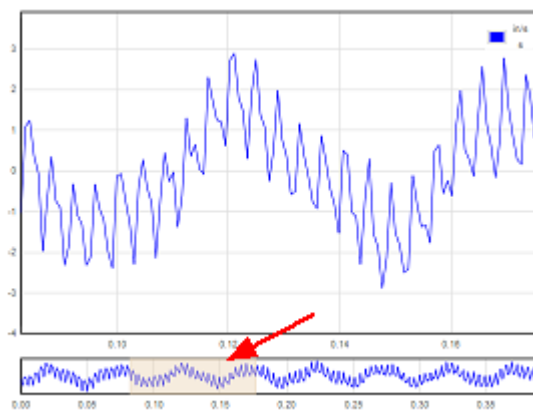
## リアルタイム表示のズーム


リアルタイム表示の領域は、ズームして詳細を確認することができます。

- 必要な領域をクリックし、マウスの左ボタンを押したままドラッグします。ズームした領域は背景がカラーになります。




- マウスのボタンを放すと、ズームした領域だけがリアルタイム表示に表示されます。下には、元の表示領域が横長に表示され、ズームした領域がカラーで強調されます。





- グラフの上に、その他のズーム機能  のボタンがあります。

## アクション

左側のアクションにある入力コンフィギュレーションを開くというメニュー項目を使うと、入力コンフィギュレーション  領域が直接開き、選択されている入力を編集することができます。






## 8 コンフィギュレーション

コンフィギュレーション  ボタンをクリックすると、該当する領域が開きます。SmartWeb ソフトウェアのこの領域では、SmartCheck 或いは ProLink デバイスの基本的な設定を行い、測定タスクを指定することができます。そのため、コンフィギュレーションは SmartCheck 或いは ProLink デバイスの中核とすることができ、機械のモニタリングが確実に実行されるかどうかは、この領域での設定に左右されます。


Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスを初めて使用する際、コンフィギュレーション  ボタンをクリックすると、自動的にコンフィギュレーション一覧が表示されます。





















この一覧は、SmartCheck 或いは ProLink デバイスを設置し、SmartWeb ソフトウェアとの接続を確立した後、論理プロセスがどのように進行するかを示します。

- 最初に、デバイス名やシステム時間などのシステムパラメータ  を設定します。これらの設定は、測定に依存しません。
- このステップでは、信号入力  に関する設定を行います。システム内部の入力には、すでに基本コンフィギュレーションが設定されています。回転数センサなど、追加の入力を接続したい場合は、ここでコンフィギュレーションを行います。システムが追加の入力を認識していないと、入力信号が正しく解釈されません。測定タスクには、既存の入力コンフィギュレーションしか使用できません(下記を参照)。
- 3番目のステップでは、測定タスク  を作成します。測定タスクを通じて、機械の状態を示す特性値が計算されます。SmartCheck 或いは ProLink デバイスには工場出荷時の状態で既にアナログ入力用に基本コンフィギュレーションが用意されています。この測定タスクを必要に応じて編集し、使用することもできます。測定タスクの作成と編集は、専用のコンフィギュレーションウィザードで行います。SmartCheck デバイスの場合、このステップでは、事前設定された測定条件「機械が作動」  を機械に合わせて調整する作業も行うようにしてください。
- SmartCheck 或いは ProLink デバイスの出力  をお使いのコントローラに接続したい場合は、ここで、SmartCheck デバイ스에特性値とアラームステータスのどちらを出力するかを指定する必要があります。ProLink デバイスの場合、出力時にどのアラームステータスを出力するかを定義する必要があります。





コンフィギュレーション一覧は、どのコンフィギュレーション領域からでも開くことができます。それには、右上にあるコンフィギュレーション一覧  記号をクリックします。

左側に展開された一覧に、設定が可能なすべての領域が表示されます。

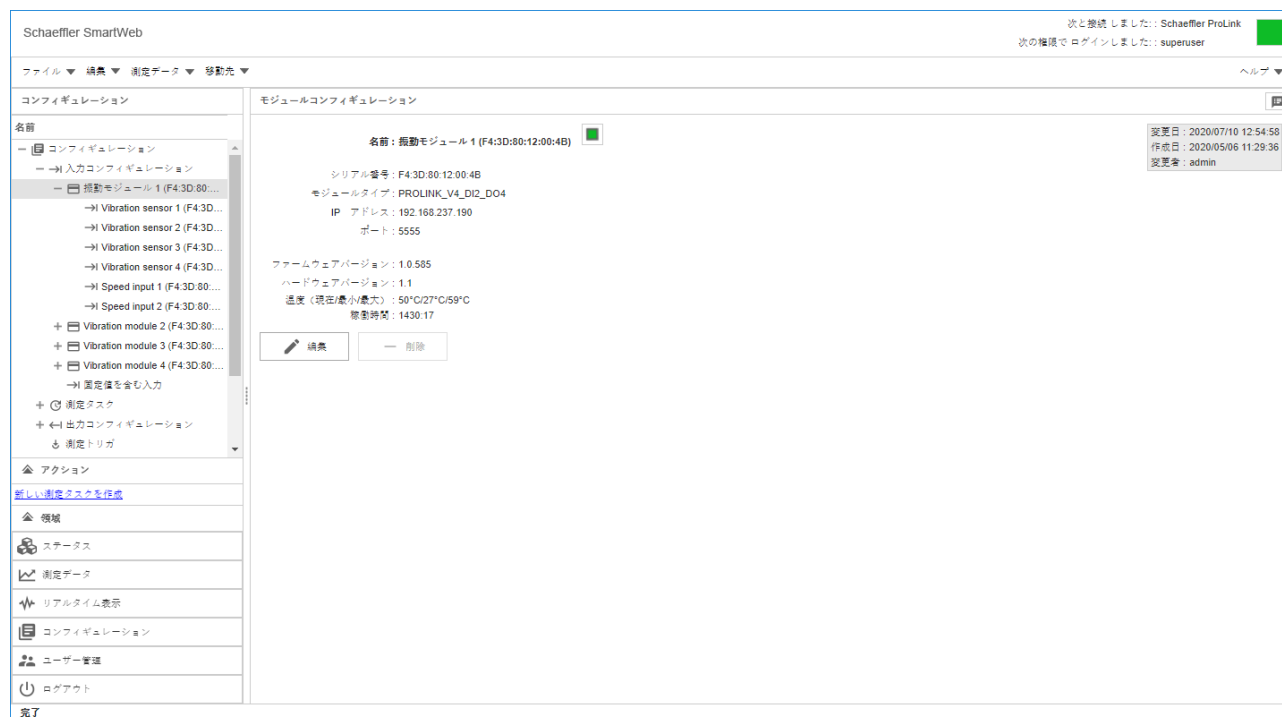
- ➡ **入力コンフィギュレーション**  **57**: SmartCheck 或いは ProLink デバイスのアナログ入力とデジタル入力のコンフィギュレーションを行い、追加のスケールリングファクタを作成することができます。
-  **測定タスク**  **71**: 測定タスクとその特性値のコンフィギュレーションの概要が表示されます。また、新しい測定タスクの作成、編集、削除も実行できます。各測定タスクには異なる測定がまとめられており、特定の時刻または特定の順序で実行されます。
- ⬅ **出力コンフィギュレーション**  **90**: ここでは、システムのアナログ出力とデジタル出力のコンフィギュレーションを行います。
- ⬇ **測定トリガ**  **97**: いつ測定を開始するかを指定します。測定トリガの条件が満たされると、現在の測定がすぐに中断され、その測定トリガによって実行される測定が開始されます。
- ⚡ **測定条件**  **100**: 測定を開始する条件を指定します。
-  **通信チャンネル**  **102**: ここで電子メール用通信チャンネル  **103**を設定して外部コントローラ  **112**と接続し、SmartCheck 或いは ProLink デバイスを OPC UA Server  **138**または設定した PROFINET モジュール  **144**としてProLink デバイスとコントローラの接続のために設定します。電子メール用通信チャンネルを通じて、SmartCheck 或いは ProLink デバイスから電子メールを送信することができます。組み込んだコントローラのデータを SmartCheck 或いは ProLink デバイスで使用したり、SmartCheck 或いは ProLink デバイスの特性値のアラームステータスをコントローラに転送したりできます。OPC UA サーバー用通信チャンネルを介して、他のコントローラで SmartCheck 或いは ProLink デバイスの工程パラメータを読み出すことができます。また、OPC UA サーバーの入力を介して、SmartCheck 或いは ProLink デバイスで追加の行程パラメータを使用可能にできます。PROFINET モジュールは、接続されている ProLink デバイスから制御データを読み取り、プロセスデータを ProLink デバイスに送信します。
-  **デバイス**  **148**: ここでは、SmartCheck 或いは ProLink デバイスの主要な設定を表示し、一部を変更することができます。たとえば、デバイス名やシステム時間などが変更できます。
-  **ベアリング**  **152**: 拡張可能なベアリングデータベースが表示されます。
-  **ベアリングメーカー**  **154**: ベアリングメーカーがリストされます。メーカーをリストに追加することも可能です。



各領域のアクションの下に、**新しい測定タスクを作成**  **73**というメニュー項目があります。このメニュー項目をクリックするとウィザードが起動し、順を追って測定タスクを作成できます。この作業は、SmartCheck 或いは ProLink デバイスに用意されている測定テンプレート  **77**を使うことでさらに簡単になります。テンプレートはウィザードによって自動的に組み込まれ、測定の作成をサポートします。

## 8.1 モジュールコンフィギュレーション (ProLink のみ)

Schaeffler ProLink プロセッサモジュールに最大 4 つの振動モジュールと最大 4 つの I/O モジュールを接続できます。システムを適切に起動するとすぐに、SmartWeb ソフトウェアでモジュールが自動的に作成され、個々の領域に個別のレベルとして表示されます。ツリーでモジュールを選択して詳細を表示し、名前を変更して、関連する物理モジュールを識別します。I/O モジュールの場合、ここで入力と出力を指定することもできます。



展開された一覧で振動モジュールを選択すると、メインパネルに次のような情報が表示されます。

- **名前**: ここにはモジュールの完全な名前が表示されます。SmartWeb ソフトウェアでは、モジュールはアルファベットの昇順でソートされます。つまり、モジュール名によってソート順序が決まります。これは、例えば、ステータス領域のシステム情報<sup>40)</sup>に該当します。このソート順序を変更し、物理システムコンフィギュレーションを示すには、 を使用して、モジュール名を編集する必要があります。
- **モジュールの識別**: このアイコンをクリックして、該当する物理モジュールを識別できます。関連する物理モジュールの LED が交互に点滅します。もう一度クリックすると、識別モードが終了します。
- **名前**の下に、モジュールのシリアル番号、IP アドレス、温度などのモジュールに関する詳細が表示されます。
- 右側の灰色のフィールドには、モジュールの作成と変更に関する詳細が表示されます。
- をクリックしてモジュールの名前を編集<sup>56)</sup>します。同じボタンを使用して、I/O モジュールの入力と出力<sup>57)</sup>を設定することもできます。
- コンフィギュレーション一覧<sup>54)</sup>を開くには、 をクリックします。

## モジュールの名前を編集する方法

1. をクリックしてモジュールを編集ウィンドウを開きます。




以下の変更を行うことができます。

**名前** この名前の下に、SmartWeb ソフトウェアのモジュールがリストされます。英数字によるソートのため、モジュールがそれぞれのリストのどこに配置されるかは、名前によって決まります。例えば、システム情報<sup>40)</sup>がステータス領域に表示される方法を変更して、物理システムコンフィギュレーションを反映させることができます。

2. **OK** をクリックして変更を保存します。



## I/O モジュールの入力と出力を定義する方法

1.  をクリックしてモジュールを編集ウィンドウを開きます。



以下の変更を行うことができます。

**名前** この名前の下に、SmartWeb ソフトウェアのモジュールがリストされます。英数字によるソートのため、モジュールがそれぞれのリストのどこに配置されるかは、名前によって決まります。例えば、システム情報<sup>40</sup>がステータス領域に表示される方法を変更して、物理システムコンフィギュレーションを反映させることができます。

**チャンネル 1～8** I/O モジュールの各チャンネルに対して、目的のアナログまたはデジタル入力または出力を選択します。その後、[入力コンフィギュレーション] エリアで入力を設定し、[出力コンフィギュレーション] エリアで出力を設定できます。

2. **OK** をクリックして変更を保存します。

## 8.2 入力コンフィギュレーション

システムに応じて、以下のオプションがあります。

- **Schaeffler SmartCheck** デバイス: デバイスには、振動センサおよび温度センサ<sup>58</sup>が装備され、これらのセンサは稼動開始直後から入力信号を送信します。SmartCheck デバイスには、さらに 2 つのアナログ入力<sup>59</sup>とデジタル入力<sup>65</sup>を介して外部センサを 3 台まで接続し、構成することができます。
- **Schaeffler ProLink** デバイス: Schaeffler ProLink デバイスを始動させると、接続されている振動モジュール<sup>55</sup>のインプットが自動的に作成され、モジュールに割り当てられます。振動モジュールごとに 4 つのアナログ入力<sup>59</sup>と 2 つのデジタル入力<sup>65</sup>が可能です。ここでこれらの入力を構成できます。  
さらに、接続された I/O モジュール用に、モジュールごとに 8 つのアナログ入力が自動的に作成されます。これらの入力はここで設定できます。モジュールコンフィギュレーション<sup>57</sup>を使用して、これらのアナログ入力をデジタル入力、アナログ出力、またはデジタル出力に切り替えます。

SmartCheck 或いは ProLink デバイスを正しく接続する方法は、各ユーザーマニュアルで詳しく説明されています。

加えて、SmartCheck 或いは ProLink デバイスで固定値<sup>66</sup>を作成することができます。例えば特性値が正しく計算されるよう、一定速度を指定できます。

左側の展開された一覧には、SmartCheck デバイスのすべての入力が表示されます。ProLink デバイスでは、ここに接続されたすべてのモジュールとそれに属する入力が表示されます。入力コンフィギュレーションの下メインパネルでは、現在選択されている入力の詳細と使用可能な編集機能を見ることができます。





アクセスできる情報および機能は、選択されている入力によって異なります。これに関する詳細は、次の項をご覧ください。

### 8.2.1 内部センサ (SmartCheck のみ)


出荷時の Schaeffler SmartCheck デバイスには、温度センサと振動センサが内蔵されています。システムを正常に始動させれば、2 つのセンサから信号が送られ、それを測定タスク<sup>54</sup>に組み込むことができます。入力コンフィギュレーション領域では、該当する入力に関する詳細を参照し、一部を編集することができます。



展開された一覧で内部センサの入力を選択すると、以下がメインパネルに表示されます。

- 選択されている入力の詳細が左側に表示されます。入力チャネルの隣には物理的接続の名前が、名前の隣にはユーザーが付けたコンフィギュレーションの名前が表示されます。
- 右側の灰色のフィールドには、入力の作成と変更に関する詳細が表示されます。
-  をクリックすると、内部センサの入力コンフィギュレーションを編集することができます。
- コンフィギュレーション一覧<sup>54</sup>を開くには、 をクリックします。

## 内部センサの入力コンフィギュレーションを編集する方法

1.  をクリックして入力コンフィギュレーションを編集ウィンドウを開きます。

インプットコンフィギュレーションを編集

インプットチャンネル:  
温度センサ

名前:

単位グループ:  単位:

以下の変更を行うことができます。

**名前**                      入力、この名前で入力コンフィギュレーションに表示されます。複数の入力を区別できるよう、わかりやすい名前を付けてください。

**単位**                      センサ信号の測定単位を変更できます。デフォルトでは、対応する入力コンフィギュレーションの単位が選択されています。

2. **OK** をクリックして変更を保存します。

### 8.2.2 アナログ入力

SmartCheck デバイスには 2 つのアナログ入力があります。ProLink デバイスの各振動モジュールには 4 つのアナログ入力があり、例えばトルクセンサや温度センサなど、その他の信号源と一緒に振動入力として、またはアナログ入力として使用することができます。ProLink デバイスの I/O モジュールごとに、自由に設定できるアナログ入力が最大 8 つあります

出荷時の状態では、これらの入力は以下のように設定されています。

#### SmartCheckデバイス:

- アナログ 1
  - 単位グループ: 電圧
  - 信号の単位: V
  - 入力範囲: 0-10 V
- アナログ 2
  - 単位グループ: 負荷
  - 信号の単位: %
  - 入力範囲: 0-20 mA
  - スケーリングファクタ: 5

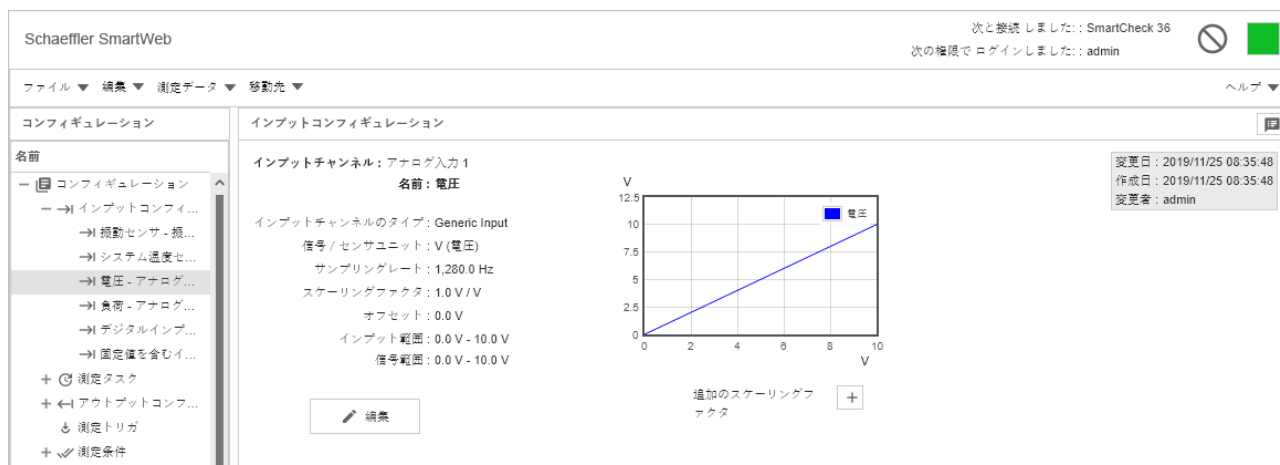
#### ProLinkデバイスの振動モジュール:

- アナログ 1~4
  - 入力タイプ: 振動入力
  - ユニットグループ: 加速
  - 信号の単位: g
  - センサタイプ: AC
  - センサ感度 [mV/g]: 100




#### ProLinkデバイスの I/O モジュール:

- アナログ 1~8
  - 単位グループ: 電圧
  - 信号の単位: V
  - サンプリングレート: 500 Hz
  - 入力タイプ: 0-10 V


入力コンフィギュレーション領域では、該当する入力に関する詳細を参照し、一部を編集することができます。



展開された一覧でアナログ入力を選択すると、以下がメインパネルに表示されます。選択されている入力の詳細が左側に表示されます。

- 選択されている入力の詳細が左側に表示されます。入力チャンネルの隣には物理的接続の名前が、名前の隣にはシステムが自動的に作成した名前 (ProLink デバイスのみ) またはユーザー自身が付けたコンフィギュレーションの名前が表示されます。
- また、詳細な図解も表示されます。入力コンフィギュレーションを編集すると、図は自動的に調整されます。振動入力の場合、図は表示されません。
- 右側の灰色のフィールドには、入力の作成と変更に関する詳細が表示されます。
- アナログ入力の入力コンフィギュレーションを編集<sup>60)</sup>するには、 をクリックします。
- 入力にスケーリングファクタ<sup>64)</sup>を追加するには、 をクリックします。スケーリングファクタには、例えば測定タスクの作成<sup>73)</sup>時などにアクセスできます。
- コンフィギュレーション一覧<sup>54)</sup>を開くには、 をクリックします。

## アナログ入力構成を編集する方法

1. 左側に展開された一覧で、編集したいアナログ入力を選択します。
2. メインパネルの編集  をクリックして、入力コンフィギュレーションの編集ウィンドウを開きます。

SmartCheck デバイスの場合、次のダイアログボックスが表示されます。

インプットコンフィギュレーションを編集

Schaeffler SmartWeb

名前:  
回転数 - Rev6

単位グループ: 周波数 / 回転数 信号 / センサユニット: RPM

サンプリングレート:  
1,280.0 Hz

入力のタイプ:  
0~10 V

最大: 10.0 RPM  
スケール: 1.0  
最小: 0.0

OK キャンセル

次のようなオプションがあります。

名前

SmartWeb ソフトウェアに表示される入力の名前を指定します。

単位グループ

この入力に接続されているセンサが測定する物理的な値を指定します(周波数／回転数など)。

信号の単位

センサの測定単位を選択します。

入力のタイプ

この入力コンフィギュレーションに適用する電圧／電流の範囲を選択します。SmartCheck デバイスは、以下の範囲のアナログ入力をサポートしています。

- 0-10 V
- 0-24 V
- 4-20 mA
- 0-20 mA

最大、スケーリング、最小

これらの設定を使って、測定値の範囲を決めます。最初に、最小に最小値を入力します。次に、最大に最大値を入力するか、スケーリングフィールドで入力信号のスケーリングファクタを指定します。対応する他のフィールド値と図が自動的に調整されます。

振動モジュールでは、入力タイプに応じて、以下のダイアログが表示されます。

入力タイプ: 振動入力

入力タイプ: アナログ入力

次のようなオプションがあります。

名前

SmartWeb ソフトウェアに表示される入力の名前を指定します。

入力のタイプ

接続されているセンサに適合する入力タイプを選択してください。

- 振動入力
- アナログ入力

単位グループ

この入力に接続されているセンサが測定する物理的な値を指定します (周波数/回転数など)。

信号の単位

センサの測定単位を選択します。

センサタイプ  
(振動入力のみ)

接続された振動センサに適合するセンサタイプを選択します。

- **AC**
- **DC**
- **IEPE**: IEPE 加速度センサにはこのオプションを選択します。

センサ感度  
(振動入力のみ)

センサの校正データシートで指定されている値を選択します。

最小/最大バイアス電圧  
(振動入力のみ)

必要に応じて、IEPE 加速度センサ用にこの値を適合させてください。

電圧入力  
(アナログ入力のみ)

この入力コンフィギュレーションに適用する電圧の範囲を選択します。ProLink デバイスは、以下の範囲のアナログ入力をサポートしています。

- 0 V ~ 10 V
- -10 V ~ 10 V

ローパス  
(アナログ入力のみ)

ここでローパスの値を選択してください。



比較的遅い信号だけを測定できる 50 Hz のローパスが自動的に作成されます。アナログ入力を測定トリガまたは測定条件のために使用する場合、このローパスも同様に挿入されます。従って、測定長さを選択する場合、1 秒間に 128 サンプルで計算する必要があります。

**最大、スケーリング、最小**  
(アナログ入力のみ)

これらの設定を使って、測定値の範囲を決めます。最初に、**最小**に最小値を入力します。次に、**最大**に最大値を入力するか、スケーリングフィールドで入力信号のスケーリングファクタを指定します。対応する他のフィールド値と図が自動的に調整されます。

**反転**  
(アナログ入力のみ)

このオプションを有効にすると、スケーリングファクタを反転することができます。

例：振動と温度の複合センサでは、10 mV/°C の値が送信されます。電圧範囲が 0 V～10 V の場合、これにより、測定範囲は 0 °C～1000 °C となります。デフォルトでは、スケーリングファクタは °C/V に設定されています。反転を用いると、スケーリングファクタを自動的に V/°C に変更することができます。

**I/O モジュールでは、以下のダイアログが表示されます。**

モジュールを編集 ...

名前：  
ProLink I/O モジュール (F4:3D:80:16:00:0F)

チャンネル 1：  
→ アナログ入力

チャンネル 2：  
→ アナログ入力

チャンネル 3：  
← アナログアウトプット

チャンネル 4：  
← アナログアウトプット

チャンネル 5：  
→ デジタルインプット

チャンネル 6：  
→ デジタルインプット

チャンネル 7：  
← デジタルアウトプット

チャンネル 8：  
← デジタルアウトプット

OK キャンセル

次のようなオプションがあります。

**名前**

SmartWeb ソフトウェアに表示される入力の名前を指定します。

**単位グループ**

この入力に接続されているセンサが測定する物理的な値を指定します(周波数／回転数など)。

**信号の単位**

センサの測定単位を選択します。

**入力のタイプ**

この入力コンフィギュレーションに適用する電圧／電流の範囲を選択します。I/O モジュールは、以下の範囲のアナログ入力をサポートしています。

- 0-10 V
- 0-20 mA
- 4-20 mA

**最大、スケーリング、最小**

これらの設定を使って、測定値の範囲を決めます。最初に、**最小**に最小値を入力します。次に、**最大**に最大値を入力するか、スケーリングフィールドで入力信号のスケーリングファクタを指定します。対応する他のフィールド値と図が自動的に調整されます。

3. **OK** をクリックして変更を保存します。



- すでに測定タスク、測定条件または測定トリガーによって使用されている入力を編集したい場合、最初にこのリンクされたコンフィギュレーションを削除しなければなりません。
- アナログ回転数入力の場合は、**最小と最大**に負の値を入力することも可能です。それにより、異なる回転方向を区別することができます。
- ProLink デバイスで作成するアナログ入力を、測定タスクの追加特性値として付け加えたり、測定トリガ、測定条件の入力として使用したり、チャンネル監視に使用したりすることもできます。これらのアナログ入力を、振動測定タスクに直接使用することはできません。

### 入りにスケーリングファクタを追加する方法

アナログ入りにスケーリングファクタを追加し、測定タスクの作成[73]時などにアクセスすることができます。スケーリングファクタを使うと、構成部品のある箇所で測定した物理値から他の領域の論理値を算出することができます。

例：アナログ入力を使ってギヤの手前の回転数を測定します。ギヤの内側の回転数はその 5 分の 1 になります。これを元に、スケーリングファクタを作成します。

1.ギヤの手前の回転数

2.0.2(5 分の 1)を掛けて求めたギヤの内側の回転数

1. **+** をクリックしてスケーリングファクタを追加ウィンドウを開きます。

スケーリングファクタを編集

Schaeffler SmartWeb

インプットチャンネル：  
アナログ入力 1

名前：  
電圧

スケーリングファクタ：  
2.0

単位グループ：  
周波数 / 回転数

単位：  
RPM

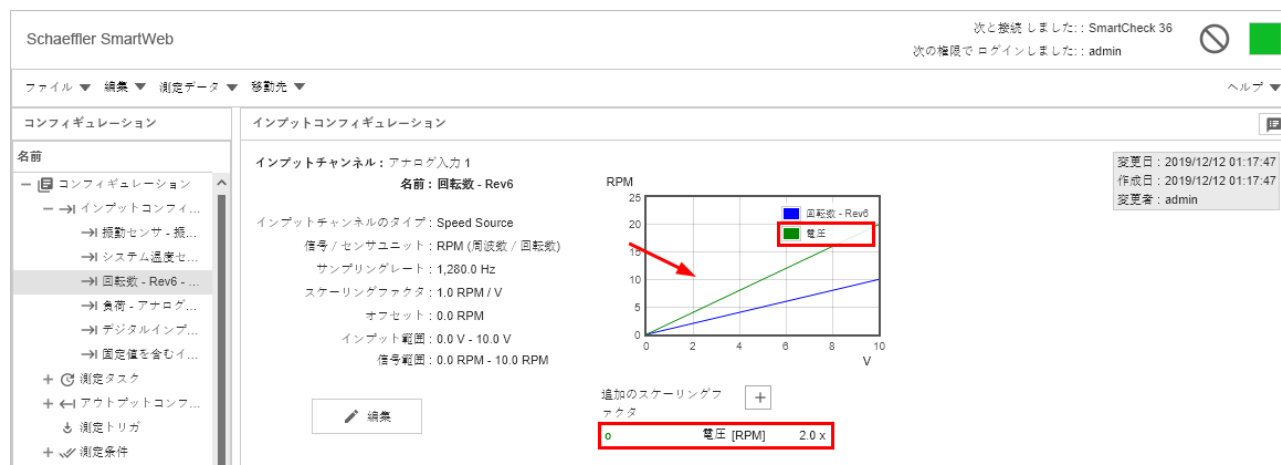
OK キャンセル

次のようなオプションがあります。

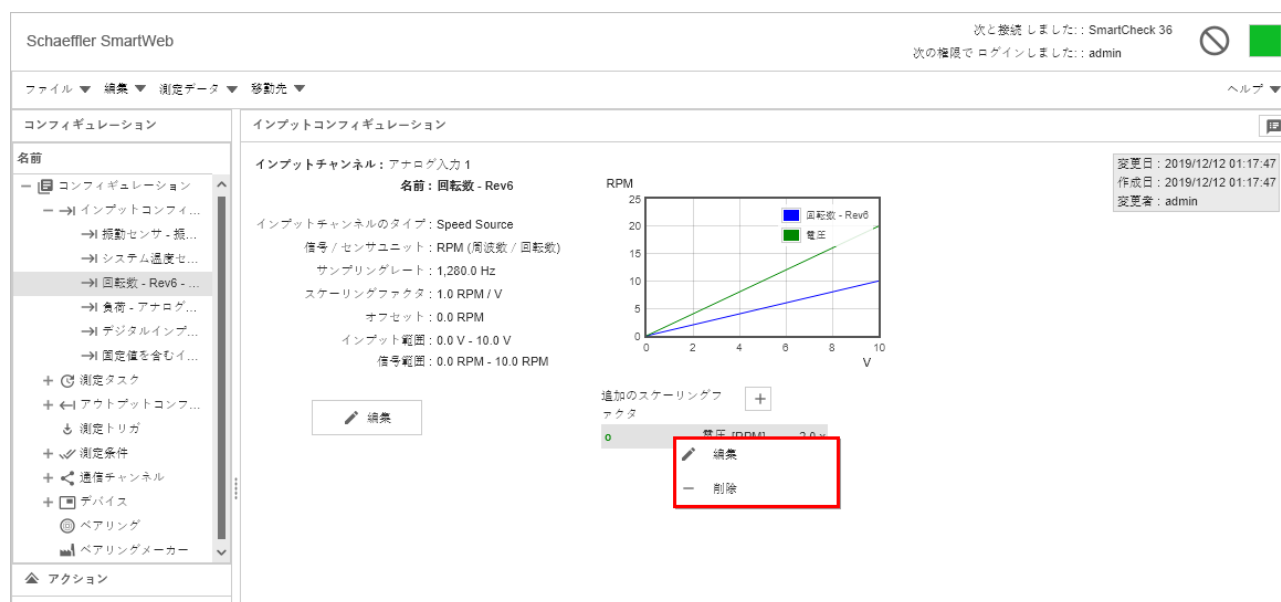
- |            |  |
|------------|--|
| 名前         | スケーリングファクタは、この名前で他の入力と共に表示されます。複数の入力を区別できるよう、わかりやすい名前を付けてください。 |
| スケーリングファクタ | 物理的な入力信号に、ここに入力した値を乗じます。                                       |
| 単位         | センサ信号の測定単位を変更できます。デフォルトでは、対応する入力コンフィギュレーションの単位が選択されています。       |

2. **OK** をクリックして変更を保存します。新しいスケーリングファクタが、図とスケーリングファクタのリストに表示されます。





3. スケーリングファクタを削除または編集するには、右クリックでコンテキストメニューを開き、対応するコマンドを選択してください。



測定タスクで使用されているスケーリングファクタを削除すると、警告メッセージが表示されます。スケーリングファクタを削除すると、関連する測定タスクも自動的に削除されてしまいます。

### 8.2.3 デジタル入力

SmartCheck デバイスのデジタル入力または各 Schaeffler ProLink 振動モジュールの両方のデジタル入力は、出荷時の状態では次のように設定されています。

- 単位グループ: 周波数 / 回転数
- 信号の単位: RPM (SmartCheck) または Hz (ProLink)
- 回転ごとのパルス: 1
- スイッチングしきい値: 7 V
- ヒステリシス: 2 V

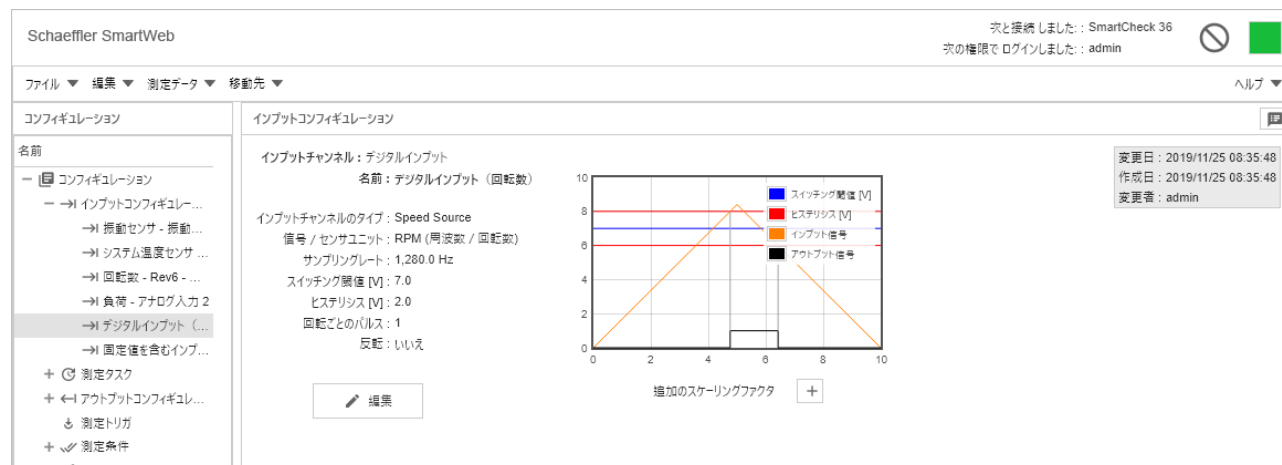


SmartCheck デバイス:  
抵抗器を選ぶ際、使用するデジタル入力の入力インピーダンスに注意してください。Schaeffler SmartCheck デバイスのデジタルスイッチング出力の最大スイッチトカレント (1 A / 30 V) と抵抗器の電力に注意してください。




Schaeffler ProLink I/O モジュールでは、モジュールコンフィグレーションで最大 8 つのデジタル入力を設定<sup>55)</sup>できます。以下の値を設定できますが、変更はできません。

- 単位グループ: 単位なし
- 信号の単位: -
- サンプリングレート: 500 Hz
- 回転ごとのパルス: 1
- スwitchングしきい値: 3 V
- ヒステリシス: 0.5 V

入力コンフィギュレーション領域では、デジタル入力の詳細を参照し、一部を編集することができます。




展開された一覧でデジタル入力を選択すると、メインパネルに次のような情報が表示されます。

- 選択されている入力の詳細が左側に表示されます。入力チャンネルの隣には物理的接続の名前が、名前の中には ProLink デバイスが自動で割り当てた、またはユーザーが付けたコンフィギュレーションの名前が表示されます。
- また、詳細な図解も表示されます。
- 右側の灰色のフィールドには、入力の作成と変更に関する詳細が表示されます。
- デジタル入力の入力コンフィギュレーションを編集<sup>66)</sup>するには、 をクリックします。
- 入力にスケーリングファクタ<sup>68)</sup>を追加するには、 をクリックします。スケーリングファクタには、例えば測定タスクの作成<sup>73)</sup>時などにアクセスできます。
- コンフィギュレーション一覧<sup>54)</sup>を開くには、 をクリックします。

## デジタル入力コンフィギュレーションを編集する方法



: ProLink デバイスのデジタル入力では、名前とリスト設定のみを変更できます。調整可能なスwitchングしきい値が必要な場合は、Schaeffler ProLink 振動モジュールの回転数入力を使用する必要があります。

1. 左側に展開された一覧で、デジタル入力を選択します。
2. メインパネルの編集 をクリックして、入力コンフィギュレーションを編集ウィンドウを開きます。

インプットコンフィギュレーションを編集

名前:  
デジタルインプット (回転数)

単位グループ: 周波数 / 回転数 信号 / センサユニット: RPM

サンプリングレート:  
1,280.0 Hz

☐ 反転

回転ごとのパルス:  
1

スイッチング閾値 [V]:  
7.0

ヒステリシス [V]:  
2.0

OK キャンセル

次のようなオプションがあります。

- |                        |   |
|------------------------|---|
| 名前                     | SmartWeb ソフトウェアに表示される入力の名前を指定します。   |
| 単位グループ                 | 単位なしまたは周波数／回転数を選択します。入力で「機械オン」や「機械オフ」といったステータスを表示したい場合は、単位なしを選択します。   |
| 信号の単位                  | 単位グループで周波数／回転数を選択した場合のみ、選択リストが表示されます。   |
| 反転                     | デジタル入力信号を反転する場合は、このオプションをアクティブにしてください。  |
| 信号のタイプ<br>(ProLink のみ) | <p>ここには、次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 回転数信号 (回転方向なし)</li> <li>• A/B エンコーダ (回転方向あり)</li> </ul>  |
| 回転ごとのパルス               | このオプションは、単位グループで周波数／回転数を選択した場合のみ使用できます。   |
| スイッチングしきい値             | <p>平均入力レベルをボルトで指定します。このレベルを上回ったり下回ったりすると、デジタル入力が切り替わります。このスイッチングしきい値は、図では青色で表示されます。</p> <p>入力した値は、.0 または .5 に丸められます。</p>  |
| ヒステリシス                 | <p>ヒステリシスは、入力レベルがスイッチングしきい値を上回ったり下回ったりしてもデジタル入力が切り替わらない範囲を示します。ヒステリシスは、図では赤色で表示されます。</p> <p>ヒステリシスは必ず指定してください。設定しないと、スイッチングしきい値において、信号から不正パルスが発生することがあります。信号の質が悪い場合は、ヒステリシスを高めに設定してください。</p> <p>入力した値は、.0 または .5 に丸められます。</p> |

例: スwitchingしきい値が 5 V で、ヒステリシスが 2 V の場合、4 V～6 V ではデジタル入力の状態が変化しません。

- 図
- 図は、入力が設定にどう反応しているか、例えばシステムが 0～12 V の入力パルスでデジタルの 0 と 1 にどのように変換しているかを示します。変化が生じるとすぐに図が更新されます。例の図は次のように解釈できます。
- 入力信号 (オレンジ) がスイッチングしきい値 (青) より上のヒステリシスの線 (赤) を超えています。信号出力 (黒) は、これに反応して、0 から 1 に切り替わります。入力信号がスイッチングしきい値より下のヒステリシスの線を下回ると、信号出力は再び反応し、1 から 0 に切り替わります。

例：センサから 0～12 V のパルスが送られます。この場合は、スイッチングしきい値を 6 V、ヒステリシスを例えば 2 V に設定します。

3. **OK** をクリックして変更を保存します。

### スケーリングファクタを追加する方法

デジタル入力にスケーリングファクタを追加し、測定タスクの作成<sup>73</sup>時などにアクセスすることができます。スケーリングファクタを使うと、構成部品のある箇所で測定した物理値から他の領域の論理値を算出することができます。

例：デジタル入力を使ってギヤの手前の回転数を測定します。ギヤの内側の回転数はその 5 分の 1 になります。これを元に、スケーリングファクタを作成します。

1. ギヤの手前の回転数

2.0.2 (5 分の 1) を掛けて求めたギヤの内側の回転数

1. **+** をクリックしてスケーリングファクタを追加ウィンドウを開きます。

次のようなオプションがあります。

**名前** スケーリングファクタは、この名前で他の入力と共に表示されます。複数の入力を区別できるよう、わかりやすい名前を付けてください。

**スケーリングファクタ** 物理的な入力信号に、ここに入力した値を乗じます。

**単位** センサ信号の測定単位を変更できます。デフォルトでは、対応する入力コンフィギュレーションの単位が選択されています。

2. **OK** をクリックして変更を保存します。新しいスケーリングファクタが、スケーリングファクタのリストに表示されます。

3. スケーリングファクタを削除または編集するには、右クリックでコンテキストメニューを開き、対応するコマンドを選択してください。

Schaeffler SmartWeb

次と接続しました: SmartCheck 36  
次の権限でログインしました: admin

ファイル ▼ 編集 ▼ 測定データ ▼ 移動先 ▼ ヘルプ ▼

コンフィギュレーション

名前

- コンフィギュレーション
  - インพุットコンフィギュレーション
    - 振動センサ - 振動...
    - システム温度センサ...
    - 回転数 - Rev6 - ...
    - 負荷 - アナログ入力 2
    - デジタルインพุット (...)
    - 固定値を含むインプ...
  - + 測定タスク
  - + ← アウトプットコンフィギュレーション
  - + 測定トリガ
  - + ✓ 測定条件
  - + 通信チャンネル
  - + デバイス
  - + へアリング

インพุットコンフィギュレーション

インพุットチャンネル: デジタルインพุット  
名前: デジタルインพุット (回転数)

インพุットチャンネルのタイプ: Speed Source  
信号 / センサユニット: RPM (周波数 / 回転数)  
サンプリングレート: 1,280.0 Hz  
スイッチング周波数 [V]: 7.0  
ヒステリシス [V]: 2.0  
回転ごとのパルス: 1  
反転: はい

追加のスケールングファクタ +

編集 削除

変更日: 2019/12/16 11:29:46  
作成日: 2019/11/25 08:35:48  
変更者: admin



測定タスクで使用されているスケールングファクタを削除すると、警告メッセージが表示されます。スケールングファクタを削除すると、関連する測定タスクも自動的に削除されてしまいます。

## 8.2.4 固定値を含む入力

SmartWeb ソフトウェアでは、固定値を含む入力を作成し、測定タスクの作成時に使用することができます。固定値を含む入力は、モニタリング対象の機械が一定速度で動作している場合などに便利です。この場合、センサを接続する必要はなく、回転数を固定値として指定できます。出荷時の SmartCheck 或いは ProLink デバイスでは、固定値を含む入力が次のように構成されています。

- 名前: 固定回転速度
- 値: 3000
- 単位: RPM

入力コンフィギュレーション領域では、固定値に関する詳細を参照・編集することができます。

Schaeffler SmartWeb

次と接続しました: SmartCheck 36  
次の権限でログインしました: admin

ファイル ▼ 編集 ▼ 測定データ ▼ 移動先 ▼ ヘルプ ▼

コンフィギュレーション

名前

- コンフィギュレーション
  - インพุットコンフィ...
  - 振動センサ - 振...
  - システム温度セ...
  - 回転数 - Rev6 - ...
  - 負荷 - アナログ...
  - デジタルインプ...
  - 固定値を含むイ...
  - + 測定タスク
  - + ← アウトプットコンフ...
  - + 測定トリガ
  - + ✓ 測定条件

インพุットコンフィギュレーション

固定値を含むインพุット:

名前	値	単位
固定回転数 (3000 RPM)	3,000.0	[RPM]

編集 削除 + 追加

次のオプションがあります:

- 選択されている固定値を含む入力を編集するには、**編集** をクリックします。
- 選択されている固定値を含む入力を削除するには、**削除** をクリックします。
- 固定値を含む入力を新しく追加するには、**追加** をクリックします。
- コンフィギュレーション一覧 を開くには、 をクリックします。

## 固定値を含む入力を新たに追加する方法

1. **+** をクリックして固定値を追加ウィンドウを開きます。

固定値を追加

インプットチャンネル：  
固定値を含むインプット

名前：

値：

単位グループ：

単位：

次のようなオプションがあります。

- |        |   |
|--------|---|
| 名前     | 固定値を含む入力、この名前で他の入力と共に表示されます。複数の入力を区別できるよう、わかりやすい名前を付けてください。 |
| 値      | 固定値を指定します。  |
| 単位グループ | この固定値がどの単位グループに属するかを指定します。単位グループには、トルク、圧力、速度、荷重などがあります。     |
| 単位     | 固定値の測定単位を変更できます。選択肢は、選択されている単位グループによって異なります。                |

2. **OK** をクリックして変更を保存します。新しい固定値を含む入力が表に表示されます。

Schaeffler SmartWeb

次と接続しました: SmartCheck 36  
次の権限でログインしました: admin

ファイル ▼ 編集 ▼ 測定データ ▼ 移動先 ▼ ヘルプ ▼

コンフィギュレーション

名前

- コンフィギュレーション
- インプットコンフィ...
- 振動センサ - 振...
- システム温度セ...
- 回転数 - Rev6 - ...
- 負荷 - アナログ...
- デジタルインプ...
- 固定値を含むイ...
- + 測定タスク
- + アウトプットコン...
- 測定トリガ
- + 測定条件

インプットコンフィギュレーション

固定値を含むインプット:

名前	値	単位
固定回転数 (3000 RPM)	3,000.0	[RPM]
定常速度	25.0	[m/s]

3. 固定値を含む入力を削除 または編集 するには、表の中で入力を選択し、該当するコマンドを選択します。

### 8.2.5 設置階次分析

測定コンフィギュレーションの多くのテンプレートでは、ウィザードのステップ 2 で、どの入力信号に基づいて監視を行うかを決定します。監視が測定された回転数信号に基づいており、回転数が振動モジュールのデジタル入力から測定される場合、次数解析を有効にして設定できます。これにより、回転数変動による監視結果への影響が軽減されます。次数解析により、振動信号を測定時の回転数変動の影響を低減した信号に変換します。風力タービンやエレベーターなど、非常に動的な回転数を持つ機械に対してこのオプションを有効にすることができます。

この機能を使用し、設定するには、次の手順に従います。

1. ウィザードのステップ 2 の【回転数信号】で必要な回転数入力を選択します。  
次数解析には高分解能の回転数信号が必要です。このため、振動モジュールのデジタル回転数入力を選択し、【次数解析】オプションを有効にして、編集する必要があります。
2. 【次数解析】オプションを有効にします。【回転ごとのパルス(PPR)】リストボックスが表示されます。

コンフィギュレーションを作成

ステップ

1: 構成部品を選択

2: 転がり軸受けの詳細を指定

3: 保存設定 / 測定トリガおよび測定条件

4: 追加信号

5: アラームを設定

説明

転がり軸受けおよび測定信号の情報を入力してください。

ステップ: 転がり軸受けの詳細を指定

転がり軸受け名:

6202

?

ベアリングのタイプ:

6202 (FAG)

?

固定軌道輪:

☒ 外輪
☐ 内輪

?

振動信号:

☒ 振動センサ 1 (F4:3D:80:12:01:61)

?

回転数信号:

☒ 回転数入力 1 (F4:3D:80:12:01:61)

+

?

最大回転数 [0.1 - 100 Hz]:

50

☒ 最大速度偏差 (+/-)

5

%

☒ 次数解析

?

☐ エキスパート設定

戻る

次へ

キャンセル

3. 評価する【回転ごとのパルス(PPR)】をこのリストから選択します。  
この設定では、パルスが回転全体にわたってどのように分布するか(均一か不均一か)を知る必要があります。次数解析は、回転あたりのパルスが可能な限り規則的であることに依存します。パルスが不規則な場合、つまり2つのパルス間の角度が常に同じでない場合、回転あたりのパルスの一部を無視することが有効な場合があります。【回転ごとのパルス(PPR)】の設定を使用して、計算に使用されるパルス数を減らすことができます。これにより、回転数の値が変わることはありません。



【回転ごとのパルス(PPR)】リストボックスは、デジタル入力のコンフィギュレーションで【回転ごとのパルス(PPR)】を2~32の間に設定した場合にのみ表示されます。

値が32より大きい場合、振動モジュールは回転あたりのパルスを減らします。これは電力制限のためです。この場合、ウィザードのステップ2に【回転ごとのパルス(PPR)】リストボックスは表示されません。

4. 【次へ】をクリックして、必要に応じて他のステップでさらに設定を行い、【OK】をクリックして、ウィザードを終了します。

## 8.3 測定タスク

振動監視システムである Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink がお使いの機械を監視し、必要に応じてアラームを出力するためには、入力信号を測定し、特性値を計算する必要があります。そのための規則をまとめたものが測定タスクで、測定タスクは SmartWeb ソフトウェアで作成できます。

SmartCheck 或いは ProLink デバイスの特徴は、測定タスクや特性値の計算規則を作成する際に、充実したサポートが用意されていることです。測定タスクの作成は、コンフィギュレーションウィザード<sup>73)</sup>を使って行います。ウィザードの最初のステップで、お使いの機械に適したテンプレート<sup>74)</sup>を選択します。選択されたテンプレート(例えば、2個のギヤをモニタリングするためのギヤ段)に従って、SmartCheck 或いは ProLink デバイスが自動的に適切な特性値を作成します。さらに、各測定タスクに対し、すべての特性値のアラームステータスをまとめた上位のアラーム特性値が生成されます。

SmartCheck 或いは ProLink デバイスによって作成される特性値は、SmartWeb ソフトウェア内の該当する一覧で確認できますが、編集することはできません。ただし、コンフィギュレーションウィザードで、測定タスクに適用するさまざまな枠組みを指定できます。例えば、トリガまたは条件<sup>75)</sup>、アラームと追加信号の関係、学習モードのアクティブ化などです。

システムで適切なモニタリングを行うには、コンフィギュレーションウィザードで正しいテンプレートと正しい項目を選ぶことが重要です。これらの作業手順において、以下の節を参考にしてください。次のような情報があります。

- 測定タスク<sup>72)</sup>領域の詳しい説明。

- 測定タスクを作成するためのコンフィギュレーションウィザードのステップ「73」の概要。この節では、各ステップの要約と、コンフィギュレーションウィザードに表示されるインフォメーションを補足する詳細情報を紹介します。
- 測定タスクの作成時に使用できるテンプレートの一覧「74」。
- 学習モード「84」とアラーム特性マップ「86」の詳しい説明。この 2 つは、モニタリングのために SmartCheck 或いは ProLink デバイスに用意された特別な機能です。いずれの機能も、コンフィギュレーションウィザードからアクティブ化します。

### 8.3.1 測定タスク領域

測定タスク領域には、SmartCheck 或いは ProLink デバイス用に作成した測定タスクの一覧が表示されます。各測定タスクには、以下の要素が含まれます。

- 測定コンフィギュレーション: コンフィギュレーションによって、どの入力を介して測定するか、どの測定を実行するかが決まります。
- 特性値のコンフィギュレーション: これらの値は、内部テンプレートに従って測定信号から自動的に算出されます。
- オプションの要素: 測定の実行は、測定タスクにトリガまたは条件「74」を適用することで制御できます。

これらの要素とその詳細は、測定タスク領域で表示し、一部を編集することができます。SmartCheck デバイスまたは各 ProLink 振動センサーの工場出荷時の状態では、基本コンフィギュレーションが設定されています。

左側に展開された一覧には、SmartCheck 或いは ProLink デバイスのすべての測定タスクが表示されます。測定タスクをクリックすると、メインパネルに次のような情報と機能が表示されます。

- 測定タスクには、測定タスクの名前の他に、適用されているトリガや条件といった詳細が表示されます。さらに、変更の詳細を記載した灰色のボックスや【編集】、【複製】、【削除】、【作成】の各ボタンが表示されます。
- 特性値のコンフィギュレーションには、選択されている測定タスクに属する個々の特性値が表示されます。値の 1 つをクリックすると、右側に詳細が表示されます。詳細の一部は、測定タスクの作成「73」時にユーザーが行った設定であり、その他は、ウィザードがシステムテンプレートを介して自動的に補足したものです。
- 測定コンフィギュレーションには、この測定タスクに属する測定が表示されます。測定の 1 つをクリックすると、右側に詳細が表示されます。詳細の一部は、測定タスクの作成「73」時にユーザーが行った設定であり、その他は、ウィザードがシステムテンプレートを介して自動的に補足したものです。  
また、特性値のコンフィギュレーションでは、選択されている測定に属する特性値が自動的に太字で強調されます。
- 選択されている測定タスクを編集「73」することができます。



- 選択した測定タスクは複製できます。そのためには、**【複製】**をクリックします。選択した測定タスクのコピーを示すコンフィギュレーションウィザードが開きます。このコピーに新しい名前を付ける必要があります。既存の測定タスクから引き継がれたその他のパラメータはすべて通常どおり編集<sup>73)</sup>できます。
- 選択した測定タスクを無効または有効にできます。無効にされた測定タスクはもはや測定のためにスケジュールされず、または測定トリガーによって開始されません。
- 新しい測定タスクを追加<sup>73)</sup>することができます。
- 選択されている測定タスクは、削除<sup>74)</sup>することができます。それには、**削除** をクリックし、**OK** で確定します。
- 右上の<sup>75)</sup> をクリックすると、コンフィギュレーション一覧<sup>64)</sup>が開きます。



- SmartWebソフトウェアのほとんどの作業領域で、左側に表示されるアクションに新しい測定タスクを作成というメニュー項目があり、システムの主要な作業である新規測定タスクの作成がいつでもできるようになっています。
- 測定タスクの特性がコントローラのアラームステータスの構成<sup>114)</sup>に使用されている場合、この測定タスクを削除することはできません。さらに、追加チャネルやアラームフィールド設定の変更など、特定の変更はできません。
- **即時測定の開始**<sup>37)</sup> オプションを使用すると、非アクティブな測定タスクも測定できます。たとえば、確認するためです。即時測定の後、測定タスクは引き続き非アクティブのままです。  
**即時測定の開始**オプションは、測定タスクの「ステータス」セクションのコンテキストメニューで見つけることができます。

### 8.3.2 新しい測定タスクの作成/編集

測定タスクを作成、複製または編集する場合、コンフィギュレーションウィザードが開きます。このウィザードに従うと、順を追って測定タスクを作成できます。構成部品の特性値を算出する複雑な計算プロセスは、適切なテンプレート<sup>77)</sup>を通じて進められるため、手動で入力しなければならない情報は限られています。



入力信号を使用してモニタリングを行うためには、ウィザードを開く前に入力コンフィギュレーション<sup>67)</sup>を作成する必要があります。

コンフィギュレーションウィザードは複数のステップで構成されており、左側に最初から表示されます。実行するステップの数は、どのコンポーネントテンプレートを選択したか、エキスパート設定をオンにしたかによって異なります。

コンフィギュレーションを作成

ステップ

1: 構成部品を選択

2: 基本コンフィギュレーションの詳細を指定

3: 保存設定 / 測定トリガおよび測定条件

4: 追加信号

5: アラームを設定

説明

ここでは、構成部品テンプレートを  
選択します。選択したテンプレート  
に応じて、ウィザードのこれ以降の  
ステップが自動的に生成されます。

ステップ: 構成部品を選択

コンポーネントテンプレート:

基本コンフィギュレーション

?

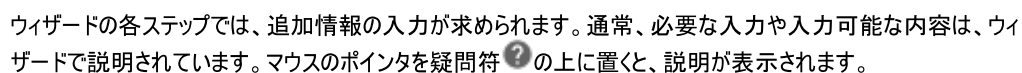
説明:  
広帯域測定向けのコンポーネントテンプレート

☐ エキスパート設定

戻る

次へ

キャンセル

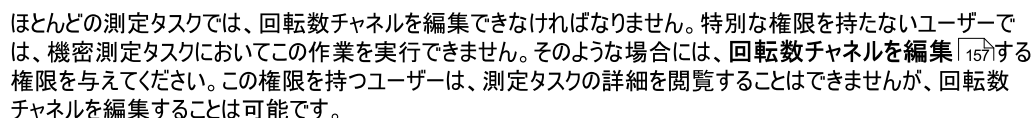


以下の項では、各ステップの要約と、基本的なヘルプ情報以外の情報について説明します。


## 構成部品を選択

既定の一覧から監視したい構成部品を選択します。選択内容によって、どのシステムテンプレート「77」を使って測定コンフィギュレーションが作成されるかが決まります。

エキスパート設定をオンにすると、ここで機密オプションを有効にできます。これにより、測定タスクはユーザーインターフェースに表示されたまま、測定が通常どおり進行します。しかし、機密測定タスクのアラーム限界および周波数帯域は、特別な権限を持つユーザー「15」にだけ表示されます。その他のすべてのユーザーは、測定タスクの詳細を閲覧することも編集することもできません。この制限は、測定タスク領域以外に、リアルタイム領域および測定データ領域の周波数帯域表示にも当てはまります。



### 構成部品の詳細を指定

選出した構成部品に関する詳細を指定します。構成部品によって、最大回転数、取付けのタイプ、ブレードまたは羽根の数などの設定を行います。また、どの入力信号に基づいて監視を行うかについても決定します。測定中に回転数が変動する可能性のある機械を監視している場合は、次数解析を有効にして設定  できます。これにより、測定時の回転数変動による監視結果への影響が軽減されます。次数解析は、複数の周波数ウィンドウを使用するすべての測定タスクで可能です。

構成部品がベアリングの場合、ベアリングの種類をシステムのベアリングデータベースから直接選択できます。ベアリングがデータベースにない場合は、ウィザードを使って作成できます。



このステップでは、多くのテンプレートで、回転数信号と最大回転数が必要です。回転数信号に対しては自動的に特性が作成されます。そのアラームしきい値は、入力した最大回転数に左右されます。ウィザードで作成された他の特性値は概要の最後のステップで表示されますが、この特性値はバックグラウンドのままです。そのため、この特性値については、アラームしきい値を変更することも学習モード「84」をアクティブにすることもできません。

この特性値を使用するシステムのデフォルトのアラームしきい値は、以下のように計算されます。

- プリアラーム: 入力した最大回転数を 1% 超えた値
- メインアラーム: 入力した最大回転数を 5% 超えた値

## エキスパート設定を行う／ヴェルハウゼンカウンター向けのエキスパート設定を行う

このステップは、ウィザードの左下でエキスパート設定をアクティブにした場合のみ、表示されます。また、ヴェルハウゼンカウンター向けのエキスパート設定を行うステップは、標準コンフィギュレーションでのみ使用できます。どちらも、スペクトル線の数や包絡線向けのハイパスを指定するなど、特定の測定タスクのテンプレートのプリセット値を調整します。

このステップを編集するには、専門知識が必要になります。



スペクトル線の数で指定した値は、記録される信号の長さを左右します。振動測定は、すべてこの値に従って行われます。そのため、それぞれの測定の所要時間は異なる場合があります。最長の振動測定の所要時間によって、その他の追加測定すべての測定時間が決まります。

$$\text{振動信号の測定時間 [s]} = \text{線／ローパスの数}$$

追加チャンネルは、最長の振動測定に必要な値と同数の値を記録しますが、その数は 100,000 を超えません。これは、アナログ入力の場合、およそ 78 秒の測定時間に相当します。

## 学習モードの設定を行う

このステップは、ウィザードの左下でエキスパート設定をアクティブにした場合のみ、表示されます。学習モードがアラームしきい値の計算に使用するアルゴリズム、メインアラームやプリアラームを求めるための係数を指定できます。



学習モードのタイプを選択した場合は、次の点に注意してください。

- 標準誤差: この方法は、信号が変動し、あまり安定しない場合、つまり信号分散を示す  $\Sigma$  の値が大きい場合を考慮に入れます。
- 最高値: デフォルトで選択されている方法で、多くの場合により適した選択肢です。この方法は、振動値が安定している、つまり信号分散を示す  $\Sigma$  の値が小さい場合に選択します。

このステップを編集するには、専門知識が必要になります。

## 保存設定／トリガおよび条件

どのくらいの頻度でトレンドと時間信号を保存するかを指定します。また、測定が測定トリガ「97」、時間トリガ、測定条件「100」または時間条件に依存するかどうかを指定できます。

測定トリガや測定条件を作成していない場合や、既存のものがニーズに合わない場合は、ウィザードを使って作成することができます。時間トリガと時間条件は、ウィザードでのみ作成可能です。詳細は、トリガおよび条件「77」の節をご覧ください。

## 追加信号

追加の入力信号を測定コンフィギュレーションに追加できます。入力信号を追加すると、テンプレートによって自動的に生成されるトレンドが、特性値のトレンドに追加されます。





自動的に作成された追加信号の特性値は、コンフィギュレーションウィザードの最終ステップで特性値の概要に表示されます。また、これらの特性値のアラームしきい値を変更することも可能です。

通常は、追加信号に対して学習モード「84」をアクティブにする必要はありません。学習モードを許可したい場合は、ウィザードの最後のステップで設定できます。

## アラームのリセット／設定

このステップでは、以下を指定します。

- アラームを自動的にリセットするか、または コンテキストメニュー「」などを使って手動でリセットするか。
- 学習モードを常に許可するかどうか、また、どの特性値に対して許可するか。
- 学習モード「アラームしきい値」を測定された機械パラメータから計算させるかどうか（アラーム特性マップ「」）。
- メインアラームとプリアラームのしきい値の値。すべての特性値、または個々の特性値に対して指定できます。
- 対称な信号の値範囲に負の値が含まれる場合に、下位メインアラームおよびプリアラームのしきい値がある場所。これらのオプションは、追加信号にのみ適用されます。
- アラームのリセット方法。すべての特性値、または個々の特性値に対して指定できます。

【エキスパート設定】が有効になっている場合は、アラームのステータスが変更される前にアラーム制限を超えるまたは下回る頻度を設定することもできます。



アラームしきい値を他の信号に対応して変更オプションをアクティブにした場合は、学習モードを許可しないと、オプションが作用しません。

測定範囲を超えてはいけなまたは下回ってはいけな限界が既知の場合は、学習モードを使用しないでください。これは、例えば温度、圧力、または負荷の場合があります。この場合、機械の仕様に従ってアラームの限界を入力してください。

ISO に基づく特性値の場合、アラームしきい値には、デフォルトで機械のクラス II の限界値が設定されます。学習モードがデフォルトでアクティブであるため、場合によっては ISO に基づくアラームしきい値が上書きされる可能性があります。

アラーム設定:

☐ 同じ単位のすべての特性値向けの同一アラーム設定 ?

☒ 個々の特性値向けのアラーム設定

1. アラーム設定の対象 "ISO10816-1 (2Hz - 1kHz) - 速度"

機械等級 (ISO 10816) ?

メインアラーム:  mm/s      プリアラーム:  mm/s

下位プリアラーム:  mm/s ?

☒ 学習モードを使用

2. アラーム設定の対象 "RMS 広帯域 - 加速 (総合ステータス)"

メインアラーム:  g      プリアラーム:  g

下位プリアラーム:  g ?

☐ 学習モードを使用

次のようなオプションがあります。

### 8.3.3 測定コンフィギュレーションで利用可能なテンプレート

コンフィギュレーションウィザードの最初のステップでは、機械を監視する測定タスクの作成に使用するテンプレートを選択する必要があります。以下に、各テンプレートがどのような機械や監視に最も適しているかを簡単にまとめます。

- **基本コンフィギュレーション**: このテンプレートは、広範な測定に使用できます。すべての機械で使用できますが、一般的な監視しか提供されません。
- **ユーザー定義による周波数帯域**: ユーザー定義の周波数帯域を指定する場合に、このテンプレートを使います。帯域ごとに独自の特性値が作成されます。このテンプレートを使用するには、専門知識が必要です。
- **ギヤ段**: 2 つの歯車の継続的なモニタリングに使います。
- **滑り軸受**: 油膜のあるベアリングのモニタリングに使います。
- **チャンネルモニタリング**: 最大 3 つのチャンネルを(コンディションガードと同様に)常時監視でき、変化にすばやく対応することができます。
- **カップリング**: ジョーカップリングのモニタリングに使います。
- **ファン**: ファンブレードのモニタリングに使います。
- **速度に依存する周波数帯域**: 速度に依存する周波数帯域を指定する場合に、このテンプレートを使います。帯域ごとに独自の特性値が作成されます。速度に依存する周波数帯域は、回転数信号によってシフトします。周波数は Hz ではなく回転数で正規化されます。


このテンプレートを使用するには、専門知識が必要です。

例:

回転周波数を使ってアンバランスを検出しようとしています。そのために、0.95 ~ 1.05 という範囲を設定します。回転数が 50 Hz の場合、デバイスは周波数帯域を動的に調整します:  
 $(50 \text{ Hz} * 0.95 =) \mathbf{47.5 \text{ Hz}} \sim (50 \text{ Hz} * 1.05 =) \mathbf{52.5 \text{ Hz}}$

- **プロセス信号の監視**: このテンプレートを使用すると、最大 8 つの入力チャンネルからのプロセス信号を同時に監視できます。振動入力を除いて、監視のためにすべてのチャンネルを選択できます: 物理的に存在するシステム内のチャンネルおよび OPC/UA、SLMP、PROFINET、および EtherNet/IP を介して送信される外部チャンネル。このテンプレートでは振動信号を監視できません。
- **ポンプ**: ポンプのベアリングのモニタリングに使います。
- **ベルトドライブ**: ベルトドライブのモニタリングに使います。
- **標準コンフィギュレーション**: このテンプレートは、異なるフィルタを使った広範な測定に使用できます。すべての機械で使用できますが、一般的な監視しか提供されません。
- **シャフト**: シャフトのモニタリングに使います。
- **転がり軸受**: 転がり軸受のモニタリングに使います。
- **時間同期平均化 (実験的)**: 異なる回転数を持つ複数のコンポーネントを持つ機械の正確な分析には、このテンプレートを使用してください。時間同期平均化を使用すると、信号をより効果的に分離して個々のコンポーネントに明確な信号を得ることができます。
- **コンディションガード**: この特殊テンプレートは、ISO 10816-1 に従って機械を常時モニタリングする際に使います。



上記の測定テンプレートの一部は、使用にライセンスが必要であり、追加ライセンスでのみ使用できます。現在のライセンスの一覧は、ヘルプメニューのライセンスマネージャを開く「」で確認できます。

### 8.3.4 トリガおよび条件





SmartCheck 或いは ProLink デバイスは、通常は測定タスクを一定の順序で処理します。トリガと条件を使うと、このシーケンスを中断することができます。トリガと条件は、**保存設定 / 測定トリガおよび測定条件**のステップで作成・編集することができます。

コンフィギュレーションを編集

Schaeffler SmartWeb



ステップ	ステップ: 保存設定 / 測定トリガおよび測定条件
<div>1: コンポーネントを選択</div> <div>2: 基本コンフィギュレーションの詳細を指定</div> <div>3: エキスパート設定を行う</div> <div>4: 学習モードの設定を行う</div> <div>5: 保存設定 / 測定トリガおよび測定条件</div> <div>6: 追加信号</div> <div>7: アラームを設定</div>	<div> <div>傾向の保存設定:</div> <div> <div>1</div> <div>時</div> <div>?</div> </div> </div> <div> <div>時間信号向けの保存設定:</div> <div> <div>1</div> <div>日</div> <div>?</div> </div> </div> <div> <div>測定トリガおよび測定条件:</div> <div> <div>+ 時間トリガ</div> <div>+ 測定トリガ</div> <div>?</div> </div> <div> <div>+ 時間条件</div> <div>+ 測定条件</div> </div> </div> <div> <div>説明</div> <div> <p>ここでは、傾向値と時間信号をどれくらいの頻度で保存するかを決定します。さらに、測定のために満たされなければならない条件および測定を開始させるトリガを決定することができます。</p> </div> </div> <div> <div>この測定条件を取り除きます。</div> </div>
<input checked="" type="checkbox"/> エキスパート設定	<div> <div>戻る</div> <div>次へ</div> <div>キャンセル</div> </div>

ここでは、次のようなトリガと条件を作成できます。

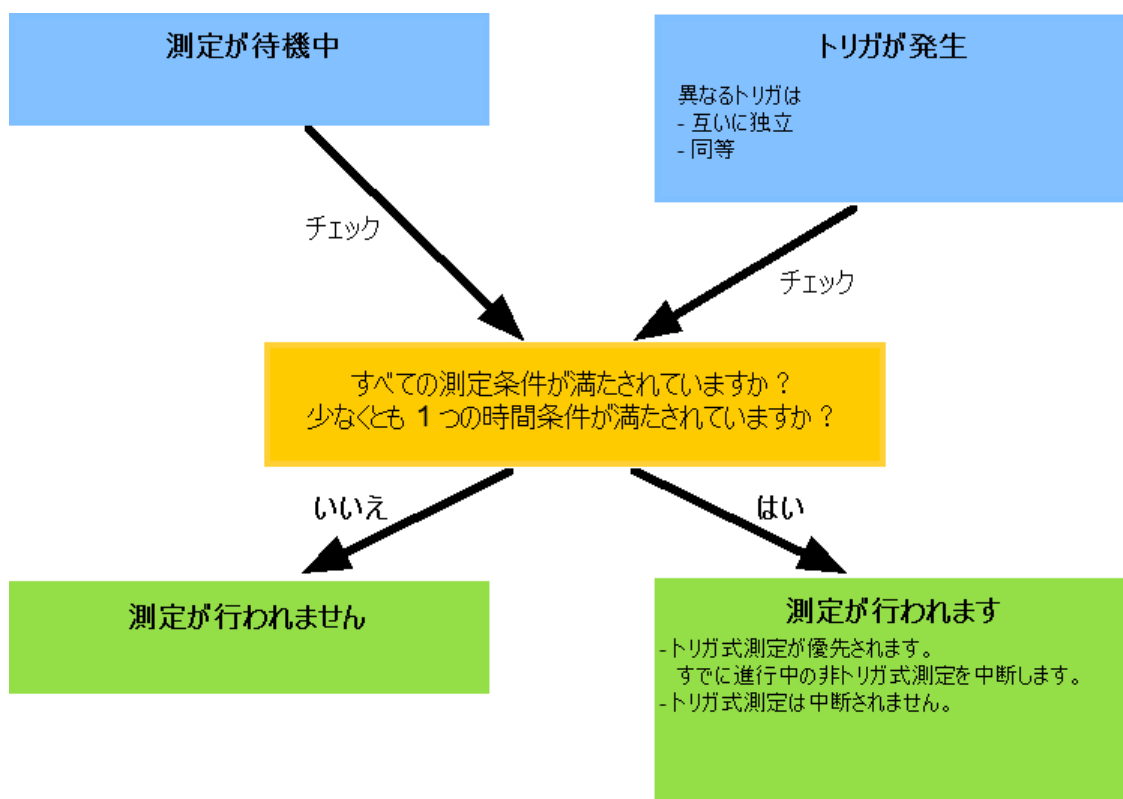
- 時間トリガ 
- 測定トリガ 
- 時間条件 
- 測定条件 

これに関する詳細は、次の項をご覧ください。



- 測定トリガと測定条件は、ウィザードを使わなくても、測定トリガ  と測定条件  の各領域で作成・編集できます。そこで作成したトリガや条件は、ウィザードのリストボックスに表示されるようになります。
- 測定トリガや測定条件は、出力コンフィギュレーションでは使用できません。
- 測定トリガや測定条件には、それぞれに特性値が作成されます。この特性値は、測定トリガおよび測定条件測定タスクの一覧に表示されます。  
トリガまたは条件が少なくとも 1 つの測定タスクで使用される場合のみ、該当する特性値が保存されます。トリガまたは条件を作成する際に、保存間隔を指定します。また、特性値は、状態が変化したとき、例えば条件が有効から無効に変わったときや、トリガが作動したときなどにも保存されます。  
特性値のトレンドを元に、測定トリガおよび測定条件が現場の機械において期待どおりに動作しているかどうかを点検することができます。つまり、測定トリガが実際に作動するか、測定条件が正常に有効化・無効化されるかを点検できます。

次の図は、条件とトリガの作用や優先順位を示します。




以下のような状況では、トリガによって引き起こされる測定が開始されません。

- トリガが作動した時点で条件が満たされていない。
- すでにトリガによって引き起こされた測定が実行中である。

#### 8.3.4.1 時間トリガ

時間トリガを使うと、定期的に測定を実行するための時間間隔（例えば 5 分おき）を指定することができます。時間トリガは、測定タスクごとに 1 つしか作成できません。

##### 時間トリガを作成する方法

1. 時間トリガボタン  をクリックしてください。
2. 時間トリガの下で必要な設定を行います。

ステップ: 保存設定 / 測定トリガおよび測定条件

傾向の保存設定:

1 時 ?

時間信号向けの保存設定:

1 日 ?

測定トリガおよび測定条件:

時間トリガ + 測定トリガ ?

+ 時間条件 + 測定条件

時間トリガ:

測定インターバル: すべて 1 分 ?

測定開始: 1 2 月 12 2019 ?

1:52 HH:MM

アクション: - ?


次のオプションがあります:

#### 測定インターバル


測定をどのような間隔で反復するかを指定します。インターバルは、分、時間、日単位で指定できます。

#### 測定開始


測定の開始日時を指定します。次のオプションがあります:

- 開始日付は、リストボックスから選択するか、カレンダー  を使って直接設定することができます。
- 開始時間は **HH:MM** フィールドに入力します。

—

この時間トリガを削除するには、削除  をクリックします。

?

マウスのポインタを疑問符  の上に置くと、追加情報が表示されます。



時間トリガは、夏時間から冬時間への切替によって生じる時差を無視します。


例:

- 冬に作成した時間トリガで、測定開始を 14:00 に設定しました。夏になると、測定開始は 15:00 に変わります。
- 夏に作成した時間トリガで、測定開始を 14:00 に設定しました。冬になると、測定開始は 13:00 に変わります。

#### 8.3.4.2 測定トリガ

測定トリガを使用すると、測定のシーケンスを中断することができます。定義したトリガ条件が満たされると、現在の測定が中断され、測定トリガによって引き起こされる測定が開始します。

##### 測定トリガを作成する方法

1. 測定トリガボタン  をクリックします。
2. 測定トリガの下で必要な設定を行います。



ステップ: 保存設定 / 測定トリガおよび測定条件

傾向の保存設定:

1 時 ?

時間信号向けの保存設定:

1 日 ?

測定トリガおよび測定条件:

+ 時間トリガ + 測定トリガ ?

+ 時間条件 + 測定条件

測定トリガ:

測定トリガ 1:

測定トリガ 1

アクション:

+ - ?

次のオプションがあります:

測定トリガ  
(リストボックス)

このリストには、測定トリガ<sup>97</sup>領域で作成した測定トリガが表示されます。ここで、任意の測定トリガを選択します。

+

選択リストの中に適切な測定トリガがない場合は、新しい測定トリガを作成するために<sup>+</sup>をクリックします。測定トリガを追加ダイアログが開いたら、必要な設定を行います。詳細は、測定トリガを追加／編集<sup>98</sup>の節をご覧ください。

—

この測定トリガを削除するには、削除<sup>—</sup>をクリックします。

?

マウスのポインタを疑問符<sup>?</sup>の上に置くと、追加情報が表示されます。

#### 8.3.4.3 時間条件

時間条件を使うと、測定を特定の時間に実行することができます。

##### 時間条件を作成する方法

1. 時間条件ボタン<sup>+</sup>をクリックします。
2. 時間条件の下に必要な設定を行います。

コンフィギュレーションを編集

Schaeffler SmartWeb

ステップ

1: コンポーネントを選択

2: 基本コンフィギュレーションの詳細を指定

3: エキスパート設定を行う

4: 学習モードの設定を行う

5: 保存設定 / 測定トリガおよび測定条件

6: 追加信号

7: アラームを設定

説明

ここでは、傾向値と時間信号をどれくらいの頻度で保存するかを決定します。さらに、測定のために満たされなければならない条件および測定を開始させるトリガを決定することができます。

ステップ: 保存設定 / 測定トリガおよび測定条件

傾向の保存設定:

1

時

?

時間信号向けの保存設定:

1

日

?

測定トリガおよび測定条件:

+ 時間トリガ

+ 測定トリガ

?

+ 時間条件

+ 測定条件

時間条件:

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	アクション:
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<div>?</div>
最低周波数: 8:00 HH:MM		最高周波数: 17:0 HH:MM					

☒ エキスパート設定

戻る

次へ

キャンセル

次のオプションがあります:

月曜日～日曜日

測定を開始する日をアクティブにします。

開始終了

測定を実行する時間を指定します。

開始時刻と終了時刻は、2 日にまたがってもかまいません。

例: 月曜日と火曜日を有効にし、時間を開始: 17:00 終了: 8:00と設定します。  
 この場合、測定は月曜日の午後 5 時に開始され、火曜日の午前 8 時に終了します。火曜日の午後 5 時まで休止した後、水曜日の午前 8 時まで再び測定が実行されます。

—

この時間条件を削除するには、削除  をクリックします。

?

マウスのポインタを疑問符  の上に置くと、追加情報が表示されます。

- 1 つの測定タスクに複数の時間条件が定義されている場合は、すべてが満たされないと測定が実行されません。
- 時間条件は、夏時間から冬時間への切替によって生じる時差を無視します。  
 例:
  - 冬に作成した時間条件で、測定時間を開始 14:00 終了 16:00 と設定しました。この時間は、夏になると15:00～17:00 にずれます。
  - 夏に作成した時間条件で、測定時間を開始 14:00 終了 16:00と設定しました。この時間は、冬になると13:00～15:00 にずれます。

82

### 8.3.4.4 測定条件

ここでは、時間条件と同様に、定義した条件が満たされないと測定が実行されません。測定が予定されているのに、定義した測定条件が満たされない場合、デバイスはその測定をスキップして次の測定に移ります。

#### 測定条件を作成する方法

1. 測定条件ボタン **+** をクリックします。
2. 測定条件の下で必要な設定を行います。

ステップ: 保存設定 / 測定トリガおよび測定条件

傾向の保存設定:

1

時

?

時間信号向けの保存設定:

1

日

?

測定トリガおよび測定条件:

+ 時間トリガ

+ 測定トリガ

?

+ 時間条件

+ 測定条件

測定条件:

測定条件 1:

機械が作動

アクション:

?

+

-

次のオプションがあります:

**測定条件**  
(リストボックス)

このリストには、測定条件 **100** 領域で作成した測定条件が表示されます。デフォルトで選択されている測定条件 **機械が作動** は、デバイスで事前設定されています。これは、ProLink デバイスでは削除できませんが SmartCheck 或いは ProLink デバイスでは削除できません。  
ここで、任意の測定条件を選択します。

**+**

リストボックスの中に適切な測定条件がない場合は、新しい測定条件を作成するために **+** をクリックします。測定条件を追加ダイアログが開いたら、必要な設定を行います。詳細は、測定条件を追加／編集 **101** の節をご覧ください。

**-**

この測定条件を削除するには、削除 **-** をクリックします。

**?**

マウスのポインタを疑問符 **?** の上に置くと、追加情報が表示されます。



1 つの測定タスクに複数の測定条件が定義されている場合は、すべてが満たされないと測定が実行されません。

### 8.3.5 設置階次分析

測定コンフィギュレーションの多くのテンプレートでは、ウィザードのステップ 2 で、どの入力信号に基づいて監視を行うかを決定します。監視が測定された回転数信号に基づいており、回転数が振動モジュールのデジタル入力から測定される場合、次数解析を有効にして設定できます。これにより、回転数変動による監視結果への影響が軽減されます。次数解析により、振動信号を測定時の回転数変動の影響を低減した信号に変換します。風力タービンやエレベーターなど、非常に動的な回転数を持つ機械に対してこのオプションを有効にすることができます。

この機能を使用し、設定するには、次の手順に従います。

1. ウィザードのステップ 2 の【回転数信号】で必要な回転数入力を選択します。  
 次数解析には高分解能の回転数信号が必要です。このため、振動モジュールのデジタル回転数入力を選択し、【次数解析】オプションを有効にして、編集する必要があります。
2. 【次数解析】オプションを有効にします。【回転ごとのパルス(PPR)】リストボックスが表示されます。

コンフィギュレーションを作成	
<b>ステップ</b>  1: 構成部品を選択 2: 転がり軸受けの詳細を指定 3: 保存設定 / 測定トリガおよび測定条件 4: 追加信号 5: アラームを設定  <b>説明</b>  転がり軸受けおよび測定信号の情報を入力してください。	<b>ステップ: 転がり軸受けの詳細を指定</b>  <b>転がり軸受け名:</b> <input type="text" value="6202"/> ?  <b>ベアリングのタイプ:</b> <input type="text" value="6202 (FAG)"/> ? <input type="button" value="Q"/> <input type="button" value="+"/>  <b>固定軌道輪:</b> <input checked="" type="radio"/> 外輪 ? <input type="radio"/> 内輪  <b>振動信号:</b> <input type="text" value="● 振動センサ 1 (F4:3D:80:12:01:61)"/> ?  <b>回転数信号:</b> <input type="text" value="● 回転数入力 1 (F4:3D:80:12:01:61)"/> + ?  <b>最大回転数 [0.1 - 100 Hz]:</b> <input type="text" value="50"/>  <input checked="" type="checkbox"/> 最大速度偏差 (+/-) <input type="text" value="5"/> %  <input checked="" type="checkbox"/> 次数解析 ?  <input type="checkbox"/> エキスパート設定
<input type="button" value="戻る"/> <input type="button" value="次へ"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	

3. 評価する【回転ごとのパルス(PPR)】をこのリストから選択します。  
 この設定では、パルスが回転全体にわたってどのように分布するか(均一か不均一か)を知る必要があります。次数解析は、回転あたりのパルスが可能な限り規則的であることに依存します。パルスが不規則な場合、つまり 2 つのパルス間の角度が常に同じでない場合、回転あたりのパルスの一部を無視することが有効な場合があります。【回転ごとのパルス(PPR)】の設定を使用して、計算に使用されるパルス数を減らすことができます。これにより、回転数の値が変わることはありません。



【回転ごとのパルス(PPR)】リストボックスは、デジタル入力のコンフィギュレーションで【回転ごとのパルス(PPR)】を 2~32 の間に設定した場合にのみ表示されます。

値が 32 より大きい場合、振動モジュールは回転あたりのパルスを減らします。これは電力制限のためです。この場合、ウィザードのステップ 2 に【回転ごとのパルス(PPR)】リストボックスは表示されません。

4. 【次へ】をクリックして、必要に応じて他のステップでさらに設定を行い、【OK】をクリックして、ウィザードを終了します。

### 8.3.6 学習モードとアラーム特性マップ

測定タスクを作成すると、関連する特性値が自動的に生成されます。これらの特性値に対しては、最初は SmartCheck 或いは ProLink デバイスのデフォルトのアラームしきい値が適用されます。コンフィギュレーションウィザードのアラームを設定のステップで学習モードをアクティブにし、学習モードを開始すると、SmartCheck 或いは ProLink デバイスは、該当する特性値の測定値を評価し、アラームしきい値を機械に合わせて調整します。学習モードが完了すると、デフォルトのアラームしきい値は新たに計算されたアラームしきい値で置き換えられます。

学習モードの使用には、単純な標準設定<sup>85</sup>を使用するシナリオと、他の信号(機械パラメータ)を 1~2 つ使用したアラーム特性マップ<sup>86</sup>と共に使用するシナリオの 2 つがあります。2 つのシナリオについては、以下の節で詳しく説明します。その後の節では、学習モードの使用<sup>89</sup>に関する重要な情報や、\*\*\*<sup>90</sup> SmartCheck 或いは ProLink デバイスの初期セットアップ時の手順などを紹介します。

# シナリオ1: デフォルト設定での学習モード

測定タスクを作成すると(この例では事前設定されている基本コンフィギュレーション)、アラームを設定のステップで学習モードがすべての振動特性値に対してアクティブになります。

コンフィギュレーションを編集

Schaeffler SmartWeb

ステップ

1: コンポーネントを選択

2: 基本コンフィギュレーションの詳細を指定

3: 保存設定 / 測定トリガおよび測定条件

4: 追加信号

5: アラームを設定

説明

ここでは、アラームレベルを決定し、これが他の信号に依存するかどうかを決定します。また、ここでアラームをリセットする方法を設定できます。

ステップ: アラームを設定

可変アラームレベル:

☐ アラームレベルを他の信号に対応して変更

アラームをリセット:

☒ 自動 ☐ 手動

アラーム設定:

☐ 同じ単位のすべての特性値向けの同一アラーム設定

☒ 個々の特性値向けのアラーム設定

1. アラーム設定の対象 "ISO10816-1 (2Hz - 1kHz) - 速度"

機械等級 (ISO 10816)

メインアラーム: 7.1 mm/s プリアラーム: 2.8 mm/s

下位プリアラーム: 0.0 mm/s

☒ 学習モードを使用

2. アラーム設定の対象 "RMS 広帯域 - 加速 (総合ステータス)"

メインアラーム: 1.0 g プリアラーム: 0.7 g

下位プリアラーム: 0.0 g

☐ 学習モードを使用

☐ エキスパート設定

戻る OK キャンセル

ウィザードを **OK** で終了した後、学習モードがアクティブになっているすべての特性値で学習モードの開始が可能になります。次のオプションがあります:

- SmartCheck 或いは ProLink デバイスの **TEACH** ボタンを押して、学習モードがアクティブになっているすべての特性値に対し、学習モードを開始します。
- SmartWeb ソフトウェアで特性値のコンテキストメニューを開きます。学習モードを開始コマンドで、選択されている特性値の学習モードを開始します。
- SmartWeb ソフトウェアで測定タスクのコンテキストメニューを開きます。すべてに対して学習モードを開始コマンドで、選択されている測定タスクのすべての特性値に対して学習モードを開始します。

学習プロセスは、次のように進行します。

- Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスが 1000 個の測定値を記録します。個々の測定が、保存設定 / トリガと条件のステップで指定したトレンドの保存周期とは無関係に保存されます。このプロセスにかかる時間は、トリガと条件「77」によって異なります。



- デフォルトの測定値数である 1000 は、コンフィギュレーションウィザードで変更できます。それには、エキスパート設定オプションをアクティブにします。これにより、学習モードの設定を行うステップが表示され、値の数の変更が可能になります。
- **ISO10816-1 (2Hz - 1kHz) - 速度**または **ISO10816-1 (10Hz - 1kHz) - 速度**の特性値に対しては、デフォルトで学習モードが無効になっています。

- SmartCheck 或いは ProLink デバイスによって 1000 個の測定値がトレンドに保存されると、それに基づいて該当する特性値の新しいアラームしきい値が計算されます。その際、SmartCheck 或いは ProLink デバイスは、最高値をアルゴリズムとして使用します。この動作は、ウィザードの学習モードの設定「75」のステップで変更・調整することができます。
- 特性値の学習モードが終了すると、履歴「40」にメッセージが表示されます。メッセージには、新しく計算されたアラームしきい値も含まれています。アラームしきい値は、測定データ「42」領域にあるトレンドでも確認できます。

- 学習が終了すると、その特性値の学習モードは測定タスク内で自動的に無効になります。後で学習モードをもう一度開始したいときは、該当するチェックボックスをオンにして学習モードをアクティブにする必要があります。これは、コンフィギュレーションウィザード<sup>73</sup>またはアラーム設定を編集<sup>46</sup>ダイアログで実行します。
- このプロセスで学習モードが計算するのは、メインアラームとプリアラームのしきい値だけです。アラームを設定のステップで信号の最小値に指定した値は、新しいアラームしきい値と重なった場合に自動的に調整されます。

## シナリオ2: 学習モードとアラーム特性マップ

それぞれアラーム限界が異なる作動状態で機械が作動している場合、学習モードと一緒にアラーム特性マップが使用されます。この場合、1つまたは2つの追加の信号（機械パラメータ）で学習モードを実行できます。それには、SmartCheck 或いは ProLink デバイスが該当する信号をアナログ入力またはデジタル入力を通じて測定できなければなりません。以下の例は、コンフィギュレーションウィザードで追加指定するオプションを示しています。

異なる回転数で動作する機械の回転数範囲は2000～3000rpmです。学習モードで回転数範囲に応じたアラームしきい値を計算するためには、コンフィギュレーションウィザードのアラームを設定のステップで次のような項目を指定します。

ステップ: アラームを設定

可変アラームレベル:  
☒ アラームレベルを他の信号に対応して変更

最初のインプット信号:  
☐ デジタルインプット (回転...) ☐ -

最小 [RPM]: 2,000.0 最大 [RPM]: 3,000.0

2 番目のインプット信号:  
☐ ☐ -

最小:  最大:

アラームをリセット:  
☒ 自動 ☐ 手動

アラーム設定:  
☐ 同じ単位のすべての特性値向けの同一アラーム設定  
☒ 個々の特性値向けのアラーム設定

1. アラーム設定の対象 "ISO10816-1 (2Hz - 1kHz) - 速度"

機械等級 (ISO 10816)

メインアラーム: 7.1 mm/s プリアラーム: 2.8 mm/s

下位プリアラーム: 0.0 mm/s

☒ 学習モードを使用

- アラームしきい値を他の信号に対応して変更オプションをアクティブにします。
- 入力には回転数入力を選択します。この例ではデジタル入力が選択されています。
- 最小値 [RPM] を 2000 に設定します。
- 最大値 [RPM] を 3000 に設定します。
- 対応する特性値の学習モードをアクティブにします。

ウィザードを **OK** で終了すると、標準設定<sup>85</sup>の場合と同様に学習モードを開始できます。標準設定での学習プロセスとは、次のような点異なります。

- アラーム特性マップでは、2000～3000の基準速度範囲が10個の固定アラームフィールドに分割されます。

アラーム設定:

Schaeffler SmartWeb

**標準値:**

メインアラーム: 1.0 g

ブリアラーム: 0.7 g

信号の最小値: 0.0 g

学習モードを使用: はい

	6 000,0	12 000	18 000	24 000	30 000	36 000	42 000	48 000	54 000	60 000
	0,0	6 000,0	12 000	18 000	24 000	30 000	36 000	42 000	48 000	54 000
	oui	oui	oui	oui	oui	oui	oui	oui	oui	oui

メインアラーム: 1,0 g    ブリアラーム: 0,7 mm/s

下位ブリアラーム: 0,0 g    ☒ 学習モードを使用

変更をリセット
値をリセット
OK
キャンセル

- 個々のアラームフィールドに対し、SmartCheck 或いは ProLink デバイスが 1000 個の測定値を記録し、それに基づいて該当するアラームフィールドのアラームしきい値を計算します。
- アラームフィールドの新しいアラームしきい値が設定されるまで、デフォルトのアラームしきい値が適用されます。
- アラームフィールドは、個々に編集<sup>46)</sup>されます。そのため、あるアラームフィールドでは学習モードが終了していて、別のアラームフィールドではまだ標準のアラームしきい値が使われている、ということもあり得ます。
- あるアラームフィールドの学習モードが終了している場合、それを示すメッセージが履歴<sup>40)</sup>に表示されます。履歴には、新しく計算されたアラームしきい値も記録されています。
- 学習モードの実行中は、SmartCheck 或いは ProLink デバイスのステータス LED が点滅します。デバイスがアラーム特性マップですべてのアラームフィールドを処理する途中、すでに終了しているフィールドに達すると、点滅が中断されます。学習モードが終了していないフィールドに達した時点で点滅が再開されます。

また、2つの機械のパラメーターに従って学習モードを使用することも可能です。その場合は、コンフィギュレーションウィザードのアラームを設定のステップで 2 つ目の信号を指定します。

ステップ: アラームを設定

可変アラームレベル:

☒ アラームレベルを他の信号に対応して変更

最初のインプット信号:

☐ デジタルインプット (回転...)

2 番目のインプット信号:

☐ 負荷

アラームをリセット:

☒ 自動 ☐ 手動

アラーム設定:

☐ 同じ単位のすべての特性値向けの同一アラーム設定

☒ 個々の特性値向けのアラーム設定

1. アラーム設定の対象 "ISO10816-1 (2Hz - 1kHz) - 速度"

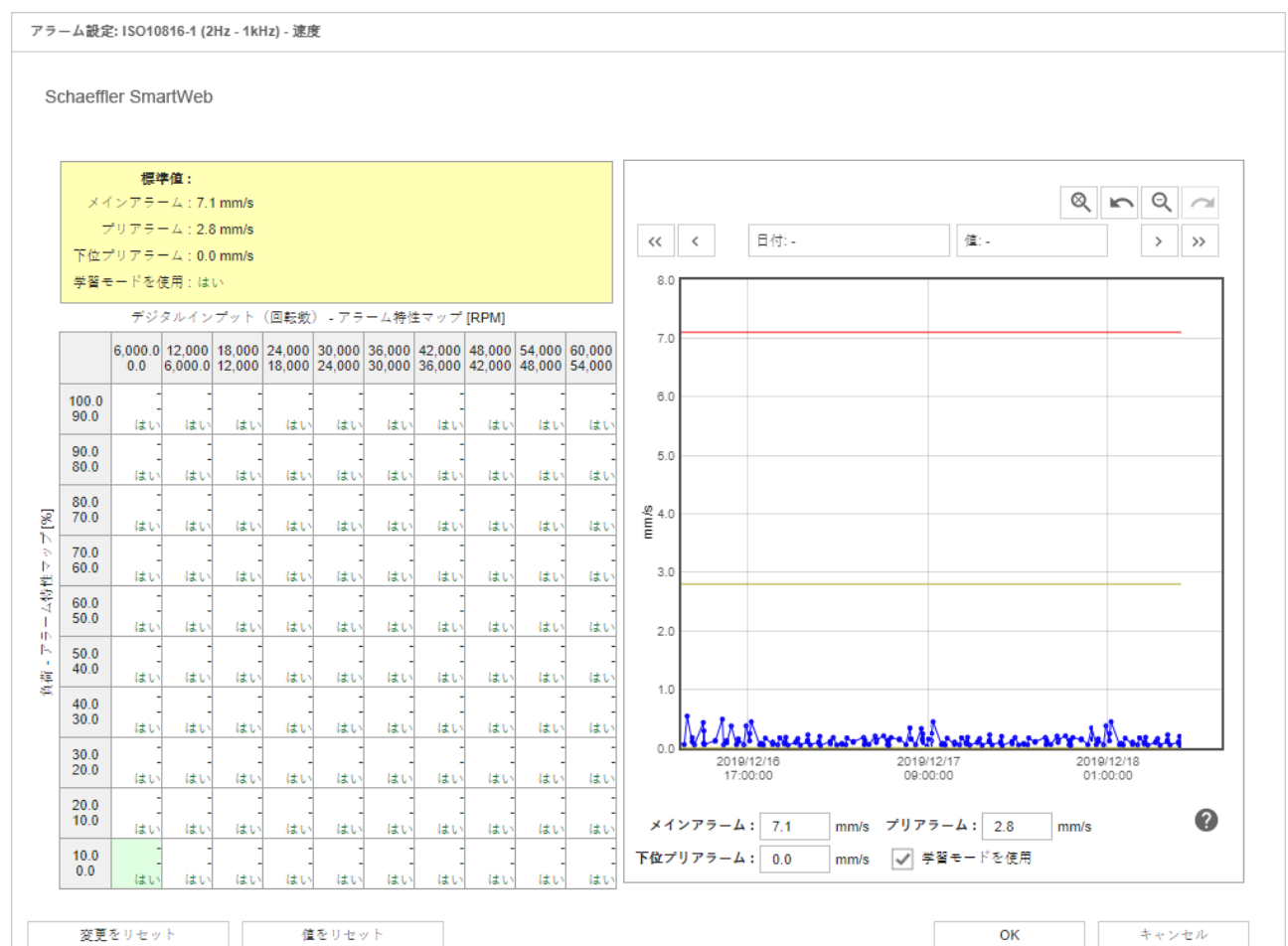
機械等級 (ISO 10816)

メインアラーム: 7.1 mm/s プリアラーム: 2.8 mm/s

下位プリアラーム: 0.0 mm/s

☒ 学習モードを使用

ウィザードを **OK** で終了した後、学習モードのプロセスを上記のように開始することができます。アラーム特性マップは大幅に拡張され、行列を構成する 100 個のアラームフィールドのそれぞれに対し、アラームしきい値が計算されます。







- SmartCheck 或いは ProLink デバイスは、バックグラウンドで機械パラメーターの特性値を作成します。そのアラームしきい値は、入力した値範囲に依存するため、ユーザーが手動で変更することはできません。
- 測定された値が指定した値範囲の外にある場合、SmartCheck 或いは ProLink デバイスは、隣接するアラームフィールドのアラームしきい値を使用します。
- ファームウェアのアップデート後は、学習モードが終了していたかどうかに関わらず、すべてのアラーム特性マップに対して**学習モード**を使用チェックボックスがアクティブになります。学習モードは、アップデート後にアクティブにならないため、特性マップには変化がありません。学習モードをアクティブにすると、すべての特性マップが新たに学習されるため、これまでに学習された値が失われます。それを防ぐには、次の手順に従います。SmartWeb ソフトウェアで 1 つまたは複数のフィールドを選択し、**学習モード**を使用チェックボックスをオンまたはオフにすることで、個々のフィールドの学習モードを設定します。

## 学習モードの一般情報

この節では、学習モードを使用する際に役立つ情報を紹介します。

### 学習モードが役立つ／使用できる場合とそうでない場合

- 学習モードを使用するには、機械が良い(破損していない)状態でなければなりません。ISO 10816-1 に従って振動を監視するには、機械の振動が ISO の特性値の範囲内になければならないという要件が追加されます。この要件は、「通常、長時間の作動に適していると見なされる」(ISO における良い機械状態の定義)機械に適用されます。
- 機械が通常の状態／作動状態でないと、学習モードは最適な値を決定できません。機械がアイドル状態の時や、始動時、停止時には、学習モードを開始しないでください。



機械の運転状態を判断する方法がわからない場合は、カスタマーサービスまでお問い合わせください。

- 一般的に、学習モードは振動信号と一緒に使用します。
- 測定範囲を超えてはいけなまたは下回ってはいけな限界が既知の場合は、学習モードを使用しないでください。これは、例えば温度、圧力、または負荷の場合があります。この場合、機械の仕様に従ってアラームの限界を入力してください。
- コンフィギュレーションウィザードの**追加信号**で指定した追加信号については、通常は学習モードは不要です。



学習段階ではアラームは出力されません。機械で大きな振動が発生している場合、学習モードが終了して初めてアラームが出力されます。SmartCheck 或いは ProLink デバイスのステータス LED は、黄色または赤で点灯します。これは、振動が大きすぎることを示している可能性があります。その場合は、機械と SmartWeb ソフトウェアでの設定を点検してください。必要に応じて振動の専門家またはカスタマーサービスにお問い合わせください(サポートを参照)。

### システムの変更が学習モードに及ぼす影響

- コンフィギュレーションウィザードの**アラームを設定**のステップで、アラーム特性マップに使用される信号の値範囲を変更すると、アラーム特性マップの規模も変更されます。そのため、ウィザードの完了時に、学習モードで計算されたすべてのアラームしきい値が破棄されます。新しく作成した測定タスクについては、すべてのアラームフィールドに再びデフォルトのアラームしきい値が適用されます。
- 学習モードを使用した場合、プロセスの開始時に SmartCheck 或いは ProLink デバイスが特性値の標準アラームしきい値を適用します。学習モードが完了すると、システムは新しいアラームしきい値のみを使用するようになります。特性値の標準アラームしきい値に変更を加えると、ただちにシステムに影響が及びます。そのため、学習段階でもアラームしきい値を調整することができます。
- SmartCheck 或いは ProLink デバイスをオフにすると、学習モードは中断されるだけで、これまでの測定結果は失われません。



学習モードがアクティブなときに機械をオフにすると、学習モードは機械が停止した状態で実行されます。そのため、正しい測定が行われず、適切なアラームしきい値が計算されません。したがって、機械を再び作動させる際に学習モードを再始動する必要があります。

### 学習モードを再始動する必要がある場合およびその結果

- 機械のパラメーターまたは振動挙動に変化があった場合は、必ず学習モードを再始動してください。たとえば、以下の場合が考えられます。
  - 修理後
  - 機械の構造変化後
  - 機械パラメーターの変更後

- 学習モードがすでに完了していた場合、新しいアラームしきい値の計算が終わるまで、再始動後もそれまでのアラームしきい値は保持されます。
- 学習モードが未完了で再始動された場合、それまでに測定されていた値は廃棄され、すべての設定値をもう一度測定する必要があります。

### 学習モードを有効にする/開始する方法

#### アクティブ化

- Schaeffler SmartWeb: 新しい測定タスクを作成または測定タスクを編集ウィザードのアラームを作成のステップで、または特性値のコンフィギュレーションの下のアラーム設定ボタンを使います。

#### 始動/再始動

- Schaeffler SmartWeb: 例えばステータス領域にある測定コンフィギュレーションや特性値のコンテキストメニューを使います。
- Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink: **TEACH**ボタンを使います。システムの中で学習モードが許可されている特性値すべてに対し、学習モードが開始されます。

### 初期セットアップの手順

Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスの初期セットアップ時には、次の手順に従ってください。

1. SmartCheck 或いは ProLink デバイスを取り付け、接続を確立します。詳細は、Schaeffler SmartCheck 或いは ProLinkのユーザーマニュアルを参照してください。
2. SmartWeb ソフトウェアを使って必要なコンフィギュレーションを作成します。必要な手順の一覧がコンフィギュレーション「54」領域の開始ページに表示されます。
3. 機械が決められた通常の状態、すなわち温度や圧力などが正常値である場合のみ、学習モードを開始してください。測定が通常の状態で行われない場合、測定結果に悪影響が出ることがあります。

## 8.4 出力コンフィギュレーション

システムに応じて、以下のオプションがあります。

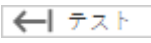

- **Schaeffler SmartCheck**デバイス: Schaeffler SmartCheck デバイスに対しては、アナログ出力とデジタル出力の 2 つの出力を設定「92」できます。出力コンフィギュレーション領域に、現在設定されている SmartCheck デバイスのすべての出力の一覧が表示されます。出荷時の SmartCheck デバイスでは、アナログ出力が総合アラームステータスとして設定されています。
- **Schaeffler ProLink**デバイス: Schaeffler ProLink デバイスを始動させると、接続されている振動モジュール「55」のアウトプットが自動的に作成され、モジュールに割り当てられます。振動モジュールごとにデジタル出力が可能です。さらに、接続された I/O モジュールではモジュールコンフィギュレーション「57」で最大 8 つのアナログまたはデジタル出力を設定できます。出力コンフィギュレーション領域にすべての出力の概要が表示され、ここで設定することもできます。

左側に展開された一覧には、SmartCheck 或いは ProLink デバイスのすべての出力コンフィギュレーションが表示されます。出力コンフィギュレーションをクリックすると、以下の情報と機能がメインパネルに表示されます。

- 左側に選択した出力コンフィギュレーションの**名前**および**詳細**が表示されます。
- 右側の灰色のフィールドには、出力コンフィギュレーションの作成と変更に関する詳細が表示されます。
- アウトプットコンフィギュレーションを編集<sup>92)</sup>することができます。
- 新しいアウトプットコンフィギュレーションを追加<sup>92)</sup>することができます。SmartCheck デバイスではデジタル 1 つとアナログ 1 つのアウトプットコンフィギュレーション、または各 ProLink 振動センサではデジタル 4 つのアウトプットコンフィギュレーションを最大で設定できます。
- 選択されている出力コンフィギュレーションを削除できます。それには、削除<sup>93)</sup>をクリックし、**OK** で確定します。



ProLink デバイスの I/O モジュールの場合、モジュールコンフィギュレーション<sup>57)</sup>で出力を追加または削除する必要があります。

- 選択したアウトプットコンフィギュレーションをテストできます<sup>95)</sup>。をクリックして、テストの種類を指定します。ボタンの上に、テストがアクティブかどうかが表示されます。
- 右上のをクリックすると、コンフィギュレーション一覧<sup>54)</sup>が開きます。

出力を SmartCheck 或いは ProLink デバイスで新たに構成する場合、次のような基本オプションがあります。

#### アラームのデジタル出力<sup>94)</sup>

純粋なスイッチング出力であるデジタル出力は、任意の特性値のコンフィギュレーションまたは総合アラームステータスに対する2段階アラーム出力として使用できます。デジタル出力は、アラームが発生しているか否かを通知でき、プリアラームの発生時にすでにスイッチさせるか、メインアラームの発生時まで待つかをユーザーが指定できます。この通知を行うには、出力をコントローラに接続する必要があります。

#### アラームのアナログ出力<sup>93)</sup>(SmartCheck および Schaeffler ProLink I/O モジュール)

アナログ出力は、任意の特性値のコンフィギュレーションまたは総合アラームステータスに対する 3 段階アラーム出力として使用できます。アナログ出力は、プリアラームまたはメインアラームが発生しているか否かを通知できます。この通知を行うには、出力をコントローラに接続する必要があります。

#### 特性値のアナログ出力<sup>92)</sup>(SmartCheck および Schaeffler ProLink I/O モジュール)

アナログ出力は、任意の特性値のコンフィギュレーションまたは総合アラームステータスに対する特性値として使用できます。選択されている特性値(例えば、温度)が、特性値の大きさに比例した電圧信号として出力に渡され、その転送先であるコントローラが値を解釈します。



- アウトプットコンフィギュレーションに対してトリガまたは測定条件を適用することはできません。
- SmartCheck 或いは ProLink デバイスの出力とコントローラを接続する方法については、Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink のユーザーマニュアルを参照してください。

#### 8.4.1 出力コンフィギュレーションを追加／編集

SmartCheck 或いは ProLink デバイスでは、以下の出力を構成できます。

- 特性値のアナログ出力 [92] (SmartCheck および Schaeffler ProLink I/O モジュール)
- アラームのアナログ出力 [93] (SmartCheck および Schaeffler ProLink I/O モジュール)
- アラームのデジタル出力 [94]

既存のアウトプットコンフィギュレーションは、いつでも編集 [95] が可能です。



ProLink デバイスの I/O モジュールの場合、モジュールコンフィギュレーション [57] を使用して出力を追加する必要があります。追加した出力をシステムに設定するには、リストを展開してその出力にマークを付け、**【出力コンフィギュレーション】** で **【編集】** をクリックします。コンフィギュレーションに関する情報は、特性値のアナログ出力 [92]、アラームのアナログ出力 [93]、アラームのデジタル出力 [94] の項に記載されています。

#### 特性値のアナログ出力を作成する方法 (SmartCheck および Schaeffler ProLink I/O モジュール)

1. [出力コンフィギュレーション] の [追加] をクリックします (SmartCheck のみ)。
2. アウトプットコンフィギュレーションを追加ウィンドウで必要な設定を行います。

次のようなオプションがあります。

名前

一覧に表示されるアウトプットコンフィギュレーションの名前を入力します。

出力チャネル

アナログ出力を選択します。

- 特性値のコンフィギュレーション** システムの総合アラームステータス、すべての測定タスク、対応する個々の特性値がリストされます。特性値のアナログ出力に対し、特性値を 1 つ選択する必要があります。  
測定タスクと総合アラームステータスは、1 つのアラーム出力に対してしか選択できません。
- 出力タイプ** 特性値の出力を選択します。
- 電流／電圧出力** 特性値のアナログ出力に適用する電圧または電流の範囲を設定します。SmartCheck 或いは ProLink は、以下の範囲に対応しています。
- 0-10 V
  - 0-20 mA
  - 4-20 mA
- スケーリングファクタ、最小、最大** これらの設定を使って、特性値の範囲を決めます。最初に、**最小**に最小値を入力します。次に、**最大**に最大値を入力するか、スケーリングフィールドで出力信号のスケーリングファクタを指定します。対応する他のフィールド値と図が自動的に調整されます。  
出力値が**最大**に入力された最大値を超えた場合、最大電圧が出力されます。

3. **OK** をクリックして新しいアウトプットコンフィギュレーションを保存します。

#### アラームのアナログ出力を作成する方法 (SmartCheck および Schaeffler ProLink I/O モジュール)

1. [アクション] の [追加] **+** をクリックします (SmartCheck のみ)。
2. アウトプットコンフィギュレーションを追加ウィンドウで必要な設定を行います。

アウトプットコンフィギュレーションを編集

名前:

出力チャンネル:

特性値のコンフィギュレーション:

出力タイプ:  
☒ アラームアウトプット  
☐ 特性値アウトプット

電流 / 電圧出力:

アラームレベル:

アラーム	アウトプット
アラームなし	0 V
ブリアラーム	10 V
メインアラーム	10 V

次のようなオプションがあります。

- 名前** 一覧に表示されるアウトプットコンフィギュレーションの名前を入力します。
- 出力チャンネル** アナログ出力を選択します。
- 特性値のコンフィギュレーション** システムの総合アラームステータス、すべての測定タスクの個々の特性値がリストされます。アラームを、システム全体と1つの特性値のどちらに対して出力するかを選択できます。
- 出力タイプ** アラーム出力を選択します。

## 電流／電圧出力

アラームのアナログ出力に適用する電圧または電流の範囲を設定します。SmartCheck 或いは ProLink は、以下の範囲に対応しています。

- 0-10 V
- 0-20 mA
- 4-20 mA

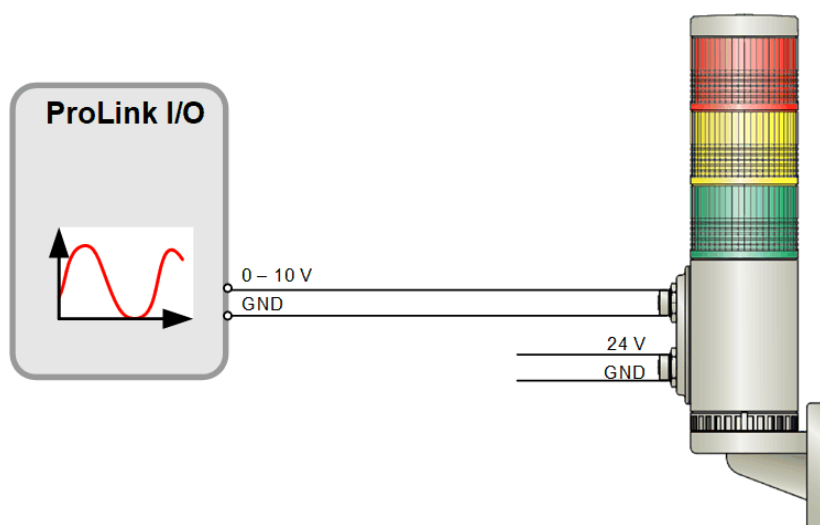
## アラームしきい値

ここでは、プリアラーム、メインアラーム、プリアラームおよびメインアラームのうち、どのアラームしきい値を出力するかを指定します。リストボックスの下には、各アラームステータスに割り当てられた電流／電圧が表示されます。

3. **OK** をクリックして新しいアウトプットコンフィギュレーションを保存します。



I/O モジュールのアナログ出力は、詳細設定なしに Schaeffler SmartLamp にアクセスし、使用できるように標準設定されています。



SmartLamp は ProLink アラームステータスを視覚化します。詳細は SmartLamp ユーザーマニュアルをご覧ください。

## アラームのデジタル出力を作成する方法

1. アクションの追加 **+** をクリックします。
2. アウトプットコンフィギュレーションを追加ウィンドウで必要な設定を行います。

**アウトプットコンフィギュレーションを追加**

---

**名前:**

**出力チャネル:**

● デジタルアウトプット ▼

**特性値のコンフィギュレーション:**

総合アラームステータス ▼

**出力タイプ:**

☒ アラームアウトプット

☐ 特性値アウトプット

☐ 反転

**アラームレベル:**

ブリアラーム ▼

アラーム	アウトプット
アラームなし	オフ（オープン／プルアップ）
ブリアラーム	オン（クローズ／アース）
メインアラーム	オン（クローズ／アース）

OK

キャンセル

次のオプションがあります:

名前

一覧に表示されるアウトプットコンフィギュレーションの名前を入力します。

出力チャンネル

- SmartCheck: ここでデジタル出力オプションを選択します。
- ProLink: デジタル出力オプションは、事前に設定されており、変更できません。

## 特性値のコンフィギュレーション

システムの総合アラームステータス、すべての測定タスク、対応する個々の特性値がリストされます。アラームを、システム全体、1つの測定タスク、1つの特性値のどれに対して出力するかを選択できます。

## 出力タイプ


アラーム出力が選択されています。

アラームしきい値

ここでは、プリアラーム、メインアラーム、プリアラームおよびメインアラームのうち、どのアラームしきい値を出力するかを指定します。リストボックスの下には、各アラームステータスに対する出力の反応が表示されます。

3. **OK** をクリックして新しいアウトプットコンフィギュレーションを保存します。

## アウトプットコンフィギュレーションを編集する方法

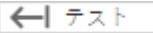
1. 左側に展開された一覧で **出力コンフィギュレーション** を選択します。
2. **出力コンフィギュレーション**で**編集**  をクリックして、**出力コンフィギュレーション**の**編集**ウィンドウで必要な設定を行います。  
SmartCheck デバイスの場合、ここで特にアナログアラーム出力を特性値出力に変更することができ、その逆も可能です。
3. **OK** をクリックして変更を適用します。

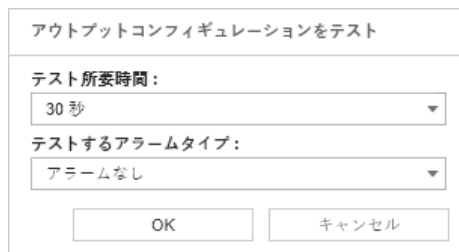
### 8.4.2 出力コンフィギュレーションをテスト

出力コンフィギュレーションに対してテストを作動させると、出力において出力コンフィギュレーションが正しく機能しているかどうかを点検できます。このテストでは、配線やコントローラへの接続、または表示が正しいかどうかを確認することができます。テストがすでに作動している場合、別のアラーム出力をテストすると、作動していたテストが中断されます。

以下の節では、設定したアラーム出力<sup>96</sup>をテストする方法を詳しく説明します。SmartCheck デバイスでは、設定した特性値出力<sup>96</sup>をテストすることもできます。

### 設定したアラーム出力をテストする方法

1. アウトプットコンフィギュレーションの  をクリックします。
2. アウトプットコンフィギュレーションをテストウィンドウで必要な設定を行います。



アウトプットコンフィギュレーションをテスト

テスト所要時間：  
30 秒

テストするアラームタイプ：  
アラームなし

OK キャンセル

次のようなオプションがあります。

#### テスト所要時間

テストの所要時間を指定します。

#### テストするアラームタイプ

テストで何をシミュレーションするかを選択します。

- アラームなし: テストはアラームのない状態をシミュレーションします。
- プリアラーム: テストはプリアラームをシミュレーションします。
- メインアラーム: テストはメインアラームをシミュレーションします。

3. **OK** をクリックして入力内容を確認し、テストを開始します。テストが作動したことで、テストの対象が表示されます。SmartCheck デバイスでは、例えば、次のように表示されます。



アウトプットコンフィギュレーション

名前: 総合アラームステータス

出力チャンネル: アナログアウトプット

特性値のコンフィギュレーション: 総合アラームステータス

出力タイプ: アラームアウトプット

電流 / 電圧出力: 電圧アウトプット

アラーム: プリアラーム

アラームなし: 0 V

プリアラーム: 10 V

メインアラーム: 10 V


編集 削除 追加

テストがアクティブです  
アラームなし

← テスト

4. テストを中断するには、もう一度  をクリックします。

### 設定した特性値の出力をテストする方法 (SmartCheck のみ)

1. 出力コンフィギュレーションの  をクリックします。
2. アウトプットコンフィギュレーションをテストウィンドウで必要な設定を行います。



アウトプットコンフィギュレーションをテスト

テスト所要時間:

30 秒

電圧 [0 ~ 10V]:

0.0

OK

キャンセル

次のようなオプションがあります。

テスト所要時間

テストの所要時間を指定します。

電圧

テストする電圧または電流の値を入力します。

3. **OK** をクリックして入力内容を確定し、テストを開始します。テストが作動したことで、テストの対象が表示されます。

アウトプットコンフィギュレーション

名前: 特性値アウトプット

出力チャンネル: アナログアウトプット

特性値のコンフィギュレーション: 基本測定タスク - ピークトゥピーク - 加速 (振動値、高)

出力タイプ: 特性値アウトプット

電流 / 電圧出力: 電圧アウトプット

スケーリング: 1.0 V / g

値範囲: 0.0 g - 10.0 g

アウトプットレンジ: 0 ~ 10 V

テストがアクティブです: 5.5 V

← テスト

編集

削除

追加

V

12.5

10

7.5

5

2.5

0

0

2

4

6

8

10

g

特性値アウトプット

4. テストを中断するには、もう一度 **← テスト** をクリックします。

## 8.5 測定トリガ

SmartCheck 或いは ProLink デバイスは、通常は測定タスクを一定の順序で処理します。測定トリガを使うと、シーケンスを中断することができます。トリガ条件が満たされると、現在の測定が終了した時点で、そのトリガによって引き起こされる測定が開始します。

測定トリガ領域には、すべての測定トリガの一覧が表示されます。出荷時の SmartCheck 或いは ProLink デバイスには、測定トリガは設定されていません。独自の測定トリガを定義すると、それが測定タスクの作成「73」で使用できるようになります。

Schaeffler SmartWeb

次と接続しました:: SmartCheck 36  
次の権限でログインしました:: admin

ファイル ▼ 編集 ▼ 測定データ ▼ 移動先 ▼ ヘルプ ▼

コンフィギュレーション

名前

- コンフィギュレーション
- 入力チャネルコンフィ...
- 測定タスク
- アウトプットコンフ...
- 測定トリガ
  - 回転数
  - 測定トリガ 1
- 測定条件
- 通信チャンネル
- デバイス
- ベアリング
- ベアリングメーカー

測定トリガ

名前: 回転数

入力チャネル: [デジタルインプット \(回転数\)](#)

単位: RPM

計算方法: RMS

測定値: 1000

しきい値: 2,500.0 RPM

感測: 降順

測定のリードタイム: 0 ms






保存周期: 10 分

測定タスク: -

更新日: 2019/12/12 01:53:47  
作成日: 2019/12/12 01:53:47  
変更者: admin

編集 削除 追加



左側に展開された一覧には、SmartCheck 或いは ProLink デバイスのすべての測定トリガが表示されます。測定トリガをクリックすると、以下の情報と機能がメインパネルに表示されます。

- 選択した測定トリガの**名前**と詳細が左側に表示されます。
- **入力チャネル**に表示されるリンクをクリックすると、該当する入力コンフィギュレーションに移動します。
- **測定タスク**に表示されるリンクをクリックすると、その測定トリガが使用されている測定タスクの一覧に移動します。
- 右側の灰色のフィールドには、測定トリガの作成と変更に関する詳細が表示されます。
- 測定トリガを編集  することができます。
- 新しい測定トリガを追加  することができます。
- 選択されている測定トリガを削除することができます。それには、削除  をクリックし、**OK** で確定します。
- 右上の  をクリックすると、コンフィギュレーション一覧  が開きます。




- 測定トリガの条件が満たされると、別の測定が行われていても、中断して測定がすぐに開始されます。ただし、測定トリガによって開始された測定は、中断されません。
- 1 つの測定トリガを複数の測定タスクで使用している場合は、トリガ条件が満たされたときにそれらの測定タスクが順次実行されます。

### 8.5.1 測定トリガを追加／編集

SmartCheck 或いは ProLink デバイスに対して、任意の数だけ測定トリガを追加  し、既存の測定トリガを編集  することができます。

#### 測定トリガを作成する方法

1. 測定トリガの下で追加  をクリックします。
2. 測定トリガを追加ウィンドウで必要な設定を行います。

測定トリガを追加

Schaeffler SmartWeb

名前:  
回転数

インプットチャンネル:  
デジタルインプット (回転数)

単位:  
RPM (周波数 / 回転数)

計算方法:  
RMS

しきい値 [0.0-60,000]:  
2,500.0

測定値[1-38400]:  
1000

齒側:  
降順

測定のリードタイム [ms]:  
0

保存周期:  
10 分

OK

キャンセル

次のようなオプションがあります。

名前	一覧に表示される測定トリガの名前を入力します。また、測定トリガを測定タスクで使用する場合、対応するリストボックスにもこの名前が表示されます。
入力チャンネル	測定トリガに使用したい信号の入力を選択します。リストボックスにシステムの入力およびスケールングファクタ「57」がすべて表示されます。
単位	選択されている入力チャンネルの値が自動的に表示されます。
計算方法	ここで信号に最もよく適合する特性値を選択します。多くの場合、オフセットオプションが使用できません。
しきい値	測定トリガがいつ測定を引き起こすかを示す値を入力します。この値を(齒側に応じて)上回った、または下回った場合に、SmartCheck 或いは ProLink デバイスは現在の測定を中断して、測定トリガによって引き起こされる測定を開始します。
測定値	<p>トリガは、最後に測定したいいくつかの値を参考にして現在の値を算出します。参考にする測定値の数を、ここに入力してください。つまり、上で設定した計算方法がいくつかの測定値を元に計算すべきか、どれだけの期間を参考に計算すべきかを指定します。これは、入力信号の変化に対するトリガの反応の速さ、信号に発生した障害に対するトリガの感度を左右します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 数を小さく設定すると、反応は速くなります。</li> <li>• 数を大きく設定すると、障害に対するトリガの感度が低くなります。</li> </ul> <p>例: サンプリングレートが 1280 値/秒(例えばアナログ入力の場合)で測定値を 1280 に設定します。計算方法としてオフセットを選択すると、計算値は、入力チャンネルを通じた 1 秒あたりの平均値となります。</p>
齒側	<p>ここでは、測定トリガが適用されるのが、しきい値を上回ったときか、下回ったときかを指定します。</p> <p>降順: しきい値を下回ったときに測定トリガが適用されます。</p> <p>昇順: しきい値を上回ったときに測定トリガが適用されます。</p>
リードタイム	トリガが作動する前のどの時点でトレンドの記録を開始するかを指定します。これにより、なぜトリガが作動したのかが分析できます。
保存周期	<p>ここでは、測定トリガのモニタリングのために値を定期的に保存するかどうかを指定します。値が定期的に保存される場合は、測定データ領域で測定トリガのトレンドを確認し、例えばデバイスが実際に測定を実行しているかどうかなどを点検できます。</p> <p>次のようなオプションがあります。</p>

- なし: このオプションを選択すると、トレンドのための値が保存されません。
- **x 分 / 時間 / 日ごと**: トレンドのための値を保存する周期を、分数、時間数、日数で指定します。

ここでの設定とは無関係に、状態(トリガの適用)の変化は必ず保存されます。

3. **OK** をクリックして新しい測定トリガを保存します。

## 測定トリガーを編集する方法

1. 左側に展開された概要で測定トリガーを選択します。
2. **編集** をクリックし、測定トリガを編集ウィンドウで必要な設定を行います。
3. **OK** をクリックして変更を適用します。



測定値の数は、次のような点を大まかな目安として決めることができます。

- 測定値の数を減らすと、より早くトリガーがオンになります。
- 測定値の数を減らすと、短パルスへの反応が敏感になります。
- 信号が不安定な場合は、測定値の数を増やすことをお勧めします。

### SmartCheckデバイス:

**保存周期** は、測定トリガのトレンド値を保存する頻度を定義します。ただし、測定トリガが 4~20 mA のアナログ入力を使用する場合は、次のような制約があります。

アナログ入力の値が 4 mA を下回る場合、このチャンネルは無効になります。その場合、入力における値が再び 4 mA を上回り、チャンネルが有効になるまで、測定トリガの値は測定されません。測定されなかった期間は、トレンドの中でグレーの背景色で表示されます。

## 8.6 測定条件

原則として、Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスは固定された順序で測定タスクを処理します。測定条件を作成することで、測定のスキップが可能になります。測定が予定されているのに、定義した測定条件が満たされない場合、デバイスはその測定をスキップして次の測定に移ります。






測定が予定されていて、測定条件が満たされている場合は、その測定が実行されます。システムは、測定中も、測定条件が引き続き満たされているかどうかをモニタリングします。測定条件が満たされなくなると、測定は中断されます。

各測定条件では、自動的にタイムカウンタ<sup>[48]</sup>が作成され、測定条件つまり機械や構成部品の有効な作動時間が表示されます。このタイムカウンタは、該当する測定条件の下にある測定データエリアにあります。そこではタイムカウンタを編集したり、タイムカウンタの傾向を見ることができます。

測定条件領域には、すべての測定条件の一覧が表示されます。出荷時の SmartCheck 或いは ProLink デバイスには、**機械が作動**<sup>[10]</sup>という測定条件が事前設定されています。


独自の測定条件を定義すると、それが測定タスクの作成<sup>[73]</sup>で使用できるようになります。

左側に展開された一覧には、SmartCheck 或いは ProLink デバイスのすべての測定条件が表示されます。測定条件をクリックすると、以下の情報と機能がメインパネルに表示されます。

- 選択した測定条件の名前と詳細が左側に表示されます。
- 入力チャネルに表示されるリンクをクリックすると、該当する入力コンフィギュレーションに移動します。
- 測定タスクに表示されるリンクをクリックすると、その測定条件が使用されている測定タスクの一覧に移動します。
- 右側の灰色のフィールドには、測定条件の作成と変更に関する詳細が表示されます。
- 測定条件を編集  することができます。
- 新しい測定条件を追加  することができます。
- 選択されている測定条件を削除することができます。それには、削除  をクリックし、**OK** で確定します。
- 右上の  をクリックすると、コンフィギュレーション一覧  が開きます。




事前設定されている測定条件**機械が作動**は、基本コンフィギュレーションに使用されます。そのため、測定タスクは、該当する機械が実際に作動しているときでないと実行されません。この測定条件は削除できません。この測定条件の名前を変更することはできません (ProLink のみ)。


ただし、Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスを起動した直後に、この測定条件をご使用の機械に適応させる必要があります。測定条件**機械が作動**は、工場出荷時の状態では、振動信号に基づいています。測定条件を編集  し、お使いの機械に合わせてください。通常は、例えば回転数の方が、機械が作動しているかどうかを判断するのに適しています。

測定条件**機械が作動**は、新しく作成したコンフィギュレーションにデフォルトで追加されます。ただし、手動でこれを削除できます (SmartCheck のみ)。

### 8.6.1 測定条件を追加／編集

SmartCheck 或いは ProLink デバイスでは、任意の数だけ測定条件を追加  し、既存の測定条件を編集  することができます。

#### 測定条件を作成する方法

1. 測定条件の下で追加  をクリックします。
2. 測定条件を追加ウィンドウで必要な設定を行います。

測定条件を追加

Schaeffler SmartWeb

名前:

インプットチャネル:

単位:  
°C (温度)

計算方法:

測定値 [1-6666]:

下限値 [0.0-59.9]:

上限値 [40.1-85.0]:

保存周期:

次のようなオプションがあります。


名前

一覧に表示される測定条件の名前を入力します。また、測定条件を測定タスクで使用する場合、対応するリストボックスにもこの名前が表示されます。

入力チャンネル	測定条件に使用する信号の入力チャンネルを選択します。リストボックスにシステムの入力およびスケーリングファクタ <sup>[5]</sup> がすべて表示されます。
単位	選択されている入力チャンネルの値が自動的に表示されます。
計算方法	ここで信号に最もよく適合する特性値を選択します。多くの場合、オフセットオプションが使用できます。
測定値	<p>条件は、最後に測定したいいくつかの値を参考にして現在の値を算出します。参考にする測定値の数を、ここに入力してください。つまり、上で設定した計算方法がいくつかの測定値を元に計算すべきか、どれだけの期間を参考に計算すべきかを指定します。これは、入力信号の変化に対する条件の反応の速さ、信号に発生した障害に対する条件の感度を左右します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 数を小さく設定すると、反応は速くなります。</li> <li>• 数を大きく設定すると、障害に対する条件の感度が低くなります。</li> </ul> <p>例：サンプリングレートが 1280 値／秒（例えばアナログ入力の場合）で測定値を 1280 に設定します。計算方法としてオフセットを選択すると、計算値は、入力チャンネルを通じた 1 秒あたりの平均値となります。</p>
下限しきい値／ 上限しきい値	<p>値がこの 2 つのしきい値で定義された範囲にある場合、測定条件は満たされていると判断され、該当する条件が実行されます。</p> <p>この例では、範囲が 40～60℃ に設定されているため、実際の値が 65℃ の場合は測定条件が満たされず、測定がスキップまたは中断されます。</p>
保存周期	<p>ここでは、測定条件のモニタリングのために値を定期的に保存するかどうかを指定します。値が定期的に保存される場合は、測定データ領域で測定条件のトレンドを確認し、例えばデバイスが実際に測定を実行しているかどうかなどを点検できます。</p> <p>次のようなオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• なし：このオプションを選択すると、トレンドのための値が保存されません。</li> <li>• x 分／時間／日ごと：トレンドのための値を保存する周期を、分数、時間数、日数で指定します。</li> </ul> <p>ここでの設定とは無関係に、状態（条件を満たす／満たさない）の変化は必ず保存されます。</p>

3. **OK** をクリックして新しい測定条件を保存します。

#### 測定条件を編集する方法

1. 左側に展開された一覧で測定条件を選択します。
2. **編集**  をクリックし、測定条件を編集ウィンドウで必要な設定を行います。
3. **OK** をクリックして変更を適用します。



測定値の数は、次のような点を大まかな目安として決めることができます。

- 測定値の数が少ないと、測定条件が早くオンになります。
- 測定値の数を減らすと、短パルスへの反応が敏感になります。
- 信号が不安定な場合は、測定値の数を増やすことをお勧めします。



#### SmartCheckデバイス:




保存周期は、測定条件のトレンド値を保存する頻度を定義します。測定条件が、4～20 mA のアナログ入力を使用する場合は、次のような制約があります。

アナログ入力の値が 4 mA を下回る場合、このチャンネルは無効になります。その場合、入力における値が再び 4 mA を上回り、チャンネルが有効になるまで、測定条件の値は測定されません。測定されなかった期間は、トレンドの中でグレーの背景色で表示されます。

## 8.7 通信チャンネル

左側の展開された一覧にある通信チャンネルエリアには、SmartCheck 或いは ProLink デバイス用に作成した通信チャンネルが表示されます。以下の通信チャンネルを作成できます。

- データを添付した電子メールを SmartCheck 或いは ProLink デバイスから送信するための電子メール用通信チャンネル<sup>[10]</sup> .
- コントローラを SmartCheck 或いは ProLink デバイスでのモニタリングに組み込み、SmartCheck 或いは ProLink デバイスのデータを使用可能にするためのコントローラ<sup>[11]</sup>  用の複数のチャンネル。

- SmartCheck 或いは ProLink デバイスを OPC UA サーバーとして確立するための **OPC UA サーバー通信チャンネル** .
- ProLink デバイスを PROFINET モジュール経由でコントローラに接続するための **PROFINET 用通信チャンネル** .
- Schaeffler クラウドでデータ通信するための **Schaeffler クラウド通信チャンネル** .

右側のメインパネルには、現在選択されている通信チャンネルの基本情報と、その入力および出力の情報が表示されます（作成可能であるか作成されている場合）。

Schaeffler SmartWeb

次と接続しました: SmartCheck 36

次の権限でログインしました: admin

ファイル

編集

測定データ

移動先

ヘルプ

名前

コンフィギュレーション

コンフィギュレーション

インプットコンフィ...

測定タスク

アウトプットコンフィ...

測定トリガ

測定条件

通信チャンネル

Email

OPC OPC UA server

PLC\_018

デバイス

ベアリング

ベアリングメーカー

アクション

新しい測定タスクを作成

領域

ステータス

測定データ

リアルタイム表示

コンフィギュレーション

ユーザー管理

ログアウト

完了

通信チャンネル

名前: PLC\_018

デバイスのタイプ: 三菱のコントロール部

ネットワーク番号: -

IP アドレス: 172.28.205.122

ステーション番号: -

ポート: 1280

バージョン番号を含むレジスタ: D1200

プロトコル: TCP

コンフィギュレーションのバージョン: 5

転送モード: Binary

編集

削除

追加

通信チャンネルのインプット: PLC\_018

名前	スタートレ...	レジス...	照会インターバル	最小信号	最大信号	単位	最小レジスタ値	最大レジスタ値
Velocity from PLC_018	D1000	WORD	1.0 s	0.0	163,837	[RPM]	0.0	10,000

編集

削除

追加

通信チャンネルのアウトプット: PLC\_018

レジスタ	レジスタ名	測定タスク	特性値	型	更新頻度
D1201	s_communication_status		通信ステータス	ステータス	60.0 s
D1202	a_device_status	総合アラームステ...	総合アラームステータス	アラーム	60.0 s
D1203	a_crest_factor_acceleration_imp	Default configuration	Crest factor - Acceleration (Impul...	アラーム	60.0 s
D1204	c_crest_factor_acceleration_imp	Default configuration	Crest factor - Acceleration (Impul...	値	60.0 s
D1205	a_10245_4_10Hz_4kba_velocity	Default configuration	ISO 10245-4 (10Hz_4kba)_Velo...	アラーム	60.0 s


編集

削除




作成

通信チャンネルをクリックすると、メインパネルにチャンネルの情報と機能が表示されます。各通信チャンネルタイプに応じて、情報や機能は異なります。これに関する詳細は、次の項をご覧ください。

## 8.7.1 電子メール用通信チャンネル

通信チャンネル(電子メール)  では、SmartCheck 或いは ProLink デバイスを通じた状態モニタリングの拡張として、電子メール用通信チャンネルを作成し、SmartCheck 或いは ProLink デバイスを通じて電子メールを送信することができます。SmartCheck 或いは ProLink デバイスからの電子メールは、ユーザーが定義した SMTP サーバーを介して任意の受信者グループに送信されます。選択した測定タスクの特性値と時間信号を添付したり、時間またはアラームに従って送信をトリガしたりできます。

電子メール機能を利用するには、以下のステップを実行する必要があります。

- まず、電子メール用通信チャンネル  を作成します。その際、電子メールサーバーとの接続に必要な設定を行います。
- 次に、1 つまたは複数の電子メール用通信チャンネルの出力を作成  します。その際、電子メールの構成や本文、トリガを定義します。
- 作成が完了したら、電子メール用通信チャンネルとその出力の概要が通信チャンネル(電子メール)  エリアに表示されます。

### 8.7.1.1 電子メール用通信チャンネルエリア

左側の展開された一覧にある通信チャンネルエリアには、SmartCheck 或いは ProLink デバイス用に作成した電子メール用通信チャンネルが表示されます。右側のメインパネルに、選択した電子メール用通信チャンネルの基本情報と出力の情報が表示されます。

Schaeffler SmartWeb

次と接続しました: SmartCheck 36  
次の権限でログインしました: admin

ファイル ▼ 編集 ▼ 測定データ ▼ 移動先 ▼ ヘルプ ▼

コンフィギュレーション

名前

- コンフィギュレーション
  - インプットコンフィ...
  - 測定タスク
  - アウトプットコンフ...
  - 測定トリガ
  - 測定条件
  - 通信チャンネル
    - Email
    - opc OPC UA server
    - PLC\_018
  - デバイス
  - ベアリング
  - ベアリングメーカー

アクション

新しい測定タスクを作成

領域

ステータス

測定データ

リアルタイム表示

コンフィギュレーション

ユーザー管理

ログアウト

完了

通信チャンネル

名前: 電子メール

SMTP サーバー:

サーバー名: 10.160.0.201  
サーバーポート: 25  
暗号化プロトコル: なし  
電子メール送信者アドレス: name@email.com  
ユーザー名: -

プロキシサーバー:

サーバー名: -  
サーバーポート: -  
認証の種類: -  
ユーザー名: -

最大メッセージサイズ (MB): 5  
最大添付ファイル数: 100

編集 削除 追加

通信チャンネルのアウトプット: Email

名前	受取人	件名	データタイプ	アラ...	開始時点	繰り返し
Condition ...	ConditionMonitoring@e...	CM News: \${device_name} w...	現在の値	はい	2019/12/18 08:00:00	1 日












測定タスク	特性値	時間信号	分類データ
Base measurement job	✓	✓	
Default configuration	✓	✓	
総合アラームステータス	✓		

編集 削除 作成



電子メール用通信チャンネルをクリックすると、以下の情報と機能がメインパネルに表示されます。

### 通信チャンネル

選択されている電子メール用通信チャンネルの基本情報と機能が表示されます。

- 名前の他に、電子メールの送信に使用する **SMTP** サーバーの詳細が確認できます。さらに、使用するプロキシサーバーを構成してある場合は、その詳細も表示されます。
- : 電子メール用通信チャンネルを選択すると、この記号が更新されます; この記号は、電子メールによる通信が機能しているか機能していないかを示します:  
 緑の記号: 通信が正常であることを示しています。  
 赤い記号: 通信異常を示しています。問題が発生しているときは、アイコンの上にマウスポインタを置くとエラーメッセージ  が表示されます。  
 アイコンを再び更新するには、 をクリックします。
- 電子メール用通信チャンネルをテストするには、 をクリックします。
- 電子メール用通信チャンネルを追加するには、**追加**  をクリックします。詳細は、**電子メール用通信チャンネルを追加 / 編集**  をご覧ください。
- 電子メール用通信チャンネルを編集するには、**編集**  をクリックします。詳細は、**電子メール用通信チャンネルを追加 / 編集**  をご覧ください。
- 電子メール用通信チャンネルを削除することができます。それには、**削除**  をクリックし、**OK** で確定します。
- 右上の  をクリックすると、コンフィギュレーション一覧  が開きます。







SmartCheck 或いは ProLink デバイスは、最大 1 つの電子メール用通信チャンネルをサポートします。すでに電子メール用通信チャンネルを構成してある場合は、**追加**  ボタンを押してもコントローラを追加  することしかできません。



## 通信チャンネルの出力: 電子メール

電子メール出力では、いつどのように電子メールの送信をトリガするか、どの受信者に電子メールを送信するか、電子メールにどのテキストを使うか、どのデータを添付するかを指定します。


すでに電子メール用通信チャンネルの出力を作成してある場合は、**通信チャンネルのアウトプットエリア**に以下の情報が表示されます。

- 表は、電子メール出力の主要な詳細をまとめたものです。電子メールの**名前**、**受信者**、**件名**、**添付ファイルの情報**（データタイプ、アラーム）、**トリガの情報**（開始時点、繰り返し）が含まれます。
- 選択した電子メール出力に対して定義されている添付ファイルを表示するには、行の冒頭にある  をクリックします。
- 選択した出力をウィザードを使って編集するには、**編集**  をクリックします。詳細は、**電子メール用通信チャンネルの出力を作成 / 編集** [114](#)をご覧ください。
- ウィザードを使って新しい出力を作成するには、**作成**  をクリックします。詳細は、**電子メール用通信チャンネルの出力を作成 / 編集** [108](#)をご覧ください。
- 出力を削除することができます。それには、**削除**  をクリックし、**OK** で確定します。

### 8.7.1.2 電子メール用通信チャンネルを追加 / 編集

SmartCheck 或いは ProLink デバイスを通じて電子メールを送信するには、電子メール用通信チャンネルを作成し、SmartCheck 或いは ProLink デバイスに電子メール送信用の SMTP サーバーのデータと、場合によっては使用するプロキシサーバーのデータを通知する必要があります。

#### 電子メール用通信チャンネルを作成する方法

1. **通信チャンネルで追加**  をクリックし、ウィザードを開きます。ウィザードの指示に従って、3 ステップで電子メール用通信チャンネルの作成を行います。
2. 最初のステップで、通信チャンネルタイプとして**電子メール**を選択します。



SmartCheck 或いは ProLink デバイスは、最大 1 つの電子メール用通信チャンネルをサポートします。すでに電子メール用通信チャンネルを構成してある場合は、ここではコントローラの選択 [115](#)しかできません。

3. ステップ 2 で電子メールの送信に使う **SMTP サーバー**に関するデータを入力します。

通信チャンネルを編集	
Schaeffler SmartWeb	
<div>ステップ</div> <div>           1: 通信チャンネルの種類を選択            2: 電子メールサーバーのコンフィギュレーション            3: プロキシサーバーのコンフィギュレーション         </div> <div>説明</div> <div>           ここでは電子メール送信用 SMTP サーバー設定のコンフィギュレーションを行います。サーバー名とポート、セキュリティ設定および認証データを入力してください。         </div>	<div>ステップ: 電子メールサーバーのコンフィギュレーション</div> <div> <div>サーバー名: <input type="text" value="10.160.0.201"/></div> <div>サーバーポート: <input type="text" value="25"/></div> <div>暗号化プロトコル: <input type="text" value="なし"/></div> <div>電子メール送信者アドレス: <input type="text" value="name@email.com"/></div> <div> <input type="checkbox"/> 認証を有効にする           </div> <div>             ユーザー名: <input type="text"/>              パスワード: <input type="password"/> </div> <div> <input type="checkbox"/> パスワードを表示           </div> <div>             最大メッセージサイズ (MB): <input type="text" value="5"/>              最大添付ファイル数: <input type="text" value="100"/> </div> <div> <input type="button" value="接続テスト"/> </div> </div> <div> <input checked="" type="checkbox"/> エキスパート設定           <input type="button" value="戻る"/> <input type="button" value="次へ"/> <input type="button" value="完了"/> <input type="button" value="キャンセル"/> </div>

次のようなオプションがあります。

#### サーバー名

SMTP サーバーの名前を入力します：

- SMTP サーバーの完全なネットワーク名（例えば **smtp.company.com**）

または

- SMTP サーバーの IP アドレス

社内または外部の SMTP サーバーを入力できます。

#### サーバーポートと暗号化プロトコル

SMTP サーバーのポートと暗号化プロトコルを入力します。

サーバーポートは、自動的にそれぞれの暗号化プロトコルの標準ポートに設定されます。

- 暗号化プロトコルがなしの場合は **25**
- 暗号化プロトコルが **StartTLS** の場合は **587**
- 暗号化プロトコルが **SSL** の場合は **465**

サーバーポートは手動で変更できます。サーバーポートを手動で変更した後に、暗号化プロトコルを切り替えると、サーバーポートは自動的に標準ポートに設定されなくなります。

#### 電子メール送信者アドレス

SmartCheck 或いは ProLink 電子メールの送信者として表示する電子メールアドレスを入力します。電子メールへの返信がこのアドレスに届きます。

#### 認証を有効にする

SMTP サーバーで認証が必要な場合は、このオプションを有効にしてください。また、ユーザー名とパスワードを入力する必要があります。

入力を簡単にするため、パスワードを表示オプションが用意されています。一度パスワードを確認すると、パスワードの表示はできなくなります。

#### 最大メッセージサイズ (MB)

電子メールの最大サイズを MB 単位で指定します。

このサイズを超える電子メールは、複数に分けて送信されます。

#### 最大添付ファイル数

電子メールに添付できるファイルの最大数を指定します。

この数を超える添付ファイルは、複数の電子メールに分けて送信されます。

## 接続テスト

このボタンをクリックすると、SMTP サーバーへの接続をテストすることができます。結果に応じて、赤または緑の記号が表示されます：

- **緑の記号：** 通信が正常であることを示しています。
- **赤い記号：** 通信の異常を示しています。この場合、マウスを記号の上に移動させると、エラーメッセージ<sup>112</sup>が表示されます。



- サーバー名の下で IP アドレスではなく名前を入力し、ネットワーク設定<sup>148</sup>で **DHCP** モードとして **DHCP** なしのオプションを選択した場合、ネットワーク設定でさらに **DNS** サーバーを指定する必要があります。これは、ここで入力したサーバー名が使用されないようにする上で不可欠です。
- SMTP サーバーの中には、自動的に独自の送信者アドレスを適用するものがあります。その場合、受信者には、ここで入力した電子メール送信者アドレスではなく SMTP サーバーが適用した送信者アドレスが表示されます。それでも、電子メールへの返信は、元の電子メール送信者アドレスに届きます。

4. 必要であれば、ステップ 3 でプロキシサーバーのデータを入力します。

通信チャンネルを編集

Schaeffler SmartWeb

ステップ	ステップ: プロキシサーバーのコンフィギュレーション
1: 通信チャンネルの種類を選択 2: 電子メールサーバーのコンフィギュレーション 3: プロキシサーバーのコンフィギュレーション	<div> <input type="checkbox"/> プロキシサーバーを使用           </div> <div>             サーバー名: <input type="text"/> </div> <div>             サーバーポート: <input type="text"/> </div> <div>             認証の種類: <input type="text" value="なし"/> </div> <div>             ユーザー名: <input type="text"/> </div> <div>             パスワード: <input type="password"/> </div> <div> <input type="checkbox"/> パスワードを表示           </div> <div> <input type="button" value="接続テスト"/> </div>
<b>説明</b> プロキシサーバー経由でのみサーバーにアクセスできる場合は、ここで詳細を入力できます。	

☐ エキスパート設定

次のようなオプションがあります。

### プロキシサーバーを使用

社内ネットワークの外に出るためにプロキシサーバーを指定する必要がある場合は、このオプションを有効にします。

### サーバー名

プロキシサーバーの名前を入力します：

- プロキシサーバーの完全なネットワーク名（例えば **proxy.company.com**）
- または
- プロキシサーバーの IP アドレス

### サーバーポート

プロキシサーバーの TCP ポートを入力します。

### 認証の種類

プロキシサーバーの認証の種類を指定します。**Basic** および **NTLM** のオプションでは、ユーザー名とパスワードも入力する必要があります。

入力を簡単にするため、パスワードを表示オプションが用意されています。一度パスワードを確認すると、パスワードの表示はできなくなります。

#### 接続テスト

このボタンをクリックすると、プロキシサーバーへの接続をテストすることができます。結果に応じて、赤または緑の記号が表示されます：


- **緑の記号：**通信が正常であることを示しています。
- **赤い記号：**通信の異常を示しています。この場合、マウスを記号の上に移動させると、エラーメッセージ<sup>[112]</sup>が表示されます。

5. 完了をクリックして、コントローラ用通信チャンネルを保存します。



- サーバー名の下で IP アドレスではなく名前を入力し、ネットワーク設定<sup>[148]</sup>で **DHCP モード**として **DHCP** なしのオプションを選択した場合、ネットワーク設定でさらに **DNS** サーバーを指定する必要があります。これは、ここで入力したサーバー名が使用されないようにする上で不可欠です。
- プロキシサーバーのコンフィギュレーションデータに関する詳細は、社内の IT 部門またはシステム管理者にお問い合わせください。


#### 電子メール用通信チャンネルを編集する方法

1. 左側に展開された一覧で電子メール用通信チャンネルを選択します。
2. メインパネルで**通信チャンネルの編集**  をクリックします。ウィザードの各ステップで必要なデータを入力します。
3. 完了をクリックして、変更を適用します。

##### 8.7.1.3 電子メール用通信チャンネルの出力を追加 / 編集

電子メール出力では、送信する電子メールを構成します。いつどのように電子メールの送信をトリガするか、どの受信者に電子メールを送信するか、電子メールにどのテキストを使うか、どのデータを添付するかを指定します。複数の電子メール出力を作成できます。

#### 電子メール用通信チャンネルの出力を作成する方法

1. 左側に展開された一覧で、電子メール用通信チャンネルをクリックします。
2. **通信チャンネルのアウトプット：電子メールで作成**  をクリックし、ウィザードを開きます。ウィザードの指示に従って、3 ステップで作成を行います。
3. 最初のステップでは、**電子メール設定のコンフィギュレーション**を行い、電子メールの名前、受信者、テキストを指定します。

アウトプットを編集

Schaeffler SmartWeb

ステップ

1: 電子メール設定のコンフィギュレーション

2: 電子メールデータを選択

3: 電子メールトリガのコンフィギュレーション

説明

ここでは電子メール設定のコンフィギュレーションを行います。名前、電子メールの受取人、電子メールの件名と本文を指定してください。

ステップ: 電子メール設定のコンフィギュレーション

名前:

受取人:

件名:

This is an automatically generated email from the vibration monitoring system  
\${device\_name}.

本文:

言語:

☐ エキスパート設定

戻る

次へ

完了

キャンセル

次のようなオプションがあります。

- |     |  |
|-----|--|
| 名前  | 電子メール出力は、ここで入力した名前を使ってシステムに表示されます。<br>長さは最大 50 文字で、すでに使用されている名前を入力することはできません。  |
| 受取人 | 電子メールの送信先の電子メールアドレスを入力します。最大 200 文字まで入力できます。<br>複数の電子メールアドレスを入力するときは、カンマで区切ります。例：<br><b>name1@company.com, name2@company.com</b> |
| 件名  | 電子メールの件名として任意のテキストを入力します。最大 200 文字まで入力できます。<br>入力フィールドの右側にテキスト変数の選択リストが用意されています。これらの変数を使用すると、デバイス名やシリアル番号などを自動的に件名に組み込むことができます。  |
| 本文  | 電子メールの本文として、最大 5000 文字の任意のテキストを入力します。<br>入力フィールドの右側にテキスト変数の選択リストが用意されています。これらの変数を使用すると、デバイス名やシリアル番号などを自動的に件名に組み込むことができます。        |
| 言語  | 電子メール内でのテキスト変数の表示言語を指定します。<br>この設定は、テキスト変数にのみ適用されます。件名および本文は、入力したものがそのまま電子メールで使用されます。  |

4. 次へをクリックし、ステップ 2 に進みます。ここでは、添付ファイルとして送信する電子メールデータを選択します。

アウトプットを編集

Schaeffler SmartWeb

ステップ	ステップ: 電子メールデータを選択																								
1: 電子メール設定のコンフィギュレーション																									
2: 電子メールデータを選択																									
3: 電子メールトリガのコンフィギュレーション																									
説明	<p>ここでは電子メールで添付ファイルとして送信するデータを選択します。電子メールデータを選択しない場合、この電子メールは、デバイスと電子メール接続がまだ機能しているという情報としてのみ使用されます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>測定タスク</th> <th>特性値</th> <th>時間信号</th> <th>分類データ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Base measurement job</td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>Basiskonfig</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>ユーザー定義による周波数帯域</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>測定トリガおよび測定条件</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>総合アラームステータス</td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> </tbody> </table>	測定タスク	特性値	時間信号	分類データ	Base measurement job	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Basiskonfig	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ユーザー定義による周波数帯域	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	測定トリガおよび測定条件	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	総合アラームステータス	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
測定タスク	特性値	時間信号	分類データ																						
Base measurement job	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																						
Basiskonfig	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																						
ユーザー定義による周波数帯域	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																						
測定トリガおよび測定条件	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																						
総合アラームステータス	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																						
<input type="checkbox"/> エキスパート設定	<div>戻る</div> <div>次へ</div> <div>完了</div> <div>キャンセル</div>																								

次のようなオプションがあります。

#### 測定タスクのリスト

ここでは測定タスクごとに、特性値、時間信号、分類データ(特殊バージョン)を添付するかどうかを選択します。

#### システムイベントが発生した場合に電子メールを送信

システムイベントが発生した場合に電子メールを送信する場合は、このオプションを有効にします。次のオプションがあります。

- **2つのイベント電子メール間の最小時間間隔** 2つのイベント電子メールの間の最小間隔を指定します。これにより、イベントが頻繁に発生したときに多数の電子メールが送信されてしまうのを防ぐことができます。  
【できるだけ頻繁に】というオプションを選択すると、イベントが発生するたびに電子メールが送信されます。

#### エキスパート設定: データ転送モード

左下にあるこのオプションを有効にすると、測定タスクの上にデータ転送モード選択リストが表示されます。次のオプションがあります:

- **最後に計算された値の転送**: リアルタイムの値だけが転送されます。  
インターネットに常時接続していて、常に最新の状態を把握したい場合は、このオプションを選択します。
- **保存された値の一括転送**: デバイスに保存されているデータ(トレンド、時間信号、分類データ)が送信されます。  
SmartCheck 或いは ProLink デバイスがインターネットに接続できる時間が限られているなどの理由でデータをまとめて転送したい場合は、このオプションを選択します。



データを選択しない場合も、電子メールの送信は行われます。その場合の電子メールは、SmartCheck 或いは ProLink デバイスと電子メール接続が正常であることの証となります。

5. 次へをクリックし、ステップ 3 に進みます。ここでは、電子メールトリガのコンフィギュレーションを行います。時間制御のトリガやアラーム制御のトリガを選択できます。

アウトプットを編集

Schaeffler SmartWeb

ステップ

1: 電子メール設定のコンフィギュレーション  
2: 電子メールデータを選択  
3: 電子メールトリガのコンフィギュレーション

説明

ここでは、電子メールをいつ送信するかを設定します。これは定期的な時間間隔、アラームステータスの変化、またはその両方でトリガされます。少なくとも1つのトリガバリエーションを設定する必要があります。

ステップ: 電子メールトリガのコンフィギュレーション

☒ 電子メールを時間間隔で送信

開始日付: 2019 1 2月 18

開始時間: 8:00 HH:MM

繰り返し間隔: 1 日

最小アラーム状態: プリアラーム

☒ アラームステータスの変化した場合に電子メールを送信

2つのアラーム電子メール間の最小時間: 1 時

☒ エキスパート設定

戻る

次へ

完了

キャンセル

次のようなオプションがあります。

#### 電子メールを時間間隔で送信

時間制御で電子メールを送信するには、このオプションを有効にします。次のオプションがあります：

- **開始日と開始時刻：**電子メールを初めて送信する時点を指定します。
- **繰り返し間隔：**電子メールの送信間隔を指定します。間隔は、分、時間、日、週、月単位で指定できます。

#### アラームステータスの変化場合に電子メールを送信

選択した測定タスクのいずれかでアラームステータスが変わったときに電子メールを送信するには、このオプションを有効にします。次のオプションがあります。

- **2つのアラーム電子メールの最小時間間隔：**2つのアラーム電子メールの間の最小間隔を指定します。これにより、アラームが頻繁に変化したときに多数の電子メールが送信されてしまうのを防ぐことができます。  
できるだけ頻繁にというオプションを選択すると、アラームが変化するたびに電子メールが送信されます。

6. **完了**をクリックしてウィザードを閉じ、電子メール出力を確定します。



開始日を 31 日に設定した場合、31 日より短い月では月の末日に電子メールが送信されます。

### 電子メール用通信チャンネルの出力を編集する方法

1. 左側に展開された一覧で、電子メール用通信チャンネルをクリックします。
2. **通信チャンネルの出力：電子メールで編集** をクリックし、ウィザードを開きます。
3. ウィザードに従って任意の変更を行い、変更内容を**完了**で確定します。


#### 8.7.1.4 接続テスト時のエラーメッセージ

通信チャンネルエリアならびに電子メール通信チャンネルの追加ウィザードにはボタンがあり、SMTP サーバーまたはプロキシサーバーへの接続をテストできます。テストが正常に終了しなかった場合、マウスを赤い記号の上に移動させると、エラーの詳細ならびにガイダンスが表示されます。

以下のメッセージが表示されます。リンクをクリックすると、マニュアル内の該当する箇所にジャンプします：

- SMTP サーバーのサーバー名は取り消すことができません。サーバー名をチェック「106」してください。
- SMTP サーバーへの接続に失敗しました。ポートまたは暗号化プロトコルをチェック「106」してください。
- SMTP サーバーが間違ったプロトコルで応答しています。暗号化プロトコルをチェック「106」してください。
- SMTP サーバーの検証に失敗しました。ユーザー名およびパスワードをチェック「106」してください。
- SMTP サーバーにアクセスできません。
- プロキシサーバーのサーバー名は取り消すことができません。サーバー名をチェック「107」してください。
- プロキシサーバーへの接続に失敗しました。ポートまたは暗号化プロトコルをチェック「107」してください。
- プロキシサーバーの検証に失敗しました。ユーザー名およびパスワードをチェック「107」してください。

#### 8.7.2 コントローラ用通信チャンネル

工場などの産業設備では、振動モニタリングに有効な工程パラメータなどのデータを保存したコントローラが使用されています。通信チャンネル(コントローラ)「112」エリア  では、Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスでのモニタリングにこれらのデータを組み込んだり、コントローラにSchaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスのデータを提供したりできます。そのためには、以下の手順を実行する必要があります。

- まず、組み込みたいコントローラを通信チャンネルとして追加「115」します。その際、コントローラの名前と、Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink コントローラとデバイスをネットワークで接続する方法を指定します。  
Schaeffler SmartWebソフトウェアでは、ステーション転送を構成し、内部コントローラネットワークのリモートコントローラにアクセスすることもできます。

- コントローラとSchaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスの間でスムーズな通信を行うためには、イーサネット接続が必要です。また、IP アドレス、ネットマスク、ゲートウェイを正しく設定する必要があります。

- 複数の Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスと 1 台のコントローラを通信させるためには、コントローラ側で各デバイス用のポートを確保する必要があります。

- コントローラからデータを読み取るためには、1 つまたは複数のコントローラの入力を作成「117」する必要があります。外部入力では、データを読み取る頻度、データを読み取るコントローラレジスタ、値の範囲を設定できます。また、レジスタのデータを変換する信号ユニットと信号値の範囲を指定することも可能です。

コントローラに対しては、任意の数の入力を作成することができます。また、作成した入力は、SmartWeb ソフトウェアでの入力コンフィギュレーション「57」に表示される入力と同じように使用できます。特にコントローラの入力は、測定タスク「71」、測定条件「100」、測定トリガ「97」で使用可能です。

- コントローラに対して SmartCheck 或いは ProLink デバイスのデータを提供するためには、コンフィギュレーションファイルをコントローラの出力を含めて作成「119」する必要があります。このファイルでは、更新頻度や、どの特性値のアラームステータスおよび値を転送するか、コントローラのどのレジスタに情報を書き込むかを指定します。



現時点では、SLMP プロトコル(3E フレーム)をサポートし、イーサネットを介してSchaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスと接続することができる三菱電機製コントローラのみ、通信チャンネルとして組み込むことができます。該当するコントローラの製品ファミリーは以下の通りです。

- Q シリーズ
- L シリーズ
- SLMP ゲートウェイで接続された Q シリーズおよび L シリーズ

上記以外のコントローラにも対応する予定です。詳しくは、カスタマーサービスまでお問い合わせください。

##### 8.7.2.1 コントローラ用通信チャンネルエリア

左側の展開された一覧にある通信チャンネルエリアには、SmartCheck 或いは ProLink デバイス用に作成したコントローラが表示されます。右側のメインパネルには、現在選択されているコントローラの基本情報と、その入力および出力の情報が表示されます(作成されている場合)。



Schaeffler SmartWeb

次と接続しました: SmartCheck 36

次の権限でログインしました: admin

ファイル

編集

測定データ

移動先

ヘルプ

名前

コンフィギュレーション

→ インพุットコンフィ...

→ 測定タスク

→ アウトプットコンフ...

→ 測定トリガ

→ 測定条件

→ 通信チャンネル

→ Email

→ OPC UA server

→ PLC\_018

→ デバイス

→ ペアリング

→ ペアリングメーカー

アクション

新しい測定タスクを作成

領域

ステータス

測定データ

リアルタイム表示

コンフィギュレーション

ユーザー管理

ログアウト

完了

通信チャンネル

名前: PLC\_018

デバイスのタイプ: 三菱のコントロール部

ネットワーク番号: -

ステーション番号: -

IP アドレス: 172.28.205.122

ポート: 1280

バージョン番号を含むレジスタ: D1200

プロトコル: TCP

転送モード: Binary

コンフィギュレーションのバージョン: 5

変更日: 2019/12/17 12:23:04

作成日: 2019/12/17 10:27:19

変更者: admin

編集

削除

追加

通信チャンネルのインプット: PLC\_018

名前	スタートレ...	レジス...	照会インターバル	最小信号	最大信号	単位	最小レジスタ値	最大レジスタ値
Velocity from PLC_018	D1000	WORD	1.0 s	0.0	163,837	[RPM]	0.0	10,000

編集

削除

追加

通信チャンネルのアウトプット: PLC\_018

レジスタ	レジスタ名	測定タスク	特性値	型	更新頻度
D1201	s_communication_status		通信ステータス	ステータス	60.0 s
D1202	a_device_status	総合アラームステ...	総合アラームステータス	アラーム	60.0 s
D1203	a_crest_factor_acceleration_imp	Default configuration	Crest factor - Acceleration (Impul...	アラーム	60.0 s
D1204	c_crest_factor_acceleration_imp	Default configuration	Crest factor - Acceleration (Impul...	値	60.0 s
D1205	a_crest_factor_velocity	Default configuration	Crest factor - Velocity (Impul...	アラーム	60.0 s

編集

削除

作成

コントローラをクリックすると、以下の情報と機能がメインパネルに表示されます。

## 通信チャンネル

選択されているコントローラの基本情報と機能が表示されます。

- 名前、デバイスのタイプ、IP アドレスの他に、デバイスの接続に関する基本設定が表示されます。右上の灰色のボックスには、コントローラの変更にに関する詳細が表示されます。
- ネットワーク番号とステーション番号は、コントローラに対して定義したステーション転送の詳細です。
- バージョン番号を含むレジスタは、コントローラに対して作成した、出力を含むコンフィギュレーションファイルのものです。ここには、コンフィギュレーションファイルのバージョン(コンフィギュレーションのバージョン)を書き込むレジスタが表示されます。この番号は、安全対策「12」の 1 つで、レジスタの意図しない上書きを防ぎます。



をクリックして、バージョンカウンターを手動で定義された値に設定します(SLMPにのみ適用)。

通常、このバージョンカウンターは、SmartCheck 或いは ProLinkデバイスでコントローラに関連する構成が変更されると、例えば、より多くのレジスタが使用される場合など、コントローラに書き込むために自動的に増分されます。コントローラでは、バージョンレジスタの値は、SmartCheck 或いは ProLinkデバイスがコントローラに書き込むためには、このバージョンカウンターの値と一致している必要があります。コントローラで値を調整することができない場合は、ここでバージョンカウンターをコントローラの値に手動で設定することができます。

## 注意










手動で定義されたバージョンカウンターは、プログラムの内部セキュリティメカニズムを無効にします。

この通信チャンネルの出力構成がコントローラの構成と一致していることを確認する必要があります。そうでない場合、コントローラのプログラムで意図されているよりも多くまたは異なるレジスタが上書きされる可能性があります。


- : コントローラを選択すると、このアイコンが更新され、コントローラとの通信が機能しているかどうかを示します。アイコンが緑色の場合、通信は正常に機能しています。アイコンが赤い場合、通信に問題が発生しています。問題が発生しているとき

は、アイコンの上にマウスポインタを置くとエラーメッセージが表示されます。

アイコンを再び更新するには、をクリックします。




- コントローラへの接続をテストするには、をクリックします。
- コンフィギュレーションファイルをダウンロードするには、をクリックします。コントローラの出力「[120](#)」を作成した場合は、データの転送に向けてコントローラを準備する際にこのファイルが必要になります。
- コントローラを編集するには、**編集**  をクリックします。詳細は、[コントローラを追加 / 編集「\[116\]\(#\)」](#)をご覧ください。
- コントローラを追加するには、**追加**  をクリックします。詳細は、[コントローラを追加 / 編集「\[115\]\(#\)」](#)をご覧ください。
- 選択されているコントローラを削除することができます。それには、**削除**  をクリックし、**OK** で確定します。
- 右上の  をクリックすると、コンフィギュレーション一覧「[54](#)」が開きます。




測定タスク「[71](#)」に組み込んだコントローラは、削除できません。この場合、**削除**  ボタンがインアクティブになります。そのようなコントローラを削除するには、まずコントローラを使用している測定タスクの方を先に削除する必要があります。

## 通信チャンネルの入力

ここには、選択されているコントローラ用に作成した入力の概要がテーブル形式で表示されます。コントローラを選択すると、次のような情報とオプションが表示されます。

- テーブルには、各入力の情報として、名前や、データの読み取りがどのコントローラのレジスタから始まるか（スタートレジスタ）、データがどの信号範囲に変換されるか（最小信号～最大信号）、どのレジスタ範囲がカバーされるか（最小レジスタ値～最大レジスタ値）が表示されます。
- 入力を編集するには、**編集**  をクリックします。詳細は、[コントローラの入力を追加 / 編集「\[119\]\(#\)」](#)をご覧ください。
- 入力を追加するには、**追加**  をクリックします。詳細は、[コントローラの入力を追加 / 編集「\[117\]\(#\)」](#)をご覧ください。
- 選択されている入力を削除することができます。それには、**削除**  をクリックし、**OK** で確定します。






測定タスク「[71](#)」に組み込んだ入力は、削除できません。この場合、**削除**  ボタンがインアクティブになります。そのような入力を削除するには、まず入力を使用している測定タスクの方を先に削除する必要があります。

## 通信チャンネルの出力

SmartCheck 或いは ProLink デバイスで計算される特性値を使って、アラームステータスや値をコントローラに転送することができます。それには、出力のコンフィギュレーションファイルを作成し、それを通じてアラームステータスや選択された特性値の値をコントローラに転送します。

すでにコントローラの出力を作成してある場合は、**通信チャンネルの出力**エリアに以下の情報が表示されます。

- テーブルには、どの特性値に対してアラームステータスや値がコントローラに転送されるか（タイプ）、その頻度（更新頻度）、どのレジスタに情報が書き込まれるかが表示されます。
- ウィザードを使って出力を編集するには、**編集**  をクリックします。詳細は、[コントローラの出力を作成 / 編集「\[122\]\(#\)」](#)をご覧ください。
- ウィザードを使って出力を作成するには、**作成**  をクリックします。詳細は、[コントローラの出力を作成 / 編集「\[120\]\(#\)」](#)をご覧ください。
- 出力を削除することができます。それには、**削除**  をクリックし、**OK** で確定します。




- SmartWeb ソフトウェアでコントローラの出力を作成・編集したら、該当する情報をコントローラに転送する必要があります。詳細は、[コントローラをシステムに組み込む「\[122\]\(#\)」](#)の節をご覧ください。
- Schaeffler SmartUtility ソフトウェア（オプションで入手可能）を使って SmartCheck 或いは ProLink デバイスからコンフィギュレーションをダウンロードし、別のデバイスに転送しても、コントローラの出力は転送されません。これにより、複数の Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスがコントローラの同じレジスタに書き込んでしまう事態が回避されます。その場合は、[コントローラをシステムに組み込む「\[122\]\(#\)」](#)の節で説明されているとおりに、出力のコンフィギュレーションファイルを手動で読み込んでください。

### 8.7.2.2 コントローラを追加 / 編集

コントローラのデータを入力信号として受信するためには、そのコントローラを通信チャンネルとして作成し、SmartCheck 或いは ProLink デバイスにコントローラのネットワークデータを通知する必要があります。

#### コントローラ用通信チャンネルを作成する方法

1. 通信チャンネルで追加  をクリックし、ウィザードを開きます。ウィザードの指示に従って、2 ステップで通信チャンネルの作成を行います。
2. 最初のステップで、通信チャンネルタイプで通信チャンネルを作成したいコントローラを選択します。現時点では、SLMP プロトコル(3E フレーム)をサポートする三菱電機製コントローラのみ組み込むことができます。
3. 次へをクリックし、ステップ 2 に進みます。ここではコントローラに関するデータを入力します。

通信チャンネルを編集

Schaeffler SmartWeb

ステップ	ステップ: 三菱コントローラ (SLMP) のコンフィギュレーション
1: 通信チャンネルの種類を選択  2: 三菱コントローラ (SLMP) のコンフィギュレーション	<div>名前: <input type="text" value="PLC_018"/></div> <div>IP アドレス: <input type="text" value="172.28.205.121"/></div> <div>ポート: <input type="text" value="1280"/></div> <div>ステーション転送 <input type="checkbox"/></div> <div>プロトコル: <input type="text" value="TCP"/></div> <div>転送モード: <input type="text" value="Binary"/></div> <div> <input type="button" value="接続テスト"/>  </div>
<b>説明</b>  ここでは三菱コントローラ設定のコンフィギュレーションを行います。サーバー名とポートおよびプロトコル詳細を入力してください。	

エキスパート設定

次のようなオプションがあります。

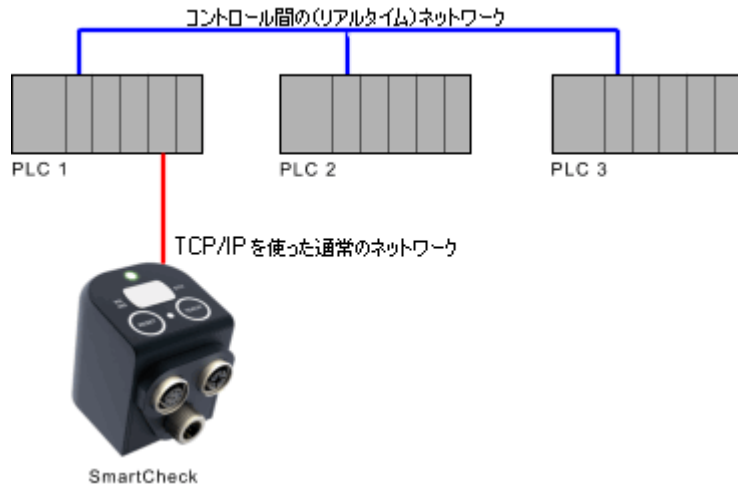
名前	SmartWeb ソフトウェアに表示されるコントローラの名前を指定します。
IP アドレス	ネットワークで使用されるコントローラの IP アドレスを指定します。
ポート	コントローラとの接続に使用するポートを指定します。
ステーション転送	上記の IP アドレスから他のコントローラに通信を転送したい場合は、このフィールドをアクティブにしてください。また、以下を指定する必要があります。 ネットワーク番号: リモートコントローラのネットワーク番号を入力します。 ステーション番号: リモートコントローラのステーション番号を入力します。

例:

PLC 3 というコントローラにアクセスするには、次のように設定します。

- PLC 1 の IP アドレス

- PLC 3 のネットワーク番号とステーション番号:



Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスのデータが、PLC 1 からリアルタイムネットワークを介して PLC 3 に転送されます。

プロトコル  
転送モード

Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスとコントローラの間でデータを転送するためのネットワークプロトコルと転送モードを指定します。

指定内容がコントローラの設定に一致していることを確認してください。

接続テスト

このボタンをクリックすると、入力した接続データをテストすることができます。テストが成功すると、ボタンの隣のボックスが緑になり、そうでない場合は赤になります。


赤いボックスの上にマウスを乗せると、接続が正常に機能しない理由を説明するメッセージが表示されます。

4. 完了をクリックして、コントローラ用通信チャンネルを保存します。



- Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink とコントローラの接続が機能するための条件は、両方の IP アドレスが同じ範囲にあることです。つまり、ネットマスクによって、4 桁の IP アドレスの最初の 3 つの数字が同じでなければなりません。コントローラには、Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスからゲートウェイを通じてアクセスすることもできます。疑問点については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。
- コントローラの IP アドレスが Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスの IP 範囲の外にあるものの、ゲートウェイを通じてアクセス可能な場合は、次の手順に従ってください。
  1. Schaeffler SmartUtility Light ソフトウェアまたは Schaeffler SmartUtility ソフトウェア (オプションで入手可能) を開きます。
  2. センサのコンフィギュレーションをクリックします。
  3. ウィザードの最初のステップで Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスを選択します。
  4. ウィザードの第 2 ステップで Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスのゲートウェイを指定します。
  5. 送信をクリックしてウィザードを終了します。ゲートウェイの作成について詳しくは、システム管理者にお問い合わせください。Schaeffler SmartUtility ソフトウェアの操作について詳しくは、それぞれのマニュアルをご覧ください。
- IP アドレスとポートの組み合わせは一意のものでなければなりません。たとえば、ステーション転送用に複数の組み合わせが必要な場合、必要数に応じてコントローラのポートを有効にする必要があります。


#### コントローラ用通信チャンネルを編集する方法

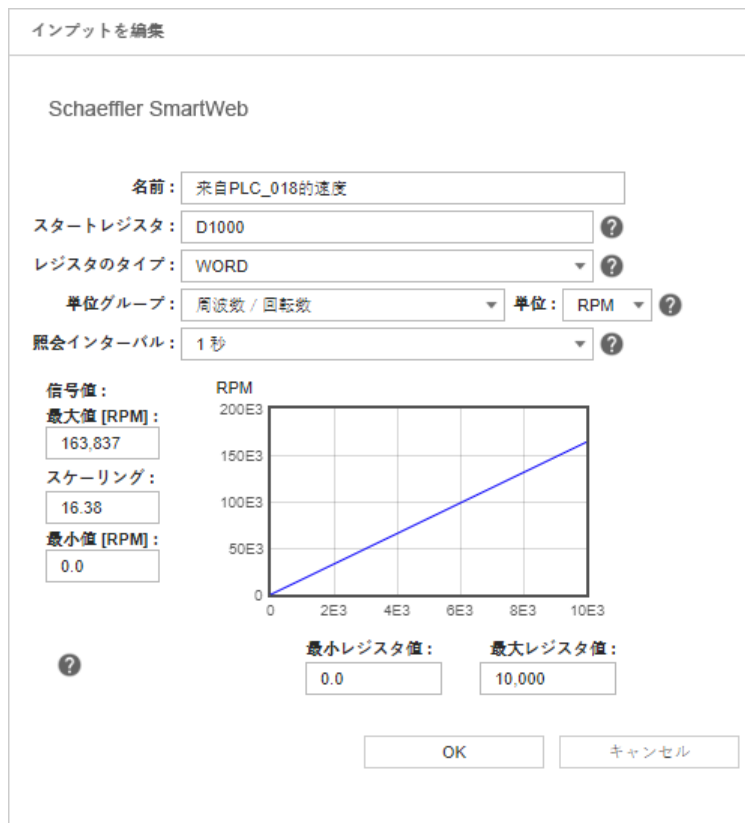
1. 左側に展開された一覧でコントローラを選択します。
2. メインパネルで通信チャンネルの編集  をクリックします。ウィザードの各ステップで必要なデータを入力します。
3. 完了をクリックして、変更を適用します。

### 8.7.2.3 コントローラの入力を追加 / 編集

Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスは、コントローラ入力を介してコントローラ内にある工程パラメータ情報を受信します。

#### コントローラの入力を作成する方法

1. 左側に展開された一覧で、入力を追加したいコントローラを選択します。
2. 通信チャネルの入力:[コントローラ名]で追加  をクリックします。
3. 入力を追加ウィンドウで必要な設定を行います。



次のようなオプションがあります。

名前	SmartWeb ソフトウェアに表示される入力の名前を指定します。																
スタートレジスタ	読み出すレジスタを指定します。レジスタのタイプで、2 つのレジスタを読み出すデータタイプを選択している場合、スタートレジスタは下の方のレジスタを指し、そこから読み出しが開始されます。																
レジスタのタイプ	<p>スタートレジスタまたはその次のレジスタにあるデータの形式を指定します。この設定により、次のような要素が定義されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 つのレジスタ(16 ビット)、2 つのレジスタ(32 ビット)のどちらの読み出しを行うか</li> <li>• レジスタ値の最大範囲</li> </ul> <p>選択できるオプションの形式およびレジスタ値の範囲は、次のとおりです。</p> <table> <tr> <td><b>INT</b></td><td>16 bit</td><td>−32,768〜32,767</td></tr> <tr> <td><b>WORD</b></td><td>16 bit</td><td>0〜65,535</td></tr> <tr> <td><b>DINT</b></td><td>32 bit</td><td>−2,147,483,648〜2,147,483,647</td></tr> <tr> <td><b>DWORD</b></td><td>32 bit</td><td>0〜4,294,967,295</td></tr> <tr> <td><b>REAL</b></td><td>32 bit</td><td>±1.5 * 10<sup>-45</sup>〜±3.4 * 10<sup>38</sup></td></tr> </table>		<b>INT</b>	16 bit	−32,768〜32,767	<b>WORD</b>	16 bit	0〜65,535	<b>DINT</b>	32 bit	−2,147,483,648〜2,147,483,647	<b>DWORD</b>	32 bit	0〜4,294,967,295	<b>REAL</b>	32 bit	±1.5 * 10 <sup>-45</sup> 〜±3.4 * 10 <sup>38</sup>
<b>INT</b>	16 bit	−32,768〜32,767															
<b>WORD</b>	16 bit	0〜65,535															
<b>DINT</b>	32 bit	−2,147,483,648〜2,147,483,647															
<b>DWORD</b>	32 bit	0〜4,294,967,295															
<b>REAL</b>	32 bit	±1.5 * 10 <sup>-45</sup> 〜±3.4 * 10 <sup>38</sup>															
単位グループおよび単位	コントローラの値を変換する物理的な値と測定単位を指定します。																

## 照会インターバル

コントローラからの値を問い合わせる頻度を指定します。

温度など、変化が緩慢な値については、照会インターバルを長めに設定することができます。そうすれば、データ量が減り、コントローラの負荷が軽減されます。



履歴の「接続が拒否されました」というメッセージは、最後の接続がまだ完了していないのに Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスがコントローラへの接続を確立しようとしていることを示します。照会インターバルを大きくすると、防ぐことができます。

## レジスタ値

これらのフィールドには、**レジスタのタイプ**を選択した時点で自動的に値が入力されます。ただし、**最小レジスタ値**と**最大レジスタ値**の値は手動で調整できます。レジスタ値の範囲が自動的に設定された範囲よりも小さい場合、調整が必要になることがあります。

## 信号値

これらの設定を使って、測定値の範囲を決めます。最初に、**最小**に最小値を入力します。次に、**最大**に最大値を入力するか、**スケーリングフィールド**で算出された信号のスケーリングファクタを指定します。対応する他のフィールド値と図が自動的に調整されます。

### 4. **OK** をクリックして新しい入力を保存します。

#### 例:

コントローラのレジスタR100がWORDと定義されています。全体の値範囲は 0~65,535 ですが、0~10,000 に制限されています。この範囲は、0~3,000RPM の回転速度に相当します。  
この場合、設定は次のようになります。

スタートレジスタ	R100
レジスタのタイプ	WORD
単位グループ	周波数／回転数
単位	RPM
最小レジスタ値	0
	この値は自動的に設定されます。
最大レジスタ値	10,000
	65,535という数字が自動的に設定されるので、手動で調整する必要があります。
最大信号値	3000 (RPM)
最小信号値	0 (RPM)

### 入力にスケーリングファクタを追加する方法

入力にスケーリングファクタを追加し、測定タスクの作成 [73] 時などにアクセスすることができます。スケーリングファクタを使うと、構成部品のある箇所で測定した物理値から他の領域の論理値を算出することができます。

例: 入力を使ってギヤの手前の回転数を測定します。ギヤの内側の回転数はその 5 分の 1 になります。これを元に、スケーリングファクタを作成します。

1. ギヤの手前の回転数

2. 0.2 (5 分の 1) を掛けて求めたギヤの内側の回転数

1. **通信チャネルの入力: [名前]** の下の表で任意の入力を選択します。
2. をクリックして、スケーリングファクタでリストを拡張します。
3. をクリックしてスケーリングファクタを追加ウィンドウを開きます。

スケーリングファクタを追加

入力チャンネル:  
21G830 - Rotational speed before gear

名前:  
Speed before gear

スケーリングファクタ:  
0.2

単位グループ:  
周波数 / 回転数

単位:  
RPM

OK

キャンセル

次のようなオプションがあります。

- |            |  |
|------------|--|
| 名前         | スケーリングファクタは、この名前で他の入力と共に表示されます。複数の入力を区別できるよう、わかりやすい名前を付けてください。 |
| スケーリングファクタ | 物理的な入力信号に、ここに入力した値を乗じます。                                       |
| 単位         | センサ信号の測定単位を変更できます。デフォルトでは、対応する入力コンフィギュレーションの単位が選択されています。       |

4. **OK** をクリックして変更を保存します。新しいスケーリングファクタが、スケーリングファクタのリストに表示されます。

スケーリングファクタを削除または編集するには、右クリックでコンテキストメニューを開き、対応するコマンドを選択してください。

通信チャンネルの入力: 21G830

名前	スタートレ...	レジス...	照会インターバル	最小信号	最大信号	単位	最小レジスタ値	最大レジスタ値
Rotational speed bef...	R0	INT	1.0 s	-32,768	32,767	[Hz]	-32,768	32,767

追加のスケーリングファクタ

+

Speed before gear

0.2x RPM

編集


削除

リアルタイム表示

編集

削除


追加

ここで、リアルタイム表示  エリアに切り替えることもできます。この特性値の計算に使用されている信号をリアルタイムで参照できます。



測定タスクで使用されているスケーリングファクタを削除すると、警告メッセージが表示されます。スケーリングファクタを削除すると、関連する測定タスクも自動的に削除されてしまいます。

## コントローラの入力を編集する方法

- 左側に展開された一覧で、入力を編集したいコントローラを選択します。
- 通信チャンネルの入力: [コントローラ名] の下の表で任意の入力を選択します。
- 編集  をクリックし、入力を編集ウィンドウで必要な設定を行います。
- OK** をクリックして変更を適用します。

### 8.7.2.4 コントローラの出力を追加 / 編集

注意



書き込みを行うレジスタ領域に何も書かれていないか、コントローラのプログラムで使用されていない場合のみ、コンフィギュレーションファイルをコントローラの出力を含めて作成してください。それ以外の場合は、Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスがコントローラ内の重要なデータを上書きしてしまう可能性があります。

出力を通じて、どの特性値のアラームステータス、値、アラームしきい値をコントローラに転送するかを定義することができます。それらの値をコントローラのどのレジスタに書き込むかも指定します。また、この書き込みプロセスに向けてコントローラを準備するためには、出力の情報が必要になります。詳細は、コントローラをシステムに組み込む<sup>122</sup>の章の該当する節をご覧ください。

出力のコンフィギュレーションファイルを正しく作成し、それに合わせてコントローラを準備すると、Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスは、各特性値に対し、以下の値をコントローラの該当するレジスタに書き込むことができます。

値	省略形	意味
0	unknown	特性値はまだ測定されていません。
1	no_alarm	アラームステータス: アラームなし - Schaeffler SmartWeb ソフトウェアでは緑色でマークされます。
2	pre_alarm	アラームステータス: プリアラーム - Schaeffler SmartWeb ソフトウェアでは黄色でマークされます。
3	main_alarm	アラームステータス: メインアラーム - Schaeffler SmartWeb ソフトウェアでは赤色でマークされます。
4	charval_error	特性値の計算時にエラーが発生しました。たとえば、特性値の計算に必要な回転速度が設定されていない可能性があります。

### コントローラの出力を作成する方法

1. 左側に展開された一覧で、出力を作成したいコントローラを選択します。
2. 通信チャンネルの出力: [コントローラ名] で作成 ☆ をクリックし、ウィザードを開きます。ウィザードの指示に従って、2 ステップで作成を行います。
3. 最初のステップでは、レジスタと特性値を選択します。

Éditer les sorties

FLENDER DX500 web

Étapes

1: Sélectionner un registre et des valeurs caractéristiques  
2: Déterminer le nom du registre

Description

Définissez ici le registre de la commande à partir duquel les informations sont écrites. De plus, sélectionnez les valeurs caractéristiques dont l'état d'alarme, la valeur et/ou les seuils d'alarme doivent être transférés.

Étape: Sélectionner un registre et des valeurs caractéristiques

Registre de lancement :

D1200

Registre final :

D1202

Fréquence d'actualisation :

60 sec.

Sélection de valeur caractéristique :

Valeurs caractéristiques disponibles	État d'alarme	Valeur	Seuils d'alarme
← État de communication	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
— <input checked="" type="checkbox"/> État d'alarme périphérique	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
— <input checked="" type="checkbox"/> Tâche de mesure de base	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> Large bande RMS - Enveloppe (état général)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> Large bande RMS - Accélération (état général)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> ISO 10816-1 (2 Hz - 1 kHz) - Vitesse	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> Crête à crête - Accélération (valeurs de vibration élevées)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> Température du système	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
— <input checked="" type="checkbox"/> Déclencheur et conditions de mesure	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⚠ Machine en marche	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

☐ Paramètres experts

Précédent

Suivant

Terminer

Annuler

次のようなオプションがあります。

#### スタートレジスタ

アラームステータスが保存されるレジスタブロックの最初のレジスタを指定します。

最初のレジスタには出力のコンフィギュレーションファイルのバージョン番号、その他のレジスタには選択した特性値のアラームステータスや値が書き込まれます。



## 更新頻度

アラームステータスをコントローラに転送する頻度を指定します。

## 特性値の選択

どの特性値のアラームステータスや値をコントローラに転送するかを指定します。どの特性値が使用できるかは、作成した測定タスク「[7](#)」によって異なります。

## アラームステータス / 値、アラームしきい値

各特性値について、アラームステータス、値、アラームしきい値をコントローラに転送するかどうかを指定します。通信ステータス、デバイスステータス、上位のアラーム特性値（例えば「基本コンフィギュレーション」）は、アラームステータスとしてしか伝達できません。デバイスステータスの選択を解除するには、他に少なくとも1つの特性値がアラームステータスを伝達している必要があります。



アラームしきい値を選択するには、値またはアラームステータスが選択されている必要があります。



測定トリガと測定条件を、出力のための設定として選択することはできません。

## 4. 次へをクリックし、ステップ 2 に進みます。ここでは、レジスタ名を決定します。

アウトプットを編集

Schaeffler SmartWeb

ステップ	ステップ: レジスタ名を決定																														
1: レジスタと特性値を選択	<div> <div>レジスタ名: バージョン番号を含むレジスタ: D1200</div> <table border="1"> <thead> <tr> <th>測定タスク</th> <th>特性値</th> <th>型</th> <th>レジスタ</th> <th>レジスタ名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>通信ステータス</td> <td>ステ...</td> <td>D1201</td> <td>alarm_0</td> </tr> <tr> <td>総合アラ...</td> <td>総合アラームステータス</td> <td>アラ...</td> <td>D1202</td> <td>alarm_1</td> </tr> <tr> <td>Base measu...</td> <td>ISO10816-1 (2Hz - 1kHz) - 速度</td> <td>アラ...</td> <td>D1203</td> <td>alarm_2</td> </tr> <tr> <td>Base measu...</td> <td>RMS 広帯域 - 加速 (総合ステ...</td> <td>アラ...</td> <td>D1204</td> <td>alarm_3</td> </tr> <tr> <td>Base measu...</td> <td>RMS 広帯域 - 包絡線 (総合ステ...</td> <td>アラ...</td> <td>D1205</td> <td>alarm_4</td> </tr> </tbody> </table> </div>	測定タスク	特性値	型	レジスタ	レジスタ名		通信ステータス	ステ...	D1201	alarm_0	総合アラ...	総合アラームステータス	アラ...	D1202	alarm_1	Base measu...	ISO10816-1 (2Hz - 1kHz) - 速度	アラ...	D1203	alarm_2	Base measu...	RMS 広帯域 - 加速 (総合ステ...	アラ...	D1204	alarm_3	Base measu...	RMS 広帯域 - 包絡線 (総合ステ...	アラ...	D1205	alarm_4
測定タスク		特性値	型	レジスタ	レジスタ名																										
	通信ステータス	ステ...	D1201	alarm_0																											
総合アラ...	総合アラームステータス	アラ...	D1202	alarm_1																											
Base measu...	ISO10816-1 (2Hz - 1kHz) - 速度	アラ...	D1203	alarm_2																											
Base measu...	RMS 広帯域 - 加速 (総合ステ...	アラ...	D1204	alarm_3																											
Base measu...	RMS 広帯域 - 包絡線 (総合ステ...	アラ...	D1205	alarm_4																											
2: レジスタ名を決定																															

説明

ここでは、コントロール部で使われるべき名前を決定します。使用できる文字は、A-Z、a-z、0-9 および「\_」だけです。先頭はアルファベットでなければなりません。

☐ エキスパート設定

戻る

次へ

完了

キャンセル

各レジスタのレジスタ名を、GX Works2 ソフトウェアで 変数として使用することができます。

可能な限り、表のレジスタ名は、特性値の名前から自動的に生成されます。エントリーの順序を編集するには、1 つまたは複数のエントリーをマークし、矢印キーを使って上または下へ移動させます。更新 を使うと、レジスタを新たに割り当てることができます。その際、特性値は、測定タスク名と特性値名のアルファベット順に並べられます。行をダブルクリックして、名前を編集できます。以下の命名規則が適用されます。

- 名前は ASCII 形式で入力する必要があります。
- 使用できる文字は A～Z、a～z、0～9、\_ です。
- 最初の文字は文字でなければなりません。
- 文字数は 1～32 文字でなければなりません。

## 5. 完了をクリックしてウィザードを閉じ、出力のコンフィギュレーションを確定します。

6. スムーズに通信を行うには、出力のコンフィギュレーションファイルをコントローラに転送する必要があります。それにより、Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスがアラームステータス、値、アラームしきい値の書き込み先として使うレジスタが、コントローラのプログラミング環境で「予約済み」としてマークされます。詳細は、コントローラをシステムに組み込む<sup>[122]</sup>の節をご覧ください。




- バージョン番号を含むレジスタには、出力のコンフィギュレーションファイルの現在のバージョン番号が含まれています。この情報により、意図しないレジスタの上書きを防ぐことができます。コンフィギュレーションファイルに、コントローラのコンフィギュレーションに影響を及ぼすような変更が行われると、そのコントローラのバージョン番号がすぐに上がります。そのため、コントローラ内でのバージョン番号がSchaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイス上のバージョン番号と一致しくなくなります。アラームステータスや値はコントローラに書き込まれなくなり、エラーメッセージが表示されます。

新しいコンフィギュレーションファイルをコントローラに渡して初めて(コントローラをシステムに組み込む<sup>[122]</sup>を参照)、アラームステータスや値が再びコントローラに書き込まれるようになります。

- 特性値の通信ステータスは、例えばSchaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスとコントローラの間で通信エラーなどを示す値をコントローラに書き込みます。

値	省略形および意味
0	<b>communication_ok</b> : 問題なし
1	<b>error_configuration_inconsistent</b> : Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイス上の特性値の構造が変化し、データをコントローラに書き込めなくなりました。書き込みを再び可能にするには、Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスからコンフィギュレーションファイルをダウンロードし、コントローラに読み込む <sup>[122]</sup> 必要があります。
2	<b>error_reading_values</b> : Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスがコントローラから 1 つまたは複数の値を読み取ることができないか、値に問題があります。詳細は、履歴 <sup>[40]</sup> をご覧ください。
3	<b>error_alarm_state_not_updated</b> : Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスがコントローラに 1 つまたは複数の値を書き込むことができません。詳細は、履歴 <sup>[40]</sup> をご覧ください。

#### コントローラの出力を編集する方法

- 左側に展開された一覧で、出力を編集したいコントローラを選択します。
- 通信チャンネルの出力:[コントローラ名]で編集  をクリックし、ウィザードを開きます。
- ウィザードに従って任意の変更を行い、変更内容を完了で確定します。
- スムーズに通信を行うには、変更したコンフィギュレーションファイルをコントローラに転送する必要があります。詳細は、コントローラをシステムに組み込む<sup>[122]</sup>の節をご覧ください。

#### 8.7.2.5 コントローラをシステムに組み込む

以下の節では、特定のコントローラを通信チャンネルとして Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイ스에組み込む方法や、コントローラと Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスの間で通信を行うために必要な手順を、例を挙げて解説します。現在、次のような例が用意されています。

- 三菱電機 - GX Works2 ソフトウェア<sup>[123]</sup>

この節では、Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスとの通信に向けてコントローラを準備する方法と、そのために Schaeffler SmartWeb ソフトウェアで必要な設定について解説します。必要なステップは、次のとおりです。

- コントローラの通信設定をセットアップする
- SmartWebソフトウェアでコントローラを作成する
- SmartWebソフトウェアでコントローラの入力を作成する
- SmartWebソフトウェアでコントローラの出力を作成する
- SmartWebソフトウェアで出力を含むコンフィギュレーションファイルを保存する
- コンフィギュレーションファイルを GX Works2 に読み込む
- プログラムをコンパイルし、コントローラに転送する

これらの手順は、初期状況<sup>[123]</sup>にあるパラメータに従っています。

### 初期状況

三菱電機製コントローラには以下の通信パラメータが適用されます。

コントローラの IP アドレス	172.28.205.122
ポート (Host Station Port No.)	10 進数:1280 または 16 進数:0500
ネットワークプロトコル	TCP(MC プロトコル)
転送モード (Communication Data Code)	バイナリ
ステーション転送	なし

コントローラと Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスの接続を、次のように利用したいと考えています。

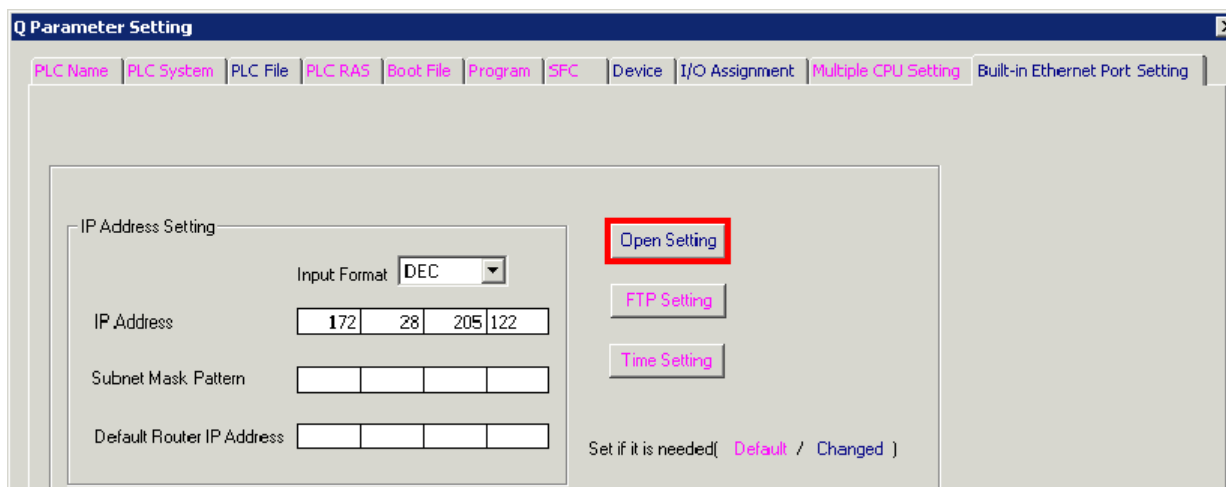
- コントローラの D1000 レジスタから回転速度の情報を読み取る。このレジスタは、レジスタのタイプが WORD で、値範囲は 0～10,000 です。これを 0～3000rpm の信号範囲に変換しようとしています。
- さらに、Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスに、基本コンフィギュレーションのアラームステータス、アラームステータス、ISO 特性値の値を三菱電機製コントローラのレジスタに書き込ませる。書き込みプロセスは、レジスタ D1200 から開始させます。

#### 8.7.2.5.1 三菱電機 GX Works2 ソフトウェア

### ステップ1: コントローラの通信設定を作成する

まず、Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスとの通信に必要なパラメータをすべて設定します。

1. **GX Works2** ソフトウェアを開始します。
2. **Project > Open** をクリックします。
3. コントローラのプログラムを含むプロジェクトを開きます。
4. ナビゲーションウィンドウで **Parameter > PLC Parameter** をダブルクリックします。



5. **Built-in Ethernet Port Setting** タブで **Open Setting** をクリックします。

Built-in Ethernet Port Open Setting

IP Address/Port No. Input Format: DEC

	Protocol	Open System	TCP Connection	Host Station Port No.	Destination IP Address	Destination Port No.
1	UDP	MELSOFT Connection				
2	TCP	MELSOFT Connection				
3	TCP	MELSOFT Connection				
4	TCP	MELSOFT Connection				
5	TCP	MELSOFT Connection				
6	TCP	MELSOFT Connection				
7	TCP	MELSOFT Connection				
8	TCP	MELSOFT Connection				
9	TCP	MELSOFT Connection				
10	TCP	MELSOFT Connection				
11	TCP	MELSOFT Connection				
12	TCP	MELSOFT Connection				
13	TCP	MELSOFT Connection				
14	TCP	MELSOFT Connection				
15	TCP	MELSOFT Connection				
16	TCP	MC Protocol		1280		

(\*) IP Address and Port No. will be displayed by the selected format.  
Please enter the value according to the selected number.

End Cancel

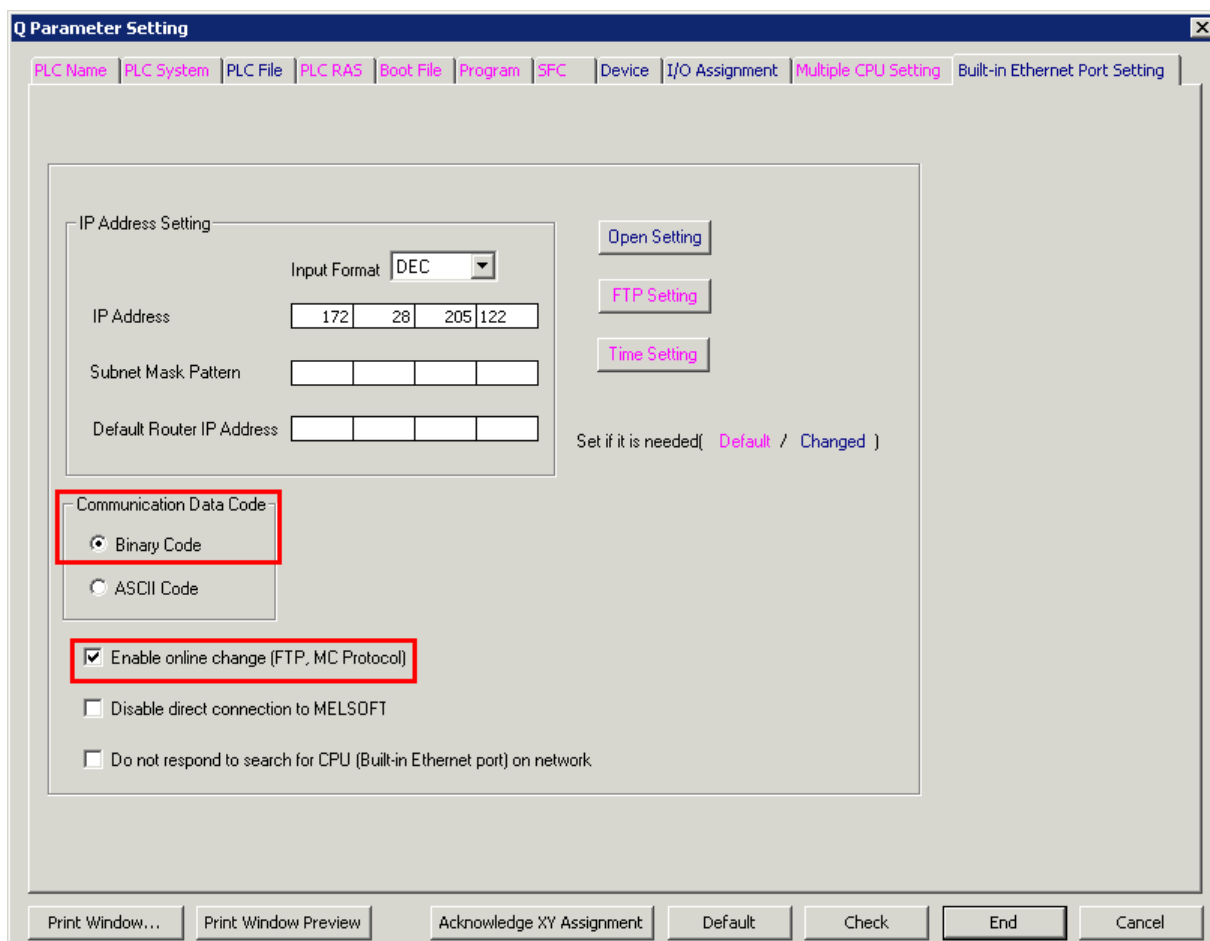
6. 次の設定を行います。

**Protocol** TCP

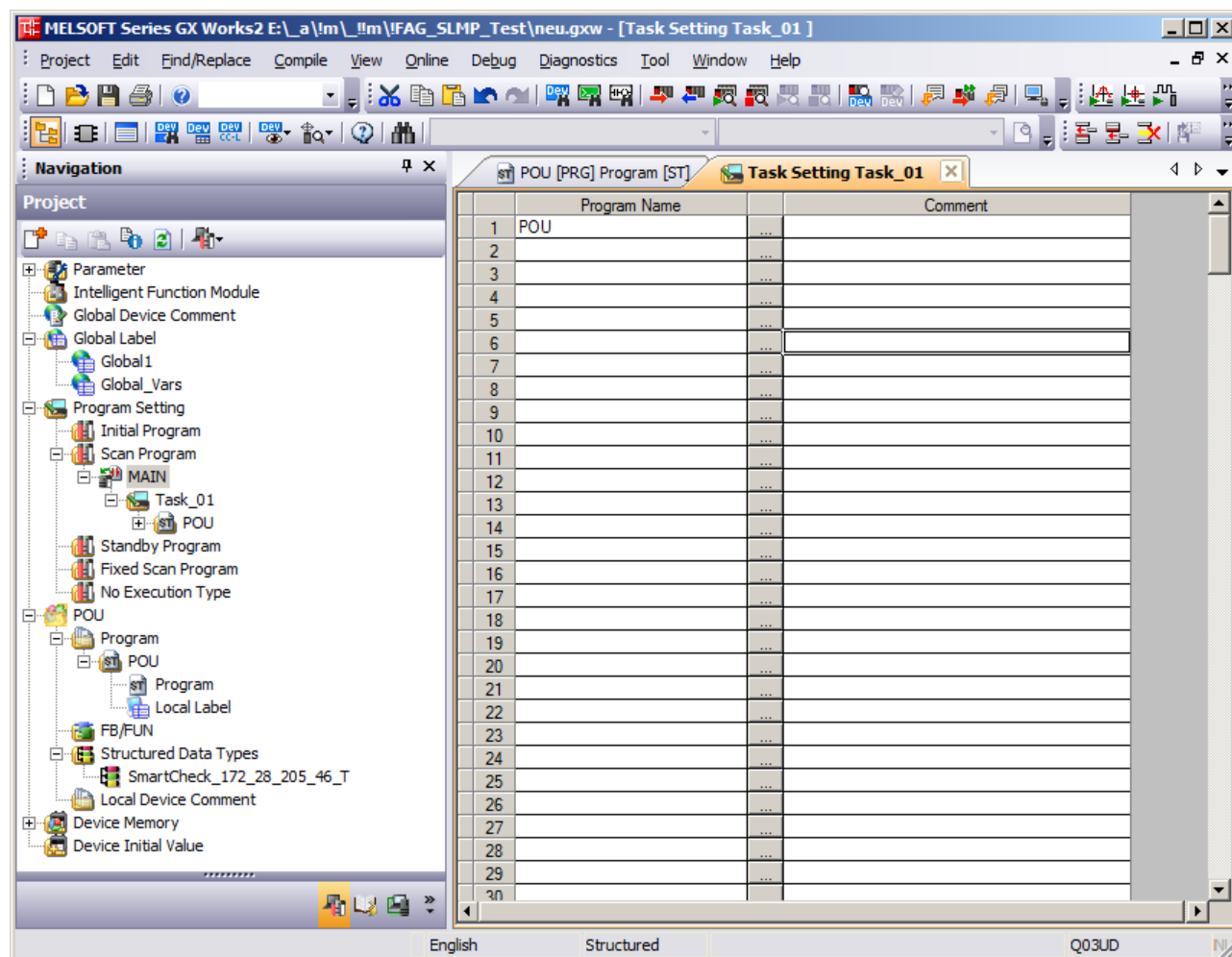
**Open System** MC Protocol

**Host Station Port No.** 10進数: 1280 (16進数の 0500に相当)

7. **End**をクリックして設定を適用します。



8. **Communication Data Code**の下で転送モードを**Binary Code**に設定します。
9. **Enable online change (FTP, MC Protocol)**をアクティブにし、Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink によるコントローラへのデータの書き込みを可能にします。
10. **End**をクリックします。
11. プログラムを Task に組み込みます。



12. メニューから **Compile > Rebuild All** を選択し、プログラムをコンパイルします。

13. プログラムをコントローラに転送します。

14. コントローラを再起動します。

FSchaeffler SmartWeb ソフトウェアでのコントローラのコンフィギュレーションを続行します。

## ステップ 2: Schaeffler SmartWeb ソフトウェアでコントローラを作成する

通信チャンネルで追加をクリックし、ウィザードを開きます。ウィザードの指示に従って、2 ステップで通信チャンネルの作成を行います。

- 最初のステップで、通信チャンネルを作成したいコントローラを選択します。
- ステップ 2 では、コントローラに関する以下のデータを入力します。

通信チャンネルを編集	
Schaeffler SmartWeb	
<div>ステップ</div> <div>           1: 通信チャンネルの種類を選択            2: 三菱コントローラ (SLMP) のコンフィギュレーション         </div> <div>説明</div> <div>           ここでは三菱コントローラ設定のコンフィギュレーションを行います。サーバー名とポートおよびプロトコル詳細を入力してください。         </div>	<div>ステップ: 三菱コントローラ (SLMP) のコンフィギュレーション</div> <div>           名前: <input type="text" value="PLC_018"/>            IP アドレス: <input type="text" value="172.28.205.121"/>            ポート: <input type="text" value="1280"/>            ステーション転送            プロトコル: <input type="text" value="TCP"/>            転送モード: <input type="text" value="Binary"/>  <div> <input type="button" value="接続テスト"/> <div></div> </div> </div> <div> <div>エキスパート設定</div> <div> <input type="button" value="戻る"/> <input type="button" value="次へ"/> <input type="button" value="完了"/> <input type="button" value="キャンセル"/> </div> </div>

名前 PLC\_018

IP アドレス 172.28.205.122

ポート 10進数: 1280 (16進数の 0500に相当)

プロトコル TCP

転送モード バイナリ

コントローラの作成方法に関するその他の情報は、[コントローラを追加 / 編集](#) <sup>115</sup>の節をご覧ください。



設定内容を点検するには、**接続テスト**ボタンをクリックします。隣にあるボタンが緑色になれば、設定が正しいことを示します。

### ステップ 3: SmartWeb ソフトウェアでコントローラの入力を作成する

通信チャンネルの入力: **PLC\_018** で追加をクリックし、入力を追加ウィンドウで以下の設定を行います。

インプットを編集

Schaeffler SmartWeb

名前: 来自PLC\_018的速度

スタートレジスタ: D1000 ?

レジスタのタイプ: WORD ?

単位グループ: 周波数 / 回転数 単位: RPM ?

照会インターバル: 1 秒 ?

信号値:  
 最大値 [RPM]: 163,837  
 スケーリング: 16.38  
 最小値 [RPM]: 0.0

RPM

最小レジスタ値: 0.0 最大レジスタ値: 10,000

OK キャンセル

名前 回転数オフ PLC\_018

スタートレジスタ D1000

レジスタのタイプ WORD

単位グループ 周波数／回転数

単位 RPM

レジスタ値 最大の値を 10,000 に変更します。

信号値 最小に **0**、最大に **3,000** を入力します。

コントローラの入力の作成方法に関するその他の情報は、コントローラの入力を追加 / 編集<sup>117</sup>の節をご覧ください。



- Schaeffler SmartWeb ソフトウェアで入力をセットアップした場合は、リアルタイム表示<sup>51</sup>で、Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスからのデータが受信されているかどうかを点検できます。
- この入力 は測定タスクの内部入力とまったく同じように使用できます。

#### ステップ 4: SmartWeb ソフトウェアでコントローラの出力を作成する

通信チャネルの出力: **PLC\_018** で作成をクリックし、ウィザードの最初のステップで次のような設定を行います。



Éditer les sorties

FLENDER

DX500 web

Étapes

1: Sélectionner un registre et des valeurs caractéristiques

2: Déterminer le nom du registre

Description

Définissez ici le registre de la commande à partir duquel les informations sont écrites. De plus, sélectionnez les valeurs caractéristiques dont l'état d'alarme, la valeur et/ou les seuils d'alarme doivent être transférés.

Étape: Sélectionner un registre et des valeurs caractéristiques

Registre de lancement :

D1200

Registre final :

D1202

Fréquence d'actualisation :

60 sec.

Sélection de valeur caractéristique :

Valeurs caractéristiques disponibles	État d'alarme	Valeur	Seuils d'alarme
← État de communication	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
– ✓ Etat d'alarme périphérique	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
– ✓ Tâche de mesure de base	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
✓ Large bande RMS - Enveloppe (état général)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
✓ Large bande RMS - Accélération (état général)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
✓ ISO 10816-1 (2 Hz - 1 kHz) - Vitesse	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
✓ Crête à crête - Accélération (valeurs de vibration élevées)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
✓ Température du système	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
– ✓ Déclencheur et conditions de mesure	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⚠ Machine en marche	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

☐ Paramètres experts

Précédent

Suivant

Terminer

Annuler

スタートレジスタ

D1200

更新頻度




アラームステータスをコントローラに転送する頻度を指定します。

使用できる特性値

特性値基本コンフィギュレーションに対してはアラームステータス、特性値 **ISO 10816-1** に対してはアラームステータスと値を選択します。アクティブにするには、特性値のボックスをクリックしてください。

ウィザードの 2 番目のステップでは、自動的に割り当てられたレジスタ名を必要に応じて変更できます。コントローラの出力を含むコンフィギュレーションの作成方法に関するその他の情報は、コントローラの出力を追加 / 編集 [119](#) の節をご覧ください。

#### ステップ 5: コントローラの出力を含むコンフィギュレーションファイルを SmartWeb ソフトウェアに保存する

- 通信チャンネルエリア  で希望の  コントローラ (例: PLC\_018) をクリックします。
- ダウンロード  をクリックし、コントローラの出力を含むコンフィギュレーションファイルをダウンロードします。
- コンフィギュレーションファイルを開きます:

Schaeffler SmartWeb

次と接続しました: SmartCheck 36  
次の権限でログインしました: admin

ファイル ▼ 編集 ▼ 測定データ ▼ 移動先 ▼ ヘルプ ▼

コンフィギュレーション

名前

- コンフィギュレーション
  - インプットコンフィ...
  - 測定タスク
  - アウトプットコンフ...
  - 測定トリガ
  - 通信チャンネル
  - Email
  - OPC UA server
  - PLC\_018
  - デバイス
  - ベアリング
  - ベアリングメーカー
- アクション
- 新しい測定タスクを作成
- 領域
- ステータス
- 測定データ
- リアルタイム表示
- コンフィギュレーション
- ユーザー管理
- ログアウト

完了

通信チャンネル

名前: PLC\_018

デバイスのタイプ: 三菱のコントロール部

ネットワーク番号: -

ステーション番号: -

IP アドレス: 172.28.205.122

ポート: 1280

バージョン番号を含むレジスタ: D1200

プロトコル: TCP

転送モード: Binary

コンフィギュレーションのバージョン: 5

編集 削除 追加

通信チャンネルのインプット: PLC\_018

名前	スタートレ...	レジス...	照会インターバル	最小信号
Velocity from PLC_018	D1000	WORD	1.0 s	0.0

編集 削除 追加

通信チャンネルのアウトプット: PLC\_018

レジスタ	レジスタ名	測定タスク	特性
D1201	s_communication_status		通信
D1202	a_device_status	総合アラームステ...	総合
D1203	a_crest_factor_acceleration_imp	Default configuration	Crest
D1204	c_crest_factor_acceleration_imp	Default configuration	Crest
D1205	a_crest_factor_velocity	Default configuration	Crest

編集 削除 作成

ダウンロード

```
(*SOFTCONTROL:
VERSION:7.04.01*)
TYPE
SmartCheck_10_179_8_82_T:
STRUCT
config_version: INT:=1;
s_kommunikationsstatus: INT:=0;
a_geratestatus: INT:=0;
a_basiskonfiguration: INT:=0;
END_STRUCT;
END_TYPE
VAR_GLOBAL
SmartCheck_10_179_8_82 AT
@'%MW0.1000,%MW0.1001,%MW0.1002,%MW0.1003':
SmartCheck_10_179_8_82_T;
END_VAR

PROGRAM POU
(**)
(**)
VAR_EXTERNAL
SmartCheck_10_179_8_82: SmartCheck_10_179_8_82_T;
END_VAR
'ST'
BODY
MOV(P(SM402, 1, SmartCheck_10_179_8_82.config_version);
END_BODY
END_PROGRAM

CONFIGURATION scConfiguration
```

4. **Ctrl+A** で新規ウィンドウの内容を選択し、**Ctrl+C** でクリップボードにコピーし、**Ctrl+V** でエディタ (Microsoft のメモ帳など) に貼り付けます。
5. ファイルに任意の名前を付け、**.ASC** の拡張子で保存します (例: Device\_config\_01.asc)。



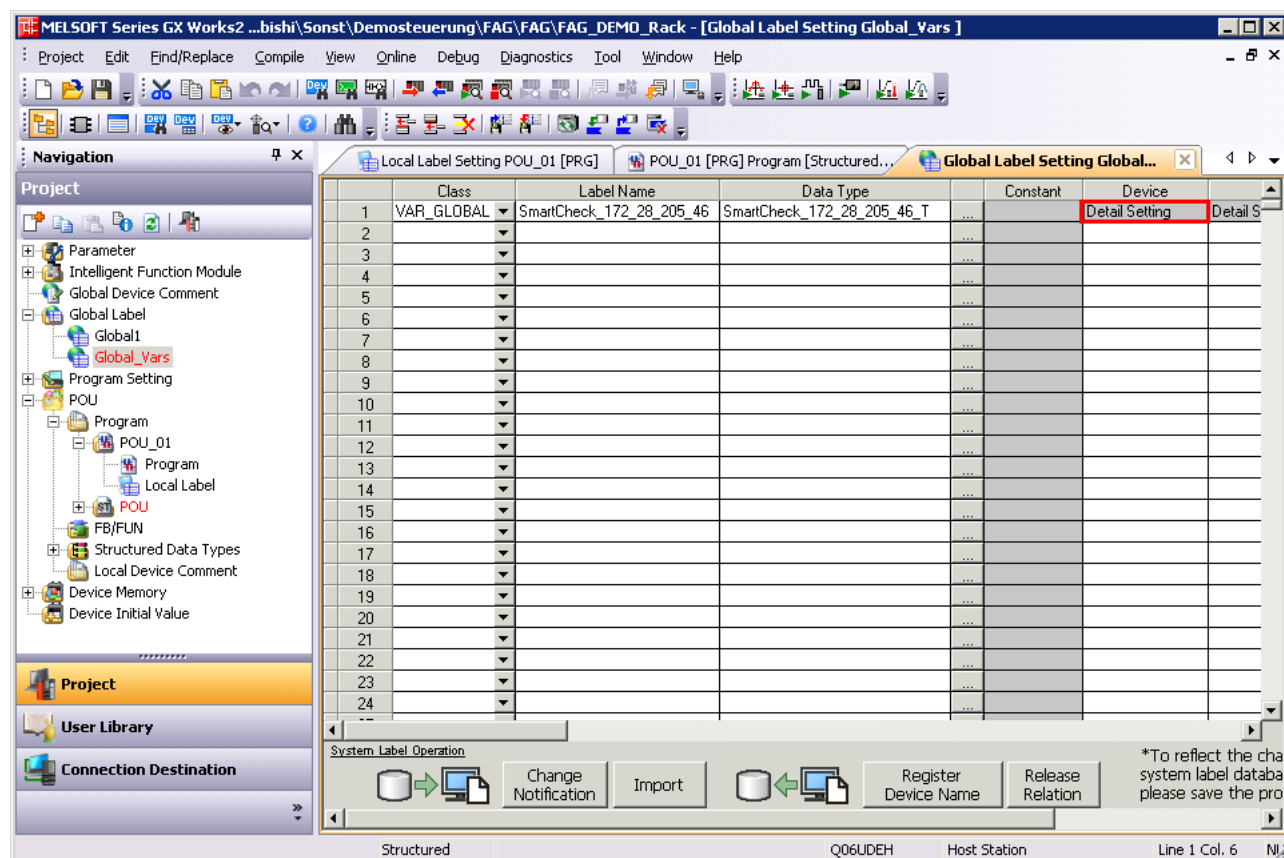
- お使いのブラウザが Mozilla Firefox である場合は、名前を付けて保存を使い、ASCII ファイルとして保存します。
- ファイルに **.ASC** の拡張子が付いていることを確認してください。拡張子が異なると、GX Works2 ソフトウェアで読み取ることができません。

## ステップ 6: コンフィギュレーションファイルを GX Works2 に読み込む

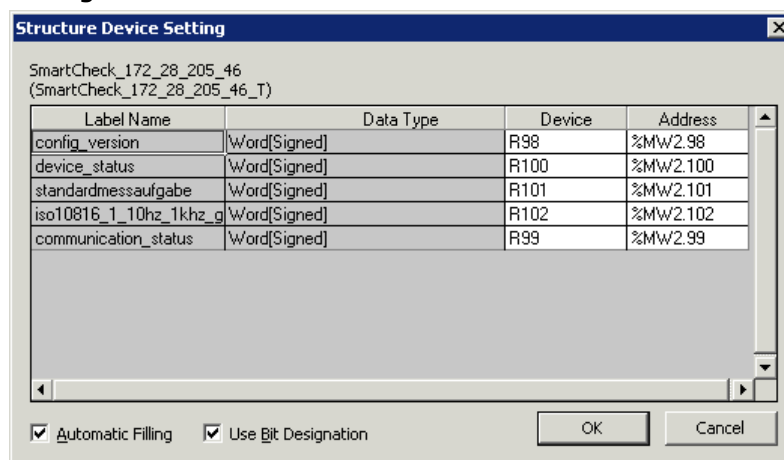


Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink コンフィギュレーションファイルをインポートする前に、既存のプロジェクトのバックアップコピーを作成してください。

1. **Project > Open Other Data > Read ASC Format File** をクリックします。
2. 作成された ASCII ファイル (**.ASC**) を選択し、**OK** をクリックします。
3. Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink コンフィギュレーションファイルが読み込まれ、ツリーに新しい **Global Label** として、**Global\_Vars** の名前で追加されます。



Device 列で **Detail Setting** をクリックすると、特性値とそのレジスタが表示されます。



#### ステップ7: プログラムをコンパイルし、コントローラに転送する

1. メニューから **Compile > Rebuild All** を選択し、プログラムをコンパイルします。
2. プログラムを保存し、コントローラに転送します。

#### 8.7.2.5.2 三菱電機 GX IEC Developer ソフトウェア

#### ステップ1: コントローラの通信設定を作成する

まず、Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスとの通信に必要なパラメータをすべて設定します。

1. **GX IEC Developer** ソフトウェアを開始します。
2. **Project > Open** をクリックします。
3. Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink コンフィギュレーションのインポート先とするプロジェクトを開きます。
4. ナビゲーションウィンドウで **Parameter > PLC Parameter** をダブルクリックします。

**Q parameter setting**

PLC name | PLC system | PLC file | **PLC RAS** | Device | Program | Boot file | **SFC** | **I/O assignment** | Built-in Ethernet port

IP address

Input format: DEC

IP address: 172 | 28 | 205 | 122

Subnet mask pattern: | | | |

Default router IP address: | | | |

Open settings

FTP settings

Time settings

Set if it is needed( Default / Changed )

5. **Built-in Ethernet port** タブで **Open settings** をクリックします。

**Built-in Ethernet Port Open Setting**

IP Address/Port No. Input Format: DEC

	Protocol	Open System	TCP Connection	Host Station Port No.	Destination IP Address	Destination Port No.
1	UDP	MELSOFT Connection				
2	TCP	MELSOFT Connection				
3	TCP	MELSOFT Connection				
4	TCP	MELSOFT Connection				
5	TCP	MELSOFT Connection				
6	TCP	MELSOFT Connection				
7	TCP	MELSOFT Connection				
8	TCP	MELSOFT Connection				
9	TCP	MELSOFT Connection				
10	TCP	MELSOFT Connection				
11	TCP	MELSOFT Connection				
12	TCP	MELSOFT Connection				
13	TCP	MELSOFT Connection				
14	TCP	MELSOFT Connection				
15	TCP	MELSOFT Connection				
16	TCP	MC Protocol		1280		

(\*) IP Address and Port No. will be displayed by the selected format.  
Please enter the value according to the selected number.

End Cancel

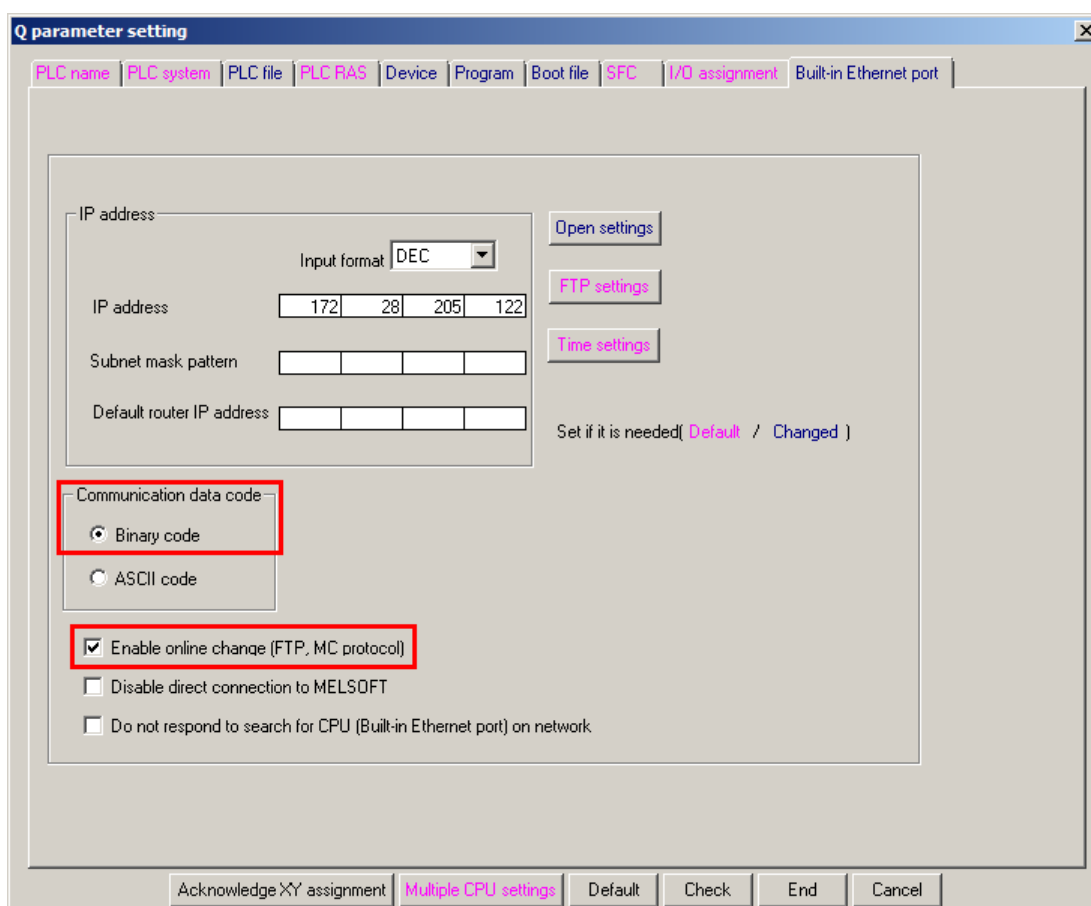
6. 次の設定を行います。

**Protocol** TCP

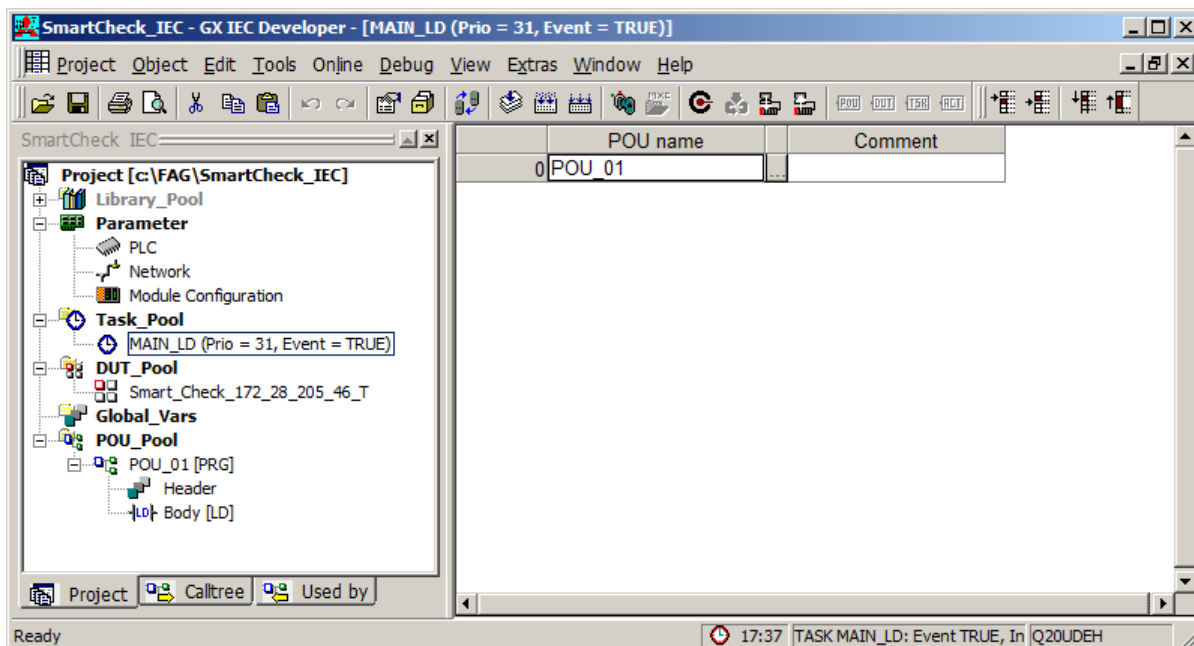
**Open System** MC Protocol

**Host Station Port No.** 10 進数: 1280

7. **End**をクリックして設定を適用します。



8. **Communication Data Code**の下で転送モードを**Binary Code**に設定します。
9. **Enable online change (FTP, MC Protocol)**をアクティブにし、Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink によるコントローラへのデータの書き込みを可能にします。
10. **End**をクリックします。
11. プログラムを Task に組み込みます。



12. メニューから **Compile > Rebuild All** を選択し、プログラムをコンパイルします。
  13. プログラムをコントローラに転送します。
  14. コントローラを再起動します。
- FSchaeffler SmartWeb ソフトウェアでのコントローラのコンフィギュレーションを続行します。

## ステップ 2: Schaeffler SmartWeb ソフトウェアでコントローラを作成する

通信チャンネルで追加をクリックし、ウィザードを開きます。ウィザードの指示に従って、2 ステップで通信チャンネルの作成を行います。

- 最初のステップで、通信チャンネルを作成したいコントローラを選択します。
- ステップ 2 では、コントローラに関する以下のデータを入力します。

通信チャンネルを編集												
Schaeffler SmartWeb												
<table border="1"><thead><tr><th>ステップ</th></tr></thead><tbody><tr><td>1: 通信チャンネルの種類を選択</td></tr><tr><td>2: 三菱コントローラ (SLMP) のコンフィギュレーション</td></tr></tbody></table>	ステップ	1: 通信チャンネルの種類を選択	2: 三菱コントローラ (SLMP) のコンフィギュレーション	<table border="1"><thead><tr><th>ステップ: 三菱コントローラ (SLMP) のコンフィギュレーション</th></tr></thead><tbody><tr><td>名前: <input type="text" value="PLC_018"/></td></tr><tr><td>IP アドレス: <input type="text" value="172.28.205.121"/></td></tr><tr><td>ポート: <input type="text" value="1280"/></td></tr><tr><td>ステーション転送</td></tr><tr><td>プロトコル: <input type="text" value="TCP"/></td></tr><tr><td>転送モード: <input type="text" value="Binary"/></td></tr><tr><td><input type="button" value="接続テスト"/> </td></tr></tbody></table>	ステップ: 三菱コントローラ (SLMP) のコンフィギュレーション	名前: <input type="text" value="PLC_018"/>	IP アドレス: <input type="text" value="172.28.205.121"/>	ポート: <input type="text" value="1280"/>	ステーション転送	プロトコル: <input type="text" value="TCP"/>	転送モード: <input type="text" value="Binary"/>	<input type="button" value="接続テスト"/> 
ステップ												
1: 通信チャンネルの種類を選択												
2: 三菱コントローラ (SLMP) のコンフィギュレーション												
ステップ: 三菱コントローラ (SLMP) のコンフィギュレーション												
名前: <input type="text" value="PLC_018"/>												
IP アドレス: <input type="text" value="172.28.205.121"/>												
ポート: <input type="text" value="1280"/>												
ステーション転送												
プロトコル: <input type="text" value="TCP"/>												
転送モード: <input type="text" value="Binary"/>												
<input type="button" value="接続テスト"/> 												
説明												
ここでは三菱コントローラ設定のコンフィギュレーションを行います。サーバー名とポートおよびプロトコル詳細を入力してください。												
エキスパート設定	<input type="button" value="戻る"/> <input type="button" value="次へ"/> <input type="button" value="完了"/> <input type="button" value="キャンセル"/>											

名前	PLC_018
IP アドレス	172.28.205.122
ポート	10進数: 1280 (16進数の 0500に相当)
プロトコル	TCP
転送モード	バイナリ

コントローラの作成方法に関するその他の情報は、[コントローラを追加 / 編集](#) 115 の節をご覧ください。



設定内容を点検するには、**接続テスト**ボタンをクリックします。隣にあるボタンが緑色になれば、設定が正しいことを示します。

## ステップ 3: SmartWeb ソフトウェアでコントローラの入力を作成する

通信チャンネルの入力: **PLC\_018** で追加をクリックし、入力を追加ウィンドウで以下の設定を行います。

インプットを編集

---

Schaeffler SmartWeb

名前:

スタートレジスタ:  ?

レジスタのタイプ:  ?

単位グループ:  単位:  ?

照会インターバル:  ?

信号値:

最大値 [RPM]:

スケーリング:

最小値 [RPM]:

?

最小レジスタ値:  最大レジスタ値:


OK キャンセル

Register Value (X)	RPM (Y)
0	0
2,000	32,767
4,000	65,534
6,000	98,301
8,000	131,068
10,000	163,837

名前	回転数オフ PLC_018
スタートレジスタ	D1000
レジスタのタイプ	WORD
単位グループ	周波数／回転数
単位	RPM
レジスタ値	最大の値を 10,000 に変更します。
信号値	最小に <b>0</b> 、最大に <b>3,000</b> を入力します。

コントローラの入力の作成方法に関するその他の情報は、コントローラの入力を追加 / 編集  の節をご覧ください。



- Schaeffler SmartWeb ソフトウェアで入力をセットアップした場合は、リアルタイム表示  で、Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスからのデータが受信されているかどうかを点検できます。
- この入力は測定タスクの内部入力とまったく同じように使用できます。

#### ステップ 4: SmartWeb ソフトウェアでコントローラの出力を作成する

通信チャネルの出力: **PLC\_018** で作成をクリックし、ウィザードの最初のステップで次のような設定を行います。

Éditer les sorties

FLENDER

DX500 web

Étapes

1: Sélectionner un registre et des valeurs caractéristiques

2: Déterminer le nom du registre

Description

Définissez ici le registre de la commande à partir duquel les informations sont écrites. De plus, sélectionnez les valeurs caractéristiques dont l'état d'alarme, la valeur et/ou les seuils d'alarme doivent être transférés.

Étape: Sélectionner un registre et des valeurs caractéristiques

Registre de lancement :

D1200

Registre final :

D1202

Fréquence d'actualisation :

60 sec.

Sélection de valeur caractéristique :

Valeurs caractéristiques disponibles	État d'alarme	Valeur	Seuils d'alarme
← État de communication	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
– ✓ Etat d'alarme périphérique	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
– ✓ Tâche de mesure de base	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
✓ Large bande RMS - Enveloppe (état général)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
✓ Large bande RMS - Accélération (état général)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
✓ ISO 10816-1 (2 Hz - 1 kHz) - Vitesse	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
✓ Crête à crête - Accélération (valeurs de vibration élevées)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
✓ Température du système	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
– ✓ Déclencheur et conditions de mesure	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⚠ Machine en marche	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

☐ Paramètres experts

Précédent

Suivant

Terminer

Annuler

スタートレジスタ

D1200

更新頻度




アラームステータスをコントローラに転送する頻度を指定します。

使用できる特性値

特性値基本コンフィギュレーションに対してはアラームステータス、特性値 **ISO 10816-1** に対してはアラームステータスと値を選択します。アクティブにするには、特性値のボックスをクリックしてください。

ウィザードの 2 番目のステップでは、自動的に割り当てられたレジスタ名を必要に応じて変更できます。コントローラの出力を含むコンフィギュレーションの作成方法に関するその他の情報は、コントローラの出力を追加 / 編集 [119](#) の節をご覧ください。

## ステップ 5: コントローラの出力を含むコンフィギュレーションファイルを SmartWeb ソフトウェアに保存する

- 通信チャンネルエリア  で希望の  コントローラ (例: PLC\_018) をクリックします。
- ダウンロード  をクリックし、コントローラの出力を含むコンフィギュレーションファイルをダウンロードします。
- コンフィギュレーションファイルを開きます:

136



Schaeffler SmartWeb

次と接続しました: SmartCheck 36  
次の権限でログインしました: admin

ファイル ▼ 編集 ▼ 測定データ ▼ 移動先 ▼ ヘルプ ▼

コンフィギュレーション

名前

名前: PLC\_018

デバイスのタイプ: 三菱のコントロール部

ネットワーク番号: -

ステーション番号: -

IP アドレス: 172.28.205.122

ポート: 1280

バージョン番号を含むレジスタ: D1200

プロトコル: TCP

転送モード: Binary

コンフィギュレーションのバージョン: 5

編集 削除 追加

通信チャンネルのインプット: PLC\_018

名前	スタートレ...	レジス...	照会インターバル	最小信号
Velocity from PLC_018	D1000	WORD	1.0 s	0.0

編集 削除 追加

通信チャンネルのアウトプット: PLC\_018

レジスタ	レジスタ名	測定タスク	特性
D1201	s_communication_status	通信	
D1202	a_device_status	総合アラームステ...	総合
D1203	a_crest_factor_acceleration_imp	Default configuration	Crest
D1204	c_crest_factor_acceleration_imp	Default configuration	Crest
D1205	a_100Hz_4_10kHz_4kHz_velocity	Default configuration	1004

編集 削除 作成

(\*SOFTCONTROL:  
VERSION:7.04.01\*)  
TYPE  
SmartCheck\_10\_179\_8\_82\_T:  
STRUCT  
config\_version: INT:=1;  
s\_kommunikationsstatus: INT:=0;  
a\_geratestatus: INT:=0;  
a\_basiskonfiguration: INT:=0;  
END\_STRUCT;  
END\_TYPE  
VAR\_GLOBAL  
SmartCheck\_10\_179\_8\_82 AT  
@%MW0.1000,%MW0.1001,%MW0.1002,%MW0.1003':  
SmartCheck\_10\_179\_8\_82\_T;  
END\_VAR  
PROGRAM POU  
(\*\*)  
(\*\*)  
VAR\_EXTERNAL  
SmartCheck\_10\_179\_8\_82: SmartCheck\_10\_179\_8\_82\_T;  
END\_VAR  
'ST'  
BODY  
MOV(P(SM402, 1, SmartCheck\_10\_179\_8\_82.config\_version);  
END\_BODY  
END\_PROGRAM  
CONFIGURATION scConfiguration

4. **Ctrl+A** で新規ウィンドウの内容を選択し、**Ctrl+C** でクリップボードにコピーし、**Ctrl+V** でエディタ (Microsoft のメモ帳など) に貼り付けます。
5. ファイルに任意の名前を付け、**.ASC** の拡張子で保存します (例: Device\_config\_01.asc)。



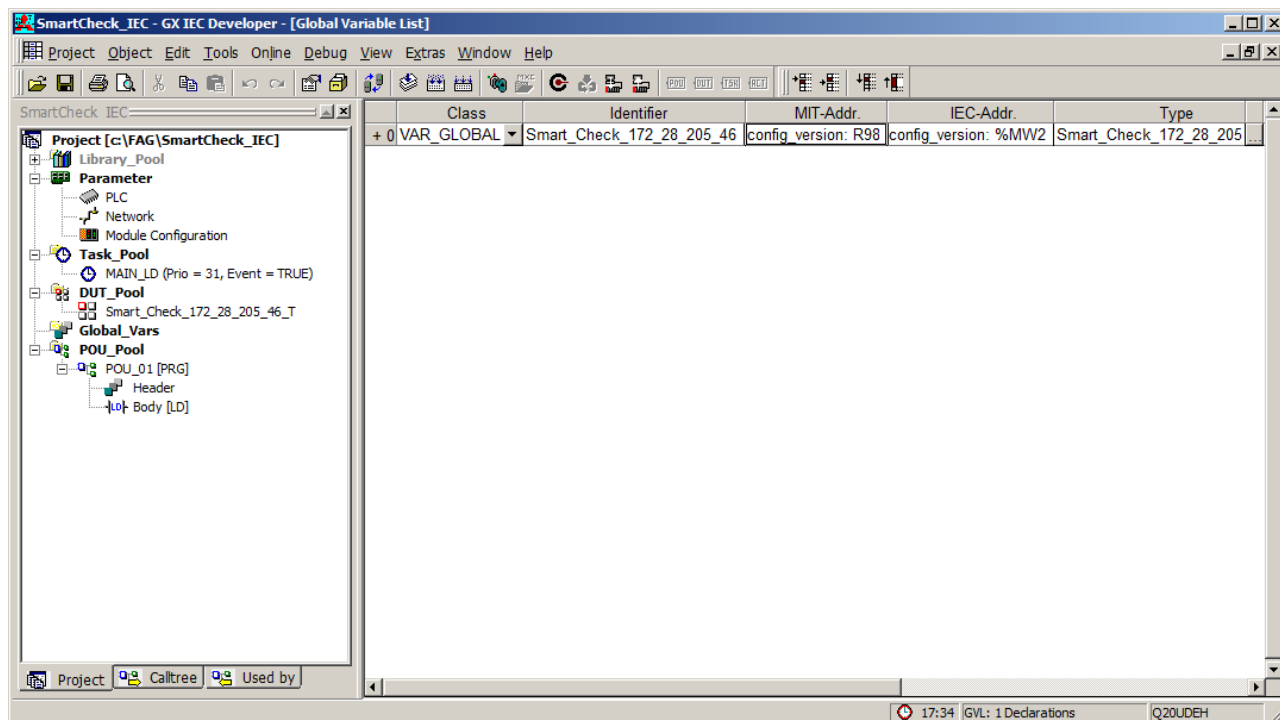
- お使いのブラウザが Mozilla Firefox である場合は、名前を付けて保存を使い、ASCII ファイルとして保存します。
- ファイルに **.ASC** の拡張子が付いていることを確認してください。拡張子が異なると、GX Works2 ソフトウェアで読み取ることができません。

## ステップ 6: コンフィギュレーションファイルを GX Works2 に読み込む

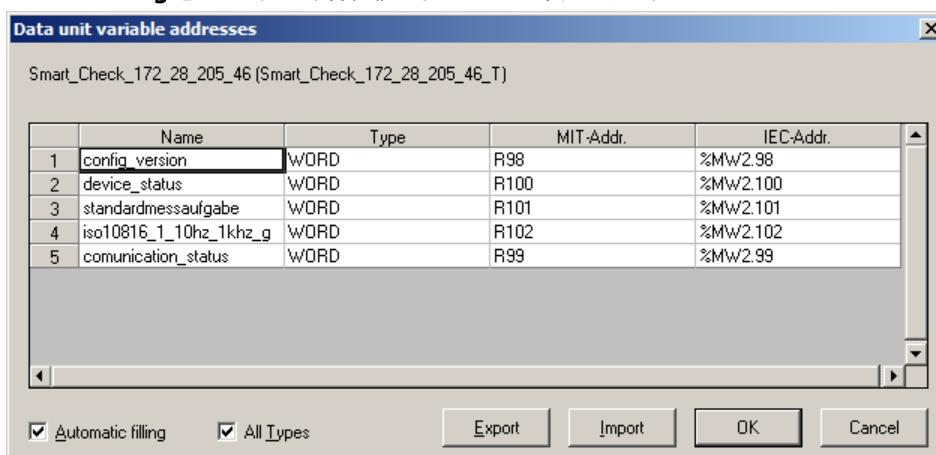


Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink コンフィギュレーションファイルをインポートする前に、既存のプロジェクトのバックアップコピーを作成してください。

1. **Project > Open Other Data > Read ASC Format File** をクリックします。
2. 作成された ASCII ファイル (**.ASC**) を選択し、**OK** をクリックします。
3. Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink コンフィギュレーションファイルが読み込まれ、ツリーに新しい **Global Label** として、**Global\_Vars** の名前で追加されます。



Device 列で **Detail Setting** をクリックすると、特性値とそのレジスタが表示されます:



#### ステップ7: プログラムをコンパイルし、コントローラに転送する

1. メニューから **Compile > Rebuild All** を選択し、プログラムをコンパイルします。
2. プログラムを保存し、コントローラに転送します。

### 8.7.3 OPC UA サーバーの通信チャンネル

OPC UA は、デバイス間で通信とデータ交換を可能にする規格です。通信チャンネル(OPC UA サーバー) <sup>139)</sup> エリア <sup>139)</sup> OPC で、Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスを OPC UA サーバーとして構成することができます。このデバイスの特性値を他のコントローラから読み出すことができます。また、他のコントローラの工程パラメータを OPC UA サーバーの入力により SmartCheck 或いは ProLink デバイ스에組み込むことができます。そのためには、以下の手順を実行する必要があります。

- まず、OPC UA サーバーを通信チャンネルとして追加 <sup>140)</sup> する必要があります。その際、基本的にサーバーポートと必要な場合は認証データを指定します。
- 他のコントローラから OPC UA サーバーを介してデータを読み出すには、1 つまたは複数の OPC UA サーバーの入力を作成 <sup>141)</sup> する必要があります。入力では、コントローラのレジスタからデータを読み取る頻度と値の範囲を設定できます。また、レジスタのデータを変換する信号ユニットと信号値の範囲を指定することも可能です。
- OPC UA サーバーに対しては、任意の数の入力を作成できます。作成した入力は、SmartWeb ソフトウェアで入力コンフィギュレーション <sup>142)</sup> に表示される入力と同様に使用できます。特にサーバーの入力は、測定タスク <sup>143)</sup>、測定条件 <sup>140)</sup>、測定トリガ <sup>144)</sup> で使用できます。

- OPC UA サーバーを介してどのデータが使用可能かを確認するには、OPC UA クライアントを使用します。それによって OPC UA サーバーから読み取り可能な形式で値をダウンロードすることができます。

### 8.7.3.1 OPC UA サーバーの通信チャンネル領域

左側に展開された一覧にある通信チャンネル領域には、Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイス用に作成された OPC UA サーバーが表示されます。右側のメインパネルには、OPC UA サーバーの基本情報と、その入力に関する情報が表示されます（作成されている場合）。

Schaeffler SmartWeb

次と接続しました:: SmartCheck 36  
次の権限でログインしました:: admin

ファイル ▼ 編集 ▼ 測定データ ▼ 移動先 ▼ ヘルプ ▼

コンフィギュレーション

名前

名前 : OPC UA サーバー

サーバーポート : 4840

ユーザー名 : -

パスワード : -

変更日 : 2019/12/18 20:15:42  
作成日 : 2019/12/18 20:15:42  
変更者 : admin

編集 削除 追加

通信チャンネルのインプット : OPC UA server

名前	最小信号	最大信号	単位	最小レジスタ値	最大レジスタ値	周波数インター...
Speed input	-10.0	10.0	[kHz]	-10.0	10.0	1.0

編集 削除 追加

完了

OPC UA サーバーをクリックすると、以下の情報と機能がメインパネルに表示されます。

#### 通信チャンネル






OPC UA サーバーの基本情報と機能が表示されます。

- 名前の隣に、使用されているサーバーポートが表示されます。
- OPC UA サーバーの認証が有効になっている場合、ここにユーザー名とパスワードが表示されます。
- OPC UA サーバーを追加するには、追加 をクリックします。詳細は、**OPC UA サーバーを追加／編集** <sup>140</sup>を参照してください。
- OPC UA サーバーを編集するには、編集 をクリックします。詳細は、**OPC UA サーバーを追加／編集** <sup>141</sup>を参照してください。
- OPC UA サーバー通信チャンネルは削除することができます。それには、削除 をクリックし、**OK** で確定します。
- 右上の をクリックすると、コンフィギュレーション一覧 <sup>142</sup>が開きます。



#### 通信チャンネルの入力

ここには、OPC UA Server 用に作成した入力の概要がテーブル形式で表示されます。ここには、次の情報と機能があります：

- 表には、各入力についての情報が表示されます。例えば、名前の隣には、データがどの信号範囲に変換されるか（最小信号～最大信号）、どのレジスタ範囲がカバーされるか（最小レジスタ値～最大レジスタ値）、問い合わせの頻度が表示されます。

- 入力を編集するには、**編集**  をクリックします。詳細は、**OPC UA サーバーの入力を追加／編集**  を参照してください。
- 入力を追加するには、**追加**  をクリックします。詳細は、**OPC UA サーバーの入力を追加／編集**  を参照してください。
- 選択されている入力を削除することができます。それには、**削除**  をクリックし、**OK** で確定します。




測定タスク  に組み込んだ入力は、削除できません。この場合、**削除**  ボタンがインアクティブになります。そのような入力を削除するには、まず入力を使用している測定タスクの方を先に削除する必要があります。

### 8.7.3.2 OPC UA サーバーを追加／編集

Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスを OPC UA サーバーとして使用するには、適切な通信チャンネルを作成する必要があります。

次の手順で **OPC UA サーバーの通信チャンネル**を作成します。

1. **通信チャンネル**で**追加**  をクリックし、ウィザードを開きます。ウィザードの指示に従って、2 ステップで通信チャンネルの作成を行います。
2. 最初のステップで、通信チャンネルタイプとして **OPC UA サーバー**を選択します。
3. **次へ**をクリックし、ステップ 2 に進みます。ここでは OPC UA サーバーに関するデータを入力します。

通信チャンネルを編集

Schaeffler SmartWeb

ステップ	ステップ: OPC UA サーバーのコンフィギュレーション
1: 通信チャンネルの種類を選択 2: OPC UA サーバーのコンフィギュレーション	<div> <div> サーバーポート: <input type="text" value="4840"/> <span>?</span> </div> <div> <input type="checkbox"/> 認証を有効にする </div> <div> ユーザー名: <input type="text"/> </div> <div> パスワード: <input type="password"/> </div> <div> <input type="checkbox"/> パスワードを表示 </div> </div>
説明	<p>ここでは OPC UA サーバー設定のコンフィギュレーションを行います。OPC UA サーバーポートおよび認証データを入力してください。</p>

☐ エキスパート設定

戻る
次へ
完了
キャンセル

次のようなオプションがあります。

サーバーポート

ここでは、SmartCheck 或いは ProLink デバイスのサーバーの TCP ポートを入力します。



OPC UA 規格はサーバーポートに対して **4840** という値を指定します。この値を変更するには専門知識が必要です。

## 認証を有効にする

デバイスデータの読み出しを管理したい場合は、このオプションを有効にします。このオプションが有効になっていれば、ユーザー名とパスワードを決定できます。それによって、SmartCheck 或いは ProLink デバイスでは OPC UA サーバー通信に対して認証が必要になります。入力中に、パスワードを表示オプションでパスワードを表示させることができます。

## Int32 データ型のノード ID – Siemens S7 互換

[エキスパート設定] が有効になっている場合にのみ表示されます。

Int32 データ型のノード ID のみを処理できるコントローラに対して、このオプションを有効にします。これは、特に Siemens-S7 ファミリーのコントローラに該当します。このオプションを有効にすると、サーバーは最大値 2147483647 までのノード ID を生成します。


このオプションが無効になっている場合、サーバーは、OPCUA 仕様で許容される最大値 4294967295 までのノード ID を生成します。



このオプションを変更すると、すべてのノード ID が再生成されます。その後、コントローラのノード ID も更新する必要があります。

4. 完了をクリックして、OPC UA サーバーの通信チャンネルを保存します。


### 次の手順で OPC UA サーバーの通信チャンネルを編集します。

1. 左側に展開された一覧で OPC UA サーバーを選択します。
2. メインパネルで通信チャンネルの編集  をクリックします。ウィザードの各ステップで必要なデータを入力します。
3. 完了をクリックして、変更を適用します。

### 8.7.3.3 OPC UA サーバーの入力を追加／編集

Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスは、OPC UA サーバー入力を介して他のコントローラ内にある工程パラメータ情報を受信します。

### 次の手順で OPC UA サーバー入力を作成します。

1. 左側に展開された一覧で、OPC UA サーバーを選択します。
2. 通信チャンネルの入力: OPC UA サーバーで追加  をクリックします。
3. 入力を追加ウィンドウで必要な設定を行います。

インプットを編集

Schaeffler SmartWeb

名前: Speed input

レジスタのタイプ: FLOAT ?

単位グループ: 周波数 / 回転数 単位: kHz ?

照会インターバル: 1 秒 ?

信号値:

最大値 [kHz]: 10.0

スケーリング: 1.0

最小値 [kHz]: -10.0

kHz

最小レジスタ値: -10.0 最大レジスタ値: 10.0

OK キャンセル

次のようなオプションがあります。

- 名前** SmartWeb ソフトウェアに表示される入力の名前を指定します。
- レジスタのタイプ** ここで、データを転送する形式を指定します。この指定により、レジスタの値範囲が最大どれほどになるか決まります。  
現在サポートされているのは以下の形式です。  
**FLOAT** 32 bit
- 単位グループおよび単位** コントローラの値を変換する物理的な値と測定単位を指定します。
- 照会インターバル** コントローラからの値を問い合わせる頻度を指定します。  
温度など、変化が緩慢な値については、照会インターバルを長めに設定することができます。そうすれば、データ量が減り、コントローラの負荷が軽減されます。
- レジスタ値** これらのフィールドには、**レジスタのタイプ**を選択した時点で自動的に値が入力されます。ただし、**最小レジスタ値**と**最大レジスタ値**の値は手動で調整できます。レジスタ値の範囲が自動的に設定された範囲よりも小さい場合、調整が必要になることがあります。
- 信号値** これらの設定を使って、測定値の範囲を決めます。最初に、**最小**に最小値を入力します。次に、**最大**に最大値を入力するか、**スケーリング**フィールドで算出された信号のスケーリングファクタを指定します。対応する他のフィールド値と図が自動的に調整されます。

4. **OK** をクリックして新しい入力を保存します。

**回転数入力の例:**

回転数は用途により 0~3,000 rpm の範囲になります。これはレジスタでは 0~10,000 の値範囲に相当します。この回転数を外部入力として使用するには、次のように設定します。

レジスタのタイプ	FLOAT
単位グループ	周波数 / 回転数
単位	RPM
最小レジスタ値	0
最大レジスタ値	10,000
最大信号値	3000 (RPM)

最小信号値 0 (RPM)

### 入りにスケーリングファクタを追加する方法

入りにスケーリングファクタを追加し、測定タスクの作成 [73] 時などにアクセスすることができます。スケーリングファクタを使うと、構成部品のある箇所で測定した物理値から他の領域の論理値を算出することができます。

例：入力を使ってギヤの手前の回転数を測定します。ギヤの内側の回転数はその 5 分の 1 になります。これを元に、スケーリングファクタを作成します。

1. ギヤの手前の回転数
2. 0.2 (5 分の 1) を掛けて求めたギヤの内側の回転数

1. 通信チャンネルの入力:[名前] の下の表で任意の入力を選択します。
2. ▶ をクリックして、スケーリングファクタでリストを拡張します。
3. + をクリックしてスケーリングファクタを追加ウィンドウを開きます。

次のようなオプションがあります。

- |                   |  |
|-------------------|--|
| <b>名前</b>         | スケーリングファクタは、この名前で他の入力と共に表示されます。複数の入力を区別できるよう、わかりやすい名前を付けてください。 |
| <b>スケーリングファクタ</b> | 物理的な入力信号に、ここに入力した値を乗じます。                                       |
| <b>単位</b>         | センサ信号の測定単位を変更できます。デフォルトでは、対応する入力コンフィギュレーションの単位が選択されています。       |

4. **OK** をクリックして変更を保存します。新しいスケーリングファクタが、スケーリングファクタのリストに表示されます。

スケーリングファクタを削除または編集するには、右クリックでコンテキストメニューを開き、対応するコマンドを選択してください。

ここで、リアルタイム表示 [51] エリアに切り替えることもできます。この特性値の計算に使用されている信号をリアルタイムで参照できます。



測定タスクで使用されているスケーリングファクタを削除すると、警告メッセージが表示されます。スケーリングファクタを削除すると、関連する測定タスクも自動的に削除されてしまいます。

次の手順で **OPC UA** サーバーの入力を編集します。

1. 左側に展開された一覧で、OPC UA サーバーを選択します。
2. **通信チャンネルの入力: OPC UA** サーバー の下の表で任意の入力を選択します。
3. **編集** をクリックし、**入力を編集** ウィンドウで必要な設定を行います。
4. **OK** をクリックして変更を適用します。

#### 8.7.4 PROFINET 用通信チャンネル

PROFINET モジュールを ProLink CPU に挿入した場合、コンフィグレーションエリアに通信チャンネルとして自動的に表示されます。この通信チャンネルと適切にプログラミングされたコントローラ<sup>145</sup>を使用して、特性値と ProLink デバイスのすべてのアラームステータスを周期データを介して読み取ることができます。プロセスデータは、周期データを介してコントローラから ProLink デバイスに送信することもできます。これを行うには、ProLink デバイスのプロセスデータを SmartWeb ソフトウェアの入力として作成する<sup>145</sup>必要があります。さらに、すべての特性値とそれらのアラーム制限は、非周期データでコントローラにより照会されます。



PROFINET モジュールは、ファームウェアバージョン 2.0 からのみ自動認識され、通信チャンネルとして表示されます。表示されない場合は、**【ヘルプ】 > 【ファームウェアの更新】**<sup>142</sup>機能を使用してファームウェアを更新します。

##### 8.7.4.1 PROFINET 用通信チャンネルエリア

左側の展開された一覧にある**通信チャンネル**エリアには、ProLink デバイス用に認識された PROFINET モジュールの通信チャンネルが表示されます。右側のメインパネルに、PROFINET 用通信チャンネルの基本情報と入力の情報が表示されます。

Schaeffler SmartWeb

本と接続しました: Schaeffler ProLink  
次の権限でログインしました: admin

ヘルプ

ファイル ▼ 編集 ▼ 測定データ ▼ 移動先 ▼

通信チャンネル

名前: PROFINET ステータス: **アイドル状態**

MAC: 00:30:11:51:C8:39

ファームウェア: 2.0.3

ステーション名:      コントローラのステーション名:

DHCP がアクティブです: いいえ      コントローラの IPv4 アドレス: 0.0.0.0

IPv4 アドレス: 0.0.0.0

ネットマスク: 0.0.0.0

ゲートウェイ: 0.0.0.0

編集    削除    + 追加

通信チャンネルの入力: PROFINET

名前	最小信号	最大信号	単位	最小レジスタ値	最大レジスタ値	照会インター...
Speed PN	0.0	100.0	Hz	0.0	100.0	1.0

編集    削除    + 追加

完了








PROFINET 用通信チャンネルをクリックすると、以下の情報と機能がメインパネルに表示されます。

##### 通信チャンネル

選択されている PROFINET 用通信チャンネルの基本情報と機能が表示されます。






- 名称、**MAC** アドレス、ファームウェアバージョンの他に、ProLink デバイスとコントローラのステーション名、ネットワークコンフィギュレーションの詳細があります。
- ステータスは通信チャンネルの現在の状態を示します:




- **接続済み:**  
PROFINET 用通信チャンネルは正常に機能しています。
- **オフ:**  
PROFINET 用通信チャンネルは、[編集]  機能で無効になっています。
- **無効:**  
ProLink デバイスは、PROFINET モジュールをまだ使用していません。
- **アイドリング:**  
PROFINET モジュールは、まだコントローラと接続されていません。
- **設定エラー:**  
コントローラのコンフィギュレーションが不適切です。
-  をクリックして、コントローラのプログラミング情報の入った ZIP ファイルをダウンロードします。次が入っています:
  - **info.txt:**  
ProLink デバイスの PROFINET モジュールは、DAP (Device Access Point) として機能し、コンフィギュレーションごとに 1 つまたは 2 つのサブスロットが使用できます。ファイル **info.txt** には、どのモジュールをどのようにプログラミングするか、ProLink デバイスとコントローラの間でどの周期データと非周期データを交換するかについての詳細情報があります。
  - **フォルダ gsd:**  
このフォルダには、製品写真に加えて、ProLink インターフェースを詳細に記述した **gsd.xml** ファイルがあります。
  - **フォルダ s7:**  
このフォルダには、周期的および非周期的データを読み取るためのプログラミング例があります。
- PROFINET 用通信チャンネルを編集するには、[編集]  をクリックします。その後、**PROFINET 有効化オプション**をオフまたは再びオンにできます。
- その他の通信チャンネルを追加  するには、[追加]  をクリックします。
- 右上の  をクリックすると、コンフィギュレーション一覧  が開きます。

## 通信チャンネルの入力

ここには、PROFINET 用通信チャンネルのために作成した入力の概要がテーブル形式で表示されます。ここには、次の情報と機能があります:

- 表には、各入力についての情報が表示されます。例えば、**名前**の隣には、データがどの信号範囲に変換されるか (**最小信号号** ~ **最大信号号**)、どのレジスタ範囲がカバーされるか (**最小レジスタ値** ~ **最大レジスタ値**)、問い合わせの頻度が表示されます。
- 入力を編集するには、**編集**  をクリックします。詳細は、**PROFINET 用通信チャンネルの入力を追加 / 編集**  をご覧ください。
- 入力を追加するには、**追加**  をクリックします。詳細は、**PROFINET 用通信チャンネルの入力を追加 / 編集**  をご覧ください。
- 選択されている入力を削除することができます。それには、**削除**  をクリックし、**OK** で確定します。




- 測定タスクを変更すると、**info.txt** ファイルが更新されます。次に、ZIP ファイルを再度ダウンロードして、コントローラのプログラミング  を調整する必要があります。
- ProLink デバイスはコントローラによって再起動できます。さらに、コントローラは、ProLink デバイスの電源がオフまたは再起動されたことを自動的に検出し、これも表示します。

### 8.7.4.2 PROFINET 用通信チャンネルの入力を追加 / 編集

プロセスデータは、PROFINET 用通信チャンネルの入力を介してコントローラから ProLink デバイ스에転送できます。

#### PROFINET 用通信チャンネルの入力を作成する方法

1. 左側に展開された一覧で、PROFINET 用通信チャンネルを選択します。
2. **通信チャンネルの入力: PROFINET** で [追加]  をクリックします。
3. 入力を追加ウィンドウで必要な設定を行います。

入力を追加

名前：  
Speed

レジスタのタイプ：  
FLOAT

単位グループ：  
周波数 / 回転数

単位：  
Hz

照会インターバル：  
1 秒

信号値：  
最大値 [Hz]：  
100

スケーリング：  
1

最小値 [Hz]：  
0

最小レジスタ値：  
0

最大レジスタ値：  
100

OK キャンセル

次のようなオプションがあります。

名前	SmartWeb ソフトウェアに表示される入力の名前を指定します。
レジスタのタイプ	レジスタのタイプ「FLOAT」のみ利用可能です。
単位グループおよび単位	コントローラの値を変換する物理的な値と測定単位を指定します。
照会インターバル	コントローラからの値を問い合わせる頻度を指定します。 温度など、変化が緩慢な値については、照会インターバルを長めに設定することができます。これにより、データ量を削減できます。
レジスタ値	これらのフィールドには、レジスタのタイプを選択した時点で自動的に値が入力されます。ただし、最小レジスタ値と最大レジスタ値の値は手動で調整できます。レジスタ値の範囲が自動的に設定された範囲よりも小さい場合、調整が必要になることがあります。
信号値	これらの設定を使って、測定値の範囲を決めます。最初に、最小に最小値を入力します。次に、最大に最大値を入力するか、スケーリングフィールドで算出された信号のスケーリングファクタを指定します。対応する他のフィールド値と図が自動的に調整されます。

4. **OK** をクリックして新しい入力を保存します。

#### 入力にスケーリングファクタを追加する方法

入力にスケーリングファクタを追加し、測定タスクの作成 [73] 時などにアクセスすることができます。スケーリングファクタを使うと、構成部品のある箇所で測定した物理値から他の領域の論理値を算出することができます。

例：入力を使ってギヤの手前の回転数を測定します。ギヤの内側の回転数はその 5 分の 1 になります。これを元に、スケーリングファクタを作成します。

1. ギヤの手前の回転数
2. 0.2 (5 分の 1) を掛けて求めたギヤの内側の回転数

1. 通信チャネルの入力:[名前] の下の表で任意の入力を選択します。
2. ▶ をクリックして、スケーリングファクタでリストを拡張します。
3. + をクリックしてスケーリングファクタを追加ウィンドウを開きます。

スケーリングファクタを追加

入力チャンネル:  
21G830 - Rotational speed before gear

名前:  
Speed before gear

スケーリングファクタ:  
0.2

単位グループ:  
周波数 / 回転数

単位:  
RPM

OK

キャンセル

次のようなオプションがあります。

- |            |  |
|------------|--|
| 名前         | スケーリングファクタは、この名前で他の入力と共に表示されます。複数の入力を区別できるよう、わかりやすい名前を付けてください。 |
| スケーリングファクタ | 物理的な入力信号に、ここに入力した値を乗じます。                                       |
| 単位         | センサ信号の測定単位を変更できます。デフォルトでは、対応する入力コンフィギュレーションの単位が選択されています。       |

4. **OK** をクリックして変更を保存します。新しいスケーリングファクタが、スケーリングファクタのリストに表示されます。

スケーリングファクタを削除または編集するには、右クリックでコンテキストメニューを開き、対応するコマンドを選択してください。

通信チャンネルの入力: 21G830

名前	スタートレ...	レジス...	照会インターバル	最小信号	最大信号	単位	最小レジスタ値	最大レジスタ値
Rotational speed bef... R0	INT	1.0 s	-32,768	32,767	[Hz]	-32,768	32,767	

追加のスケーリングファクタ

+

Speed before gear 0.2x RPM

編集


削除

リアルタイム表示

編集

削除


追加

ここで、リアルタイム表示  エリアに切り替えることもできます。この特性値の計算に使用されている信号をリアルタイムで参照できます。



測定タスクで使用されているスケーリングファクタを削除すると、警告メッセージが表示されます。スケーリングファクタを削除すると、関連する測定タスクも自動的に削除されてしまいます。


## PROFINET 用通信チャンネルの入力を編集する方法

- 左側に展開された一覧で、PROFINET 用通信チャンネルを選択します。
- PROFINET 用通信チャンネルの入力**の表で任意の入力を選択します。
- 編集**  をクリックし、入力を編集ウィンドウで必要な設定を行います。
- OK** をクリックして変更を適用します。

### 8.7.5 Schaeffler クラウドの通信チャンネル

通信チャンネル(**Schaeffler** クラウド)  エリアで、SmartCheck 或いは ProLink デバイスの状態モニタリングを拡張することができます。そこでは Schaeffler クラウドへの接続を確立し、データを SmartCheck 或いは ProLink デバイスからクラウドへ伝送します。

クラウド機能を利用するには、以下のステップを実行する必要があります。

- まず、**Schaeffler** クラウドサービスに接続  します(クラウドオンボーディング)。その際、Schaeffler クラウドの通信チャンネルが自動的に作成され、データ伝送に必要なすべての設定が行われます。

- 必要に応じて、**編集**をクリックし、通信チャンネル(Schaeffler クラウド)のプロキシ設定を行います。



Schaeffler クラウドに関する詳細な情報は、Schaeffler メディアテークをご覧ください。

## 8.8 デバイス

デバイスの下には、**デバイス設定**<sup>148</sup>と**システムの時間設定**<sup>150</sup>が表示されます。いずれかの領域をクリックすると、SmartCheck 或いは ProLink デバイスの主要な設定を確認し、一部を変更することができます。

### 8.8.1 デバイス設定

デバイス設定には、Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイス、ネットワーク、デバイスに装備されているボタンやステータス LED の詳細が表示されます。

Schaeffler SmartWeb

次と接続しました: SmartCheck 36  
次の権限でログインしました: admin

ヘルプ

ファイル ▼ 編集 ▼ 測定データ ▼ 移動先 ▼

コンフィギュレーション

名前

- コンフィギュレーション
  - インプットコンフィ...
  - 測定タスク
  - アウトプットコンフィ...
  - 測定トリガ
  - 測定条件
  - 通信チャンネル
  - デバイス
    - デバイス設定**
    - システムの時間...
    - ベアリング
    - ベアリングメーカー

アクション

新しい測定タスクを作成

領域

ステータス

測定データ

リアルタイム表示

コンフィギュレーション

ユーザー管理

ログアウト

完了

デバイス設定

名前: FAGSmartCheck  
シリアル番号: f43d8000014b  
MAC アドレス: f4-3d-80-00-01-4b  
説明:  
位置:-

編集

ボタン/LED 設定

アラームをリセット: 許可されています

学習モードを新規にスタート: 許可されています

デバイスを再起動: 許可されています

結品時の状態に戻す: 許可されていません

ステータス LED: オン

編集

ネットワーク設定

IP アドレス: 10.179.7.203  
ネットマスク: 255.255.255.0  
ゲートウェイ: 10.179.7.254  
DNS サーバー: 10.179.0.248  
DHCP モード: DHCP クライアントモード (ホストネームをサーバーから読み込み)

編集

ここには、次の情報がります。

#### デバイス設定


SmartCheck 或いは ProLink デバイスの**名前**、**シリアル番号**、**MAC アドレス** (ネットワークアドレス)が表示されます。デバイスの説明や位置が入力されている場合は、それも表示されます。

名前、説明、位置の入力値は変更可能です。それには、**編集** をクリックし、任意の変更を加えます。

#### ボタン/LED 設定

Schaeffler SmartCheck には、ボタンが 2 つ、ステータス LED が 1 つあります。Schaeffler ProLink デバイスには、同様にボタンが 2 つ、LED が 3 つあります。

**ボタン/LED 設定**では、これらのボタンでどのアクションが実行できるかを指定します。それにより、SmartCheck 或いは ProLink デバイスの意図しない操作を防ぐことができます。さらに、ここで、SmartCheck デバイスのステータス LED または ProLink デバイスのアラーム LED がアラーム状態を表示するかどうかを指定することもできます。原則として、以下のボタン設定が可能です。

アラームをリセット	既存のすべてのアラームをオフにします。
学習モードを新規に開始	学習モード  を開始し直します。現在の測定値やアラームしきい値は維持され、新しいアラームしきい値を特性するプロセスだけが新たに開始されます。
デバイスを再起動	SmartCheck 或いは ProLink デバイスを起動し直します。つまり、デバイスがまずシャットダウンされ、もう一度起動されます。
出荷時の状態に戻す	SmartCheck 或いは ProLink デバイスが出荷時の状態にリセットされます。行った設定やコンフィギュレーションがすべて失われます。
ステータス LED をオンにする	<p>このオプションはデフォルトでアクティブになっています。</p> <p>このオプションを非アクティブにすると、システムに次のような影響があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ProLink デバイス: アラーム LED の信号がオフです。</li> <li>• SmartCheck デバイス: ステータス LED のアラーム信号がオフです。ファームウェアのアップデート時などに見られる赤と黄色の点滅は、アクティブなままです。</li> </ul> <p>SmartCheck 或いは ProLink デバイスは、アラームステータスを赤色、黄色、緑色の LED で示さなくなります。</p>

不意の操作を防止するため、デフォルトでボタンロックが有効になっています。どのボタンを操作するかなどの詳細は、Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink のユーザーマニュアルに記載されています。

ボタン/LED 設定は、次のような手順で変更します。

1. **編集**をクリックします。 
2. ボタン/**LED** 設定の編集ウィンドウでどのアクションが実行できるかを指定します。



- オプションをインアクティブにすると、該当するボタンでその操作ができなくなります。この例では、**出荷時の状態に戻す**の操作ができません。
  - ステータス **LED** をオンにするをインアクティブにすると、アラームステータスがSmartCheck 或いは ProLink デバイスで表示されなくなります。
3. **OK** をクリックして変更を保存します。

## ネットワーク設定

**DHCP**、ホスト名、**IP** アドレス、ゲートウェイ、ネットマスクの現在の設定が表示されます。ネットワーク設定を変更するには、次の手順に従ってください。

1. **編集**をクリックします。 
2. ネットワーク設定の編集ウィンドウで必要な設定を行います。

ネットワーク設定の編集

Schaeffler SmartWeb

DHCP モード: DHCP クライアントモード (ホストネームをサ...

IP アドレス: 10.179.7.203

ネットマスク: 255.255.255.0

ゲートウェイ: 10.179.7.254

DNS サーバー: 10.179.0.248

ホストネーム: FagSmartCheck

OK

キャンセル

次のようなオプションがあります。

#### DHCP なし

IP アドレスを指定するか、引き続きSmartCheck 或いは ProLinkデバイスの標準 IP アドレスを使用することができます。

**DHCP** なしが有効になっている場合、このステップで他の設定 (例えば **IP アドレス**、**ネットマスク**、**ゲートウェイ**、**DNS サーバー**) も行う必要があります。

**DNS** サーバーは、電子メール用通信チャネルを作成した際に名前として IP アドレスではなく SMTP サーバーまたはプロキシサーバーを入力した場合に必要です。その場合、入力したサーバー名の代わりに DNS サーバーが使用されます。

#### DHCP クライアントモード (ホスト名をサーバーに送信)

SmartCheck 或いは ProLink デバイスがネットワーク内の IP アドレスを自動的に取得します。その際、ホスト名は、SmartCheck 或いは ProLink デバイスによってネットワークの DNS サーバーに登録されます。

#### DHCP クライアントモード (ホスト名をサーバーから読み込み)

SmartCheck 或いは ProLink デバイスがネットワーク内の IP アドレスを自動的に取得します。ホスト名は、ネットワークの DNS サーバー (DNS 逆引き) によって割り当てられます。

### 3. **OK** をクリックして変更を保存します。



- SmartCheck 或いは ProLink デバイスの IP アドレスを変更した場合、これまでのアドレスでは SmartWeb ソフトウェアにアクセスできなくなります。その場合、デバイスの新しいアドレスをブラウザに入力し、ソフトウェアを新たに読み込む必要があります。
- IP アドレスが DHCP によって自動的に割り当てられる場合、SmartCheck 或いは ProLink デバイスには、自動的に割り当てられた IP アドレスを通じてのみアクセスできます。デフォルトの IP アドレスを使用することはできません。

## 8.8.2 システムの時間設定



- Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink には、デバイスに電圧が供給されている限り機能する内蔵時計があります。ただし、緩衝蓄電池がないため、外部のバッテリーまたは電源を蓄電池の入力に接続しない限り、電源の供給が停止されるとすぐに動作しなくなります。  
システム時間を手動設定が選択されている場合は、中断された電源が復旧した時点でシステム時間を修正する必要があります。そうしないと、内蔵時計は、停電前に正常に行われた最後の測定の時点から再び動き始めます。  
内部時計を外部バッテリーに接続する方法については、Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink のユーザーマニュアルをご覧ください。
- 新しい SmartCheck 或いは ProLink デバイスが現在のシステム時刻に関する情報にアクセスできない場合は、ファームウェアの時間が適用されます。

システムの時間設定に SmartCheck 或いは ProLink のシステム時間に関する詳細が表示されています。

ここには、次の情報と機能があります。

### システム時間

SmartCheck 或いは ProLink デバイスの現在の日付と時刻が表示されます。

### NTP がアクティブです

SmartCheck 或いは ProLink デバイスが NTP サーバー（ネットワーク内の時間サーバー）からシステム時間を読み込むかどうかを示します。読み込む場合は、はいと表示されます。

### NTP サーバー

SmartCheck 或いは ProLink デバイスが NTP サーバーからシステム時間を読み込む場合は、そのサーバーの名前が表示されます。

### タイムゾーン

ここには、SmartCheck 或いは ProLink デバイスがあるタイムゾーンが表示されます。

### 編集ボタン

システム時刻およびNTPサーバーの設定を変更する手順は以下のとおりです。


1. 編集をクリックします。
2. システム時間の編集ウィンドウで必要な設定を行います。

## 方法

何を基準にSmartCheck 或いは ProLink デバイスのシステム時間を決めるかを指定します。時間設定は、接続された **PC** または **NTP** サーバーを基準とすることができます。また、手動で入力することもできます。

システム時刻がNTPサーバーを基準とする場合、常に同期が行われます。そのため、この方法ではSmartCheck 或いは ProLink デバイスが常にインターネットに接続されていること、NTP サーバーが常にアクセス可能であることが条件となります。

## 日付

システム時間を手動設定の場合のみ：現在の日付と時刻を入力します。日付は、リストボックスから選択するか、カレンダーを使って設定することができます。

## NTP サーバー

システム時間を同期化させるために **NTP** サーバーを使用する場合のみ：NTP サーバーの名前を入力します。それには、任意の NTP サーバーの IP アドレスを使用します。

## デバイスのタイムゾーン

ここでは、SmartCheck 或いは ProLink デバイスが位置しているタイムゾーンを選択できます。

3. **OK** をクリックして変更を保存します。

## 8.9 ベアリング

Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink には、包括的なベアリングデータバンクが用意されています。データバンクには、ユーザーがベアリングを追加できます。新しい測定コンフィギュレーションを作成する際に、これらのベアリングの中から選択することができます。ベアリング領域には、一覧と検索機能が表示されます。

Schaeffler SmartWeb

次と接続しました: SmartCheck 36

次の権限でログインしました: admin

ファイル

編集

測定データ

移動先

ヘルプ

コンフィギュレーション

名前

コンフィギュレーション

インプットコンフィ...

測定タスク

アウトプットコンフ...

測定トリガ

測定条件

通信チャンネル

デバイス

ベアリング

ベアリングメーカー

ベアリング一覧

メーカー:

FAG

検索ワード:

ベアリング検索の結果

名前

メーカー

BPFI

BPFO

BSF

FTF (固定アウト...

FTF (固定インナレ...

108-TVH

FAG

6.0591

3.9409

2.2027

0.3941

0.6059

11204-TVH

FAG

7.1332

4.8668

2.5090

0.4056

0.5944

11205-TVH

FAG

7.1080

4.8920

2.5751

0.4077

0.5923

11206-TVH

FAG

8.2134

5.7866

2.7599

0.4133

0.5867

11207-TVH

FAG

9.1894

6.8106

3.2524

0.4257

0.5743

11208-TVH

FAG

9.7206

7.2794

3.3749

0.4282

0.5718

11209-TVH

FAG

9.1724

6.8276

3.3070

0.4267

0.5733

11210-TVH

FAG

10.2244

7.7756

3.5760

0.4320

0.5680

11211-TVH

FAG

10.7513

8.2487

3.7004

0.4341

0.5659

11212-TVH

FAG

10.7187

8.2813

3.8056

0.4359

0.5641

1200-TVH

FAG

5.5727

3.4273

1.9342

0.3808

0.6192

1201-TVH

FAG

6.0834

3.9166

2.1344

0.3917

0.6083

ベアリング情報

名前: 108-TVH

メーカー: FAG

インナーレースのボールパス周波数 (BPFI): 6.059

アウトナーレースのボールパス周波数 (BPFO): 3.941

ローラ回転周波数 (BSF): 2.203

アウトナーレース固定時のケージ回転周波数 (FTF): 0.3941

インナーレース固定時のケージ回転周波数 (FTF): 0.6059

編集

コピー

削除

追加

変更日: 2019/11/25 08:36:07



作成日: 2019/11/25 08:36:07

変更者: admin

ここには、次の情報と機能があります。

- ベアリングをメーカーに従って検索することができます。該当する選択リストは、ベアリングメーカー領域で自由に拡張できます。
- データベースでは、ベアリングを名前で検索できます。それには、検索ワードフィールドに名前を入力します。次のオプションがあります：
  - プレースホルダー「\*」は文字列を意味します。
  - プレースホルダー「?」は 1 つの文字を意味します。
  - 大文字と小文字は区別されません。
- 現在選択されているベアリングの詳細が、ベアリング情報の下に表示されます。例では、リストの冒頭にあるベアリングの詳細が表示されています。右側の灰色のボックスには、選択されているベアリングの作成および変更に関する詳細が表示されます。



- 新しいベアリングを追加<sup>153</sup>することができます。
- 既存のベアリングをコピー・編集<sup>154</sup>することができます。
- コピーしたベアリングや新しく作成したベアリングを削除できます。それには、該当するベアリングを選択して削除  をクリックし、**OK** で確定します。  
測定タスクで使用されているベアリングは、削除できません。
- 右上の  をクリックすると、コンフィギュレーション一覧<sup>54</sup>が開きます。




メーカー **FAG** および **INA** またはベアリングの仕様で使用しているメーカーを削除したり変更したりすることはできません。

### 8.9.1 ベアリングを追加／編集

Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink ベアリングデータベースは、自由に拡張できます。以下の2つの方法があります。

- 新しいベアリングを追加<sup>153</sup>します。
- 既存のベアリングをコピー<sup>154</sup>し、コピーの方に編集を加えて新しい名前で保存します。

#### 新しいベアリングを追加する方法

1. ベアリング情報の下で追加  をクリックします。
2. ベアリングを追加ウィンドウで必要な設定を行います。

ベアリングを追加

Schaeffler SmartWeb

名前:

メーカー:

FAG

正規化された運動周波数

インナーレースのボールパス周波数 (BPFI):

アウトターレースのボールパス周波数 (BPFO):

ローラ回転周波数 (BSF):

ケージ回転周波数 (FTF):

固定ベアリングリング:

☒ アウターレース
 ☐ インナーレース

アクション

[正規化された運動周波数を計算](#)  
[ベアリングを点検](#)

OK

キャンセル

次のようなオプションがあります。

名前	ベアリングの名前を入力します。測定タスク用に選択する際、ベアリングがこの名前が表示されます。
メーカー	新しいベアリングのメーカーを選択します。この選択リストにどのメーカーを含めるかは、ベアリングメーカー <sup>154</sup> で指定することができます。

## 正規化された運動周波数

ここでの設定は、ベアリングの損傷周波数を正しく計算し、部品を確実に監視するために重要です。**BPFI**、**BPFO**、**BSF** および **FTF** に関する情報は、ベアリングの技術データをご覧ください。

あるいは、プログラムを使い、正規化された運動周波数をベアリングの形状から計算させることもできます(下記参照)。

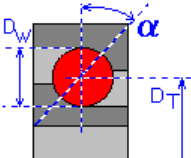
## 正規化された運動周波数を計算

ここをクリックすると、ベアリング形状を使って、正規化された運動周波数を計算させることができます。その場合に必要なのは、**負荷角度**、**基準円の直径**、**転動体の直径**、**転動体の数**です:

正規化された運動周波数を計算

Schaeffler SmartWeb

形状



負荷角度 (アルファ) :  
44.6

基準円の直径 [mm] (DT) :  
50.0

ローラの直径 [mm] (DW) :  
9.0

ローラの数 :  
10

計算      キャンセル

2列のベアリングを追加する場合は、**転動体の数**に 1 列だけの数を入力します。

該当する設定を行った後、**計算**をクリックします。指定した形状から正規化された運動周波数の値が計算され、対応するフィールドに入力されます。

## ベアリングを点検

ここをクリックすると、設定の妥当性が確認されます。これにより、正規化された運動周波数について誤った設定を行う可能性が低くなります。実行しない場合は、妥当性を確認せずにベアリングがデータベースに追加されます。

3. **OK** をクリックしてデータベースに新しいベアリングを追加します。

## ベアリングをコピー・編集する方法

出荷時の Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink デバイスに用意されているベアリングデータベースは、書き込み保護されているため、個々のベアリングは編集も削除もできません。ただし、データベースからベアリングをコピーして編集し、新しいベアリングとすることができます。それには、次の手順に従います。

1. コピーして編集したいベアリングを選択します。
2. **ベアリング情報**でコピーをクリックします。
3. **ベアリングをコピー**ウィンドウで必要な設定を行います。新しい名前を指定しなかった場合、Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink は、デフォルトで **コピー元[元のベアリングの名前]** という名前のベアリングを作成します。
4. **OK** をクリックして変更を保存し、ベアリングをデータベースに追加します。



ベアリングの形状から正規化された運動周波数を計算するには、専門知識が必要です。角度と寸法を正しく指定しないとベアリングの値が正しく計算されず、正しい測定コンフィギュレーションが行われない可能性があります。

## 8.10 ベアリングメーカー

ベアリング<sup>152</sup>領域で新しいベアリングを追加するときは、ベアリングのメーカーも入力する必要があります。その際に選択できるベアリングメーカーは、**ベアリングメーカー領域**で管理します。

Schaeffler SmartWeb

次と接続しました:: SmartCheck 36

次の権限でログインしました:: admin

ファイル

検索

測定データ

移動先

ヘルプ

コンフィギュレーション

名前

コンフィギュレーション

インプットコンフィ...

測定タスク

アウトプットコンフ...

測定トリガ

測定条件

通信チャンネル

デバイス

ベアリング

ベアリングメーカー

アクション

新しい測定タスクを作成

領域

ステータス

測定データ

リアルタイム表示

コンフィギュレーション

ユーザー管理

ログアウト

メーカーを管理

FAG

INA






編集

削除

追加

完了


ここには、次のオプションがあります：

- **メーカーを管理**：メーカーを管理の下で追加  をクリックし、メーカーの名前を入力して **OK** で確定します。
- **メーカーを編集**：メーカーを管理の下で編集  をクリックし、メーカーの名前を変更して **OK** で確定します。
- **メーカーを削除**：メーカーを管理の下で削除  をクリックし、**OK** で確定します。
- 右上の  をクリックすると、コンフィギュレーション一覧  が開きます。



ベアリングの仕様で使用しているメーカーを削除／変更することはできません。

## 9 ユーザー管理

**ユーザー管理**  のボタンをクリックすると、該当する領域が開きます。ここでは、SmartWeb ソフトウェアのユーザーグループとユーザーを変更・追加・削除できます。また、ユーザー管理をアクティブ・インアクティブにすることもできます。左側には、すべてのユーザーグループおよびユーザーの一覧が表示されます。現在ログインしているユーザーは、タイトルバーの右上にログイン種別として表示されます。





出荷時の設定では、管理者、リモート、ゲストという名前のユーザーグループと、**admin**、**remote**、**guest**という名前のユーザーが作成されています。グループまたはユーザーを選択すると、メインパネルに詳細と権限が表示されます。



次のオプションがあります。



### ユーザーグループ

この例のように、展開された一覧でユーザーグループを選択すると、メインパネルに次のような情報が表示されます。:

- 選択したユーザーグループの名前が左側に表示されます。
- 名前の下には、そのユーザーグループに割り当てられている権限  が表示されます。ここでアクティブな（チェックボックスがオンになっている）権限は、このユーザーグループに対して作成するすべてのユーザーに付与されます。権限を変更するには、編集  をクリックします。
- 権限の右側には、ユーザーグループメンバーが表示されています。これにより、ユーザーグループを変更したときに影響を受けるユーザーなどが一目でわかります。
- ユーザーグループを追加または編集  することができます。ただし、システムユーザーグループである管理者とリモートは変更できません。
- ユーザーが登録されていない空のユーザーグループは削除できます。それには、削除  をクリックし、**OK** で確定します。
- 右側の灰色のフィールドには、ユーザーグループの作成と変更に関する詳細が表示されます。🔒 アイコンは、変更や削除ができないユーザーグループを示します。システムユーザーグループである管理者とリモートは、変更も削除もできません。

## ユーザー

展開された一覧でユーザーを選択すると、メインパネルに次のような情報が表示されます。

- 左側に選択したユーザーのユーザー ID および詳細が表示されます。
- 詳細の隣には、選択したユーザーの権限<sup>[157]</sup>が表示されます。ここでアクティブな(チェックボックスがオンになっている)権限は、属しているユーザーグループを通じて割り当てられたものです。権限はユーザーグループ全体でのみ変更できます。
- ユーザーを追加または編集<sup>[159]</sup>することができます。ただし、システムユーザーである **admin** と **remote** は変更できません。
- ユーザーは削除できます。それには、削除  をクリックし、**OK** で確定します。
- 右側の灰色のフィールドには、ユーザーの作成と変更に関する詳細が表示されます。 のアイコンは、変更や削除ができないユーザーを示します。ie システムユーザーである **admin** と **remote** は変更も削除もできません。

## 権限

ユーザーグループを作成する際、権限を割り当てると、ユーザーグループのすべてのユーザーにその権限が付与されます。次のような権限があります。

- **システム設定の編集**  
この権限を持つユーザーは、デバイス設定<sup>[148]</sup>とシステム時間設定<sup>[150]</sup>の設定を編集することができます。
- **コンフィギュレーションを作成、コンフィギュレーションを編集、コンフィギュレーションを削除**  
これらの権限を持つユーザーは、コンフィギュレーションを作成・編集・削除することができます。ただし、入力コンフィギュレーションとアウトプットコンフィギュレーションに対しては、専用の権限が必要です(下記参照)。
- **入力コンフィギュレーションと出力コンフィギュレーション**  
これらの権限を持つユーザーは、入力または出力のコンフィギュレーションを行うことができます。
- **ユーザー(グループ)を作成、ユーザー(グループ)を編集、ユーザー(グループ)を削除**  
これらの権限を持つユーザーは、ユーザー管理の各種機能を実行することができます。
- **データをダウンロード**  
この権限は、ユーザーが SmartCheck 或いは ProLink デバイスのデータをダウンロードして分析したいときに必要になります。
- **アラームをリセット**  
この権限を持つユーザーは、SmartWeb ソフトウェアで SmartCheck 或いは ProLink デバイスのアラームを解除することができます。
- **トレンドデータ、リアルタイムデータなどを閲覧**  
この権限を持つユーザーは、リアルタイム表示<sup>[51]</sup>領域と測定データ<sup>[42]</sup>領域を開き、該当する機能を実行することができます。
- **測定データを削除**  
この権限を持つユーザーは、SmartCheck 或いは ProLink デバイス上の測定データを削除<sup>[50]</sup>することができます。
- **機密コンフィギュレーションを閲覧**  
この権限により、ユーザーは機密測定タスク<sup>[74]</sup>のアラーム限界および周波数帯域を閲覧できます。
- **機密コンフィギュレーションを編集**  
この権限により、ユーザーは、機密測定タスク<sup>[74]</sup>のアラーム限界および周波数帯域を閲覧し、編集できます。
- **回転数チャネルを編集**  
この権限により、ユーザーは、制限付き権限しか持っていないか、および／または測定タスクを編集できなくても、回転数チャネルを編集することができます。
- **タイムカウンタを編集**  
この権限により、ユーザーはタイムカウンタの値を編集できます。

## ユーザー管理のアクティブ化／インアクティブ化

デフォルトでは、ユーザー名やパスワードを使ってログインしなくても SmartWeb ソフトウェアを開くことができます。ソフトウェアと SmartCheck 或いは ProLink デバイスを、権限を持つユーザーだけが操作できるようにするには、**ユーザー管理をアクティブ**にします。ユーザー管理をアクティブにした場合、ユーザーはユーザー名とパスワードを使ってログインする必要があります。ユーザーには、ユーザーグループに割り当てられた権限のみが付与されます。

ユーザー管理をアクティブにするには、該当するメニュー項目をクリックし、**新しい管理者パスワード**を2回入力してから **OK** をクリックします。その後、ブラウザで Schaeffler SmartWeb ソフトウェアを更新すると、ユーザー管理がアクティブになります。

ユーザー管理を再びインアクティブにするには、該当するメニュー項目をクリックし、管理者パスワードを入力してから **OK** をクリックします。管理者パスワードが出荷時の設定にリセットされます。これにより、誰もがユーザー名とパスワードを入力せずにログインでき、すべてのユーザーが管理者権限を持つことになります。

## パスワードを変更

この機能は、ユーザー管理がアクティブになっている場合のみ使用可能です。

**パスワードを変更**をクリックし、新しいパスワードを2回入力してから **OK** をクリックします。これにより、新しいパスワードを使用できるようになります。



- Schaeffler SmartUtility ソフトウェアを使用している場合は、ソフトウェアの設定にユーザー名とパスワードを保存しておくことができます。ここで入力するユーザー名とパスワードは、SmartWeb ソフトウェアのユーザー管理に保存されているユーザー名およびパスワードと一致する必要があります。
- 出荷時には、システムユーザーのパスワードは以下のように設定されています。
  - ユーザー ID が **admin** の場合のパスワード: **admin123**
  - ユーザー ID が **remote** の場合のパスワード: **remote123**
  - ユーザー ID が **guest** の場合のパスワード: **guest123**

## 9.1 ユーザーグループを追加／編集

ユーザーを作成するには、ユーザーグループが必要です。ユーザーグループは、名前と特定の権限<sup>15)</sup>で構成されます。これらの権限は、同じグループのすべてのユーザーに自動的に付与されます。つまり、あるユーザーが Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink に対して持つ権限は、属しているグループによって決まります。

### ユーザーグループを追加する方法

1. 左側の概要でユーザーグループを選択します。
2. メインパネルで追加 **+** をクリックします。
3. ユーザーグループを追加ウィンドウで必要な設定を行います。

次のようなオプションがあります。

ユーザーグループ


概要に表示されるユーザーグループの名前を入力します。

権限

このグループのユーザーに付与される権限をアクティブにします。個々の権限を選択するか、権限をクリックしてすべての権限を選択します。

4. **OK** をクリックして新しいユーザーグループを保存します。


### ユーザーグループを編集する方法

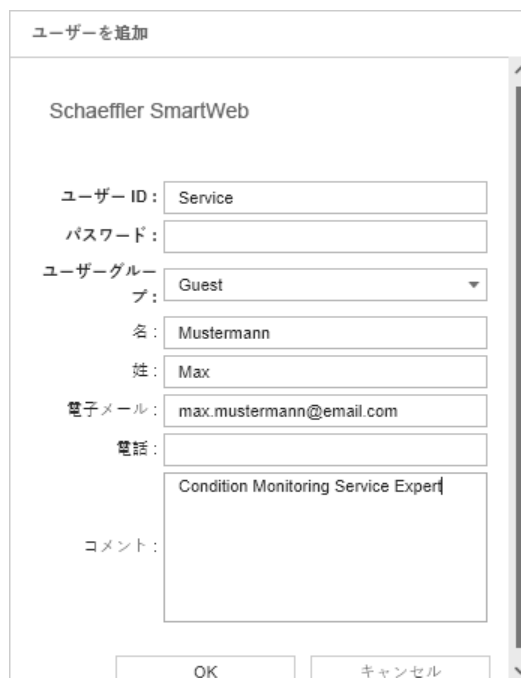
1. 展開された概要で、編集したいユーザーグループをクリックします。
2. **編集**  をクリックし、ユーザーグループを編集ウィンドウで必要な設定を行います。
3. **OK** をクリックして変更を適用します。

## 9.2 ユーザーの追加/編集

ユーザーは、ユーザーグループに属した形でのみ追加できます。ユーザーグループを通じて、そのユーザーが Schaeffler SmartCheck 或いは ProLink に対してどのような権限<sup>15)</sup>を持つかを定義します。

### ユーザーを追加する方法

1. 左側の一覧で、ユーザーを選択します。
2. メインパネルで追加  をクリックします。
3. ユーザーを追加ウィンドウで必要な設定を行います。




次のようなオプションがあります。

ユーザー ID	ユーザーが SmartCheck 或いは ProLink にログインする際に使用するユーザーIDを入力します。
パスワード	ユーザーが SmartCheck 或いは ProLink にログインする際に使用するパスワードを入力します。
ユーザーグループ	ユーザーが属するユーザーグループを指定します。ユーザーグループを通じて、このユーザーに割り当てる権限を指定します。
姓、名	ユーザーの連絡先を指定します。この情報は任意です。
電子メール、電話	
コメント	このユーザーについて追加したいコメントがあれば、ここに入力します。

1. **OK** をクリックして新しいユーザーを保存します。

### ユーザーを編集する方法

1. 展開された一覧で、ユーザーをクリックします。
2. 編集  をクリックし、ユーザーを編集ウィンドウで必要な設定を行います。
3. **OK** をクリックして変更を適用します。

## 10 メーカー/サポート

### メーカー

#### **Schaeffler Monitoring Services GmbH**

Kaiserstraße 100  
52134 Herzogenrath  
ドイツ

電話番号: +49 2407 9149-66  
FAX 番号: +49 2407 9149-59

インターネット: [www.schaeffler.com/services](http://www.schaeffler.com/services)

その他の情報:

- [www.schaeffler.de/en/condition-monitoring/smartcheck](http://www.schaeffler.de/en/condition-monitoring/smartcheck)
- [www.schaeffler.de/en/condition-monitoring/prolink](http://www.schaeffler.de/en/condition-monitoring/prolink)

連絡先: [industrial-services@schaeffler.com](mailto:industrial-services@schaeffler.com)

郵便物は直接 Schaeffler Monitoring Services GmbH にご郵送ください。

以下の子会社:

#### **Schaeffler Technologies AG & Co. KG**

私書箱 1260  
97419 Schweinfurt  
ドイツ

Georg-Schäfer-Straße 30  
97421 Schweinfurt  
ドイツ

### サポート

技術サポートに関する情報は以下から入手できます。 [www.schaeffler.de/en/technical-support](http://www.schaeffler.de/en/technical-support).

デバイスおよび付属のソフトウェア製品についてサポートを提供しています。サポートサービスの種類と範囲についての詳細は、インターネットで以下をご覧ください。

- [www.schaeffler.de/en/condition-monitoring/smartcheck](http://www.schaeffler.de/en/condition-monitoring/smartcheck)
- [www.schaeffler.de/en/condition-monitoring/prolink](http://www.schaeffler.de/en/condition-monitoring/prolink)

サポート項目については「技術文書」 > 「ソフトウェア、ライセンス、ハンドブック」を参照してください。